〔一一四九二〕
白、形を整ふ

白六の引きが如くなれど、此際の佳着なり。一見緩きが如くなれど、高雅の一手法なり。自十二、敵の二を目外しの先手に利したるも、此移動は整形し得たり。

〔一一四九三〕
黒の形可なり

白六と取る手は、黒が五と切る時よく、白十の粘りを待設けし所、白面白からず。黒得たりとばかり、七・九の先手を利して、次に黒は隅を輕く尖む。

(大)ツグ　一手抜

〔一一四九四〕
黒善し

此形、また八に誤る。黒キビシク九に當てつむを止めて、白十の粘りを得ず。イ或はロなれば、黒勢は黒可なり。

〔一一四九五〕
好手なり

九　一手抜

白はまた、六而しも、黒八、もあり。黒九の附け善し。かくなることと、七までと打ちし手働きあり。

〔一一四九六〕
形勢互角

藤田豐次郎四段　時
高橋　重行三段　當
先番勝

黒●はある時黒一なれば、白は二と拓く手宜し。以下白十九まで打込、以此形の定石なり。黒は、此圖の攻合により、黒三の壘に近づきたる故に普通は黒好まず。

(去)粘

〔一一四九七〕
定石

加藤　信六段　當時
先向井一男四段　勝

黒一の時、白二・四順、一一四七・九圖參照。黒五・七も常形なり。

一手抜

〔一一四九八〕
要點約言

(第一〇一型ハ)

黒イ、三に對し、白のロ及び圖の四の應は、何れも實戰常用の手段なり。イ、ロ、四は工合によりて打つ手なり。

〔一一四九九〕
基本圖

(第一〇一型ニ)

此形、白直ちに四の打込あり。これ上白の四は、單に形のみより見れば、無理の如くなれど、此手には「振替り」の意味あり。輕手

〔一一五〇〇〕
基本圖

(第一〇一型ニの一)

白四に對して、黒に五、イ或はロの手あり。そのうち、五常形、イは場合、ロは緩し。

〔一一五〇一〕
定石

黒五の時、白イに這ふ手と、圖の如く六・八と出切る手とあり。先づ邊に根據を得て後、徐ろにイは四を利用せんとする手。圖の白、六・八の出切りは、四の白を捨てゝ五と替りんとする手段なり。第二參照、一八。黒六、三以下要點參照、白イを打つざる若しこれを打たざれば、白ロ（次圖）。

〔一一五〇二〕
黒根據を失ふ

黒更に十を手抜せば、豫て白の九を通ぜにしたる●の一息一。黒眼形を

〔一一五〇三〕
要點なり

黒八を手抜せば、白は勇氣々々勃々、九は要點に肉薄す。九は、黒也八、次圖參照。白の十の突當りと交換し、黒面白合止むを得ず。此場

〔一一五〇四〕
白の手段良し

(八十手抜)

白十二なれば、白●、以下の五・三子を捨て、黒十三と、白は外一目、黒二に至つて、白の厚せり。白二は、黒地に

〔一一五〇五〕
大勢白優る

(八十手抜)

黒いま二に二、かくも、黒三子との合は、白勝なり。必ず二三、黒五・二四・二七・二九の時、白二に切るべし。白二の時、絞めむ。斯附け痛快を極むるは、白三の效果にして、肝要なる所以なり。

〔一一五〇六〕
白可なり

(八十手抜)

黒十六と行びれば、白は宇治川に於ける佐々木梶原の十七の如く堂々たり。若し征宜イ、ロ、ハ、ニ、ホ、ヘ、ト、チの綿れば、白十七。

〔一一五〇七〕
白形不充分

(八十手抜)

黒十二の時、白イに切るべし。黒十三以下十九まで、白イ、ロ打つべし。時に白二十に當てゝ、黒二十一と粘るは、此石を包せんとする段、無しとは、白イ或はロ、ハに曲る筋なり。

〔一一五〇八〕
白イに缺陷

(八十手抜)

白二三に當ての後、白一五は、面直ちに二。白方面に二七に得、白方面の當て、黒利かしず、從て白イ方面の當て、黒利かしず、從て白イ方面の當て、黒利かしず、從て白イ

〔一一五〇九〕 黒敗る

（八十手抜）

黒二十、甚だ悪し。白二一、尋で二二、而して二七。黒敗す。嗟乎、痛恨、嘲腸を断つ。

〔一一五一〇〕 前變化參照

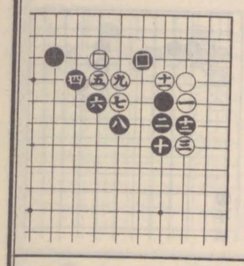
黒■にある場合にも、黒四と引く筋は、果然、五の辣手。白かからず。以下黒面白変化は、第二下巻の一三五〇圖（以下二参照）。

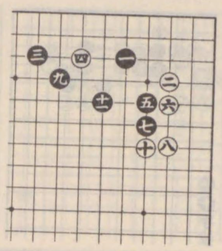
〔一一五一一〕 常形

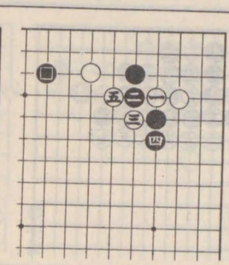
白六・八と應ける手もあり。これは、白が四を餌にしては、右の邊に根據を得る黒九と押して宜し。白十段に

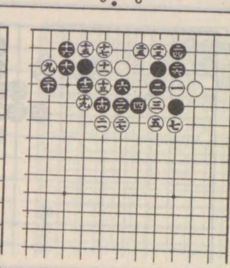
〔一一五一二〕 黒外勢善し

白五。此手は、■の白を委して白を敵の包圍に着せんとする。意外の着想にして十二を放棄し、外部と替ると、無碍の妙あり。變通は、あと、









〔一一五一三〕 白の形崩る

白九、筋違ひなり。黒遂に十四・十六、而して十八、手順善し。白の苦痛に哭く。

この處、白十九でイなれば、黒■でロ。白十九をハなれば、黒ホ。尚ほ、白十九とへ打つ時は、黒ホ白リ黒ハ又白ニ。白三者、そのいづれも黒大いに善し。

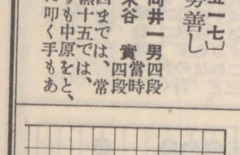
〔一一五一四〕 黒の策戰善し

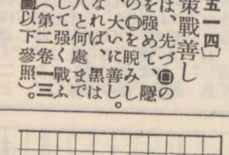
黒四は、先づ■の隱の根據を強めて、もの白の大いに善し。白五なれば、黒は六・八と強く戰ふ處なるも、押して宜し。（第二巻一三ふ以下參照）。

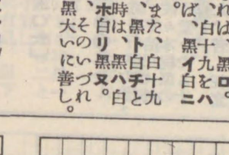
〔一一五一五〕 黒の勢善し

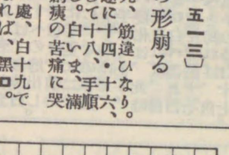
先番　向井一男四段
勝　木谷實當時四段

黒十四まで形。黒十五では、常に中原をと、隅よりも十八に叩く手もあり。







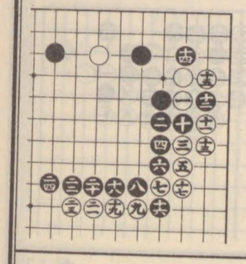


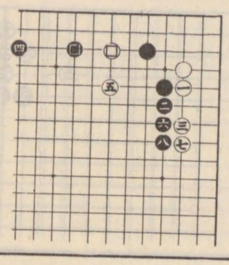
〔一一五一六〕 前變化參照

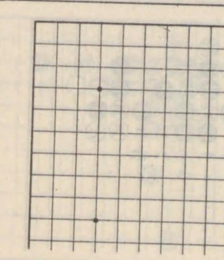
黒はまた、■の白一子を頓らはずして取るの腹と考へ——四・六と押して宜し。形勢黒面白し。（第二巻一三八、三四圖、二九圖以下參照）

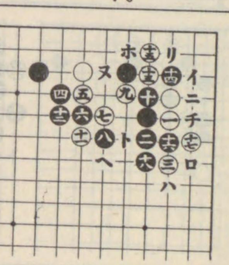
〔一一五一七〕 形勢黒可なり

白はまた五と押す時は、黒は六、白七と行びて二はイの時、黒八と行びて宜し。白十一の時、黒十二はロの綿ぬるが如き普通の形なり。さあれば、白■の虛を打ちて一合、子の數を堅くし、黒は蓋し圍殺されざるも、■の形勢悪しからざる故なり。









〔一一五一八〕 黒可ならず

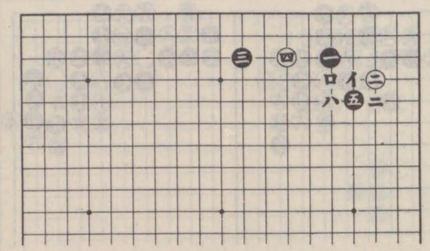
先番　橋本宇太郎五段
當時
勝　木谷實五段

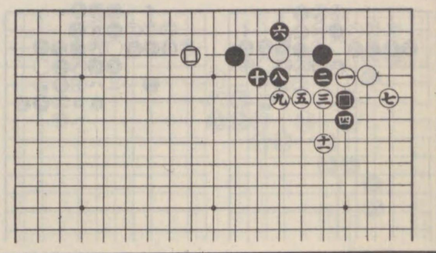
白■あり。黒四、如何。白十一と掛けられて、黒■と逃げる手これ子が無しだれの結果たべば、黒可なならず。

〔一一五一九〕 要點約言

（第一〇一型ニの一）

黒五の時、白はイに、白ロと白ハの出切りと、白イに這ふ應けとの二イの切りは四と五と替る手段なり。ニは、先づ邊に根據を得てんとする手段なり。





〔一一五二〇〕 〔基本圖〕

（第一〇一型ニの二）

白四の打込に對して、黒は、この應けあれど、この二つ前型黒ハの掛けより緩漫且つ不利なり。

〔一一五二一〕 定石

黒五なれば、白は、四と打込みの時、黒は六。七なれば、白八。黒九——斯くて黒三は只七。白は八の手を守るに十なれば、白一なり。

〔一一五二二〕 白稍可なり

黒三・五は、白の四・六との交換となつて、普通は黒の損なり。

〔一一五二三〕 常形

黒五の應けは緩手なり。此邊には白の有利なる遺滯なし。白は四を捨てて■の方に轉ずるが暫く他にて宜し。

〔一一五二四〕 常形

白六手抜。次に黒七と守る、白八の手は堅實なり。

〔一一五二五〕 場合による

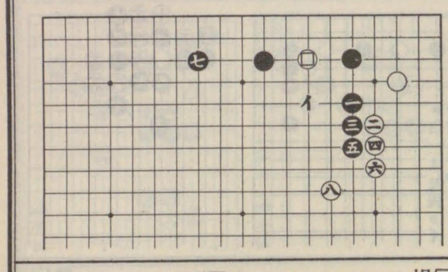
黒若し七なれば、白八、黒九——斯くなれば、白は隅の要所に守れる故に、黒十と堅し、白二と綿出すなり。

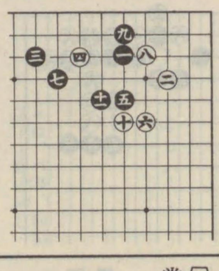
〔一一五二六〕 可否征による

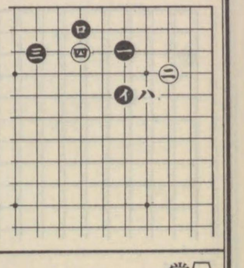
白二と綿出すは、機を見て時に俗手なり。

〔一一五二七〕 白稍可なり

黒三・五は、白の四・六との交換となつて、普通は黒の損なり。





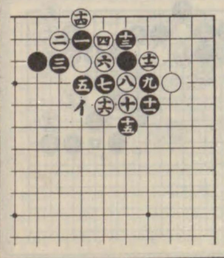


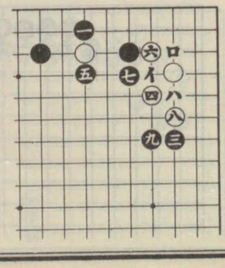
〔一一五二八〕 場合による

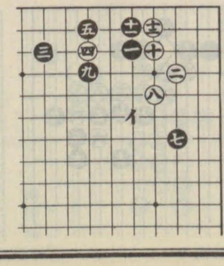
黒若し七なれば、白八、黒九——斯くなれば、白は隅の要所に守れる故に、黒十と堅し、白二と綿出すなり。

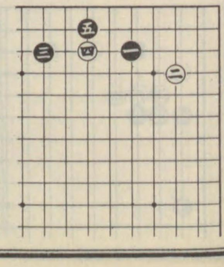
〔一一五二九〕 可否征による

白二と綿出すは、機を見て時に俗手なり。









〔一一五二七〕
白不利なり
若し白征惡しき時は、白十二と打つの外無きも、これは黒白不利なり。

〔一一五二八〕
黒利勢
黒はまた、二三と右邊を固め、二四のとき堅守して、二三に先鋒と共に、中央の白二子を睨むも有り。四の綿キビシキも二三もまた絶好の行切りなり。

〔一一五二九〕
黒善し
白二十と行びるも、黒は二一と抱へて四五と四で白をイに切らせ、黒ロで白ハを取り、黒ニと之も黒の勢善し。

〔一一五三〇〕
白可なり
一一五二六圖の如く黒征惡しきときは、黒は十一と打ちて、白二四以下二四。此形、白よりは尚ほイの白可なりあり。（第二卷圖以下參照）九四

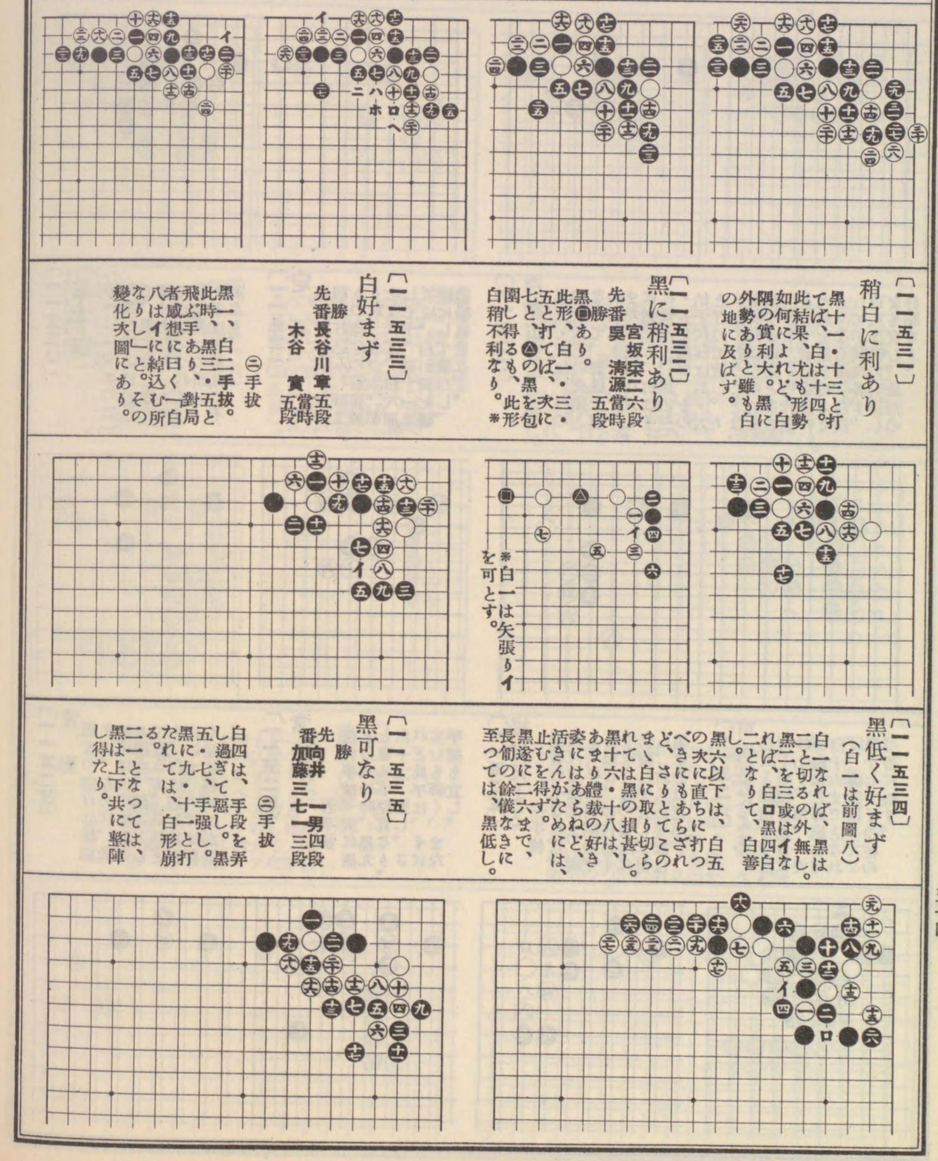
〔一一五三一〕
稍白に利あり
黒十一・十三と打てば、白は十四。打此如何によれど、白隅の實利大。黒に外勢ありと雖も白の地に及ばず。

〔一一五三二〕
黒に稍利あり
先番 宮坂栞二六段
勝 吳 清源 五段
黒㊀あり。此形、白一・三・五と打てば、次に七と、㊀の黒を包圍し得るも、此形白稍不利なり。※形包に

〔一一五三三〕
白好まず
先番 勝 谷川章五段
木谷 實 五段
黒一、白二手抜。此時、黒三・五と飛び、白局手あり、考慮に想ひ曰く、八はイに綿込むを所なりしと。その變化次圖にあり。
㊁手抜

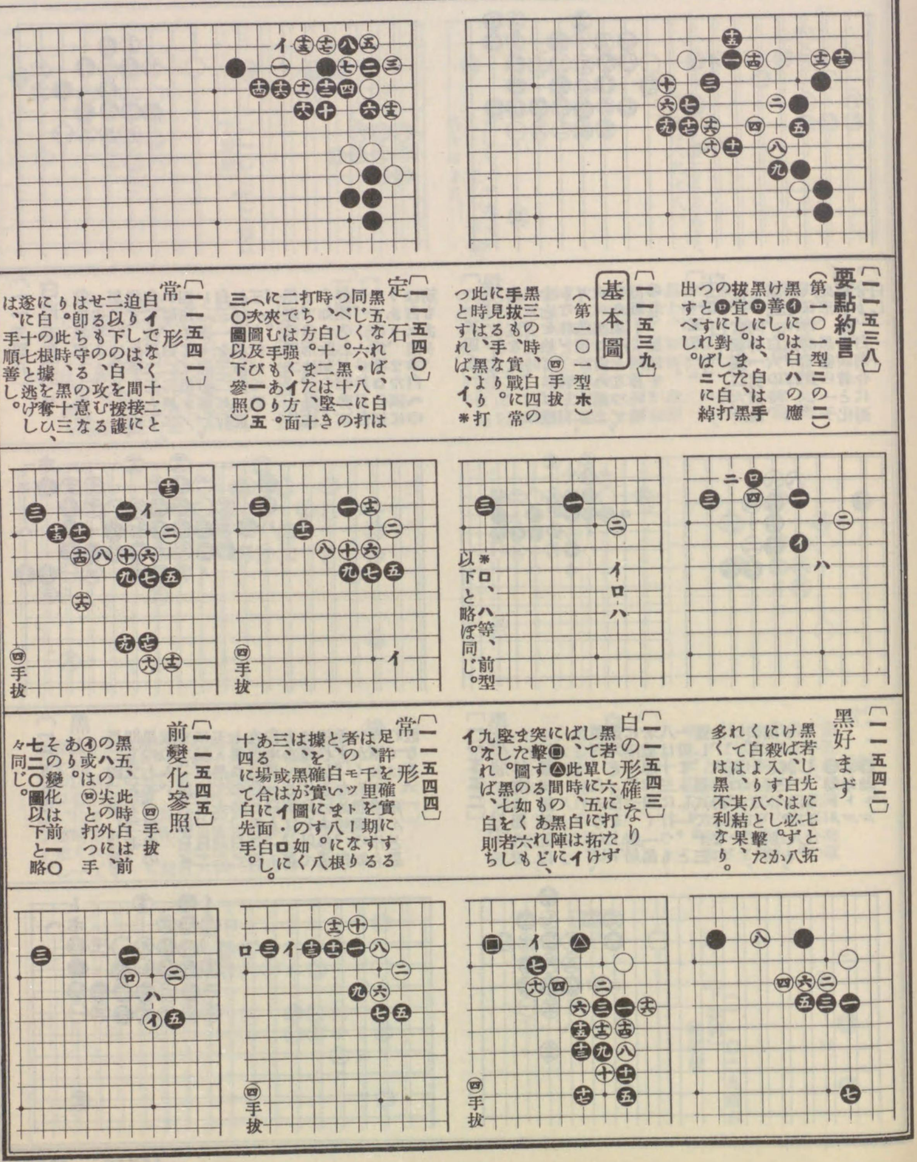
〔一一五三四〕
黒低く好まず
（白一は前圖八）
白一なれば、黒は二と切るの外無し。黒二を三或はイなれば、白ロ黒四白二となりて、白善し。
黒六以下は、白五の次に直ちに打つべきにもあらざれど、さりとてこのまゝに取り切らしめては、黒の損甚し。黒十六・十八は好き姿にはあらねど、活きんがためには、止むを得ず。黒途に二六まで、長前の餘儀なきに至つては、黒低し。

〔一一五三五〕
黒可なり
先番 勝 向井 一男四段
加藤 三七 一三段
白四は、手段を弄して惡し。黒五・七、手強し。黒九・十一と打たれては、白形崩る。二一となつては、黒は上下共に整陣し得たり。
㊁手抜



〔一一五三六〕
形勢黒可なり
先番 岩佐 鉾 七段
勝 村島誼紀 當時四段
黒一の打込。過ぎ。此時、白二は稍打込むには十五に應けこれは十位に應けるなら、黒十九と出、果然、黒は運び々なりては、黒の陣を張つて外面に發展せり。

〔一一五三七〕
黒不利なり
勝 保松勝喜代 當時五段
丸 橋 消 閑 三段
先
此形にて、白より一と打込むも、黒一でイ位のものは、二でかくては、黒は十八まで外に辛うじて連絡し得たるも、結局黒不利なり。
㊋ッグ



〔一一五三八〕
要點約言
（第一〇一型ニの二）
黒㋑には白ハの應け善し。黒㋺には、白は手抜宜しく、黒㋩に對して白イとすれば、ニに綿出すべし。

〔一一五三九〕
基本圖
（第一〇一型ホ）
黒三の時、白四の手抜も、實戰に常に見る手なり。此時は、黒よりイ、打つとすれば、イ、※
㊃手抜

〔一一五四〇〕
定石
黒五なれば、白は同じく六・八に打つべし。黒十一の時、白二は堅き方。また、二は十一面イ方。二にては強く手もあり。（次圖及び一〇五圖以下參照）

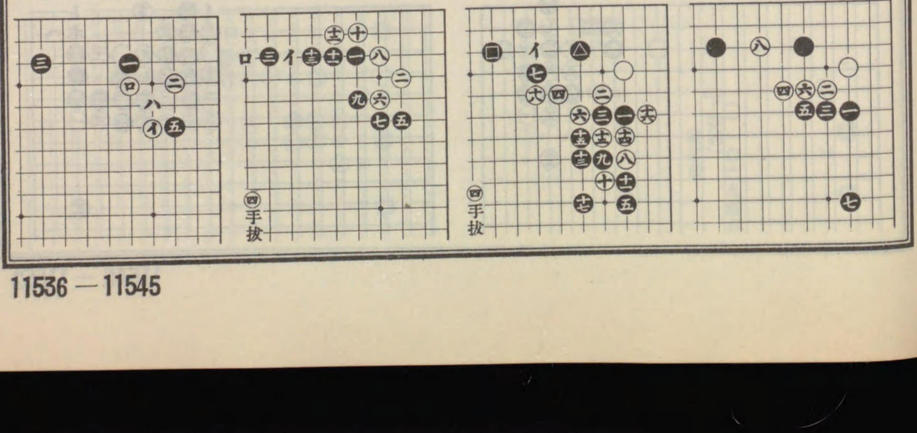
〔一一五四一〕
常形
白イでなく十二と間接に迫るも、二以下の白を援護せるも、攻むるの意なるは卽ち守るの意なり。此時黒十三、白の根據を奪ひ、逐に十七と逃げし、三なる讀にとしひ、手順善し。

〔一一五四二〕
黒好まず
黒若し先に七と拓けば、白は必ず八と殺しに入るべく、かつ白より八と擊たれては、其結果、黒多くは黒不利なり。

〔一一五四三〕
白の形確なり
黒若しイに打たずして單に五に拓けば、此時、白はイに間に白陣に㊀㊁の黒もあれど、突擊する如くせし圖の如く六も若し黒七を竪ぐれば、白則ち九なればイ。

〔一一五四四〕
常形
足許を確實にする者は、千里を期するの尖と打つ手あり。
その變化は前一〇七二〇圖以下と略々同じ。

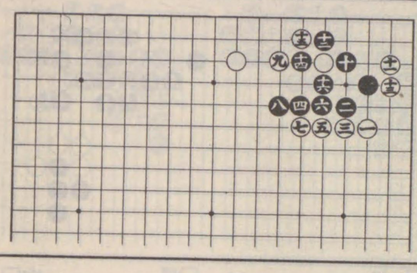
〔一一五四五〕
前變化參照
㊃手抜
黒五、此時白は前ハの外に、前㋑或は㋺と打つ手あり。
此時白は、モットなり八に根據を確實にす。八は、黒が圖の如く三、或はイ・ロに面白し。ある場合に面白先手。

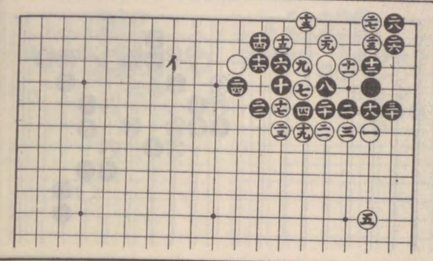


〔一一五四六〕
黒悪しからず

先番 林有太郎 四段 當時
勝 鈴木秀子 三段 當時

白七・九と打ち、次に黒十に守るとき、白卽ち十一、十六までの結果、黒は凝形に似たれども、堅固不抜なり。





〔一一五四七〕
場合による

先番 久保松勝喜代 六段
篠原正美 六段

白七は無理筋に見ゆるも、キビシキ意味あり。場合によりて悪しからず。倘、此形に石の方面に石のあるの形と見えたり。さの如くば、白は次圖の如く打つ手あり。

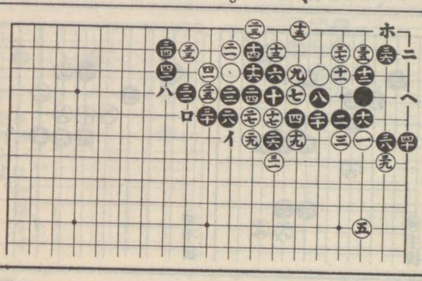
〔一一五四八〕
白に手段あり

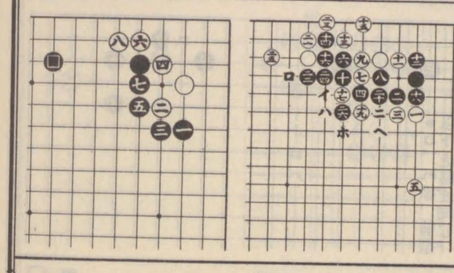
前圖參照——白二一の手あり。黒二二は、此手を得ず。白二六、黒二三と下れば、白二二黒ツブレ、白イにて黒ヲ四へ次々圖參照。白三一を三二に行れば、黒ロ白ハ黒三一と行びて戰ふべし。黒遂に四二。これ亂れて形の如く敗勢の如く混沌として明。——されど白よりは尙ほロの切あり、また隅の白ニ黒ホ白ヘの筋もあり。

〔一一五四九〕
場合による

先番 久保松勝喜代 六段
宮坂栄二 六段

白二五なれば、黒一六。此時白十七を拾てかなれど、若しば白穩なイと逃出すときは、次に黒ロ白ホ黒ニの混戰、阿鼻叫喚の巷、展開す。

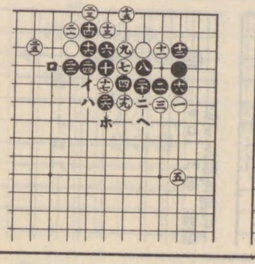




〔一一五五〇〕
白面白し

先勝 向井一男 六段
宮坂栄二 六段

黒五、白六の時、黒七に粘りて行くが宜し、白此形不念の緩着と面化子せし。白白し。



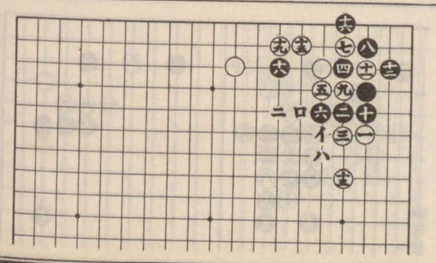
〔一一五五一〕
黒大敗

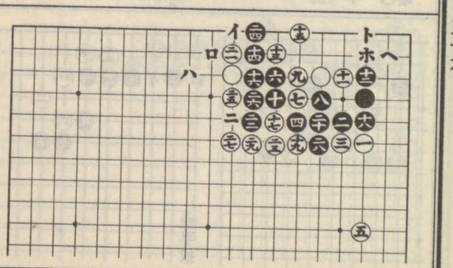
黒二四、惡し。白卽ち二五、惡し。二七、黒の鼠のみ。黒二四をイに綿ねるも、白二二の二時、白二二の六、黒七子、囊中の物を探るが如く容易に逃げ出さんとするも、白九ホ黒ロ白ニ黒ハ白ヘの形に厚く壯にして、黒は白ト。黒！白！

〔一一五五二〕
黒形悪からず

先番 林有太郎 六段
勝 細田正義 五段

黒四、白五なれば、黒六と出づ。對局者に隔てに想に曰く、三に打つ。一八に策なし。十三とも蓋し、次に黒ロとなつて、白ホ黒ニ阿鼻叫喚の巷、展開す。

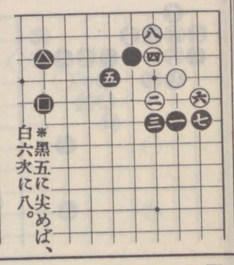




〔一一五五三〕
白機變の好形

先番 瀬越憲作 七段
勝 宮坂栄二 六段

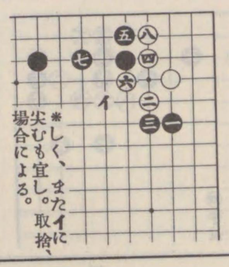
かく黒△と白□とある形勢にては、白は四敵の勢力を避けて早く守備に就きものにて、最も場合に適せり。*



〔一一五五四〕
場合による

小野田千代太郎 六段
先番 谷川章 四段
勝

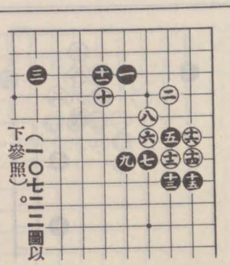
黒若し五と下れば、白必ず六に頑張る。黒七の時、白八は手抜も宜*しく、またイに尖むも宜し。取捨、場合による。



〔一一五五五〕
常形

勝 山形因砂 當時 六段
先 奥貫智策 當時 四段

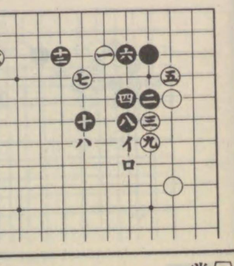
白六・八の時、黒九では、十二或は十三と掛ぐ手もあり。

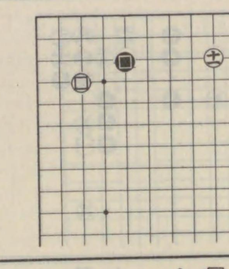


〔一一五五六〕
黒好まず

勝 久保松勝喜代 六段
先番 宮坂栄二 六段

黒□白○あり。黒二・四は、甚だ堅實の棋歩なれど、普通、如何。此形勢にては好點なり。黒十一が如何。此形一點なり。黒ハと附ける所なれば、黒イ尋で白ロなれば、次に白ホ黒ニ阿鼻叫喚の巷、展開す。

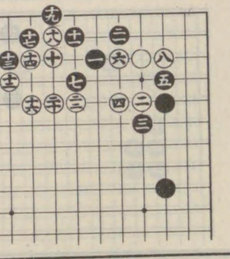




〔一一五五七〕
互角の分れ

先番 林 秀榮 當時 五段
勝 黒田俊節 五段

白○△あり。白十一銳し。白はこの狙ひを樂しみ、にしてこそ、二以下八までと堅む。黒十一以下ら、此場合、止むを得ず。但し、黒は二三と守るも順なつては、黒も確かなり。



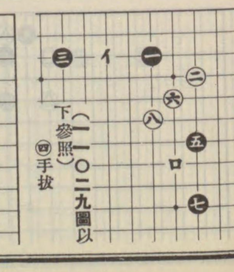
〔一一五五八〕
互角の分れ

先番 瀬越憲作 七段
勝 金井茂 四段

黒七の時、白は八に切り、次に十・十二と打ち、十二と打ち、十二と替るも、先づ互角の分れなり。

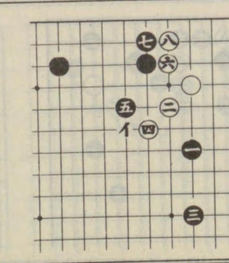
〔一一五五九〕
常形

黒五と二間に夾返すも、此場合の常法の一つなり。白八は一つの含みの急所なり。例へば白六は黒七に打つ。一八に策なし。十三とも黒五と二間に夾返すも、此場合の常法の一つなり。白八は一つの含みの急所なり。例へば白六は黒七に打つ。一八に策なし。十三とも



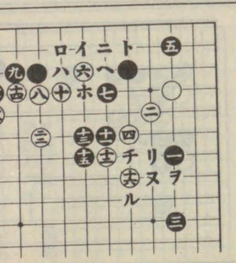
〔一一五六〇〕
白確なり

黒五と應ければ、白は六・八とに隅をかにし、確にし、但し、六は、手抜、押す手も惡しからず。



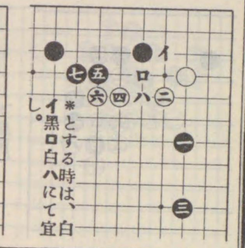
〔一一五六一〕
場合による

黒五と走れば、白六に挑げかく。黒の手袋を投げにイと附け黒七にて白ホ白ヘ黒ロ白ト二に打つ。白常に斯くの如く整形し、白は邊外を厚くし、損得なし。黒十一と打つて宜し。白チに切り黒十五にて白リと打ち、白ヲに黒ル、此形、黒は甚だ好點なり。白二の一は、黒は甚だ肝要なり。



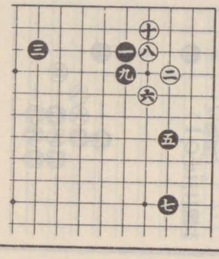
〔一一五六二〕
白、一策なり

白はまた、四より飛ぶ手もあり。斯く打てば、黒は必ず五と行びて白六の外無し。而して白は七と行く時、黒は手抜が普通。尤も白八は、外ロ白八にて宜し。



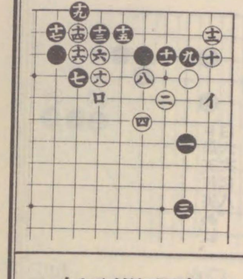
〔一一五六三〕
常形

白八に尖、黒九は堅実。第一の白十一の手段なり。これは、勿論場合の常形なれど攻撃の精神に缺くる所あるを以て、普通は緩着とさる。



〔一一五六三〕
常形

黒はまた、七もあり。白八は、次に来らんとする黒よりの八の、必然の完封を避けしもの。白十・十一の堅守は、前形と異りて、黒間近く七に迫れる此場合に善し。



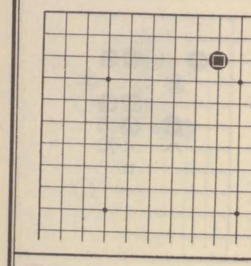
〔一一五六六〕
黒悪しからず

前圖白十二の變化。白十二と隅より侵せば、黒は十三・十五次に十七で宜し。此形は黒イの綿もあるも、黒悪しからず。

〔一一五六七〕
黒厚し

先番 林 徳蔵 四段
後番 原正美 四段

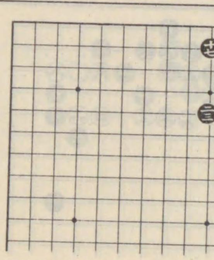
黒既に㊀の詰めある時、白一・三なれば、黒には四・六あり。白七は打つ手もあり。如何。此手は確かなり。白イに守れば黒五と打ち、遮莫、辛うじて十七に活きたるも、黒に白面を囲はれて白から ず。



〔一一五六五〕
左右の黒薄弱

勝 橋本宇太郎 当時四段
先番 渡辺 某三段

黒五を若し手抜せば、白六に打込んで宜し。黒七、次に九と、隅に活きては、却て白を堅くする故に、面白からず。黒七にては、先づ二十に附ける。侭、位の形、黒二五までの隅を貪りしため、小活の邊の黒一・三、及び二五まで共に薄弱の一団は、外勢となれり。

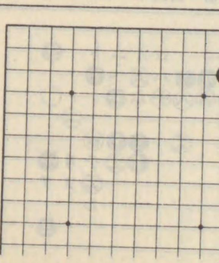


〔一一五六八〕
五、要點

勝 先番 蒲原 繁治 三段
後番 中村勇太郎 当時三段

㊃手抜

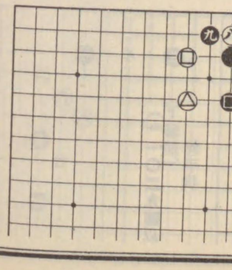
白四を手抜せば、黒五に白の根據を奪つて攻むべし。五は、單に損得上、其だ大よりいゝも、普通の他にして、普通の大場よりも其効果優る。



〔一一五六九〕
白稍可なり

勝 光原伊太郎 当時五段
先番 堀田 忠弘 当時三段

白六の打込、キビシキ手なり。此手は、單に此局面にては、黒の應手を探りしものにして、何如にしてよつても、白六を捨てゝ打つて、輕妙の含みもあつて、面白し。

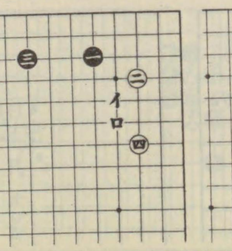


〔一一五七四〕
基本圖（第一〇二型）

黒三の二間拓は、白イの尖の先きにある時は、格別、黒より先きに斯く拓く手は緩し。

〔一一五七五〕
常形

黒三。此時は、白㋐手抜とせば四。——四で、イ或はロと首を抬げて黒の一団を窺ふも、黒は二間拓の堅陣なれば、何等の狙ひも利かず。

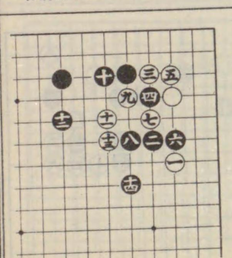


〔一一五七六〕
黒可なり

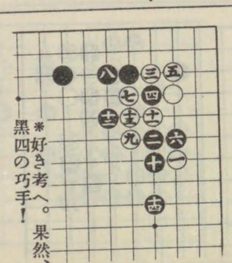
白一・黒二の時は、白三で六を常形とす。（一一四六五参看）。白三は、黒に四で七に應けさせ、白六に應けんとする腹案、されど蟲の*

〔一一五七七〕
黒の形好し

白五なれば、黒斷然六、白を隔てゝ撃つ。白七なれば、黒八、白九なれば黒十一。此形、黒は我が逸を以て勢に乗ずるに似て敗勢なり。



*好き考へ。果然、黒四の巧手！

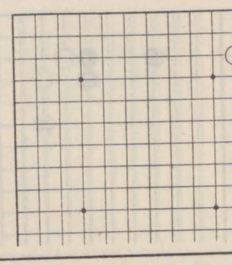


〔一一五七〇〕
㊁手拔、場合

打 本因坊秀哉 九段
掛 二子 喜多 文子 四段

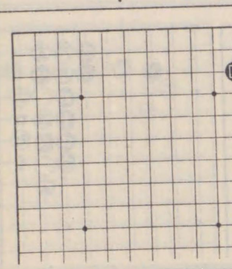
㊁手抜

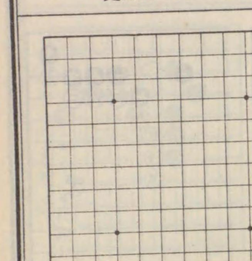
白一。此時、黒二を手抜せしは、稀に見る例なり。普通の形勢にては、イと掛けられて、黒悪し。白三も、場合の手なり。



〔一一五七一〕
前變化參照

黒一と高く二間に夾返す時も、白は同じく二に尖むべし。黒三以下の變化は一一一九三圖以下參照。但し、この白十は、黒㊀の分れる場合も、黒悪しからざる場合も、此場合は黒㊀の位置不充分なれば、黒面白からず。

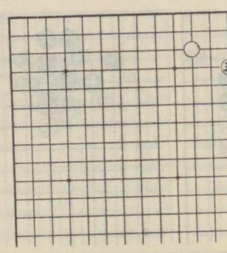




〔一一五七二〕
黒確なり

勝 小野田千代太郎 六段
先番 村島 誼紀 五段

白一・三も、實戦に見下なり。黒四以下十四までは甚だ堅し。されば㊀などは、すべやかに如く、謙に陥るが如く、届に堅めた厚ばかり。凝形に化する處注意肝要。



〔一一五七三〕
要點約言（第一〇一型）

㊃手抜

黒三・白四を手抜の時は、黒に❹以下㊃までの手段あり。其變化は前一〇五二六圖以下と略々同じ。黒三とも、多少白に丈の應方に異る處あり。

〔一一五七八〕
黒稍可なり
黒四には、白も良し。黒四は、白五最も良し。而して十、黒六・八は、手順の妙、展開する變化に惚れ惚れする程の境？白十一にて十二なれば、黒十五。かくてイ白ロ黒十五。かくなつては白惡し。

〔一一五七九〕
白有利の形
一一五七六圖に指摘せし如く、黒四は、此場合、間抜けの手。白乃ち五。かくなりては、白三と黒四との交換白有利なり（黒■は、狹き故に）。と狹くある故に）。

〔一一五八〇〕
場合による
黒■狹き故に、白一と尖附けは、黒二の時、白三と應ける手の打ち方は、白の外勢より地取りを主とする形勢に於て、特に可なり。

〔一一五八一〕
白の形好まず
白三の二間拓は、地を廣く取らんと欲して却て薄くするなり。果然、黒四の急所に白五の鷲の羽搏に惜しくも似伏す。五・七にに届伏す。

〔一一五八二〕
常形
白はまた、四と附けるも手あり。此時は、九が常形。五・七・黒は三と二間の狹き拓きにある故なり。

〔一一五八三〕
互角の分れ
黒二なれば、白三。座の機轉といふべきもの。此手を九に粘げば、黒■と重複げば、次に白の七の手段。黒八以下白し。

〔一一五八四〕
場合による
白はまた、前圖の如く先づ七を嫌つて、而して九・十に替る手あり。外勢を得んとするには、白の此手段良し。

〔一一五八五〕
互角の分れ
先番宮坂宗二六段 勝瀬越憲作七段
黒一の時、手抜、白二と尋ねたる時、黒三・五。白六は手抜も有れども、斯く附行するも一手。（第二卷四二九圖以下參照）

〔一一五八六〕
場合による
一七手抜
白は、時にかく八と、隅の根據を傍すも手もあり。黒こゝにて九が常形。此形、黒三と、急がず慌てず、九・十一・十二と、漸を追ふて其形を整ふ。

〔一一五八七〕
白の形好まず
先勝 黒田幸雄 當初段
番 刈谷數雄 當時段
（一）手抜
白五、如何。如何に、鍬蛇、黒よりも六と衝かれたり。白十一は、黒ロなれば、先づイと綽ね、次に白ハなれば、白ニの。白十二、白の打つ位のもの。圖と一は、甚だ（次圖）の白の十は、急險なり。

〔一一五八八〕
常形
黒七の時、白八と守れば、堅し。白の手は、黒五と白六とならし時は、黒七と定法。此形とならし時の方、普通は白惡しかるべからず。

〔一一五九二〕
定石
白四なれば、黒五の應け。これなで。定石なり。圖は、ナゾ互に正陣を布いて、しかる後、相當の出來だし。決戰未だし。

〔一一五九三〕
常形
黒は又、五と尖む手もあり。白六は手抜もあれども、斯く附行するも一手。（第二卷四二九圖以下參照）

〔一一五九四〕
前變化參照
五手抜
黒は又、五を手抜もあり。此時、白イ或はロと打込む手。（第二卷六〇八圖以下參照）

〔一一五九五〕
場合による
勝 先番 染谷一雄 二段 當時
宮下秀洋 初段 當時
黒二は、場合の普通の手段。此手は、前々圖の如く、イに附けるを可とす。

〔一一五九六〕
形勢互角
先番 染谷一雄 二段 當時
勝 中村勇太郎 三段 當時
（三）手抜
黒一、而して白二。此時、黒は、普通イに守るべし。白二のありて後、形勢は、多くは黒好まず。白十二は、先づ十七に押し、黒ロ白十八黒ニの時、白十八に飛ぶの調子を取るもあり。かく十白直ちに、十二と尖附ければ、黒十六の後、黒十六の盤り、*生ず。白十六は、止むを得ず。

〔一一五九七〕
黒可ならず
先 加藤三七一三段
勝 木谷實 五段 當時
（三）手抜
黒十と飛び、白十一、十三となつては、黒十二に行き、白二の時に、黒穩健となつては、白三三となつては、黒稍不利なり。

〔一一五九八〕
基本圖
（第一〇三型ロ）

白は又四と針走する手もあり。此意味も前型の一一四〇〇圖以下と同じく、含みありて面白し。

〔一一五九九〕
定石

白五、七なれば、白は一打過なり。

〔一一六〇〇〕
白勝

黒十一、一四、一〇にて、此手段も無きにあらねど、下圖の如く黒十三まで白は一路廣き形にて綽々と約へて良し。

〔一一六〇一〕
定石

白八に引けば、黒は九に下りて宜し。但し九は、特に手段を抜くもあり。其意味は一一四五四以下と同じ。

〔一一六〇二〕
黒の手段輕妙

白四、黒五手抜。此時に白六を十八と猶ほ手抜なれば、黒は守るべきも、白六と打込み、黒七と掛け、白八と黒十九と、外勢を張る手段面白し。——隅の黒は、三までの鎌倉いよ〳〵重く、白は含みに出づる捨身の戰法。白十六なれば、黒十七、十九の劫。白十六を十九と同じく十九劫。而して*

〔一一六〇三〕
前變化參照

五手抜。此時黒五、手抜は、白は六に打込んで宜し。（第二卷一一七四圖以下參照）

〔一一六〇四〕
場合による
滕井上一郎當時三段
先小島春一當時三段

五七手抜。白六。黒は此時、十のかなの邊に守れば穩なれど、捨てる手段もあり。白二十までの可否は場合による。

〔一一六〇五〕
基本圖
（第一〇三型ハ）

白は又、四と二間に拓くも宜しけれど、此手は一一四六、四と同じく邊に只右低き故に我の配置の*

〔一一六〇六〕
常形

白四、此時、黒は手抜も宜しけれど、若し打つとすれば、十一圖の如く常形なり。

〔一一六〇七〕
前變化參照

五手抜。白は次に此を打つとすれば、イと打込み、此打込は我の形勢を察せざるべからず。

〔一一六〇八〕
常形
滕林有太郎六段
先番長谷川章五段

五手抜。白六に打込み來れしば、黒先づ七。而して白八の時、黒九以下十五まで常形。但し、此形、白十四の要着にて、白四と六の氣脈を通ずるが如く、白、蓋し、ダッと攻めたる姿なり。

〔一一六〇九〕
要點約言
（第一〇三型イロハ）

黒三には白に㋑あり。或は㋺の手段あり。其意味は略〻下と同じ。只黒、以下一路廣き故に、白は一寸と夫れより一三、九圖は白打易し。

〔一一六一〇〕
基本圖
（第一〇三型ニ）

白四は、一見、無理に似たるも、其意味は前の一一四九圖以下、白は此一と打込と同じく子を捨てゝ替る*

〔一一六一一〕
定石

黒五の掛け。次に白一、子と六の呼出しつゝ、白八と黒十一の應切もつゝ、共に定法。以下白の振替り、黒三まで四の以下の豫定のコースなり。

〔一一六一二〕
白一策なり

白は八と起ち、黒九と取込むも宜しけれど、此形、黒一遺味未だ絶えず、時に非機未動の虞無きにも非ず。

〔一一六一三〕
黒稍可なり

黒四を穩健とす。果然、黒五以下十三まで前圖の如く略〻省略し得たるは、白イを反し後手に回るにより、白たゞ遂ざるに十四と一寸を得ず。白、既に一籌を輸せり。

〔一一六一四〕
黒の勢善し

白八・十一、甚だ無理筋。黒十二の時、而して白十三に駈して黒轉じて十三まで（第二卷一一三三圖以下參照）。白十四以下止むを得ざるなり。*意味もあり、白面白し。

〔一一六一五〕
白稍可なり

黒若し單に五なれば、我彼ともに先取の好點、白六、黒七の時、白八と打つまでの形、一一六一圖に比するに九まで白稍可なり。

〔一一六一六〕
白惡しからず

黒五と引けば、白もまた六にて、然も展開好形とし、此形好點。白〇が好點なる故に、白打易化す。棋移に、白遂に二四に兵を提げて追ふる。二四は好點なり。

〔一一六一七〕
白無理形

白二・四は好點に打つて、白〇は黒即ち非ずに起ち、白六に逃げ、黒七に殺到す。白、九左右に甚だ急なり。

〔一一六一八〕
常形

黒五なれば、白は六。其意味は一一五二圖以下と同じく、白四の一子を捨つるは、豫定の行動なり。

〔一一六一九〕
白正着

黒五に飛べば、白は氣鋭く迫りて、白十・十二、白十・十二と二つの擊を以下、常用の手筋。此處に拓く。八ヶ所に勢を得て形勢先づ互角。

〔一一六二〇〕
白の形厚し

黒十一を手抜せば、白は先手にて十二と打つて四・十と打つべし。但し、白十二、白ロとイを打てば黒ハにて白の形稍生彩を缺く。

〔一一六二一〕
白地を主とす

物必ず表あり裏あり。正道あれば變道あり。白八は、前圖と異なり、外勢よりも地取を重念して、手段なりと時に此手段を替り。白に利あり。

〔一一六二二〕
黒惡し

黒九、次に十と粘く手は無理なり。白は卽ち十・十二と二。白十一にて窺ひ、次に白イに據つて十六に移、二つの勝味にて白ハに入れ、黒若しすべし。白ロに手につ。

〔一一六二三〕
白大に優勢

黒若これに粘れば、白は六以下十一に宜し。黒も下十二に迫るも、白十三と出だ十四に要めて、白十五、十七と取るも、白の三子を取るも、而かも利を得ず。白は未だ絶えず。

〔一一六二四〕
白優れり

黒若しくれば、白十一に逃げ、次に取るを、白十二、十四と兵を旋して、黒十五、十七と出で、白の大勢既に決す。

〔一一六二五〕
白善し

黒七・九と打てば、穩かれど、白は十に抱へて、然らば白十一と握る。黒十一に切つて出づるも、白二に白十二と出づるも、白十四に先鞭を他一の蹴し、大場に馳す。

〔一一六二六〕
場合の手段

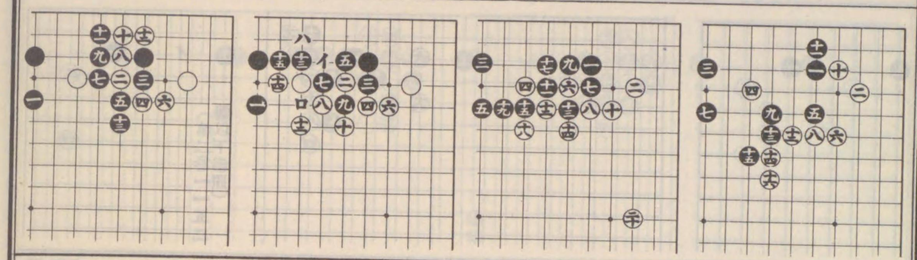
先藤田豐次郎六段
久保松勝喜代四段

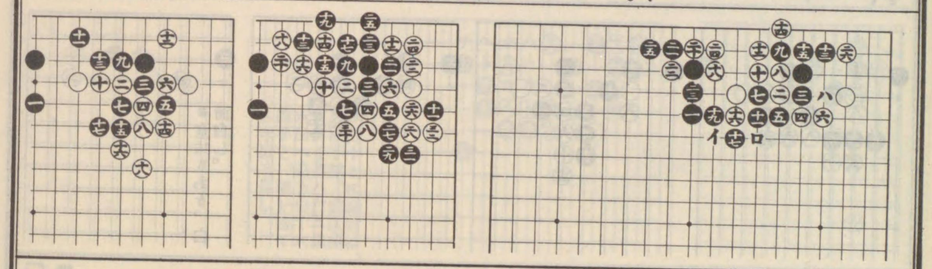
黒五の時、次に黒の征が白有利となれば、白六と隅を守る手あり。白二、嚴しき手段なり。白が右邊に*

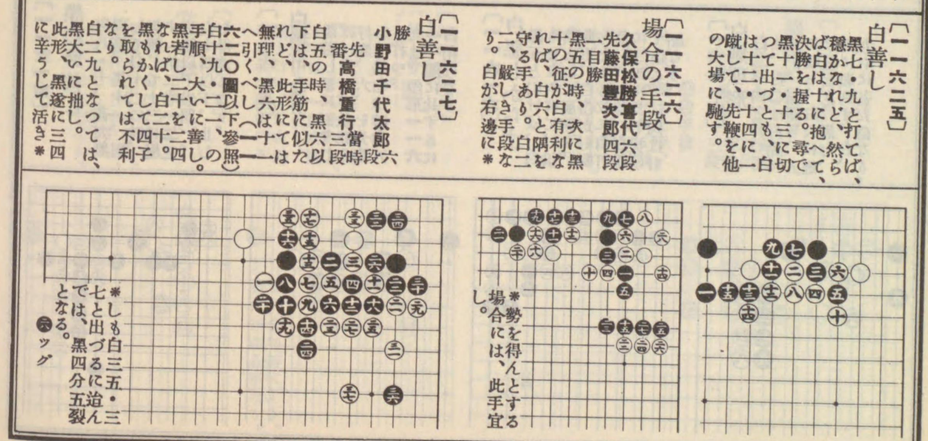
〔一一六二七〕
白善し

勝小野田千代太郎六段
先高橋重行三段

白五の時、黒六以下の手筋に似たれど、此形にては、無理へ引くべし。黒六は十一——參照の如く、十二に善し。







〔一一六二八〕
黒厚、但後手

勝木谷實四段 當時
先高橋重行 當時三段

黒六は、一一六一に九圖の如く、八に引く方優る。圖の結果となつて黒惡しきにあらず*

〔一一六二九〕
要點約言

（第一〇三型ニ）

白四の打込には、常形。但しイは、ロ或はハと打つ手もあり。

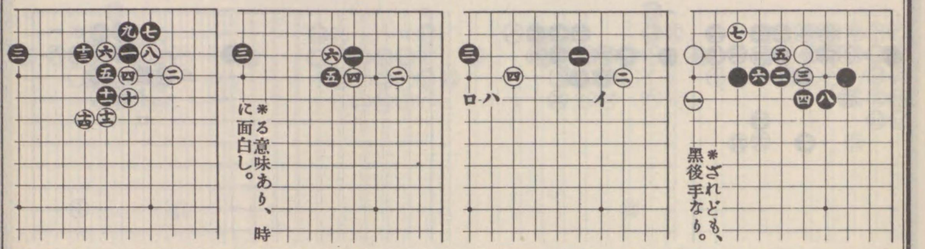
〔一一六三〇〕
基本圖

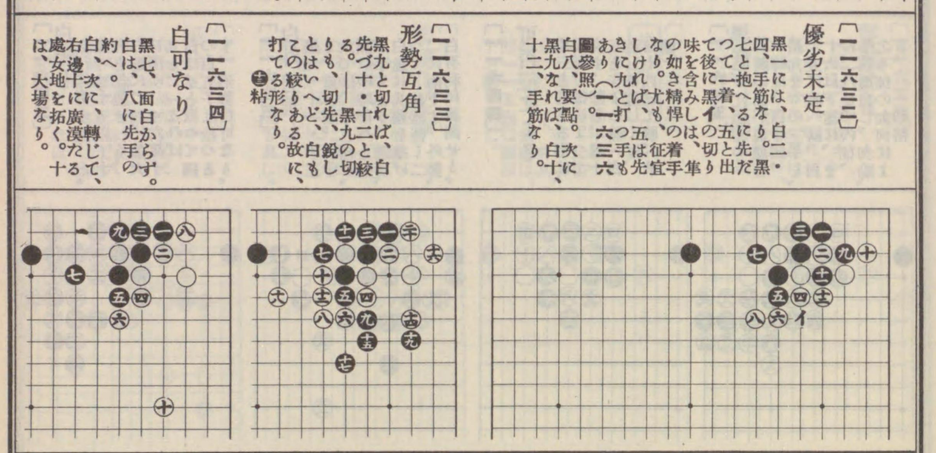
（第一〇三型ホ）

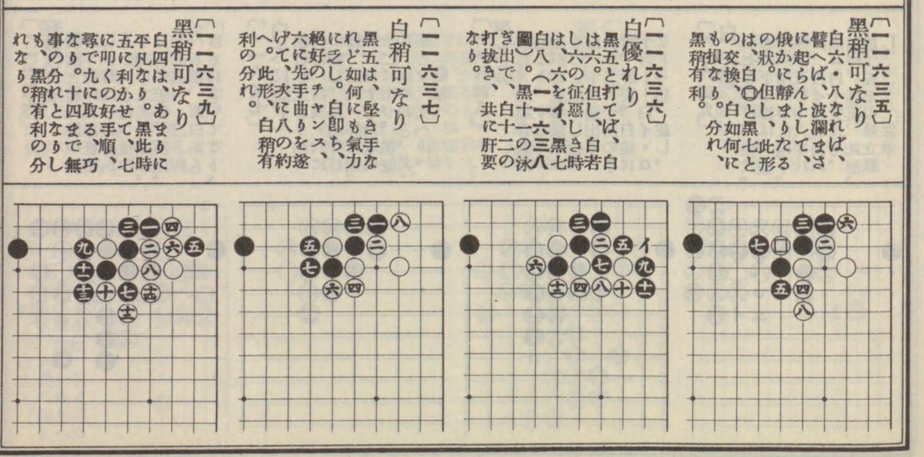
白四、六と附切る手あり。六之と黒三と四間拓きの形に、有り得る手にして、つまり、黒三を避けて、形となさんとす*

〔一一六三一〕
共に正着

白六の切りには。此場合、黒七の尖みが、唯一の好着なり。此形、黒に此處を拓けば、故に白は好結果を得て、其他の手は、何れも黒好きては、まず。







〔一一六三二〕
優劣未定

黒一には、白二・四と手筋なり。黒七と先出つて一着、五と出でて後に黒イは切りを含みし精悍の着手なり。尤も征宜しければ、五は先手も九と打つ手もあり。白十、黒十二、な手筋なり。

〔一一六三三〕
形勢互角

黒九と切れば、白先づ十・十二と絞る。——黒九、切るも、白先、鋭しとはいへど、この絞りある故に、打てる形なり。

〔一一六三四〕
白可なり

黒七、面白からず。白は、八に先手の約へ。次に、轉じて、右邊十に廣漠たる處女地を拓く。十は、大場なり。

〔一一六三五〕
黒稍可なり

白六・八なれば、波瀾起らんとして、俄かに靜まりたる狀。但し、此形は、白◻と黒七と交換、白如何にも黒稍有利。

〔一一六三六〕
白優れり

黒五と打てば、白は、但し、六の征惡しき時は、六をイと打つて、白八（一一六三圖）。黒十一の泳ぎ出で、白十二の打抜き、共に肝要なり。

〔一一六三七〕
白稍可なり

黒五は、堅き手なれど、如何にも氣力に乏し。白卽ち、絶好のチャンス、六に先手曲りを遂げて、次に八の約へ。此形、白稍有利の分れ。

〔一一六三八〕
黒稍可なり

白四は、あまりに平凡なり。黒七、面白からず。白は、八に先手の約へ。次に、轉じて、右邊十に、廣漠たる處女地を拓く。十は、大場なり。

〔一一六三八〕
互角の形勢

黒五の時、白九の征宜しからず。八位の圖の如く六・八位の形の稍好ず。黒九は㋑を押すが黒九をイに打つ手なれば、次に㋺と同じなれば、前圖は又行ひ白㋺と變化るも筋もあり。其ハくと強ひて征るに白ホは黒ニなれば二なれば、白ヘの如何。白ヘにては黒ホなれば、又黒ニを劫取り。

〔一一六四〇〕
黒厚し

あゝ青春人にあるべき時や、なさずして幾何ぞや。爲すべきに爲すべし。然るに白いまだ當るべき急を怠り、其黒三と打つて、單に二、五と打つて、厚し矣。

〔一一六四一〕
白善し

黒一を先にして三と尖にし、合せて四と抛むれば、白は、此場合尋で白十・八か。黒に十・四に躍して逐出づ。善に廻る。

〔一一六四二〕
白善し

急行に善歩無しと。黒い㋩十五以下、十九急襲せし。白遂に二四。黒大に潰ゆ。二一なれば、白は二一と取つれば、隅の白五子は捨つる。形勢は可なり。

〔一一六四三〕
白外勢善し

黒九・十一・白十三も、黒重き筋。白十六では、イと粘ぎ、黒ロの時、白ハと飛ぶ手もあり。白遂に兵鷹を揚げ、二に南下す。外勢、白有利に展開せり。

〔一一六四四〕
可否征による

黒三と約へる形は、可否、征によつては、三と決す。即ち、黒、白若し征宜しくば、白十四にて勝。（次圖）

〔一一六四五〕
黒嵌手に陥る

前圖の征が白惡き時は、白十四と、黒九で、白十三と、黒六の三子を、救へば、白遂に十五以下十六まで、の征、勿論、之も征宜しく、如何によ

〔一一六四六〕
形勢互角

前圖と前々圖の二形勢互角。白征も白遂も、白位の一六と打つ位の、もの。六・二九まで、は、要之、初めの黒一手、互角の黒三と約へるによつてなり。

〔一一六四七〕
白大に善し

黒若し三より約へられば、白四・六に宜し。黒七なれば、白八、九、白十。白遂に黒十二、地の利と、黒既に形と、其を失へり。

〔一一六四八〕
黒苦戰

黒九、此場合無理筋なり。此筋が黒家藥籠中の白十・十二に逸出すもの。白十・十四の手順、肝要。白遂にロの狙、白嚴し。

〔一一六四九〕
白勝

黒七なれば、白八。黒以下十六まで、望れて宜し。黒七なれば、白八、九、白十。白遂に黒十二、地の利と、黒既に形と、其を、失へり。

〔一一六五〇〕
黒大敗

黒九なれば、白十で良し。黒十三以下は、散櫻花の潔き往際には似ざる惡さ！白遂に、二、悲哀、絶望い、斷腸。㊀結

〔一一六五一〕
白勢可なり

黒一・白二・三以下四以下八まで、黒に對して應答なる必然の變。白八の時、黒イで、九なれば、白十・十二の先手、十四に拓いて宜し。

〔一一六五二〕
白厚し

黒九なれば、白十二の一目取り。後手とは、絶好の所意味無量。此形、白イまた蓋し、白切り厳し。黒ハ白ニの筋も白ロあり。

〔一一六五三〕
七形を損ず

黒七と取れば、白は十・十二而して十四の大場に展開す。此望む、黒㊀、稍重複せる、石と化㊁せり、白遂げたる所望蓋し、以みに終なり。

〔一一六五四〕
要點約言

（第一〇三型ホ）

白四・六、時に面白し。次に、黒は此形と尖むべき、最も良し。其他の應けは、好まず。

〔一一六五五〕
基本圖

（第一〇三型ヘ）

白四を手抜㊃。此場合、黒より打つと、他にして、意味は、前一一五四〇圖以下と略、同じ。

〔一一六五六〕
前變化參照

㊃手抜

白四・六、時に面白し。次に、黒は此形と尖むべき、最も良し。其他の應けは、好まず。

〔一一六五七〕
場合による

白八。黒九はイに走つて、白の根據を拂へば、白十二と、尋で黒ロの時、白ハと立つて、黒も氣負せる、筋もあり。黒白十三でニになれば、白次に。

〔一一六五八〕
前變化參照

㊃手抜

黒五なれば、白六。（第八・常形なり）二卷四九四〇圖及び一五四〇圖以下、白二で良し。但し十二は、堅し。イの攻も良し。

〔一一六五九〕
形勢互角

當時五段 廣造
當時五段 伊太郎
先光原 五段
勝木村 番
先鈴木 秀子
當時三段 番
勝向井 一男 四段

黒十四まで打ち、然る後、黒ロと隅を攻める手も、尋で白十六と、あり。但し、白かく打つも、尚ほ隅

〔一一六六〇〕
常形

黒七なれば、白八。黒イに打て、白九。白下。これは、白十の眼形を以下、白ロの筋も、黒ハ白ニまで、形勢互角なり。

〔一一六六八〕
前變化參照

㊃手抜

黒五の時に、白には㋑或は㋺などの手段あり。其の變化は第二卷五一〇八圖及び前一五四圖以下と同じ。

〔一一六六九〕
形勢互角

黒八は、イに打てば、白九。黒は、白十に、黒ロ以下、白十一なれば、白十。白十一は、これ眼形を以下、白ロの筋も、黒ハ白ニまで、形勢互角なり。

〔一一六六一〕
黒形稍可なり

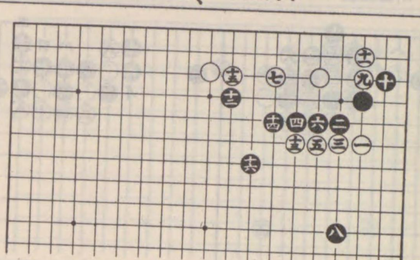
前田陳爾五段時
先 篠原正美五段時
勝

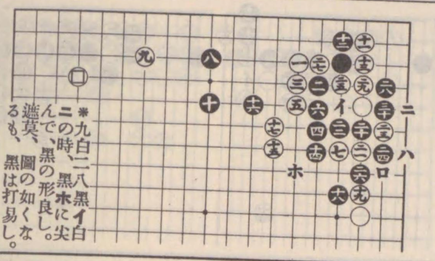
白九なれば、黒十、白十一となる。但し、白九は、前々圖の如く、十と置くキビシクして良し。黒十二を利かし、尋で十六の斜走、形なり。

〔一一六六二〕
黒堅實

林有太郎六段時
先 清源四段
勝

白■あり。白九と左上に利し、尋で左十一に上に眼を奪つて利せんとせしは、貪りなり。黒及ち十四に逃げ、危しつつ白十五の時、黒十六を利かし、尋で二十に馳せ、而して二四に殺入す、黒鋭し。白二一を二二なれば、黒は■白三十二五を十白ハ黒二*に取れば、三十*





〔一一六六三〕
優劣未定

勝長谷川章四段時
先 清源四段時
番 奥

大手抜 黒より八と躍り込まれては、普通に白惡し。黒遂に二は四の圖にては、これ可否で定め難し。

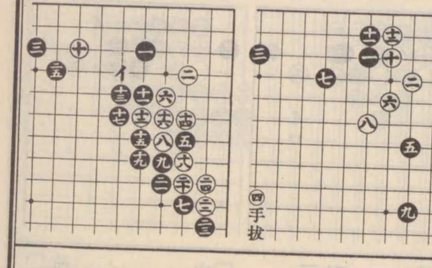
〔一一六六四〕
定石

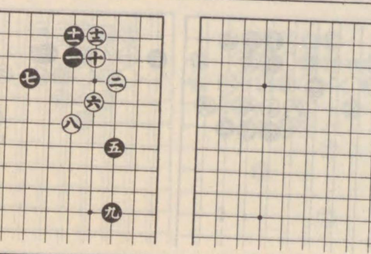
黒は五と、二間に夾返し、而して七、次に黒より八に封じ、鎖されるを嫌つて黒九と交換は十一にて十六なれば白■。

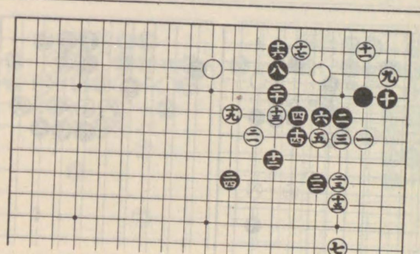
〔一一六六五〕
黒厚し

本因坊道策名人
勝 小川 道的七段

白十に先だつて四手抜、白八と黒九との交換は十一にて十六なれば白■。







〔一一六六六〕
常形

先 小杉丁三段時
番 高橋重行二段時
勝

四手抜 白七の時、黒八も惡しからず。されば黒は八を■と白十二と應じ、黒ロと白三の五へ切り、白十三の次に黒ロと十四と擊ち、白十五の攻めとは狙ふ方、黒十六で、一層善し。黒十六上の要着。此形は七なれば、白は手をつて宜しく抜いて他に打つ時間つづれとも定め難し。

〔一一六六七〕
手段共に妙

先 勝本因坊秀哉九段
白 瀬越憲作七段

黒二、三に對する白四、五の綿密に變化を考へ盡したる着手、何れも常法を以て爲すべからず。黒六、七、八、九の手段、十に對する白十一、十二、十三の順序、何れも可否共に機微を極めたり。

〔一一六六八〕
場合による

勝 久保松勝喜代 六段
先 福田正義 五段

十手抜 白は一と夾返し。黒二の時、三と攻めもあり。白一・三の可否は、尊ら外勢の如何によつて定まる。次に十一・白七は、次に十三との利かしを合む、好點なり。

〔一一六六九〕
要點約言

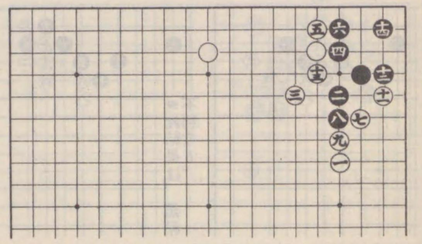
（第一〇四型へ）

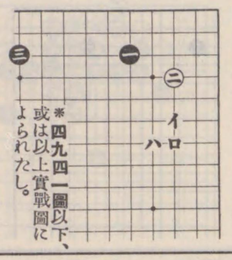
四手抜 白四手抜。次に黒■など攻めたる時は、ハなどに攻め方は前圖の應じ方及び一一九三圖及び*

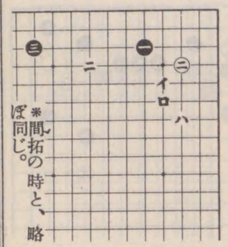
〔一一六七〇〕
基本圖

（第一〇四型）

黒は三と五間に拓く手もあり。此時も、白は■、ロなどの外、ハ或はニなどの手段あり。それらの手の意味は、前の四







〔一一六七一〕
定石

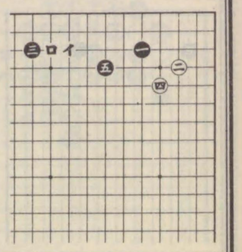
白四なれば、黒は必ず五に應ける。次に白■の打込みを怠れば、黒は三をロの四拓の間及び■の三間打の場合に於けるよりも痛烈なり。

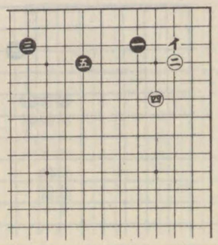
〔一一六七二〕
定石

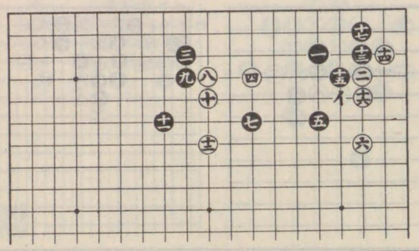
白四なれば、黒は五に應けるを定石とす。尤も、五にては■と附ける手もあり。變化は一一五九九圖以下と略同じ。

〔一一六七三〕
常形

白は直ちに四と打込むは、黒■と手あり。此打は、一一六一〇圖以下の白四よりビシキ意味もあり。尤も、五にては■と飛ぶ手もあり。これ二間に次圖■手あり。白ケルの手も良し。黒轉じて白六の冠を壓し、黒七と附ける手もあり。變化は一一五九九圖以下と略同じ。





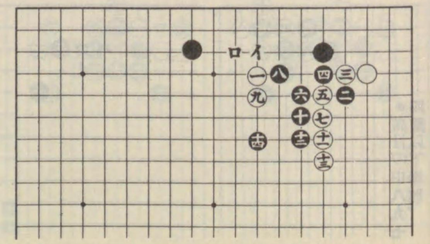


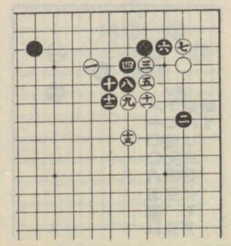
〔一一六七四〕
白可なり

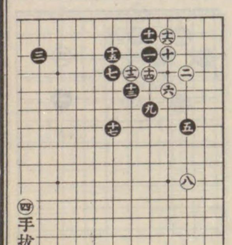
黒二なれば、白は一と相呼應づけて三。善し。黒八の時、白は九に起ち、黒の時白は十に乗つて十三に調子を整へ、白は十一の手順巧なり。

〔一一六七五〕
中央戰による定石

黒二なれば、白三、手強くされて宜し。白三、黒十、形惡しきも、脊に替へらるゝ腹境。白は今の窮境に在り。白は中三に拓の時、黒は十に敗。白遂に決勝の一九六圖（第二卷二六一參照）







〔一一六七六〕
定石

白四、手抜。此場合も、黒手段は前圖■を打つも、白六以下石を取るも、白は七、黒は七ぬ、双方の粘りを兼ね、好形なり。

〔一一六七七〕
場合による

黒五・白の根據を排よ。白乃ち六、黒に次に七に出で以下白よ々々相手に八に切り、以下黒十なせば。寧ろ白の妙手あり。黒十一にて進むべく、此形、普通は、十二に覗ひ起つ。黒前圖よりも劣る。

〔一一六七八〕
前變化に同じ

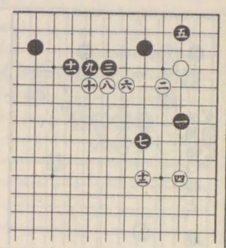
（四手抜）

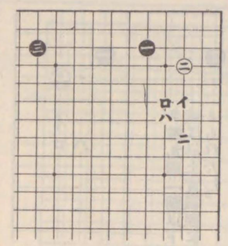
黒は又、イロハ或はニなどに夾返す手あり。變化は一一五三圖及び一一六五五圖以下參照。

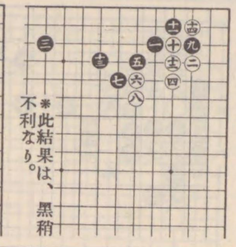
〔一一六七九〕
古風の定石

當時六段 勝山崎因砂
當時四段 先奥貫智策

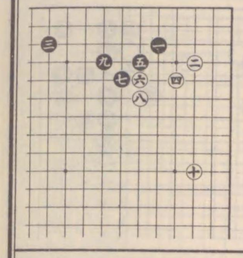
白四黒五の相尖み、以下黒十三白十四までは、古風の定石なり。＊されど、







＊此結果は、黒稍不利なり。



〔一一六八〇〕
常形

兵書曰く「將、變の利に通ずる者は、兵を用ふるを知る」と。黒は九變の利を用ふること九變の本手なれども、通ぜず、第二參照。四四圖以下第四參照。四四十圖以下は白稍可なり。

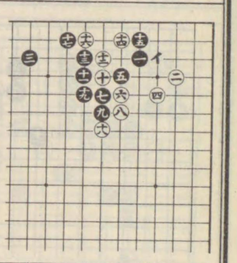
〔一一六八一〕
定石

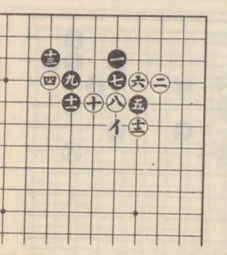
黒九と押し來れば、白は、眼にもせくに切り返すの外十以下見たる如く、黒十、拾石の妙あり。黒十一、猶ほ白よりは得ずイ方面よりシメツケル手殘れり。

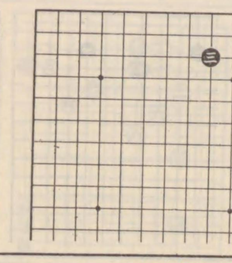
〔一一六八二〕
黒稍好まず

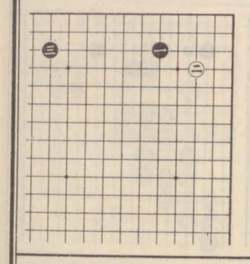
勝久保松勝喜代 六段
先關山 利一 當時四段

黒五は、白四に打込みし時よりの豫定の着手ならんか、次に白に六八と出で切られて黒好まず。（一一六一五圖參照）。一一六七三圖參照）。黒五は一一六七三圖參照）。





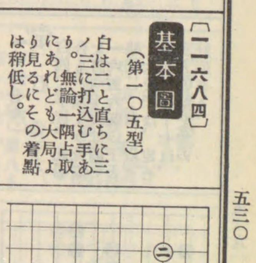


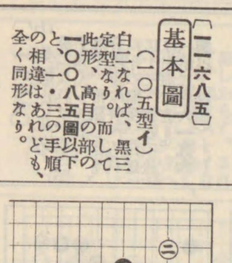


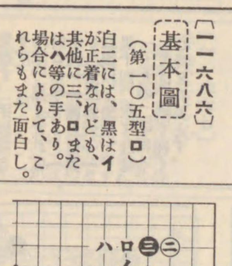
〔一一六八三〕
要點約言

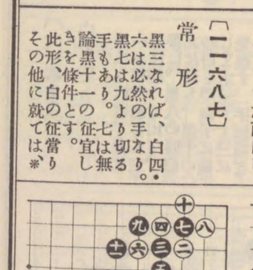
（第一〇四型）

黒三實戰常用の五間拓も、打て、此形の白の手段及び三間拓きと略ぼ同じ（前變化參照）









〔一一六八四〕
基本圖

（第一〇五型）

白は二と直ちに三ノ三に打込むも手あり。無論一隅占取よりは見るにその着點よりは稍低し。

〔一一六八五〕
基本圖

（一〇五型イ）

白二なれば、黒三定型なり。而して此形、高目の部の一一〇八五圖以下の一一〇・三の手順と相違はあれども、全く同形なり。

〔一一六八六〕
基本圖

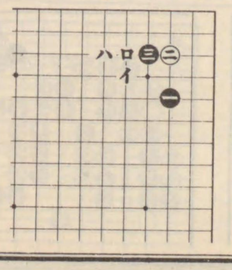
（第一〇五型ロ）

白二には、黒はイが正着なれども、其他に三、ロまたは八等の手あり。場合によりて、これらもまた面白し。

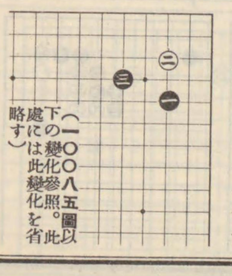
〔一一六八七〕
常形

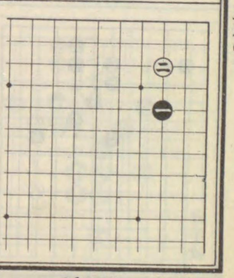
黒三なれば、白四・黒六は必然の手なり。七は無用の手なり。七は必ず九より切るべき形、白の征伐は當りその他に就ては＊

＊高目の中八九七四圖以下參照。



（一一〇〇八五圖以下の變化參照。此處には此變化を省略す）





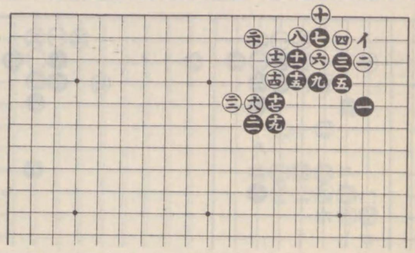
〔一一六八八〕
常形

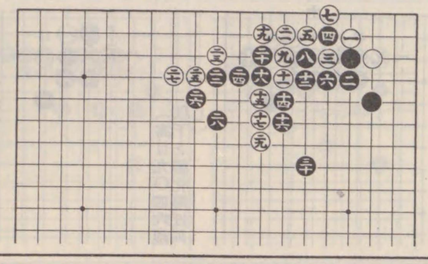
黒征惡しければ、七より切。白八の下は無用なり。白イは損なり。黒宜し。九で高目の中九〇ニ（圖以下は黒乃ち十と込んで一一白々發十一、黒二止、十一に當てる）

〔一一六八九〕
形勢互角

白十七に切にヒタと押し。黒十八の本手なり。白十九、黒二十に、若し白十九を二十に當てなければ、出で、水や空、渺茫たる四邊に、この空な水や空な、たるも。黒の瑞兆溢る。早く

（十劫 ㊤同）





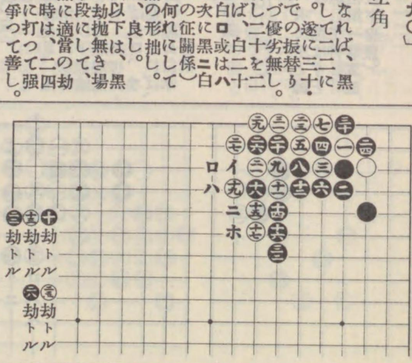
〔一一六九〇〕
先づ互角

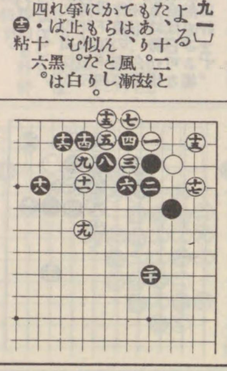
白十九なれば、黒二十而して二に攻めば、黒は二に三三に銳く逐ひ、三一と先づ優勢なり。又一なれば、白二と十二に無し。黒イは白ロ或はニ、白ハ黒ホ（黒征關係）にて何れも形拙し。白三良し。黒は四二以下適當の二の手段に抛無きを、場合に依りては、黒三の振替へ、白四と抛ち、黒五と白を一手に打つて強く善し。

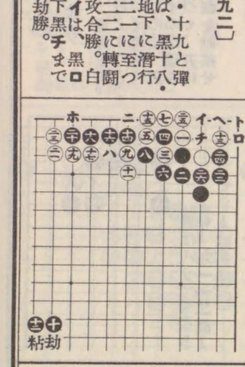
〔一一六九一〕
場合による

黒はまた、十二と粘くに至つては、風漸く止む。白無論十四・十六。

（劫 ㊤粘）

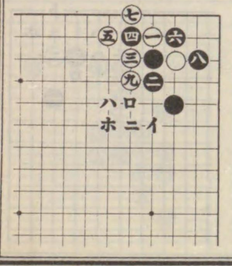






〔一一六九二〕
黒勝

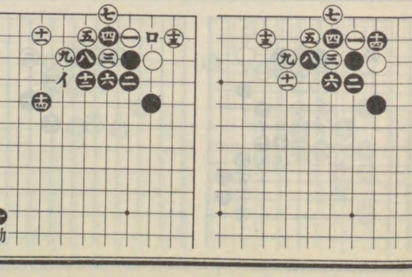
白十七・十九と地を潰して、黒二十に轉ずるも、白二十一に行き、黒二十二に至つては、白二十一に掛つて、黒勝。黒イは白ロ以下黒チまで。

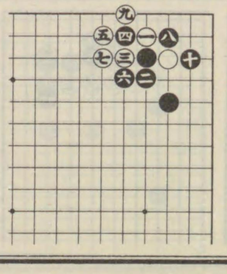


〔一一六九三〕
場合による

白十三に掛げば、黒は無事に四に取るか、又は隅を取つて好形となるべく、白は後手なれども、黒は隅にかかはざるを得ず。黒は否遽かに地にかかるべからず。

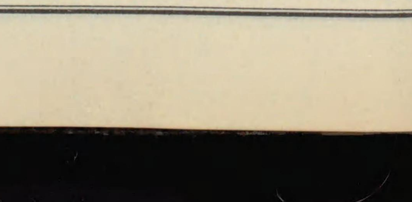
（十劫 ㊤粘）

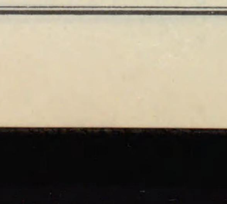




〔一一六九四〕
分れ得失無し

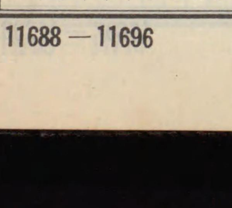
白一は、白の明へ滅する利權を故ら抛棄するもの。黒十二、白十三をイなれば、黒ロにて、これは前圖よりも黒稍可。





〔一一六九五〕
黒惡しからず

白七なれば、黒は無論八、十。元來此形は八九、五九圖に比すれば、黒は隅に小さきも、六と七との交換あるだけに黒も惡しからず。

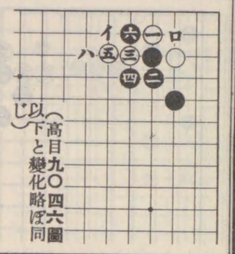


〔一一六九六〕
白善し

黒直ちに六と切るの外は損。白九は戰機を呼ぶ。黒次の好點拔せば、白直ちに手を切つてイに掛け、壓。また黒十をロに掛つては、白ハ黒ニ白尚ほホ。

〔一一六九七〕
黒一策なり

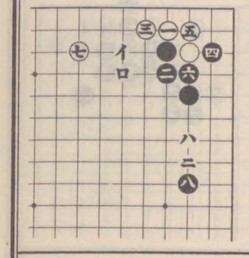
黒四而して六、いま、白よりも三と突當られて四に黒果然、白よりも三と突當られて四に黒



（以下高目九〇四六圖と變化略ぼ同じ）

〔一一六九八〕
黒、位を取る

黒いま、四・六・八に逃し、壓迫手段ら、中邊に勢を張らんとするに善あり。白七も其時は黒七に次に白ハなれば黒ニ白ホ（次に白ハ黒ヘ）なれば黒イ（次に白ロなれば黒ヘ）なれば黒イ（次に白ロなれば黒ヘ）



〔一一六九九〕
黒稍可なり

白三は九〇六八圖の場合と同じく黒低くして白乃至六に出づれば、次に黒イに狭く拓いて、白七に四次に八に出づれば、次に黒イに狭く拓いて、白七に四次に八に出づれば、次に黒イに狭く拓いて、白七に四次に八

〔一一七二〇〕
黒守勢
黒十四、白十五と上邊二子を迫りは、氣宇宏濶なり。黒十六手筋。されど、白十七と五七と打ては、五と十六と交換の畢竟黒四の好まずきによる。

〔一一七二一〕
互角の分れ
黒八の手順良し。白まづ九に逆撃して出づ。兵に兵叉相接して肌に粟を生じ、慘膽とする所、惨膽とせず。白九、黒十七と白十一、黒ロ白ハ黒ニと交換せば、差著なし。

〔一一七二二〕
黒悪し
黒八以下一一七図は形、異せる故に悪し。白、十九に寄せて此形、白右圖掩ひ黒ロ白ハ即ち白イに比せば、黒ニと交換せる故に悪し。

〔一一七二三〕
白有利の分れ
黒六は、戦に最も恐るべき兵氣の厚味を白即ち七に加へて先手の攻撃に轉ずる。黒の十二と十六を交換せる、差著なし。

〔一一七二四〕
形勢互角
黒十二は、普通は白に十三と締ねならば、好まざる形を隔て、此場合白を攻撃し、黒悪しからず。

〔一一七二五〕
白の形薄し
白十五の作戦、時に輕くして面白きも、此場合黒は意味もなく五の鋭を避けて、十六に其の情を撃つ手あり。黒途に薄し。白左右に薄し。

〔一一七二六〕
白稍可なり
黒四なれば、白は五次なれば、七に掛で激烈の好形を得。白九、敵の熱意も燃ゆ。攻撃の黒十一、白九では白十二と手段も宜し。

〔一一七二七〕
互角の分れ
宮坂栄二五段 當時
先勝 橋本宇太郎三段 當時
白十、次に十二の手段面白し。黒二七は手筋、右邊の黒の妙味を含んでの妙なり。白二八なれば堅實なれど、此手は強く、イと打つ手もあり、次菲圖、尤も、此、黒ハ白ニ、黒ホ白ヘ、黒トの征悪しき局面と見えたり。

〔一一七二九〕
黒優勢
福田正義五段 當時
先勝 加藤三七一三段
白四、重き筋なり。黒五・七は、觸るゝものとして、切らざるときの鋭鋒、善し。黒十三、白四と、穩かなれど、緩くして不可。蓋し前に○に鋭く夾撃せ*

〔一一七三〇〕
黒の形良し
先勝 木村廣造五段 當時
番 光原伊太郎五段
白十二の約束なれば、次に黒二九となり、以下、白三争十二と、黒十三に劫を取り、白十四の次に、黒十五の猛撃。*白十四の次に、黒十五の猛撃。

〔一一七三一〕
白稍可なり
白十五の作戦、時に輕くして面白きも、此場合黒は意味もなく五の鋭を避けて、十六に其の情を撃つ手あり。黒途に薄し。白左右に薄し。

〔一一七三二〕
白有望の形勢
白八なれば、次に黒九となり、以下、白三争十二と、黒十三に劫を取り、白十四の次に、黒十五の猛撃。*白十四の次に、黒十五の猛撃。

〔一一七三三〕
常形
黒三は、白四の尖、黒五以下白十まで常形、これには、別に他に變化もなし。

〔一一七三四〕
黒善し
白二に似たり、然かも、白の此手段も、白の誓へ畑に水を如く實情乃ち七。黒の適せず。白如何に好結果を得ず。

〔一一七三五〕
要點約言
（第一〇五型ハ）
黒三は、先づ白の眼を取つて、中央に追出さんと、此手段。餘段、時に面白きに急なれば、下手段に轉ずる程の四圍の形*

〔一一七三六〕
基本圖
（第一〇五型ニ）
白二に對しては、黒イロの手段もあり、攻めは前縦緩も稍前形に比して其代り前型よりは急に過*

〔一一七三七〕
黒可なり
白若し四なれば、黒五の要點に曲る。此時、白イに應ける。即ち白六。此形、黒七。黒よりイの切りあり、白何となく氣味悪し。

〔一一七三八〕
黒優れり
白十二の約束キ黒も秋毫も怯まず、白十五に封鎖三に叩き、白二三以下黒十七と善も平凡なり。白機到る。黒三急なる追撃、遂に下の黒三を追撃、然。外勢黒優る。

〔一一七三九〕
前變化參照
先勝 木村廣造五段 當時
番 光原伊太郎五段
白二・手筋に似たり。されど、此時、黒一歩假借せずキビシク三、而して五。白惶惑して成す所を知らず。

〔一一七三六〕
大勢黒可なり
白は先づ十六と粘き、以下黒二三の時、白二四と攻めるも、黒眼を取つて、嗟乎時既に死の七一着、而して決此時、黒二に、一歩假借せず三、而して五。白惶惑して成す所を知らず。

〔一一七四〇〕
黒有利なり
白二なれば、黒三堅實。尋で白四の引いて、黒五に乗の機を狙ふ。白委脆弱遂に、好形を得ず。黒十一・か三と双方に拓く事を得たり。

〔一一七四一〕
輕し
黒一には、種々なる變化を孕むも、此時妙機を抜さゝゝ時は稍手に拘子を免れず。但し白打つ二が輕し。

〔一一七三五〕
黒確實但後手
白八の時、黒九・十一と打抜の利を收むるも、白の快味を喫し、隅に地を確保し、普通の如く打つは後手の方良し。

〔一一七四二〕白可なり

黒若し直ちに三と附け切れば、白は四以下振替りて宜し。白遂に十に纏を上げて進む。隅の白にはイ或はロの手段残れり。

〔一一七四三〕形勢互角

白はまた、四と引いて□を守り、尋いで六・八と打つも手あり。九までは互角。蓋し、形勢は、外勢如何にも取捨を決すべし。

〔一一七四四〕前變化參照

白二の附も、前一一七三圖と同じく手筋に似て却て悪し。黒三、五以下の變化は、黒高悪形の間に二一八圖以下と同じ。

〔一一七四五〕黒外勢良し

「攻撃は最善の守備なり」反之、白二以下八は、汲々として守るに偏す。かゝる打方は、黒の外勢を堅固ならしめて白を攻むる手なり。

〔一一七四六〕白面白し

先番 木谷 實 九段時
長谷川章 四段時

黒直ちに六・十と打つも一手、白に粘られて、遂に十六に攻め。＊黒

〔一一七四七〕要點約言

（第一〇五型ニ）

黒三でイまたはロは、以下に見る一一七〇六圖ロの攻よりも、於て稍劣れども、時には趣きありて宜し。

〔一一七四八〕基本序圖

黒一の目外しに対し、白二と高く懸るは、斯く懸る手あり。隅を取られるを嫌ひ故に古来不利なりと考へられ居れども、近来一般に配置高く黒は形勢をサ紛れてそのド真中に戈を交へサクと接に白は三の應手常形。黒イと直ぐ受けたり。＊

〔一一七四九〕基本圖

（第一〇五型）

黒一の目外しに対し、白二と高く懸る手あり。白は四以下に見る一一七〇六圖ロの攻よりも、於て稍劣れども、時には趣きありて宜し。

〔一一七五〇〕參考圖

近頃の實戰に、四手抜二黒三の時、白四と手抜する形を見る。これは白に非ざれど、一理無きにあらず。故に白損を先にする形好まず。

〔一一七五一〕基本圖

（第一〇六型イ）

白四の時、黒は五とイとの應けあり。何れも定石にしてまた、其意味も略ぼ同じ。

〔一一七五二〕基本圖

（第一〇六型）

黒五なれば、白は六。これ迄は白二と高懸せし場合の最も普通の定石なり。

〔一一七五三〕定石

白六なれば、黒七は手抜も宜し。ペ一七〇八圖の場合は七肝要の尖、七と立派なしも、圖の如く七と立つも、まして定石なり。

〔一一七五四〕常形

白を手抜。黒、迫り、剣を按じて三に打込むを狙ふ。黒五に爆弾を投ずるより外勢を固めて白を大きく攻む。

〔一一七五五〕黒可なり

白二次に四、ねばれば重ねて手抜すれば、黒五は白の地を破るといふより外はなし。百尺竿頭一歩を進めて白を大きく攻む。

〔一一七五六〕常形

白十二は手筋、敵の鋭なれば之を避くるに合手。此時、黒は當分宜しく手を抜くも宜しく、十七・十五・十三・猶ほ七本目なり。黒が此變化には黒戒心を要す。（次圖以下）

〔一一七五七〕白優れり

黒十一、失着なり。白卽ち十二・十四。黒七は二・十と打つも、これも白の十七位の尖に飛べば、黒宜しからず。白三附下も、白三は黒八と打ちて、黒は白遂に十七と出たり。これ迄は白の優勢なるも、然も此れ位にて結果に於ては黒の優勢萬々。

〔一一七五八〕黒嵌り

黒十一、白の切りを如く、黒先十七と出れば、六十七に切り順宜しく、此形も大勢解消黒利あり。白二の時、黒二は苦しき手なれど、三と止むを得ず。黒三五となるに至りて、白が運命既に決せり。白三遂に六と出で、黒七を天、白の最後の試みや。黒七の一撃に失着。形勢逆転せり。白六と打てば既に黒上邊。＊

〔一一七五九〕白敗

白一、二の切りを如く、黒先十七に切り順宜しく、此形も大勢解消黒利あり。白二の時、黒二は苦しき手なれど、三と止むを得ず。黒三五となるに至りて、白が運命既に決せり。白三遂に六と出で、黒七を天、白の最後の試みや。黒七の一撃に失着。形勢逆転せり。白六と打てば既に黒上邊。＊

〔一一七六〇〕場合による

白若し二十、而して後十四・十六・十八前圖の如く二十に切る時は、黒六十九と打ち、白の十二十に遮らば、此形、白無しロ。六で止むなくイ或は＊

〔一一七六一〕白可なり

黒七は、白を堅く。白遂に面白かず。白十四と出れば、此時黒イと出れば、白を取りて区々たる黒の三の一方を捨つるの外無し。＊白は

〔一一七六二〕常形

黒既に九に打込んでイの備へ。此時、黒ハへ白十二・十四と厳に蓋して黒実利なり。白の十二段ねばり綿ず壮観なり。

〔一一七六三〕
黒甚だ優勢
白六は、次に八の附越を狙う。重筋なり。意外に黒七の行切り！黒明敏千万。以下二九の切り、十九の逐に十九の妙形を得。

〔一一七六四〕
白の形優れり
黒イ無くして直ちに三の打込は、未だ灼せざるに先だつて有利なり。白四にて、時機尚早。白六・八宜しからず。白六、黒イと切つては拾てしては巧妙。

〔一一七六五〕
白稍可なり
白六は、前圖の如くこれを七に打つに比せば、稍劣る。黒乃ち七。白八は、此形にては止むを得ず。

〔一一七六六〕
白悪し
黒は七・九、白イの征あり。黒は白イの有利を変じ宜しからず。白十・十二・十四は、黒ロ、黒ハにて善し。

〔一一七七五〕
黒、形に損ず
勝伊藤清子二段
先當刈谷數雄初段
(二)手抜

黒三次に五・七の手、甚だ拙し。白十・十二と出で黒は十三の時、形を整へ、白十六を呑んで十七に届くに更に十七に利なり。黒明かに不利なり。

〔一一七七六〕
形勢互角
先太田雄藏七段
番勝安田秀策七段

白二。此時、黒は既に一の一子あるが故に三・五と切り、手筋なり。黒十一、白十二にて、若し十三＊

〔一一七七七〕
參考圖
白はまた、形勢如何とよりては六と高く打つこともあり。黒七、九は、只此筋あるを示せる一般には七・九の如きは白（此場合は白）の石＊

〔一一七七八〕
要點約言
（第一〇六型イの一）

白六までは定石。此時、黒イの尖みは、形より見て申分無きも、或は黒七ではまたロの詰めもあり。

〔一一七七九〕
基本圖
（第一〇六型イの二）

白はまた六と四の間に拓く手あり。元來、黒五の時に白は前型の如くイに拓くを正形とするも、斯くとイと拓くれど、變化＊

〔一一七八〇〕
定石

白六なれば、黒は七肝要なり。前圖にては黒七の尖みを整へるに單に形へみのみなれど、此形にては白の間卽ち、此場合、＊

〔一一七八一〕
常形

既にして黒七。白乃ち黒よりのイの打込に備へ、八と高く、敵に凭れば、黒進むもあり。此時、黒一一に行びて先手を取つて宜し。

〔一一七八二〕
黒堅し

白二なれば、黒五と堅し。若し白ロの時は、黒三・一但子無くては出づべし。（一一八六〇圖以下參照）

〔一一七八三〕
考すべし

白ロの一考を要す。黒五と見よ、白十まで黒の足、手子は、卻て黒の形、此形、黒よりは攻の痛みに出る如きは、夢にも語るに異らず。

〔一一七八四〕
參考圖

黒七を手抜の時、白はまた④なれば、黒八、三以下打つべし。⑪此圖以下參照。但し同圖にあり。

〔一一七八五〕
黒宜し

白若しイの切りを打たずして單に六と打たれば、黒則ち七・九に一子を掠取す。黒遂に先手十の粘まで、黒の形厚し。

〔一一七八六〕
時機を見よ

白次に黒五も善し。八而して一に白十一。此形外勢は黒厚し。中原逐鹿の時機を見るべし。

〔一一七八七〕
黒の形善し

白四と二段、綿す黒直ちに溜手の逆戰法、五・七と逆撃もあり。此變化は後の一一圖參照）以下、白八を先にし、次に十一と打つべし。

〔一一七八八〕
黒優れり

白若し先に八の切りを先にすれば、黒九。次に白十一にて粘れば、黒十一に白十二。此隅遂に到れると、中原逐鹿の時機を見るべし。

〔一一七八九〕
黒宜し

白若しイの切りを打たずして單に六・七と取れば、黒一子を掠取す。黒遂に先手十の粘まで、黒の形厚し。

〔一一七九〇〕
黒堅し

白二なれば、黒五と堅し。若し白ロの時は、黒三・一但子無くては出づべし。（一一八六〇圖以下參照）

〔一一七九一〕
場合による
(一)手抜

白二の手は、中の善しと見る時は、黒三と白四と打ち置くに利あり。

〔一一七九二〕
常形

黒七、白も手抜し宜しけれど、攻めもまた良し。白六と攻めて黒九の守、肝要、怠れば白イの筋あり。——備を密＊

〔一一七九三〕
場合による

黒はまた、三以下七も此形、白の厚くなる故、黒の面白からざることもあり。まことや、敵に因つて變化し、之を神といふ。

〔一一七九四〕
白厚き打方
(一)手抜

黒三と押し、五と曲れば、白六と約へるも宜し。黒七は、厚き時、白八と打ち、白方・十は、白は八を手抜しれど、他の好點を擇ぶも宜し。

〔一一七八六〕
黒の棋歩堅實
白四、黒は五に粘ぐも宜し。意、蓋し、白のイに備ふるなり。兵を引いて、白八に到る。此時、黒九は、白よりの黒ロ白ハの切りイ黒ニ白トの切りに備へしなり。

〔一一七八七〕
常形
(八)手抜
黒七の尖、白八を手抜。黒即ち挺進して、九に敵陣、提乱を試む。白十、遂に至る。白十四、黒十五に常用の手筋。

〔一一七八八〕
黒厚壮
白若し、四、次に六、なれば、此場合、黒直ちに七に敵の連絡線を截かす。白驚愕、遂に十二に到る。黒は十三に飢うるに乗じ、寶刀つるて次に打抜けり。(十一)粘

〔一一七八九〕
白潰滅
白八惡し。黒九に出でて、遙に友軍と呼應す。(三)の(公)の白に危機迫る。黒十、白十一なれば、十二、白十三。黒二、白一なれば、黒三・九の一子を取られず。

〔一一七九〇〕
黒實利を得
白は四と附け、(三)手抜、隅の二子を棄てて、外勢を張る手段もあり。されど、黒も十三まで地如何にも大、此形多くの場合白損なり。

〔一一七九一〕
黒の形厚壮
(三)手抜
白十二に衝いて出づれば、稍無理に黒十三・十五と出づ。黒十三・十四に飛して、白二十でイなれば、白ロなれば、黒ニ。

〔一一七九二〕
黒二子を取る
白十の時、黒十一に粘ぐや、(公)の白が脱出の望薄。黒十三とも白る位のもの。此形は前々圖より劣るも先手也。尊で稍黒勢。

〔一一七九三〕
白分裂の惨狀
白十二と、(三)手抜の二子を圖り脱出。黒十三に、白十四と引き出し、黒十五と打つて後手を引き、黒十七と打つて白八以下十三まで如何。附けらるるイに備へ且つ攻むるべき處なり。

〔一一七九四〕
白善し
黒イ無くして、直ちに一は無理なり。白二に一と約へて、その(四)の黒遮るを時に連絡、隅の黒三の出づるを狙ふ。白は勢に乗じて四・六と合し、黒ホに擊つ。

〔一一七九五〕
白優れり
黒九なれば白十、以下黒十三の時、白十四に飛して、遙上邊・三面の形勢を征す。尤も白征十二と切られし時は、黒ロ白ハの筋。

〔一一七九六〕
白實利を收む
黒若し七に切りて、而して九の時は、白十一なれば、白十二の筋。黒十三と、白十四・十六、決に突出しとなりて實利は全く白にあり。

〔一一七九七〕
黒甚だ惡し
二兎を追ふもの、一兎を得ず。黒七・九は、白十四との取りとイの切りとを兼ねて、双方手なるも、白ちと十二と切れ、黒は地にと十二・十四。黒は而して二眼の形を竝びに失ふ。

〔一一八〇三〕
基本圖
(第一〇六型イの三)
白六の五間拓、此一手、急所は前下の三間・三間拓と略ゝ同じ四間拓にして、此拓の廣狹には互に一得一失あり。

〔一一八〇四〕
定石
黒七の尖と、白八と、共に正着。彼の我の守りとは、この應酬は、單なる戰の前哨戰のみ。決して未だ小ならず。但し黒七と白八とは共に手を後(參照)

〔一一八〇五〕
白の應答正し
白二を手抜すれば、黒直ちに三に打込む。白四と切られたり。決して行かん。三戰の際最も佳し。白ロ・十・せ・白の手筋、此驅

〔一一八〇六〕
互角の形勢
黒九に、反間を放つて、白十・十二、白の動靜を探る。白十四に、黒十五と下手筋を豫めつつ讀みつつ、黒十七・十八に疾く出づ！

〔一一八〇〇〕
黒善し
先 岩本 薫 四段
番 勝 福田正義 當時段

白ロ(公)あり。黒三の打込、以下七の共の飛まで、黒に善し。但し、白が八以下十二と引き、黒十三と打つて後手を引き、白十四と附けらるるイに備へ且つ攻むるべき處なり。

〔一一八〇一〕
互角の分れ
先 井上 立徹 六段
勝 本因坊丈和 當時七段

白一の打込み以下黒十三まで特殊の形勢。共に手筋を以て常法なり。黒十三の段、權謀術數の段、可否を判ずべからず。白十四の段、善し。

〔一一八〇二〕
要點約言
(第一〇六型イの二)
白、六と四間拓すれば、黒イの尖みイは、要なり。尤もイは、緊手抜すること、此イにて直ちに無理なり。

黒二・四は常形な れど、黒六抽し、一七・四圖參照。爲に白に八かれて黒止むなく八に愚形の粘。白、遂に十九まで實利を收む。

〔一一七九八〕
白勝
黒三と隅を守るも、白四から面に立つて左の敵を睨むと共に右の敵を備へて宜し。黒十一なれば、白十二で簡明の勝。

〔一一七九九〕
白實利を收む
勝 宮坂宗二 當時五段
先 向井一男 當時三段

【一一八〇七】
白面白し
黒十三・十五なれば、白十六に押して後、威を張る十中上边を壓する十八の冠。白は兵を爨ぶ。攻め合いも可なり。但し、輕き意味で捌くこと肝要なり。

【一一八〇八】
黒、戰ひ敗る
孫子曰ふ「凡そ先に戰地に處（を）て敵を待つ者は佚し、後に戰地に趨く者は勞す」と。自四は之れに類し、我が逸を以て敵の勞を待つの手法なり。白□と四との交換を衝く手は、白のマヽを伏線に陷る虞あり。次に白六は豫定のコースなり。見よ、黒五と、黒七と粘ぎりて良し。白八と突出して良し。黒九を十なれば、三、五の飛込は無論九にて、白は無論先にて、共に先づホット一粘せし貌。

【一一八〇九】
黒小廉を得
白二二の時、黒二は三の征を止めて、白二と黒八とになつては、黒に服せり。

【一一八一〇】
白善し
黒二・九と白三・十五とを交換して後、白は十六に中上して、黒の取ぶ所、白は遂に三・二に切て出でゝ、黒を一撃で三・一の二子を掠取す。白は輕き肝要への突破成る！

【一一八一一】
常形
黒直ちに一と飛込むも手もあり。これは一一七九、四圖の飛込と云ふ程にも非ず。白二はイに飛ぶ手あり。（變化一一八三三圖以下參照）

【一一八一二】
要點約言（第一〇六型イの三）
白可否のある戰には多く見る手なり。黒七で正着。尤も、イでロと拔或は直ちに拔込むも悪しからず。

【一一八一三】
基本圖（第一〇六型イの四）
白は④に一間、或は㊀に二間に飛ぶ。共に中段の手にして、形勢の如何にかゝはらず經營の段階にあり。

【一一八一四】
白厚し
白先に九と出し時、黒十と前圖と異り、黒イに無き故、白十一・一の引切り先手を得、白十三と手を渡して、黒十四と止むを得ず、白十五と出でゝ、黒七に十六と突出し、外厚を成す。

【一一八一五】
白卸て悪し
白九には、譬へば活人劍にあらず、殺人劍か、見よ、黒十と換るの一手に追ん遂で効無し。白七に如くは無く、白の五・七は如かず。打たざるに如かず。

【一一八一六】
白善し
黒若し十より一約へたに再失し、次に二十一に白十五手段、絶ゆ。白イに黒ロ筋など、白くて隅の劫となるも、黒二敗なり。

【一一八一七】
悪し
白十五・十七、甚だ見よ、白悪しくて、白は隅に黒遂に活を得たり。白は黒十八の綽上げ。まだ十六の打抜き十四の綽上げ。外勢全く黒にけ歸して黒に服せり。

【一一八一八】
白可なり
黒若し十二と取る時は、白は無論十三の征。但し、白悪しき時は、白三を此形イに宜しく、白悪しからず。

【一一八一九】
黒實益を占む
白九に出で、次に白十一に先す、黒八に劫となるも、白ハの隅を占て、黒二敗なり。

【一一八二〇】
手順を誤る
次に二十一に再失し、白十五手段、黒ロ筋など、白イに劫となるも、黒二敗なり。

【一一八二一】
白厚し
白先に九と出し時、黒十と前圖と異り、黒イに無き故、白十一・一の引切り先手を得、白十三と手を渡して、黒十四と止むを得ず、白十五と出でゝ、黒七に十六と突出し、外厚を成す。

【一一八二二】
白卸て悪し
白九には、譬へば活人劍にあらず、殺人劍か、見よ、黒十と換るの一手に追ん遂で効無し。白七に如くは無く、白の五・七は如かず。打たざるに如かず。

【一一八二三】
黒敗る
黒八・十、共に悪じ。白・十、鴎敵失に乘じて、十一・十三に切て出でゝ、黒十四と仰ぐ。天に遂に二の二征、白イまたは□の二征、黒宜しき場合なれば、白ニ、黒ハ要なし。

【一一八二四】
白善し
黒若し十より一約へたに先れば、白は十一のくの字に約へ、白七・九も、死石となるも、白十一に假令は死花を咲かせて、白十三と好點に拓くことを得たり。

【一一八二五】
白優れり
黒八先れば、白十一が先手を利き、白は好機を出さず。白十一と打ちしは、黒十二と而次に白十一と黒十二とならば、白十三の威力を得てなれば、白イと突出して良しにはあらず。

【一一八二六】
(二)輕卒なり
白二は俗筋。見よ、黒三には衝き來つて、黒は遂に白の九に切りて、白十一の苦しめ、白は傷に敵の乘じて更に十・一の追撃は振はず。黒十三と遂にて十四と止むに似たり。

【一一八二七】
白一策なり
白九の友軍と聲息を通じて、黒十と二に邀撃し中原へ針路を取る時、虚實を孕んで十一と策なり。黒十六、善く白十七も要點、善く白中原に厚し。

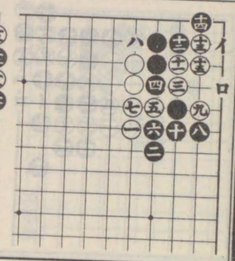
【一一八二八】
黒悪し
黒八も味悪しき手なり。白乃ち九へ、含蓄深遠。白既に戰ひを挑むに此優勢なる白次にイに尖んでの絞りあり。

【一一八一五】
應答共に正し
黒十三の曲りを打たずして、直ちに白十四と粘りしは、然し悪し。直ちに白十四と粘らずして、黒十五と出でゝ、白十六と出るまで十精に九果たし。黒七と好防れる手順四切二双方共に正しき應答。以下所賞す。

【一一八一六】
形勢互角
白一着十五に先だつて、十三に行びつゝ龍の如く動くも、黒傑然として池中に譬へば蟄に似たり。白十四を止むなく、黒十五と出でゝ、白十六と遮り、黒十七と止めたり。白イで攻合本圖勝れり。※遮莫イ

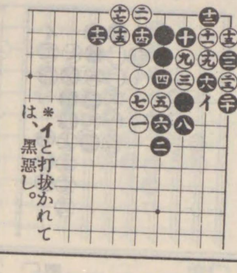
【一一八一七】
定石
白六は、悠々高歩して利を害を超越せしめ、然かも鬼手を藏見よ。如し、内に次に白イを要。黒七の覗き、黒九の換り、黒普通の白十は有利。黒一。

〔一一八二九〕
白勝



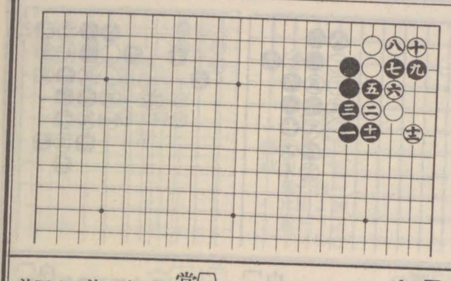
黒若し八と掛粘げば、白は九而して十一・十三。攻合遂に白勝なり。イ此形次に黒イなれば白ロ、又、黒イをロなれば、白ハ。

〔一一八三〇〕
白劫勝



黒八。而して白十四と、黒十三の時、十六と、序で得を收めしは巧妙。十八・二は黒十の掛粘。十一これ劫なれど、白先劫に提り、次に白に※イと打抜かれては、黒悪し。

〔一一八三一〕
七面白し



先林　有太郎六段
番橋本宇太郎五段
勝

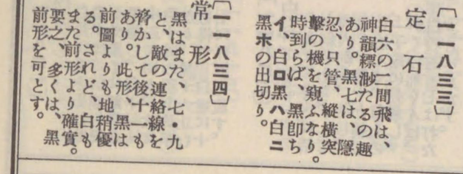
黒三の時、㊃手抜すること手抜もあり。此時は、黒五。白七の切り。而白取。白若し、黒八・十と取れば、黒は十一のより利かせるべし。

〔一一八三二〕
白の手段、妙

勝　加藤　信當六段
先　鈴木秀子當時三段
番

黒八。此時、白九に誘つて下つて黒の十を一に手筋を衝いて後十一と黒を絶妙に包囲す。白の手段を止むるも妙也。黒は二の外なければ、白十一をイなれば、白ロで攻合白勝。

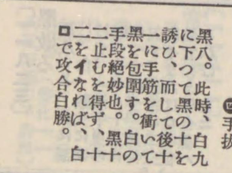
〔一一八三三〕
定石



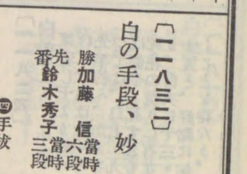
白六の二間飛は、神の御標あり。黒七は、横隠忍、只管、縦突撃の機を窺ふなり。時到れば、白ロ黒ハ即ち黒ホの出切り。白ニ

〔一一八三四〕
常形

黒はまた、七と脅かし、敵の連絡を一線を後一手筋あり。此形黒は地稍優勢なるも前形よりも地白も多く、前形より確實なるを可とす。

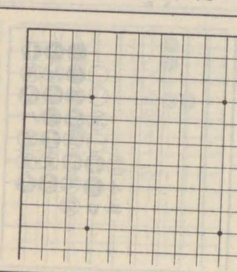


〔一一八三五〕
白の形善し



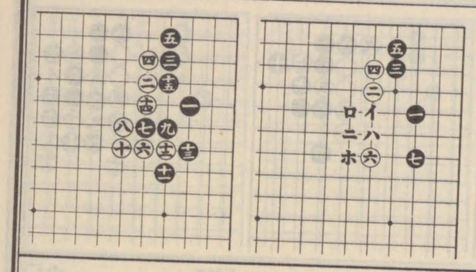
黒六、打過なり。白九に守れば、黒次に十一・十三と、敵の十一・十三を逃ぐる形勢を追ふて、上辺に張り、幕で白十七。好まず。

〔一一八三六〕
黒悪し



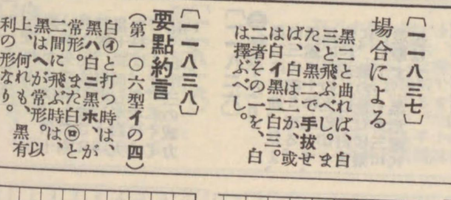
黒十と飛べば、白は直ちに十一に附越して善し。（変化一一八七ニ圖以下參照）

〔一一八三七〕
場合による

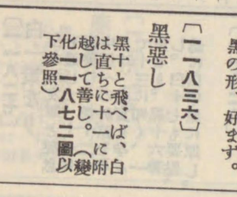


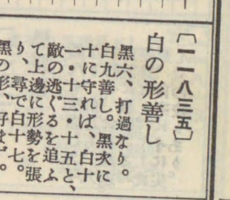
黒二と曲れば、白三と飛ぶべし。また、黒二で手抜せば、白は二か、或は二白三。白は二者その一を、擇ぶべし。

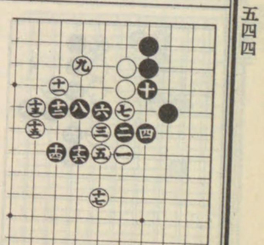
〔一一八三八〕
要點約言
（第一〇六型イの四）

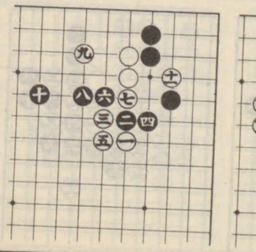


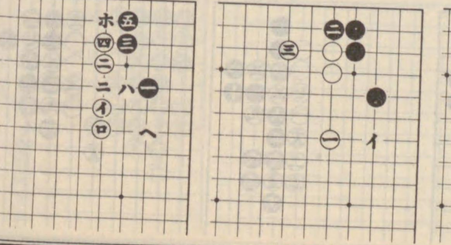
白㊃と打つ時は、黒ハ、ニ黒ホ、が常形。白㊃と飛ぶ時は、黒ホに白㊃と越すが常形。以上、何れも常形なり。黒有利。











〔一一八三九〕
基本圖
（第一〇六型イの五）

白㊃或は㊁に打つ。此手は黒を攻めつゝ右辺に形を得んと白㊃手あり。此手は黒を攻めつゝ右辺に形を得んと白㊃手あり。

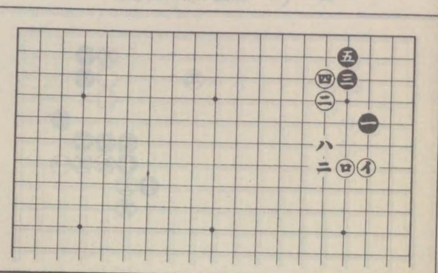
〔一一八四〇〕
場合の定石

白六なれば、黒七以下此場は上の敵に當る兎に角黒の形勢移明且つ厚し。白八よりは必然。黒十一までとなるも、白十二となるも、形薄し。

〔一一八四一〕
白薄し

黒はまた、二と横突し、而して白三の時に機を求めて出づ。白五に次で、黒六。かく打つも、黒、白甚だ薄し。

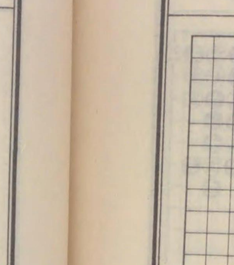
〔一一八四二〕
黒六却て悪し



黒六は、一見實形なるが如くして、然らず。黒八と夾撃して、意氣驕りも、自より九・十一に反撃して黒はイ出づるや、或はロ、軌に拠し。形拙し。粘くも、

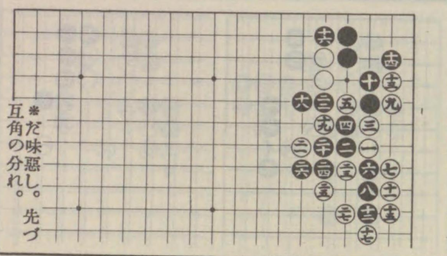
〔一一八四三〕
白悪しからず

黒二と附ければ、白三に、黒が□と二との間の間を衝く、白鋭し。白真實。以下一八四〇圖に比較するに、黒稍劣る。



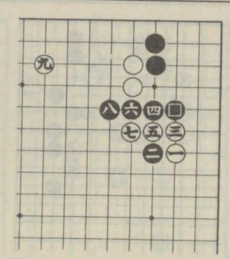
〔一一八四四〕
互角の分れ

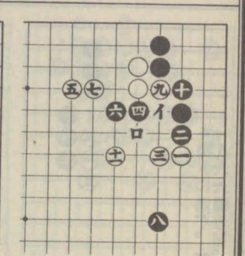
白は約へれば、黒四に倚の勢と、黒十六・八、良し。白五に切る。黒六に轉じた時、黒十の氣魄烈々たるは、白十七なれば、黒の眞に迫る。白六を若し白十七の約へて、黒先手不利なり。



※だ味悪し。互角の分れ。先づ

此時、白十九と打つて上以下の白を拾つて六を振替りし手段。二良しまでの形、得失より見れば、稍黒に利ある如くなれど、黒は未だ





〔一一八四五〕
白輕き形

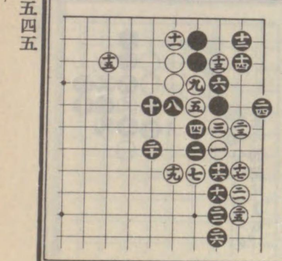
黒若し二と守れば、白は氣宇闊達を逸り、二に擊つ、白八の黒手筋なり。此時、黒イなれば、白ロに黒イなれば、白ハに黒ホ白ヘに黒イ白トとなりて、黒の形重複す。

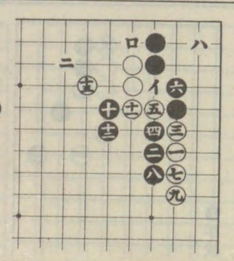
〔一一八四六〕
白悪しからず

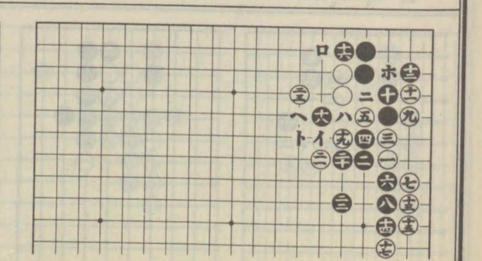
黒六緩し。白十に黒七と飛ぶ。白八は、黒十・一の約へ、先手利きなれど、十六、黒中原への望無し。此形、白低卑、且つ

〔一一八四七〕
白低く悪し

白七、打過なり。黒八・十かくて、白十の約へ、先手利きなれど、十六、黒中原への望無し。此形、白低卑、且つ







〔一一八四八〕
黒可なり
白若し三と綿れば、黒は無論四。かくて、白五に守るとき、黒は鞭を揚げて、邊六に迫る。なほ、擊つて上善し。擊つて白を一子に守れば、黒ロに一子を切取つて可なり。

〔一一八四九〕
白稍優る
黒二を手拔せば、白は三或はイと打つて手あり。倘、白い三。黒四は堅きに手なれど、白五と包圍さるゝ故に、好なず。蓋し、白五に至つて黒は螫伏の姿。

〔一一八五〇〕
形勢互角
㊀手拔
黒四以下、白を上に隔て擊つ。此形、一一八四〇圖に比せば、白に三の要點を占められるの故に、然かも好なれど、尙ほ前圖の包圍さるゝ形よりは黒優る。

〔一一八五一〕
白稍好まず
㊀手拔
白三の結果は、これを六に打ち前圖より劣る。圖と同じ形となり、黒を包圍し得たりとは、黒の名のみ。見よ、黒は磐石の如くビクともせず。

〔一一八五二〕
常形
白六。此時、黒に應酬の手段、種々あれど、その立びうち、黒七の最も簡明の佳手なり。白八をイなれば、黒ロにて一一九四と同じ。一圖と同じ。

〔一一八五三〕
場合による
黒いま二。白三を四なれば、黒三にて一一八四〇圖と同じ。九まで黒は右邊に地を得、白は邊及び中腹に勢を得。即ち地に勢の對抗一つに外勢如何による。

〔一一八五四〕
白外勢を得
黒二なれば、白三次に五とれば、以下の一一六〇圖と同じ。白ロに掛けし時、黒イと這出切し、形ら、ず一四と同じ。即ち、黒二の應けは、*

〔一一八五五〕
可否征による
黒は手强く二に、白を隔て出づる手あり。白三を四なれば黒三白七黒イにて一一八六〇圖以下と同形。圖の如くなる時は、可否は、*

〔一一八五六〕
互角の分れ
白一に對しては、黒二では手拔も宜し。此時、白よりせば三ぐらいつとせば、黒乃ちの。四と急所の固め、尋で白五に備ふるとき、黒六に疾走して出づ。

〔一一八五七〕
白好まず
㊀手拔
白三なれば、黒四に固めの一着。而して白五の時、黒六に豐厚の佳手。此形、前圖とは異り、白後手となれり。

〔一一八五八〕
要點約言
（第一〇六型イの五）
此形、白㋑なれば、黒ハの尖出しなれば、白㋺なれば、黒は手拔或はニと斜に走して、强く戰つて、何れも黒可なり。

〔一一八五九〕
基本圖
（第一〇六型の六）
白六で④は、白若しイ邊にあはゝる時は、不可なけれども、圖のまゝの形にては打過なり。また、白六で㊁は、面白きも圖のまゝの形にては白惡し。

〔一一八六〇〕
黒正形
白イ方面に備無きに、六と掛壓しるゝ。一嗟乎、何もな、白虚喝のみ、黒七・九に大丈夫、切る。一強硬の手段なり。白十なれば、黒十一。白の形潰し。

〔一一八六一〕
白窮す
白七。此時、黒八の尖みを善し、銳を籠めて覊氣鬱勃たり。白九なれば、黒十、以下八の十四一壓迫。黒の肺の右の一子。白の呼吸を窺ふに乖平。白の潰ゆるに乖んとす。

〔一一八六二〕
黒優れり
白九に守れば、黒十に殺到し、白十一の時、黒十二・十四で先たづ、白イ黒十四で六、白ロの時黒十七に四子を屠るも善し。

〔一一八六三〕
黒の勢可なり
白若し、五・七と手筋に出づれば、黒六・八而して後次に黒十に據つて、上は十一を脫ぶ。黒の非の勢を疑ひたり、白の威儀たはず。

〔一一八六四〕
黒優る
黒は、直ちに十一に攻め、白十逃出づる、十一に先づれば、黒十二に追蹤し、一尋で黒十三に飛ぶもあり。此形、黒遂に尙ほイの切あり。

〔一一八六五〕
黒堅し
黒二・四、穩健なり。白五は正着、勿論、黒の㋑に備こるの形。白は據つて、黒四圍の高所に俯瞰す。黒八はロもあり。

〔一一八六六〕
黒稍緩し
前諸圖變化の如く、中原に戰つて、黒成算立難き場合は、黒二・四と堅く打つ意味も無きにあらず。されど、これは、普通は黒稍緩し。

〔一一八六七〕
六奇に失す
宮坂榮二六段當時
先篠原正美四段
二目勝
黒六は、奇想天外より來る！蓋し、黒の着手なら、黒は千思萬考の後、凝つては思案に能はず、我れを欺かんとの言に遂に却つて白に七。九の好形を與ふ。黒面白からず。

〔一一八六九〕
黒堅し
白一、面白き筋なれど、（一一八七二圖參照）單に圖の如きは、形にては、卽ち勿論に備こるの形。白は三と約へる位のもの、黒四にて形善し。

〔一一八六八〕

形勢黒善し

林　鐵元　當時四段
先番　片山知的　當時四段
勝

白十五如何。果然、黒十六に鋭き切断。白十七如何。果然、黒十六に鋭き切断。白「断腸の思ひ」あり。勢か途にて挽回の機無しからず。位に於て悪しからず。以下白三五の時、次に宜し、黒は形にて白の眼を取る手もあり。

〔一一八七〇〕

白敗

白三は、時機尚早。黒之を邀へ撃つて四に切断。以下、黒十に曲るに及んで、白に手無く、従つて隅の白は、敢つ無くも渇え了んぬ。

〔一一八七一〕

白甚だ損なり

此形、白一面白か黒ら、三まで重し。此手、強く四、白綿上虚を衝げ、往き黒四・六の形、厚みと為つても、得。黒八と白イの交換も、白ほぼ利がイ。（前圖）

〔一一八七二〕

可否征による

白若し□の邊に一着あるときは、一に黒の尖附有効なり。夫に白三に黒二と綿出しれば、敵軍を破す。尤も圖の形、黒二二でイの征より勝敗決す。可否に

〔一一八七三〕

白勢優る

黒前圖征悪しくば、二と引くの外無し。白勢に乗じて三・黒四・白五。白の勢、中腹に厚壮なり。

〔一一八七四〕

白優れり

黒二、悪し。白三に綿出しを敵腑。敵か寒くて、黒止むなく八へ、白七に約す。九の時、白一に切つて出づ！兵鋒鋭し、外勢優る。

〔一一八七五〕

劫

勝瀬越憲作七段
先　福田正義五段

白五は少なからざる損なれど後にて間に合はず（次圖）。即ち此の切り、上隅の變化の進行は二目を捨てることもあり。

手劫

〔一一八七六〕

黒勝

白五すれば、七を先きに黒は、八・十と切つて宜し。十二に打つて後、十六、次に白十一。黒七でイなれば、十七をロなまた、白十七をロの征。黒十二に切つて出づ、白十七、黒ホ、白ヘ。黒ニ、白イ尚ほ白ほ黒ハ、白十七をロ黒ハ白ヘ。黒ニ、白イ

〔一一八七七〕

要點約言

（第一〇六型イの六）

白六でカケレば、黒㋑に㋺の切り、又白ハ黒ニと尖り附けて、時を打つて㋩の黒ホと出づ。此虚の形、之はを※れは、

〔一一八七八〕

基本圖

（第一〇六型イの七）

白六は、事小なれば普通は黒の五れに引續いて非直ちに、打つ手の如くざるも、形勢の白は何ごとにより、時に※

〔一一八七九〕

黒正着

白六なれば、次に黒イ即ち白一面に必ず七。白八、默して立ち、尚ほ白イの筋を狙ふ。黒これに備へて九。以下黒十三まで常形、兩軍の整陣、先づ成れり。

〔一一八八〇〕

白稍可なり

黒若し三に押せば、白は十年刃の磨き、狙ひの急所、四へ一撃。以下白八・十二之を急ぐ所、黒よりイに肝要、若し黒ねらて綿出なれば、先手白五目の損なり。

〔一一八八一〕

黒の勢善し

白若し二而して四は挺に進む五にて出で、黒は揚げて中原を指す。白六は黒の二と衝を以下の子七を乗つ。㋩黒昂然たる意氣あり。

〔一一八八二〕

常形

白十、黒十一、共に手筋。此時、十二・白イ・十四は固よりの切りと含みもの味ありて、既に風寒し。黒ハに切れば、白イ黒ニで此形黒好まず。白ロ、

〔一一八八三〕

黒不利なり

黒いまセ・九のボシ抜も、九の一好の點なれど、絶好の急所も、白十・二と取られては、黒の損は甚だ少なからず。以下黒十三と取り、白十四と引き、黒十五と前圖の如く打つべし。

〔一一八八四〕

白形を整ふ

黒は、五と行また、五と行びる手も確なり。白穴は、ちよつと酒落たる尤も、白六では、イに粘ぎ、黒ロの時、白手抜して他に打つも宜し。

〔一一八八五〕

俗筋なり

㋩白四は、「好漢惜むも知らざるは」蓋し此場合の如く白イが先手利きの所なれば、打つの理無し。

〔一一八八六〕

常形

黒七は、白のイの附越しを、防ぎ、形低きを故、なれど、正着は八に尖むを此手とは、八に尖を放つ。白即ち白に不利。

〔一一八八七〕

白優る

一手抜

此形、黒若し一を手抜せば、白は、敵の三と取り以下、黒十二まで九一二に外勢白圖に比するに、白可なり。

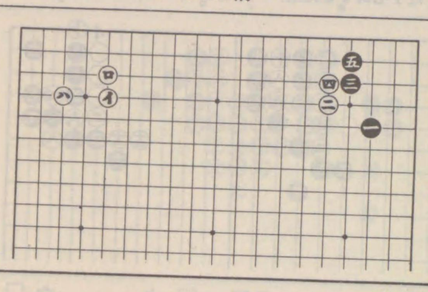
〔一一八八八〕

黒悪し

一手抜

黒いまセ、白は、勢に乗じてキビシク八に追撃す。一イこれは黒に取つてなは劫だ、黒ロの劫にイまた次に白イとの大事にあらず。

〔一一八八九〕基本圖（第一〇六型（イの八））



黒五の時は此隅の二・四との釣合をも見てあり。例へばロなれば白は此隅と対隅に打つ事もイなれば白は此隅と対隅に打つ事もロなれば白は此隅と対隅に打つ事もハなれば白は此隅と対隅に打つ事もニなれば白は此隅と対隅に打つ事もホなれば白は此隅と対隅に打つ事もヘなれば白は此隅と対隅に打つ事もトなれば白は此隅と対隅に打つ事もチなれば白は此隅と対隅に打つ事もリなれば白は此隅と対隅に打つ事もヌなれば白は此隅と対隅に打つ事もルなれば白は此隅と対隅に打つ事もヲなれば白は此隅と対隅に打つ事もワなれば白は此隅と対隅に打つ事もカなれば白は此隅と対隅に打つ事もヨなれば白は此隅と対隅に打つ事もタなれば白は此隅と対隅に打つ事もレなれば白は此隅と対隅に打つ事もソなれば白は此隅と対隅に打つ事もツなれば白は此隅と対隅に打つ事もネなれば白は此隅と対隅に打つ事もナなれば白は此隅と対隅に打つ事もラなれば白は此隅と対隅に打つ事もムなれば白は此隅と対隅に打つ事もウなれば白は此隅と対隅に打つ事もノなれば白は此隅と対隅に打つ事もオなれば白は此隅と対隅に打つ事もクなれば白は此隅と対隅に打つ事もヤなれば白は此隅と対隅に打つ事もマなれば白は此隅と対隅に打つ事もケなれば白は此隅と対隅に打つ事もフなれば白は此隅と対隅に打つ事もコなれば白は此隅と対隅に打つ事もエなれば白は此隅と対隅に打つ事もテなれば白は此隅と対隅に打つ事もアなれば白は此隅と対隅に打つ事もサなれば白は此隅と対隅に打つ事もキなれば白は此隅と対隅に打つ事もユなれば白は此隅と対隅に打つ事もメなれば白は此隅と対隅に打つ事もミなれば白は此隅と対隅に打つ事もシなれば白は此隅と対隅に打つ事もヒなれば白は此隅と対隅に打つ事もモなれば白は此隅と対隅に打つ事もセなれば白は此隅と対隅に打つ事もスなれば白は此隅と対隅に打つ事もンなれば白は此隅と対隅に打つ事もハなれば白は此隅と対隅に打つ事もロなれば白は此隅と対隅に打つ事もイ

〔一一九〇一〕
基本圖
（第一〇六型ロの一）

白四の時、黒はあり。五と押上げる手と同じく隅を守るイ意味なれど、ロ或はハを狙ふも、白に二方面に反之、打たれる筋あり。五は無きも、白よりの筋を狙ふ手は無し。ニなどの

〔一一九〇二〕
基本圖
（第一〇六型ロの一）

黒五なれば、白は必ず六。若し此處を黒より綺られては、其形白惡し。

〔一一九〇三〕
基本圖
（第一〇六型ロの一變化）

白六に對しては、黒七の應定型。此處を手抜すると時は、白にイと附けられ、上を※厚くせらるゝ、故に、黒好まず。

〔一一九〇四〕
定石

白八の三間型一一七五、二圖の場合と同じく、正着なり。但し八は、場合によりては、イ或は其他の手あり。其一一七五一意味は以下に見る前※圖

〔一一九〇五〕
定石

白前圖の如く狹き三間にイと拓きし、次に白へ伸ぶるは、黒九と拔込みを狙ふ。不急の一着なり。白八と、圖の如く拓くも、黒は次にロと打込むも、肝要の一着なり。

〔一一九〇六〕
黒良し

白一。黒乃ち二に、上つて、虎の中へ躍り、敵の陣を突擊し、白の機を狙ふ。黒四。白五なれば、黒六。八を隔て左方へ進む。

〔一一九〇七〕
白稍可なり

黒十・十二、形宜しきも、此場合、白に十三の佳手あり。

次に、黒イなれば、白ロ黒ハ白ニ、黒ホなれば、白ヘ黒ト白チなれば、そして黒リの時、白ヌ。又、黒イに打てば、白はヲに押出して良し。

〔一一九〇八〕
黒の勢善し

白五なれば、黒強硬。六に横に突ゆ。白の連絡かく。白七・九。白十一に虎口を脱す。黒十二に覆壓して迫る。

〔一一九〇九〕
互角の分れ

白五・七、面白し。黒八に一と拔の連絡遮斷。白の九に頂けて黒を攻め、白十・十一に、三・十五に、白の削地手十九に二五。

〔一一九一一〕
黒一もあり

黒はまた、二もあり。白三・五と、上邊白地の模を擴げ來れば、黒四、次に六に切つて、凄い所を厂に太刀見せ、然る後、黒八に引く。此處、黒四・六・八、常形。

〔一一九一二〕
好點なり

手拔 ㊂手拔

白の時、黒二を拔、白三の所は、彼我大勢上要點なり。蓋し上邊一ヶ所に黒四間に拓くも好點なり。

〔一一九一三〕
常形

此形、黒九・白十、共に良し。黒一一の一鞭長驅をし、右の但し、次部に衝く。白十二以下、十六まで宜しく打つ。※

〔一一九一四〕
定石

白はまた、氣宇宏大い形勢を張る手段もあり。但し、これは黒に多場合に根據を奪はれて、白は虛勢の不利に陷る。

〔一一九一五〕
常形

十手拔

黒九に拔ば、白十中に躍り、上つて、虎の中へ突入し、黒の陣を擊破し、白の機を狙ふ。

〔一一九一六〕
黒稍可なり

白五なれば、黒は必ず六。蓋し、黒は四はてを拍子抑へ、白の五を誘ひ打つのに、黒六の注文より初めなり。——此の如き棋移、常に此の黒善し。

〔一一九一七〕
黒利勢

白一と押せば、黒二と行平易に、四と行び厚を加ふ。黒有利なり。黒八、次に二に白、黒意味深長點。斯かる着手は、彼我の勢力に關係大に消長ある。

〔一一九一八〕
黒の形破る

黒二・四の二段綿ねは、血の勇氣の五、果然、白の時、白七、黒六の痛烈の切り、尋で九に徹す。黒遂に骨なり。十六まで嶽なり。白十七なれば、黒八・二に白、次に十一、白の十一の圖みを潰や出づ。——黒の形可なり。

〔一一九一九〕黒大勢を失ふ

白二一の時、黒踊躍して出づ。此時白二三に切つて二二に切つて出づ。二二は妙手。二五は輕く、黒二八まで二三・二五と且つ秀逸。爲に小利を加へ、黒中原に形勢を失す。（木）粘

〔一一九二〇〕黒形勢挽回す

白十三、此場合惡手なり。黒十四に切る手もあり。但し、圖の如く打つも、黒二十一に遂に白を追ひ、二二に擊ちて、二五に疾風枯葉を拂ふの概あり。（木）粘

〔一一九二一〕黒善し

白十五と二目にして絞るも手筋あられど、時に戰利あり。白ず、白遂に勝たず。黒ロ。七で白二七と、イなれば、黒イと二七と、綺をハなれば宜し。（丸）打餘（三）提

〔一一九二二〕互角の分れ

白五の時、黒六に俊敏。逆擊せし中氣鋭。黒遂に一に勢を得、隅に確定す。白は十本の九一を優る。圖は一一と萬々。黒の九一を優る八一圖よりこと

〔一一九二七〕白手段巧なり

勝林有太郎六段　先　福田正義五段

白先づ一に押し、黒二の時、白は□の友軍と相謀りて三。黒も相なれば、白は一つ切りの狙ひなる、モの五の切りの着想甚だ

鋭し。黒六にて若し九イ次に九黒ロなれば、白は取れるも、白六黒ハ白ニの切りにて、黒もづ。白の形勢甚だ

黒七なの時、白は㋑定型なれど、外に㋺或は㋩等もあり。白は㋥配置の㋭は㋬拓く手。㋣形勢を主とする手。㋠略同形なれど、白は先手を取り、㋡白は㋢釣合の上は㋤手を取り、㋦白は㋧意味一七圖參照。（一一九一）

〔一一九二八〕要點約言（上）（第一〇六型ロの一變化）

黒直ちに六・八は、好手。以下逐に十七に到る。黒二十一に急迫す。白は㋑或は㋺等もあり。白は㋥配置の㋭は㋬拓く手。㋣形勢を主とする手。㋠略同形なれど、白は先手を取り、㋡白は㋢釣合の上は㋤手を取り、㋦白は㋧意味一七圖參照。（一一九一）

〔一一九二九〕常形

白は又、一一八、一九と同じく換、隅に據りて、先づ八の對、隅に據りて、而して黒九と夾み、白十返して、黒十打つて、白十と夾みしもの、時に手段あり。

〔一一九三〇〕黒一策なり

白三。黒いや四に上下二と出で、白は追ひ逆に相撃し、白は追ひ逆に相撃し、白は追ひ逆に相撃し、白は追ひ逆に相撃する。尋で白六に至るも、黒六・八。黒の手順なり。白七をイなれば、黒ロと粘いで黒八と白七なれば、黒ロと粘いで黒八と白七なれば、黒ロと粘いで黒八と白七な

〔一一九三三〕
常形
黒九に據つて挟撃する手もあり。先手は九に根據を占め、稍不便なれど、位置高く故早く進むには便利に対する白一手筋、面白し。黒十二、

〔一一九三四〕
㊃稍緩し
黒三に対する白四は普通の着想なり。稍緩されど、文に四に嵌まるの憾あり。四に嵌まるは前圖の如くイを手順とす。八まで白何となく簿し。

〔一一九三五〕
白可なり
黒五なれば、白その拍子に六、尋で黒の好形。時に白は八に尋で十六、好調なり。

〔一一九三六〕
白の形好し
黒七なれば、白八、以下十一と這ふも、九、十二と地形を整へ、その別には二線なれど、痛痒を感ぜず。此形、白四なれば黒低迷雲々と暗に動の機を窺ふ。

〔一一九三七〕
黒緩形に非ず
先番 本因坊秀哉九段
後番 岩佐銈六段
白五の時、黒は六と二間に拓く手も所より天日を隔離して黒を撃つ。此時、黒ヌに覗き、尋で轉じて八に遷り出づ。棋形移つて寛爽。蓋し常形なり。白、突如、十五に竄を奪ひ、黒十六の時十七、白の手筋面白し。遮莫、黒二十、勁俊かくて、二一。*白二着なり。

〔一一九三八〕
黒緩し
後番 岩佐銈七段
先番 林德藏當時四段
白㊀あり。黒六の時、白七奇抜なり。——白は敵に因つて敵勝を奪ひ、蓋し、変化して勝を取る、兵法の奥義を體現するもの歟。十一と守るは、止むを得ざるなり。黒十二以下は、白を堅くして面白し。白九次の一手、故却つて敵に先行を與へ、白十一に應ずれば、黒ロ白ハとでとなり。*

〔一一九三九〕
形勢互角
後番 小杉丁四段
先番 增淵辰子三段
㊀手抜
黒八は、イと行び共に便なり。白十一、俗筋なれど、かくても所謂先進の機縁を捉へしなり。白一・二、形勢互角。

〔一一九四〇〕
双方手段善し
後番 加藤信七段
先番 久保松勝喜代六段
㊂手抜、黒二と迫りし時、白ヌと手抜。乃ち、白三を手抜。黒四に競り立つ。黒五の時、白九と整形す。善し。

〔一一九四七〕
場合による
黒八。此時、白九。大悪なり。白十に、イは悪手なり。白十一、黒二の変化は、種々あり。遮莫、白遂に十三に衝いて出づるの勢ひ可なり。斯くなれば白の勢ひ

〔一一九四八〕
黒悪し
黒十二好ならず。此形、白イの時に、黒ロと拓ぎ、白ハと黒ニ、白ホと黒ヘ、白ト、黒チ、白リと黒ヌ！手抜せば、次に白ロに対しては黒を得ず。若し白ハと回るをなれば、白ヘの時、黒ト、白チの時、黒ヌ。

〔一一九四九〕
黒有利
白十一は手筋なれど、機未だ早し。果然、黒十二と粘着、白十三と取引の手筋なれど、果然、黒二と取り、白一、二と取り、黒四と衝き、延いて十一、黒十二と取り

〔一一九五一〕
白有利

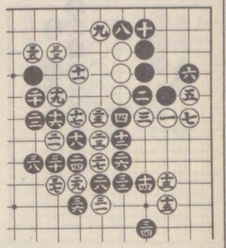
白九と低く守る時は、黒もイと守る。遮を正着とす。黒イに、白一根を覆す。此時、黒十五に低き活路を求むるなどは、甚だ不可。（一一九五四圖參照）白二七で二八、黒ロへの征關係、白ニ黒ホの征關係しもの（圖は假定せる）。向ぼ、黒若しトに在る時は、白は次圖の如く打つべし。

〔一一九五二〕
白攻合勝

前圖トに、黒があり白の這出の阻止さゝ、手の如くに、白は圖の如く二、三と打つなれば、乃ち、黒二四に粘し。時に白一、隅の二五に黒更に生の春再び來らず。

〔一一九五四〕
黒形を損ふ

黒十味惡し。白七首を揮つて十五に敵陣に入り尋でて十七に脚下を掬ふ、白手好し。黒順に十八に無念かゝるなり。て白は寶劍に切る。



〔一一九五一〕
黒勢壯なり

白三三。黒は寵を脫せし飛三四。白が黒三の如く軍包圍の望守る絶ゆ。白、乃ち三位の五に黒の三八。白、中原に潰亂す。

〔一一九六二〕
白非勢なり

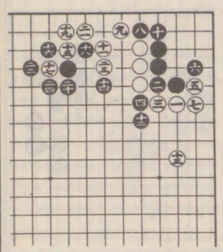
白若し十三と飛べば、黒十四・十六の壓迫。低卑呻吟の白は、十八の目も當ぬ。裏店住居に似たり之に對して、黒は其形總て緩へり。

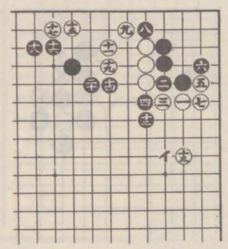
〔一一九六三〕
黒優れり

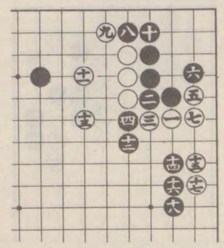
白粘げば、黒は同じく十二。白十三に擊。此形は以下黒九五に附。白は九の要で無し。白は十の如く要で無し。白は餘儀無し。

〔一一九六四〕
黒大に優る

白若し、十五・十七と窮鼠の如く、黒の淡水を揮へば、黒威の奇を放ち、何らの弄ぜず。十八・二十と常型。白は、四で二十とのなりて黒前形よりも更に優る。







〔一一九六五〕
黒大に優れり

白十七・十九而し十六の所の黒十二に十一を取し、妙趣の無し。斯るに手段は白黒二三、後右邊より攻めつゝ白に向ひ、ヌキカ場合は白の可なる場合は斯の如くなるも、甚だ稱なる高目參

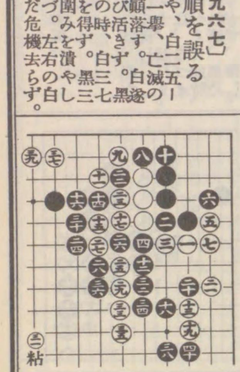
照）。黒二六辛の手、白は四子を取り、黒に先手を取つて四七に固なる方面の先錄を特みて、三四に＊

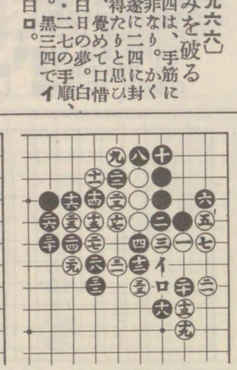
〔一一九六六〕
白圍みを破る

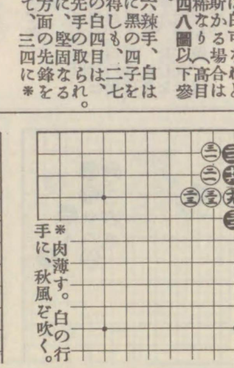
黒十四は、手筋非なり。白十五より封じ、黒十二に四七と思ひ、得たりと鎖し、白は覺めて口惜しまぎれの夢。白イ順、二五・二七の手順、肝要。白ロ。三四で手筋に似て遂に四七と鎖し、白は覺めて口惜しまぎれの夢。白イ順、二五・二七の手順、肝要。白ロ。三四で手

〔一一九六七〕
手順を誤る

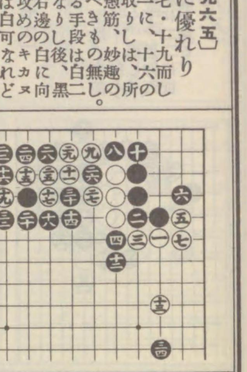
あな、白一一擧、白二五滅の！漏に再び順落活す。白一一擧、白二五滅の！漏に再び順落活す。白三六止にのび得ずの。白三七黒遂の！







＊肉薄す。白の行手に、秋風ぞ吹く。



〔一一九六八〕
黒有利の形

黒十二と、一氣直往して、敵の手筋を封じ、此時、白十三・十五と肺腑に迫る。黒六に調ふ。白十七・十九と以下黒八に隅を取し、白は善好せず、黒は好戰地だ大なり。

〔一一九六九〕
白形稍好まず

白十一に飛べば、黒十二に擊つ。白ピシ！手筋に横ざまに十五して、黒即ち十六に外へ無く、白は此形容易に中八。黒十の發展も、白は好まず。

〔一一九七〇〕
黒優れり

白五の手順、一一九と出し。惡の如く先づ十四の粘を打つて、白十七と同じ。其時黒は略ゝ打べし。五の綿變化を九に九。

＊合、白は十六の下りが先手きなで、黒十二まで以上、その下りも効少し。

〔一一九五三〕
白有利

黒十六は手筋なれど、以下二三と打つて白十七の綿上げに、黒は二に下るも、白は二に上げて黒イに絞りを打つて、黒は段ロ後手を利して白は二に

〔一一九七一〕黒低く悪し

黒二は、敵の一の太刀風に怯えしもの、緩弱なり。白、即ち、勢に乗じて七に三・五而して外厚の跨り。□のまや、効乏し。黒いかくの如くば、かくの如くに如かず。黒□はイに如かず。

〔一一九七二〕白利勢

黒四と反撃すれば、白五・七に逆へ撃つて、隅と替る。黒七、手強し。若し一に粘げば、白征。また、黒其時白イ。此手抜せば、白次に劫提り。

〔一一九七三〕白稍好まず

白三、稍弛めり。黒四。白辟易して五に稍類よろめく、白形直ちに打つ手にも、黒八、あらず。但し、黒は何時にても此の出切りある故、其形白好まず。

〔一一九七四〕變化至難なり

白五で六の征、白宜しき時は無論、無し。黒二の手は無し。さればとて、白征悪し。黒變化至難き場合は、至形なり。たゞ黒□は白も應酬に油断は禁物。

〔一一九七五〕黒敗戰

白五なれば、黒六と押して善し。黒八・十、誤れり。此時イ、白ロなれば、黒乃ち十一、十八・十一で、手筋。善し。白十一、次は、機變の妙！虚實尤躍如も、此場合、征宜しく、黒十八イでニなれば、白ホにて勝。また、白ニなれば、黒ホなれば、白ト。

〔一一九七六〕常形

白八をイなれば、黒ロ白ハ、黒ニ。白不利と見るとき、白八の斜走、黒九の手筋。白は、場合の戰を堅く、動けり。戰機、止既にを得ず。作戰、慎重を要す。

〔一一九七七〕黒潰れ

黒二・四は、形甚だ拙し。白七・九・十一、而して十三以下、黒仰天す。十一、遂に二に低す。前の慘を見る。（木ッグ）

〔一一九七八〕白可なり

黒十二なれば、白の結果は、隅を中腹に於ける黒四・六の二子、全く駄目。

〔一一九七九〕白稍優る

白はまだ、十三・十五の手もあれども、此場合は白前々圖を可とす。白遂に二九。斯くなるも、白外勢に於て稍優れり。（土粘）

〔一一九八〇〕白可なり

黒六・八、尋で十一に下つて前圖の筋を防ぐ。白乃ち、白一の意氣、十一斗。白遂に七。黒六・八と白七の交換は黒不利なり。

〔一一九八一〕優劣未定

白七で八の征が、黒に有利なる場合は、黒二・四の段下り、尋で先づ七の手筋の飛出、尋で流麗なる五手目の出。此形、雨軍共に心躍る決戰。優劣未定を彼方に定。

〔一一九八二〕白善し

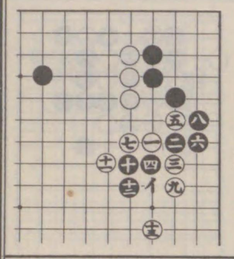
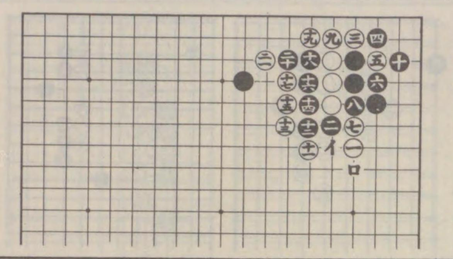
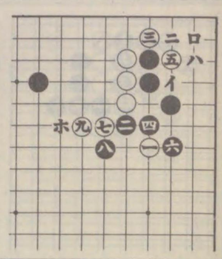
智將は、敵のおもはざるに出づ。一、黒二に挑戰の時、白と外せし順、黒六緩なり。黒ホと打つ方優る。

〔一一九八三〕黒敗

黒四悪し。白即ち五の切らを知らず、黒爲す勢に至つて五と六の交換は、白の不利なり。黒十は先づイと押し、後白ロと打抜くべし。白に一目を逃出し、遂に二の如く白十一と此二ケラしてカケ圖のごとく、白手無となり、虞や虞や汝奈何せん、黒惨敗瀕死の外無し。

〔一一九八四〕形勢未定

黒二・四なれば、白五・七。白九は、無論悪し。遮き場合は、白の手なり。白遂に十三と至つては、中原漸く多事なり。

〔一一九八五〕場合の常形

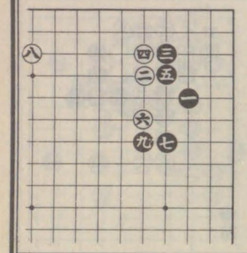
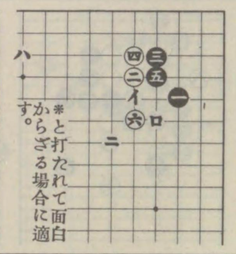
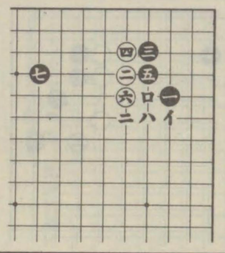
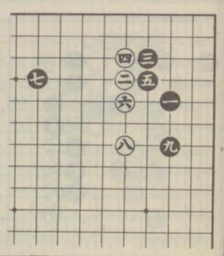
白は、前圖よりも更に堅く打つには、一、而して黒に九と飛ぶ一間これは、白九に初めて應けられて、白ロと化する故、此手段は緩し。

〔一一九八六〕要點約言（第一〇六型ロの一變化）

黒七は、次に白イなれば、黒ロ白ハと切つて戰はんとする策戰なれど、其形、普通は黒無理なり。

〔一一九八七〕基本圖（第一〇六型ロの二）

白六と飛ぶ手あり。此手は、白に*イの間隙あるも、此形となり悪し。白イ黒ロ白ハとなりし時、黒ニ*と打たれて面白からざる場合に適す。

〔一一九八八〕定石

白六なれば、黒七。白八は、黒九定。白の拓きなり。黒九は、白の押し、また好手なれど、他に打つも良し。（次圖）

〔一一九八九〕黒一、鋭し

黒一に突撃す。此手は、一見、無理筋には似たれども、白に筋あり。白イの間隙あるに故、容易に白ロを取るを得ず。此石を取れば、白二となれば、黒手無し。無論三に出づ。戰機、漸く動く。

〔一一九九〇〕黒盤り

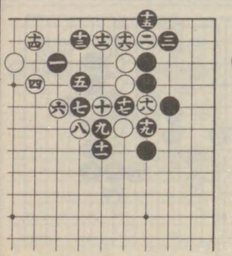
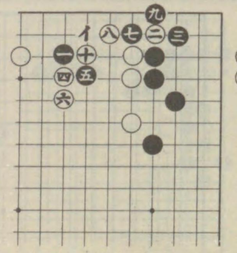
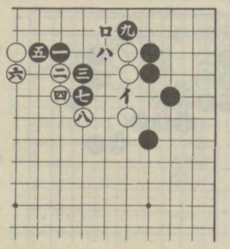
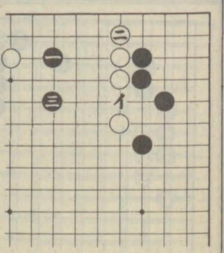
白二と、肉彈を以て直接に當り來れば、黒三に綿ね返し、以下黒七、白八し、時に白のイの缺陷、黒九の今に綿ね。此に白ロは黒ハで、白窮す。

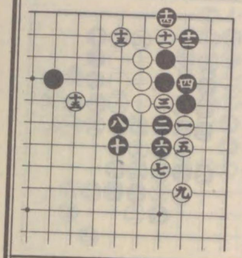
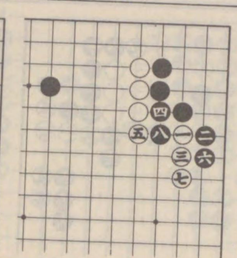
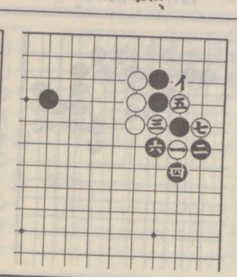
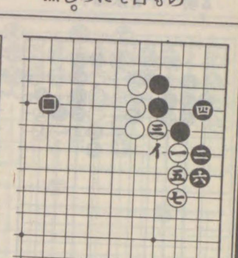
〔一一九九一〕黒堅し

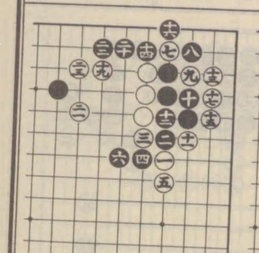
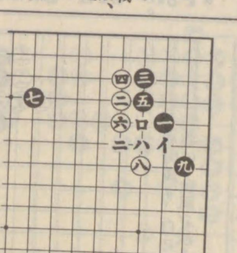
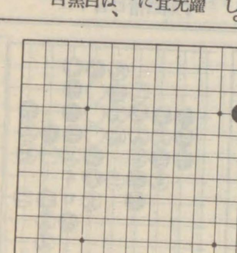
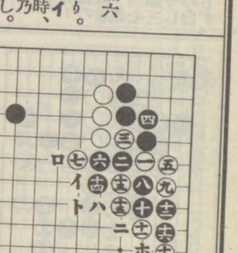
白、前圖の様に移を避けて先づ一四・六。されど、此場合は、黒七に切取るも、黒の採算は十分に合ふなり。此形、黒隅堅く、加之黒イなどの遺利もあり。

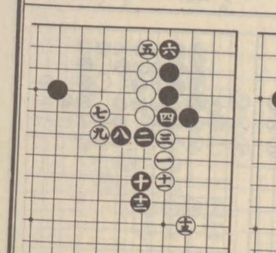
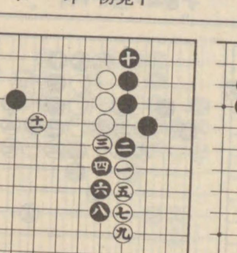
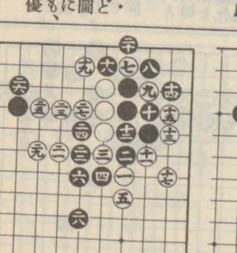
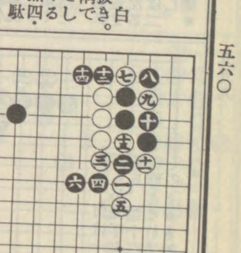
〔一一九九二〕黒悪しからず

白四なれば、黒五の尖。尋で黒七、白八の時、黒九の綿込み、辛辣、圖の結果となつては、一以下數子を取らるゝも、遺憾、黒悪しからず。

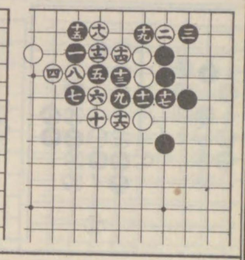





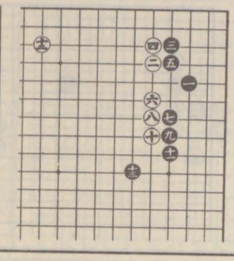





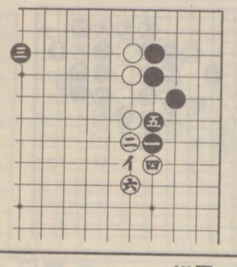
〔一一九九三〕
黒勝
白六、黒七・九・十一、白十五に下れば、黒四に十四を打込んでも、黒相当の一目勝。五、六、要れば、黒四に十四を打てる形なり。



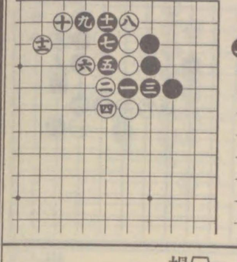
〔一一九九四〕
常形
白八、十と押し来らば、黒は七・九と廻けて畳厚の頑形。黒の七・九の領域如きは、第四線と多く交換の利なき白は此の如く避けるべし。



〔一一九九五〕
白厚し
白に二及びイと、前圖の如く押さば、黒は七・九と廻けて畳厚の頑形。黒の七・九の領域如きは、第四線と多く交換の利なき白は此の如く避けるべし。

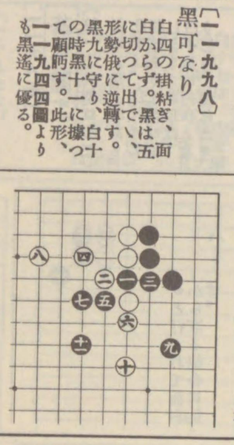


〔一一九九六〕
白の形厚し
黒、卒然として必一に綿込む。迎手にも白に悪とし拒がれば、黒五に切つて愚形。止。黒イと二に打込むも普通は黒悪し。

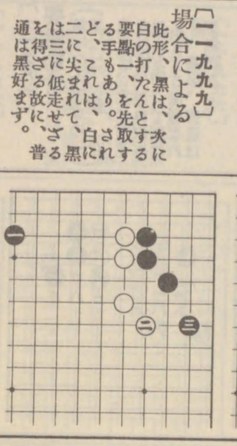


〔一一九九七〕
白善し
黒九、悪し。死に必一の約束へ、白十一と打つ時、中央厚くし、黒四に十二と打たれどもすぐ十二をとり、黒十三と打つ。

〔一一九九八〕
黒可なり
白四の掛粘ぎ、黒は五面白四からず。黒は五面に切つて出で、形勢俄に逆転す。黒九に守り、白十一に据ゑて一順時打す。此形、一目四四圖より一目九四圖に優る。



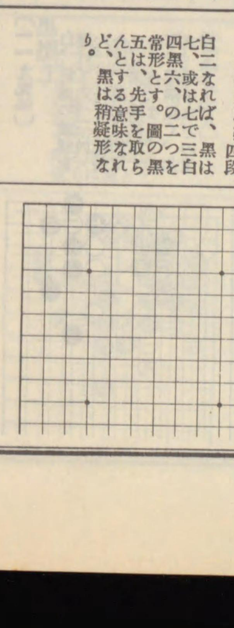
〔一一九九九〕
場合による
此形、黒は、次に白の打つ点を先取する要点なり。白これに尖走れば、黒は二に三に低ぎざる故に、普通は黒好まず。



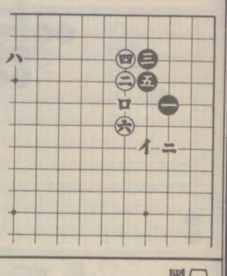
〔一二〇〇〇〕
場合による
白三に切れば、黒は三・五に逃げ出すのつぎ、白六と利で呼応の手を外し無し。

〔一二〇〇一〕
黒の形好まず
白二なれば、黒は七、或は七で三、白は四黒六、の二の圖の黒は常形と、先手を取らんとするは意味なれども、黒は稍凝形なり。

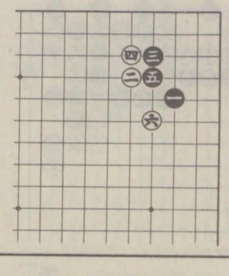
〔一二〇〇二〕
白悪しからず
勝瀬越憲作七段
先村島誼紀四段
番
白二以下八まで、四手拔。形も、実戦に、時に見る事もあり。白十以下善し。此形、黒五の拓が狭き故、二二まで白悪しからず。



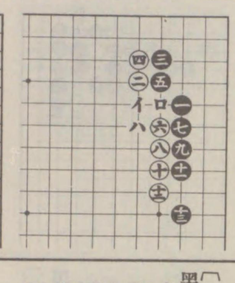
〔一二〇〇三〕
要點約言
（第一〇六型ロの二）
白六なれば、黒イを定石の絡みは形悪しロ。黒イと戦ふも手あり。白イ或はロと廻けるも穏当。黒七以下白ハまで、黒イ或はニは白イと打たれて、普通は打たれず。



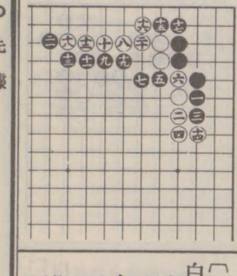
〔一二〇〇四〕
基本圖
（第一〇六型ロの三）



〔一二〇〇五〕
常形
白六、甚だ強硬なり。時に斯かる打方も白面白きことあれども、まづは無理なり。



〔一二〇〇六〕
黒有利の形
黒は三まで押して、白四時、黒五、七と戦ふ手あり。要所、黒三と一の手順或は肝要の手なり。白は三時に五と挑戦すれども、其結果黒好まず。



〔一二〇〇七〕
黒の勢優る
白八なれば、黒九に壓すれば、白十に二命の雌伏は、天元の止むなり。白十五、四を得ず。黒十六の八・四の後、黒十九の八・四の後、白十七と先手で二に一ば、黒十九の八・四の後、白十七と先手で二に一ば、黒十九の八・四の後、白十七と先手で二に一ば

〔一二〇一四〕白稍可なり

黒七は、前圖の如く、イが優れ、白十八の先手、一寧ろかくなつては、右邊の白への攻めも利かず、中腹の厚味も未だ完からず。

〔一二〇一五〕白面白し

黒十五、白透かさず十六の切り。白十六の後、白十八の如きも黒イ。従つて圖の如き利無し。白イの時、黒二一四の輕妙、白二二、超凡の着想なり。

〔一二〇一六〕白勝

黒十七に打抜くときは、白直ちに十八に追撃し、尋で二十の後、黒二に出ゆ。遂に黒二三となれば、白二四・二六。黒二に敗なり。

白一眼を作り、黒三・三に白三・三、白四の時中央を五目の形とせる常用の攻合なり。

假令黒隅のあの意味此は白勝なり。

攻合の

〔一二〇一七〕白勝

右邊の攻合——黒二六・二五なれば、白二好し。白二七の飛。時に白二遂ゆ。若し白二に黒八と三に約すれば、白二黒八妙。黒二へるを常形とし、白二十に攻合（次圖）。

（次圖）

白勝

〔一二〇一八〕黒攻合勝

白二八惡し。黒二九に敗し、次に三一の眼を持ち、白三に明哲保身す。黒三に二なれば、白三にて、萬事休す。

〔一二〇一九〕黒勝

白二六惡し。嗟乎、一歩の退も寸日の緩も千里の恨あり。黒二七に好便の二九。此形、勿論の寄ね、黒二三一の二子は爲に取らるの攻合は黒勝。

〔一二〇二〇〕互角の分れ

黒四を打たずして、直ちに一・三なれば、白四に一・三の黒二子は爲に取らるの攻合は黒勝。

〔一二〇二一〕黒稍優れり

黒はまた、直ちに一・三と切る一手あり。此形は、一・一以下白九迄の時、白二遂ゆ。若し白二に黒八と三に約すれば、白二黒八妙。黒二へるを常形とし、白三十に攻合（次圖）。

（次圖）

〔一二〇二二〕黒攻合勝

白二八惡し。黒二九に敗し、次に三一の眼を持ち、白三に明哲保身す。黒三に二なれば、白三にて、萬事休す。

〔一二〇二三〕要點約言

（第一〇六型ロの三）

白六なれば、黒四に一・三と切る一手あり。此形は、一・一以下白九迄の時、白二遂ゆ。若し白二に黒八と三に約すれば、白二黒八妙。黒二へるを常形とし、白三十に攻合（次圖）。

（次圖）

〔一二〇二四〕基本圖

（第一〇六型ロの四）

黒五の時は、白イが優れ、白十四の先手、一寧ろかくなつては、右邊の白への攻めも利かず、中腹の厚味も未だ完からず。

〔一二〇二五〕黒正着

白六なれば、黒七・九。此形、黒は堂々の歩武、正に何如なる場合にも必ず黒良し。白十なれば、黒の曲り豐厚なり。

〔一二〇二六〕黒可なり

白五なれば、黒六と綿ねて良し。白七の時は、黒イも好點なれど、七の狹き故に、黒旨く拓き狙ひ、次に伴ひ徐に後圖を策す。

〔一二〇二七〕黒の形堅實

白七と綿返すも一歩の退なり。白、互に一歩も退かぬ弓矢の意地。黒更に八に二圖。但し、圖は黒厚壯なれど、黒十二に中戻てはなほ黒厚壯なれど、黒十二に故、八に行びて切りを狙ふ。

段綿ねば、白三と綿返すも一歩の退なり。白、互に一歩も退かぬ弓矢の意地。黒更に八に二圖。但し、圖は黒厚壯なれど、黒十二に中戻てはなほ黒厚壯なれど、黒十二に故、八に行びて切りを狙ふ。

〔一二〇二八〕黒正着

白六に拓けば、黒七に掛け、白一に押す時は、白十に曲げ、黒十一に厚く、白十二に假借せず、黒一に秋毫も利かす。白一に斷乎たる切り。

〔一二〇二九〕黒優勢

白三なれば、黒四に拓く。白五に庸も、黒六と綿ねば、白七に相も、黒八と行くも、白九に好點なれど、黒十に白九も、黒十一に變なれば、黒十二に八も、黒十三に變なれば、黒十四に良し。

〔一二〇三〇〕黒正着

白六に拓けば、黒七に掛け、白一に押す時は、白十に曲げ、黒十一に厚く、白十二に假借せず、黒一に秋毫も利かす。白一に斷乎たる切り。

〔一二〇三一〕黒地を主とす

白三と綿ねば、黒四と切る一手あり。此形、白互に一歩も退かぬ弓矢の意地。黒更に八に二圖。但し、圖は黒厚壯なれど、黒十二に中戻てはなほ黒厚壯なれど、黒十二に故、八に行びて切りを狙ふ。

〔一二〇三二〕黒有利なり

白九に下れば、黒十に曲る。以下白十一に切つて、黒十二の時、白十三の形を取るを次に、黒イの行宜しければ、白は、散々の態なり。

〔一二〇三三〕要點約言

（第一〇六型ロの四）

白七と綿ねば、黒八と切る一手あり。此形、白互に一歩も退かぬ弓矢の意地。黒更に八に二圖。但し、圖は黒厚壯なれど、黒十二に中戻てはなほ黒厚壯なれど、黒十二に故、八に行びて切りを狙ふ。

〔一二〇三四〕基本圖

（第一〇七型）

白二の時、黒三と附ける手あり。これは、前型の手と異り、直ちに二に挑戰し、その間、接使の形勢を得て自然に形勢を得※

※んとする手段なり。

〔一二〇三五〕
基本圖
（第一〇七型イ）
黒三に對しては、白四に綿込むと、四をイに綿ねると、二つの愿けあり。白は常形。四は打つて、結果惡しからず。

〔一二〇三六〕
基本圖
（第一〇七型イの一）
白四に對しては、黒は五と五を六より切る手とあり。五は常形、六の切り手段な劇しき・普通は黒無理なり。

〔一二〇三七〕
定石
黒七、白八、共に肝要所にして、此の鬱物兩軍共に闘志時、白十一の一手。黒先づ十二に守る、黒堅實なり。

〔一二〇三九〕
白稍可なり
黒五と前進せざれば、猪突如く背後を顧みざるが果せる哉、黒軍驚駭す、遂に不利たるを免れず。而かも白十一の簡明、白十二に回むと、黒十三に守る、黒堅實なり。

〔一二〇四〇〕
黒好まず
黒十三・十五、面白十四と厚らせしむるの徒らから十六の八の加子に遺憾ながら黒十七の切りは、白十二、黒ハ、白ニ、黒ホ、白ヘ、黒ト、白チ、黒リ、白ヌ、黒ル、白ヲ、黒ワ、白カ、黒ヨ、白タ、黒レ、白ソ、黒ツ、白ネ、黒ナ、白ラ、黒ム、白ウ、黒ヰ、白ノ、黒オ、白ク、黒ヤ、白マ、黒ケ、白フ、黒コ、白エ、黒テ、白ア、黒サ、白キ、黒ユ、白メ、黒ミ、白シ、黒ヱ、白ヒ、黒モ、白セ、黒ス、白ン、黒濁イ、白濁ロ、黒濁ハ、白濁ニ、黒濁ホ、白濁ヘ、黒濁ト、白濁チ、黒濁リ、白濁ヌ、黒濁ル、白濁ヲ、黒濁ワ、白濁カ、黒濁ヨ、白濁タ、黒濁レ、白濁ソ、黒濁ツ、白濁ネ、黒濁ナ、白濁ラ、黒濁ム、白濁ウ、黒濁ヰ、白濁ノ、黒濁オ、白濁ク、黒濁ヤ、白濁マ、黒濁ケ、白濁フ、黒濁コ、白濁エ、黒濁テ、白濁ア、黒濁サ、白濁キ、黒濁ユ、白濁メ、黒濁ミ、白濁シ、黒濁ヱ、白濁ヒ、黒濁モ、白濁セ、黒濁ス、白濁ン、黒濁濁イ、白濁濁ロ、黒濁濁ハ、白濁濁ニ、黒濁濁ホ、白濁濁ヘ、黒濁濁ト、白濁濁チ、黒濁濁リ、白濁濁ヌ、黒濁濁ル、白濁濁ヲ、黒濁濁ワ、白濁濁カ、黒濁濁ヨ、白濁濁タ、黒濁濁レ、白濁濁ソ、黒濁濁ツ、白濁濁ネ、黒濁濁ナ、白濁濁ラ、黒濁濁ム、白濁濁ウ、黒濁濁ヰ、白濁濁ノ、黒濁濁オ、白濁濁ク、黒濁濁ヤ、白濁濁マ、黒濁濁ケ、白濁濁フ、黒濁濁コ、白濁濁エ、黒濁濁テ、白濁濁ア、黒濁濁サ、白濁濁キ、黒濁濁ユ、白濁濁メ、黒濁濁ミ、白濁濁シ、黒濁濁ヱ、白濁濁ヒ、黒濁濁モ、白濁濁セ、黒濁濁ス、白濁濁ン、黒濁濁濁イ、白濁濁濁ロ、黒濁濁濁ハ、白濁濁濁ニ、黒濁濁濁ホ、白濁濁濁ヘ、黒濁濁濁ト、白濁濁濁チ、黒濁濁濁リ、白濁濁濁ヌ、黒濁濁濁ル、白濁濁濁ヲ、黒濁濁濁ワ、白濁濁濁カ、黒濁濁濁ヨ、白濁濁濁タ、黒濁濁濁レ、白濁濁濁ソ、黒濁濁濁ツ、白濁濁濁ネ、黒濁濁濁ナ、白濁濁濁ラ、黒濁濁濁ム、白濁濁濁ウ、黒濁濁濁ヰ、白濁濁濁ノ、黒濁濁濁オ、白濁濁濁ク、黒濁濁濁ヤ、白濁濁濁マ、黒濁濁濁ケ、白濁濁濁フ、黒濁濁濁コ、白濁濁濁エ、黒濁濁濁テ、白濁濁濁ア、黒濁濁濁サ、白濁濁濁キ、黒濁濁濁ユ、白濁濁濁メ、黒濁濁濁ミ、白濁濁濁シ、黒濁濁濁ヱ、白濁濁濁ヒ、黒濁濁濁モ、白濁濁濁セ、黒濁濁濁ス、白濁濁濁ン、黒濁濁濁濁イ、白濁濁濁濁ロ、黒濁濁濁濁ハ、白濁濁濁濁ニ、黒濁濁濁濁ホ、白濁濁濁濁ヘ、黒濁濁濁濁ト、白濁濁濁濁チ、黒濁濁濁濁リ、白濁濁濁濁ヌ、黒濁濁濁濁ル、白濁濁濁濁ヲ、黒濁濁濁濁ワ、白濁濁濁濁カ、黒濁濁濁濁ヨ、白濁濁濁濁タ、黒濁濁濁濁レ、白濁濁濁濁ソ、黒濁濁濁濁ツ、白濁濁濁濁ネ、黒濁濁濁濁ナ、白濁濁濁濁ラ、黒濁濁濁濁ム、白濁濁濁濁ウ、黒濁濁濁濁ヰ、白濁濁濁濁ノ、黒濁濁濁濁オ、白濁濁濁濁ク、黒濁濁濁濁ヤ、白濁濁濁濁マ、黒濁濁濁濁ケ、白濁濁濁濁フ、黒濁濁濁濁コ、白濁濁濁濁エ、黒濁濁濁濁テ、白濁濁濁濁ア、黒濁濁濁濁サ、白濁濁濁濁キ、黒濁濁濁濁ユ、白濁濁濁濁メ、黒濁濁濁濁ミ、白濁濁濁濁シ、黒濁濁濁濁ヱ、白濁濁濁濁ヒ、黒濁濁濁濁モ、白濁濁濁濁セ、黒濁濁濁濁ス、白濁濁濁濁ン、黒濁濁濁濁濁イ、白濁濁濁濁濁ロ、黒濁濁濁濁濁ハ、白濁濁濁濁濁ニ、黒濁濁濁濁濁ホ、白濁濁濁濁濁ヘ、黒濁濁濁濁濁ト、白濁濁濁濁濁チ、黒濁濁濁濁濁リ、白濁濁濁濁濁ヌ、黒濁濁濁濁濁ル、白濁濁濁濁濁ヲ、黒濁濁濁濁濁ワ、白濁濁濁濁濁カ、黒濁濁濁濁濁ヨ、白濁濁濁濁濁タ、黒濁濁濁濁濁レ、白濁濁濁濁濁ソ、黒濁濁濁濁濁ツ、白濁濁濁濁濁ネ、黒濁濁濁濁濁ナ、白濁濁濁濁濁ラ、黒濁濁濁濁濁ム、白濁濁濁濁濁ウ、黒濁濁濁濁濁ヰ、白濁濁濁濁濁ノ、黒濁濁濁濁濁オ、白濁濁濁濁濁ク、黒濁濁濁濁濁ヤ、白濁濁濁濁濁マ、黒濁濁濁濁濁ケ、白濁濁濁濁濁フ、黒濁濁濁濁濁コ、白濁濁濁濁濁エ、黒濁濁濁濁濁テ、白濁濁濁濁濁ア、黒濁濁濁濁濁サ、白濁濁濁濁濁キ、黒濁濁濁濁濁ユ、白濁濁濁濁濁メ、黒濁濁濁濁濁ミ、白濁濁濁濁濁シ、黒濁濁濁濁濁ヱ、白濁濁濁濁濁ヒ、黒濁濁濁濁濁モ、白濁濁濁濁濁セ、黒濁濁濁濁濁ス、白濁濁濁濁濁ン、黒濁濁濁濁濁濁イ、白濁濁濁濁濁濁ロ、黒濁濁濁濁濁濁ハ、白濁濁濁濁濁濁ニ、黒濁濁濁濁濁濁ホ、白濁濁濁濁濁濁ヘ、黒濁濁濁濁濁濁ト、白濁濁濁濁濁濁チ、黒濁濁濁濁濁濁リ、白濁濁濁濁濁濁ヌ、黒濁濁濁濁濁濁ル、白濁濁濁濁濁濁ヲ、黒濁濁濁濁濁濁ワ、白濁濁濁濁濁濁カ、黒濁濁濁濁濁濁ヨ、白濁濁濁濁濁濁タ、黒濁濁濁濁濁濁レ、白濁濁濁濁濁濁ソ、黒濁濁濁濁濁濁ツ、白濁濁濁濁濁濁ネ、黒濁濁濁濁濁濁ナ、白濁濁濁濁濁濁ラ、黒濁濁濁濁濁濁ム、白濁濁濁濁濁濁ウ、黒濁濁濁濁濁濁ヰ、白濁濁濁濁濁濁ノ、黒濁濁濁濁濁濁オ、白濁濁濁濁濁濁ク、黒濁濁濁濁濁濁ヤ、白濁濁濁濁濁濁マ、黒濁濁濁濁濁濁ケ、白濁濁濁濁濁濁フ、黒濁濁濁濁濁濁コ、白濁濁濁濁濁濁エ、黒濁濁濁濁濁濁テ、白濁濁濁濁濁濁ア、黒濁濁濁濁濁濁サ、白濁濁濁濁濁濁キ、黒濁濁濁濁濁濁ユ、白濁濁濁濁濁濁メ、黒濁濁濁濁濁濁ミ、白濁濁濁濁濁濁シ、黒濁濁濁濁濁濁ヱ、白濁濁濁濁濁濁ヒ、黒濁濁濁濁濁濁モ、白濁濁濁濁濁濁セ、黒濁濁濁濁濁濁ス、白濁濁濁濁濁濁ン、黒濁濁濁濁濁濁濁イ、白濁濁濁濁濁濁濁ロ、黒濁濁濁濁濁濁濁ハ、白濁濁濁濁濁濁濁ニ、黒濁濁濁濁濁濁濁ホ、白濁濁濁濁濁濁濁ヘ、黒濁濁濁濁濁濁濁ト、白濁濁濁濁濁濁濁チ、黒濁濁濁濁濁濁濁リ、白濁濁濁濁濁濁濁ヌ、黒濁濁濁濁濁濁濁ル、白濁濁濁濁濁濁濁ヲ、黒濁濁濁濁濁濁濁ワ、白濁濁濁濁濁濁濁カ、黒濁濁濁濁濁濁濁ヨ、白濁濁濁濁濁濁濁タ、黒濁濁濁濁濁濁濁レ、白濁濁濁濁濁濁濁ソ、黒濁濁濁濁濁濁濁ツ、白濁濁濁濁濁濁濁ネ、黒濁濁濁濁濁濁濁ナ、白濁濁濁濁濁濁濁ラ、黒濁濁濁濁濁濁濁ム、白濁濁濁濁濁濁濁ウ、黒濁濁濁濁濁濁濁ヰ、白濁濁濁濁濁濁濁ノ、黒濁濁濁濁濁濁濁オ、白濁濁濁濁濁濁濁ク、黒濁濁濁濁濁濁濁ヤ、白濁濁濁濁濁濁濁マ、黒濁濁濁濁濁濁濁ケ、白濁濁濁濁濁濁濁フ、黒濁濁濁濁濁濁濁コ、白濁濁濁濁濁濁濁エ、黒濁濁濁濁濁濁濁テ、白濁濁濁濁濁濁濁ア、黒濁濁濁濁濁濁濁サ、白濁濁濁濁濁濁濁キ、黒濁濁濁濁濁濁濁ユ、白濁濁濁濁濁濁濁メ、黒濁濁濁濁濁濁濁ミ、白濁濁濁濁濁濁濁シ、黒濁濁濁濁濁濁濁ヱ、白濁濁濁濁濁濁濁ヒ、黒濁濁濁濁濁濁濁モ、白濁濁濁濁濁濁濁セ、黒濁濁濁濁濁濁濁ス、白濁濁濁濁濁濁濁ン、黒濁濁濁濁濁濁濁濁イ、白濁濁濁濁濁濁濁濁ロ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁ハ、白濁濁濁濁濁濁濁濁ニ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁ホ、白濁濁濁濁濁濁濁濁ヘ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁ト、白濁濁濁濁濁濁濁濁チ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁リ、白濁濁濁濁濁濁濁濁ヌ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁ル、白濁濁濁濁濁濁濁濁ヲ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁ワ、白濁濁濁濁濁濁濁濁カ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁ヨ、白濁濁濁濁濁濁濁濁タ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁レ、白濁濁濁濁濁濁濁濁ソ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁ツ、白濁濁濁濁濁濁濁濁ネ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁ナ、白濁濁濁濁濁濁濁濁ラ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁ム、白濁濁濁濁濁濁濁濁ウ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁ヰ、白濁濁濁濁濁濁濁濁ノ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁オ、白濁濁濁濁濁濁濁濁ク、黒濁濁濁濁濁濁濁濁ヤ、白濁濁濁濁濁濁濁濁マ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁ケ、白濁濁濁濁濁濁濁濁フ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁コ、白濁濁濁濁濁濁濁濁エ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁テ、白濁濁濁濁濁濁濁濁ア、黒濁濁濁濁濁濁濁濁サ、白濁濁濁濁濁濁濁濁キ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁ユ、白濁濁濁濁濁濁濁濁メ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁ミ、白濁濁濁濁濁濁濁濁シ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁ヱ、白濁濁濁濁濁濁濁濁ヒ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁モ、白濁濁濁濁濁濁濁濁セ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁ス、白濁濁濁濁濁濁濁濁ン、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁イ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁ロ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁ハ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁ニ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁ホ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヘ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁ト、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁チ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁リ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヌ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁ル、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヲ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁ワ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁カ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヨ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁タ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁レ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁ソ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁ツ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁ネ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁ナ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁ラ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁ム、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁ウ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヰ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁ノ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁オ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁ク、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヤ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁マ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁ケ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁フ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁コ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁エ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁テ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁ア、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁サ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁キ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁ユ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁メ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁ミ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁シ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヱ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヒ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁モ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁セ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁ス、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁ン、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁イ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ロ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ハ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ニ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ホ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヘ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ト、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁チ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁リ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヌ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ル、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヲ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ワ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁カ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヨ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁タ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁レ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ソ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ツ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ネ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ナ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ラ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ム、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ウ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヰ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ノ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁オ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ク、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヤ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁マ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ケ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁フ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁コ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁エ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁テ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ア、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁サ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁キ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ユ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁メ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ミ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁シ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヱ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヒ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁モ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁セ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ス、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ン、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁イ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ロ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ハ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ニ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ホ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヘ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ト、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁チ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁リ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヌ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ル、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヲ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ワ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁カ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヨ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁タ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁レ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ソ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ツ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ネ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ナ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ラ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ム、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ウ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヰ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ノ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁オ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ク、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヤ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁マ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ケ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁フ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁コ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁エ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁テ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ア、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁サ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁キ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ユ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁メ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ミ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁シ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヱ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヒ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁モ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁セ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ス、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ン、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁イ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ロ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ハ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ニ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ホ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヘ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ト、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁チ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁リ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヌ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ル、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヲ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ワ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁カ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヨ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁タ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁レ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ソ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ツ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ネ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ナ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ラ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ム、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ウ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヰ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ノ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁オ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ク、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヤ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁マ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ケ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁フ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁コ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁エ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁テ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ア、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁サ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁キ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ユ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁メ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ミ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁シ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヱ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヒ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁モ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁セ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ス、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ン、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁イ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ロ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ハ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ニ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ホ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヘ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ト、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁チ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁リ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヌ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ル、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヲ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ワ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁カ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヨ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁タ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁レ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ソ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ツ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ネ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ナ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ラ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ム、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ウ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヰ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ノ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁オ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ク、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヤ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁マ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ケ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁フ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁コ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁エ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁テ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ア、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁サ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁キ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ユ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁メ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ミ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁シ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヱ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヒ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁モ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁セ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ス、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ン、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁イ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ロ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ハ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ニ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ホ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヘ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ト、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁チ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁リ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヌ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ル、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヲ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ワ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁カ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヨ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁タ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁レ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ソ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ツ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ネ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ナ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ラ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ム、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ウ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヰ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ノ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁オ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ク、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヤ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁マ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ケ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁フ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁コ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁エ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁テ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ア、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁サ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁キ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ユ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁メ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ミ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁シ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヱ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヒ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁モ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁セ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ス、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ン、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁イ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ロ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ハ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ニ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ホ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヘ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ト、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁チ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁リ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヌ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ル、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヲ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ワ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁カ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヨ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁タ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁レ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ソ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ツ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ネ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ナ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ラ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ム、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ウ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヰ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ノ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁オ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ク、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヤ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁マ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ケ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁フ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁コ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁エ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁テ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ア、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁サ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁キ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ユ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁メ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ミ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁シ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヱ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ヒ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁モ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁セ、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ス、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ン、黒濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁イ、白濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁ロ、黒濁濁濁濁

【一二〇五六】
白活
黒⑧の約も、白は手を抜いて反噬し、打過なり。此時、黒一なれば白二而して活なり。黒三の時、白二に巧みなる活をイに制込、ま
たは黒一をイに制込、ま
ひ時は白ロ黒四白一と打つて活なり。

【一二〇五七】
黒優る
白六、黒七の時、白七でなく八に附けるも、黒は九に行びて宜し。白十二に闖入せしも、黒は裏十三の固めを十五と、然る後、十七・十九。此時黒二五良しに白イなれば、黒イ。ロになれば、白イを含みと厚の形勢可なり。

【一二〇五八】
黒可なり
白二四、あまりに手強し。見よ、黒二七に逆撃。四二に至つて、劫勝は黒外ながら黒厚く、且つ白十の劫を含みとして、形勢可なり。

【一二〇五九】
黒悪し
黒九、打過なり。白十に反噬し、遂に十一以下、白二まで黒二三まで二の振替りとなるも、黒は後手なるのみならず、味も悪し。

【一二〇六〇】
白稍優る
黒五に封鎖されれば、白六・八而して次に白十六と二十の下り、遮莫、此の両眼は遂に一着。十八に白三二に至つて形勢白稍優る。

【一二〇六一】
白可なり
白若し次に征宜しくば、次に二一の二四・二六で白勝。此時、黒イなれば、白ハ黒ニ、白ホ黒ヘ、白ト黒チの時、白はニに粘いで勝。

【一二〇六二】
白先手
黒若しねるときは、白二に二と打ち、次に二一と二と打ち、次に二一と二と打ち、次に二一と

【一二〇七七】
互角の分れ

黒五と手宜し。白乃ち、六以下十まで連絡して、然る後十二の當て、幕で十四の黒十五。好手順なり。此時は、白はイを打たざるに此場合は、利あり。白二十の約へ、後に白ロに黒ハへ白二に死の筋残る故なり。

【一二〇七八】
黒悪しからず

黒一、三、次に五。これは、黒の好ざるざる形なれど、靜觀するに、黒はさほど悪しくも無し。兩軍の分野瞭。黒七・白八、かくて、兵塵一先づ鎮まれり。

【一二〇七九】
互角の分れ

白六・八もあり。黒は七、尋で九に上げて、二子を取られ、白十代償を得たり。此時、黒はイの打抜も、抜かれるも宜しく、他に轉ずるも手はず。

【一二〇八〇】
形勢白優る

黒九、面白からず。——黒遂に六・八の白二子を屠り、得しも、以下十八まで白に厚威を擅にせられ、局部に勝つて大勢に敗る、已んぬる哉。

【一二〇八一】
要點約言

（第一〇七型イの二）

白四の時、黒五と切る手は、キビシくして激戰となるも、結果は、以上多く黒好まず。

【一二〇八二】
基本圖

（第一〇七型ロ）

黒三・此時白イに綿込まず、四に綿ねる時は、黒正着なり。尤も此変化も征の如く何と此よつの異なると、多少の手段と、は、この六以外の多く白好まず。

【一二〇八三】
基本圖

（第一〇七型ロの一）

黒五なれば、白六強つて五に切つて、戰つて良し。

【一二〇八四】
定石

この如く、前述の關係あく征に、大ちがい。即ち、白十若し征宜しくば、二を以てイを進みたてはくは、十三に出づ（大）。此形、イへ大變圖參照、種々あり。

【一二〇八五】
白征宜しき形

白六と輕飛して出づ。此時、黒十とかるは、征宜しくば、七と外ずけ、黒九粘ぐ。

【一二〇八六】
常形

白六と輕飛して出づ。此時、黒十とかるは、征宜しくば、七と外ずけ、黒九粘ぐ。

【一二〇八七】
白勝

黒十五、好點なれど、白八時尚早。果然、白十八に襲ひ來る。黒遂に三三——黒二三でたず。黒ハでイなれば、白ロなれば、白ニなれば、黒二でロ白イなれば白ホへ。

【一二〇八八】
白潰滅

急行に善歩無し。白二と、敵に急にして自ら顧るの餘裕無く、自遂に二子を取られ、以下佳手妙手を以て、黒の風雲を呼んで白を崩壊に導く過程なれば、黒ロ大に白イなれば、黒ハ白三に白ロ目を打抜く、黒ニとすれば、黒ホに當れば、黒ニと三目を取つて良し。

【一二〇八九】
白稍可なり

黒十一、手筋な白未だ早し。白十二と退き、徐ろに十三に鋭を養ふの策なり。黒十四は、白イと切られて黒面白からず。

【一二〇九〇】
白凝形甚悪し

黒既に十一に綿上に來げて、敵の二に白一の伏に白十二。黒十三の敵形を乘だて、黒五に陷ち、白六に討つ、かくて、白辛八に好つて、十一・十二と血を開いて、黒二路に尾撃す。白の形大いに征宜しく類する。白一、二三にや出づ、黒又初めより十三は、征として黒勝なり。

㊟粘

【一二〇九一】
白形勢を損ず

白二六は、窮鼠も似たる小人の行にて、黒悠々と補強、三に出づ。中の白三、左右に行き歩の難あり。

【一二〇九二】
黒勝

白直ちに十は、輕卒。白十二の時、黒は一二〇八七圖の如く十三に先手粘ぎ、十五に攻むで轉じて十九に攻合黒一手勝なり。

【一二〇九三】
黒の勢善し

白いまだ六の行び。黒同じく七・九の攻め。遂に白六に黒乃ち十攻めを來るや、黒十九に、白を隔てて七・十に打ぢ。——黒の尖鋒に、白は十の如き翻氣籠れり。

【一二〇九四】
黒善し

白十六と覗くも、黒イには粘がず、尋で十七には奮ナセ、十九に白を起して二十を出づ。二に切れば、黒ロ白ハ、黒ニにて勝なれ。

【一二〇九五】
得失前に同じ

白六の意味は、前圖十の行びと同じく七・九に、前形乃ち、黒乃ちと同じく七・九に、約十八、遂に白十九。黒着に、兩共に堅し。形勢、前圖と略々同じ。

【一二〇九六】
黒悪しからず

黒はまた、七もあり。白いまや、黒イを怖れず、十の征を出づ。此形、六に七と出づの交換も、白悪しき故に、打たるゝも、黒悪しからず。

〔一二〇九七〕
黒大に優れり

白四は、なりもふりも途に構はず外へ逃出さんとする手に多く、斯かる手は、黒七の切り、善し。黒一は白八、黒八にて若し九に白十。此時黒十五にて押し、次に十七に約へし、黒二三急所を制するの概あり。以下黒は二九と衝く。——手筋なり。

白一の時、黒イで綽ね含蓄不盡、面白し。生氣たるに白ロの押潰しと黒ハ、白ニ黒ホへ黒イ。

*打込んで劫となし、次に三一の劫の抛り、三三の出。隅の劫は少しも黒に損する處無し。

〔一二〇九八〕
白、征に取る

黒直ちに三は、かゝる形にては筋違ひなり。白四・六に倣て一二〇ニ圖に同形。前圖の如く十三は、黒遂に相互に相願みて漬ゆ。尤も次に黒イ白ロの征宜しき場合の手なり。

〔一二〇九九〕
形勢互角

前圖征が、若し宜しからざる場合では、白四と宜し。尤も次に六に粘げば、次に黒イ白ロ黒五と白十と四圖以下同じ。

〔一二〇〇〕
黒可なり

白二を先きにして、黒は五、四となれば、白六に構かけて宜しく、黒は共に、白六、黒七の切、黒遂に十三に打當然。黒勢の赴く所、實に貧拔いて勢を示す。堂々の隅（次圖）は、黒縁拔を恐れず。

〔一二〇一〕
黒活

白一の時、黒イで綽ね含蓄不盡、面白し。生氣たるに白ロの押潰しと黒ハ、白ニ黒ホへ黒イ。

〔一二〇二〕
持（セキ）

白ま、た五と曲れば、黒は六・八に而して粘ぎが自慢の一着なり。次に白イに補へば、黒イ手拔の儘で持（セキ）活なり。

〔一二〇三〕
黒、中原厚し

白十二・十四も、白十五に叩き、黒は十七に守りて十九に攻めて、白は二十に隅を二に守り、黒遂に二十一と飛出し、白は三に中地を占めて中原厚し。黒必ずしも鹿に鏖すに非ず。

〔一二〇四〕
黒優る

白六に十、次に白十一と、白は十二に直ちに十三と、黒は二に結果、白ハ黒イ。

〔一二〇五〕
白利勢

白六に四もあり。白イに次に白ロと、黒は三に結ぎ、白二、四の飛、以下白利勢なり。

〔一二〇六〕
黒善し

上兵は、謀を伐ちて（敵の）十。白九・十と、振替りの優勢を確保しんには、兵を用ゆるの、さに上なるものなり。

〔一二〇七〕
黒厚し

白單に四と出るも、黒は五。白八は、次の征を成すの提を前とす。兼立する白イの用を識る者。黒は十三・十五と、かくて之に近し、黒十三と、かくて勢厚し。

〔一二〇八〕
黒大に優る

白單に八は不可。黒遂に十一・十九に白十・十二と、綽上げの形となる。但し、白十八は、黒イ白ロ黒ニで、白十九攻合白敗。

〔一二〇九〕
攻合黒勝

白十二而して十四と粘く、黒は十三、惡に攻。白十九にても、黒は次に十八にても善し。

〔一二一〇〕
黒、敗

黒一而して、誤れり。白二も、白四・六。尤も宜しく、黒七のイより、白は九に直ちに征ての黒九以下、白二、四、黒十一、白十二、黒十三、白十四、黒十五、白十六、黒十七、白十八、黒十九、白二十、黒二十一、白二十二、黒二十三、白二十四、黒二十五、白二十六、黒二十七、白二十八、黒二十九、白三十、黒三十一、白三十二、黒三十三、白三十四、黒三十五、白三十六、黒三十七、白三十八、黒三十九、白四十、黒四十一、白四十二、黒四十三、白四十四、黒四十五、白四十六、黒四十七、白四十八、黒四十九、白五十、黒五十一、白五十二、黒五十三、白五十四、黒五十五、白五十六、黒五十七、白五十八、黒五十九、白六十、黒六十一、白六十二、黒六十三、白六十四、黒六十五、白六十六、黒六十七、白六十八、黒六十九、白七十、黒七十一、白七十二、黒七十三、白七十四、黒七十五、白七十六、黒七十七、白七十八、黒七十九、白八十、黒八十一、白八十二、黒八十三、白八十四、黒八十五、白八十六、黒八十七、白八十八、黒八十九、白九十、黒九十一、白九十二、黒九十三、白九十四、黒九十五、白九十六、黒九十七、白九十八、黒九十九、白百、黒百一、白百二、黒百三、白百四、黒百五、白百六、黒百七、白百八、黒百九、白百十、黒百十一、白百十二、黒百十三、白百十四、黒百十五、白百十六、黒百十七、白百十八、黒百十九、白百二十、黒百二十一、白百二十二、黒百二十三、白百二十四、黒百二十五、白百二十六、黒百二十七、白百二十八、黒百二十九、白百三十、黒百三十一、白百三十二、黒百三十三、白百三十四、黒百三十五、白百三十六、黒百三十七、白百三十八、黒百三十九、白百四十、黒百四十一、白百四十二、黒百四十三、白百四十四、黒百四十五、白百四十六、黒百四十七、白百四十八、黒百四十九、白百五十、黒百五十一、白百五十二、黒百五十三、白百五十四、黒百五十五、白百五十六、黒百五十七、白百五十八、黒百五十九、白百六十、黒百六十一、白百六十二、黒百六十三、白百六十四、黒百六十五、白百六十六、黒百六十七、白百六十八、黒百六十九、白百七十、黒百七十一、白百七十二、黒百七十三、白百七十四、黒百七十五、白百七十六、黒百七十七、白百七十八、黒百七十九、白百八十、黒百八十一、白百八十二、黒百八十三、白百八十四、黒百八十五、白百八十六、黒百八十七、白百八十八、黒百八十九、白百九十、黒百九十一、白百九十二、黒百九十三、白百九十四、黒百九十五、白百九十六、黒百九十七、白百九十八、黒百九十九、白二百、黒二百一、白二百二、黒二百三、白二百四、黒二百五、白二百六、黒二百七、白二百八、黒二百九、白二百十、黒二百十一、白二百十二、黒二百十三、白二百十四、黒二百十五、白二百十六、黒二百十七、白二百十八、黒二百十九、白二百二十、黒二百二十一、白二百二十二、黒二百二十三、白二百二十四、黒二百二十五、白二百二十六、黒二百二十七、白二百二十八、黒二百二十九、白二百三十、黒二百三十一、白二百三十二、黒二百三十三、白二百三十四、黒二百三十五、白二百三十六、黒二百三十七、白二百三十八、黒二百三十九、白二百四十、黒二百四十一、白二百四十二、黒二百四十三、白二百四十四、黒二百四十五、白二百四十六、黒二百四十七、白二百四十八、黒二百四十九、白二百五十、黒二百五十一、白二百五十二、黒二百五十三、白二百五十四、黒二百五十五、白二百五十六、黒二百五十七、白二百五十八、黒二百五十九、白二百六十、黒二百六十一、白二百六十二、黒二百六十三、白二百六十四、黒二百六十五、白二百六十六、黒二百六十七、白二百六十八、黒二百六十九、白二百七十、黒二百七十一、白二百七十二、黒二百七十三、白二百七十四、黒二百七十五、白二百七十六、黒二百七十七、白二百七十八、黒二百七十九、白二百八十、黒二百八十一、白二百八十二、黒二百八十三、白二百八十四、黒二百八十五、白二百八十六、黒二百八十七、白二百八十八、黒二百八十九、白二百九十、黒二百九十一、白二百九十二、黒二百九十三、白二百九十四、黒二百九十五、白二百九十六、黒二百九十七、白二百九十八、黒二百九十九、白三百、黒三百一、白三百二、黒三百三、白三百四、黒三百五、白三百六、黒三百七、白三百八、黒三百九、白三百十、黒三百十一、白三百十二、黒三百十三、白三百十四、黒三百十五、白三百十六、黒三百十七、白三百十八、黒三百十九、白三百二十、黒三百二十一、白三百二十二、黒三百二十三、白三百二十四、黒三百二十五、白三百二十六、黒三百二十七、白三百二十八、黒三百二十九、白三百三十、黒三百三十一、白三百三十二、黒三百三十三、白三百三十四、黒三百三十五、白三百三十六、黒三百三十七、白三百三十八、黒三百三十九、白三百四十、黒三百四十一、白三百四十二、黒三百四十三、白三百四十四、黒三百四十五、白三百四十六、黒三百四十七、白三百四十八、黒三百四十九、白三百五十、黒三百五十一、白三百五十二、黒三百五十三、白三百五十四、黒三百五十五、白三百五十六、黒三百五十七、白三百五十八、黒三百五十九、白三百六十、黒三百六十一、白三百六十二、黒三百六十三、白三百六十四、黒三百六十五、白三百六十六、黒三百六十七、白三百六十八、黒三百六十九、白三百七十、黒三百七十一、白三百七十二、黒三百七十三、白三百七十四、黒三百七十五、白三百七十六、黒三百七十七、白三百七十八、黒三百七十九、白三百八十、黒三百八十一、白三百八十二、黒三百八十三、白三百八十四、黒三百八十五、白三百八十六、黒三百八十七、白三百八十八、黒三百八十九、白三百九十、黒三百九十一、白三百九十二、黒三百九十三、白三百九十四、黒三百九十五、白三百九十六、黒三百九十七、白三百九十八、黒三百九十九、白四百、黒四百一、白四百二、黒四百三、白四百四、黒四百五、白四百六、黒四百七、白四百八、黒四百九、白四百十、黒四百十一、白四百十二、黒四百十三、白四百十四、黒四百十五、白四百十六、黒四百十七、白四百十八、黒四百十九、白四百二十、黒四百二十一、白四百二十二、黒四百二十三、白四百二十四、黒四百二十五、白四百二十六、黒四百二十七、白四百二十八、黒四百二十九、白四百三十、黒四百三十一、白四百三十二、黒四百三十三、白四百三十四、黒四百三十五、白四百三十六、黒四百三十七、白四百三十八、黒四百三十九、白四百四十、黒四百四十一、白四百四十二、黒四百四十三、白四百四十四、黒四百四十五、白四百四十六、黒四百四十七、白四百四十八、黒四百四十九、白四百五十、黒四百五十一、白四百五十二、黒四百五十三、白四百五十四、黒四百五十五、白四百五十六、黒四百五十七、白四百五十八、黒四百五十九、白四百六十、黒四百六十一、白四百六十二、黒四百六十三、白四百六十四、黒四百六十五、白四百六十六、黒四百六十七、白四百六十八、黒四百六十九、白四百七十、黒四百七十一、白四百七十二、黒四百七十三、白四百七十四、黒四百七十五、白四百七十六、黒四百七十七、白四百七十八、黒四百七十九、白四百八十、黒四百八十一、白四百八十二、黒四百八十三、白四百八十四、黒四百八十五、白四百八十六、黒四百八十七、白四百八十八、黒四百八十九、白四百九十、黒四百九十一、白四百九十二、黒四百九十三、白四百九十四、黒四百九十五、白四百九十六、黒四百九十七、白四百九十八、黒四百九十九、白五百、黒五百一、白五百二、黒五百三、白五百四、黒五百五、白五百六、黒五百七、白五百八、黒五百九、白五百十、黒五百十一、白五百十二、黒五百十三、白五百十四、黒五百十五、白五百十六、黒五百十七、白五百十八、黒五百十九、白五百二十、黒五百二十一、白五百二十二、黒五百二十三、白五百二十四、黒五百二十五、白五百二十六、黒五百二十七、白五百二十八、黒五百二十九、白五百三十、黒五百三十一、白五百三十二、黒五百三十三、白五百三十四、黒五百三十五、白五百三十六、黒五百三十七、白五百三十八、黒五百三十九、白五百四十、黒五百四十一、白五百四十二、黒五百四十三、白五百四十四、黒五百四十五、白五百四十六、黒五百四十七、白五百四十八、黒五百四十九、白五百五十、黒五百五十一、白五百五十二、黒五百五十三、白五百五十四、黒五百五十五、白五百五十六、黒五百五十七、白五百五十八、黒五百五十九、白五百六十、黒五百六十一、白五百六十二、黒五百六十三、白五百六十四、黒五百六十五、白五百六十六、黒五百六十七、白五百六十八、黒五百六十九、白五百七十、黒五百七十一、白五百七十二、黒五百七十三、白五百七十四、黒五百七十五、白五百七十六、黒五百七十七、白五百七十八、黒五百七十九、白五百八十、黒五百八十一、白五百八十二、黒五百八十三、白五百八十四、黒五百八十五、白五百八十六、黒五百八十七、白五百八十八、黒五百八十九、白五百九十、黒五百九十一、白五百九十二、黒五百九十三、白五百九十四、黒五百九十五、白五百九十六、黒五百九十七、白五百九十八、黒五百九十九、白六百、黒六百一、白六百二、黒六百三、白六百四、黒六百五、白六百六、黒六百七、白六百八、黒六百九、白六百十、黒六百十一、白六百十二、黒六百十三、白六百十四、黒六百十五、白六百十六、黒六百十七、白六百十八、黒六百十九、白六百二十、黒六百二十一、白六百二十二、黒六百二十三、白六百二十四、黒六百二十五、白六百二十六、黒六百二十七、白六百二十八、黒六百二十九、白六百三十、黒六百三十一、白六百三十二、黒六百三十三、白六百三十四、黒六百三十五、白六百三十六、黒六百三十七、白六百三十八、黒六百三十九、白六百四十、黒六百四十一、白六百四十二、黒六百四十三、白六百四十四、黒六百四十五、白六百四十六、黒六百四十七、白六百四十八、黒六百四十九、白六百五十、黒六百五十一、白六百五十二、黒六百五十三、白六百五十四、黒六百五十五、白六百五十六、黒六百五十七、白六百五十八、黒六百五十九、白六百六十、黒六百六十一、白六百六十二、黒六百六十三、白六百六十四、黒六百六十五、白六百六十六、黒六百六十七、白六百六十八、黒六百六十九、白六百七十、黒六百七十一、白六百七十二、黒六百七十三、白六百七十四、黒六百七十五、白六百七十六、黒六百七十七、白六百七十八、黒六百七十九、白六百八十、黒六百八十一、白六百八十二、黒六百八十三、白六百八十四、黒六百八十五、白六百八十六、黒六百八十七、白六百八十八、黒六百八十九、白六百九十、黒六百九十一、白六百九十二、黒六百九十三、白六百九十四、黒六百九十五、白六百九十六、黒六百九十七、白六百九十八、黒六百九十九、白七百、黒七百一、白七百二、黒七百三、白七百四、黒七百五、白七百六、黒七百七、白七百八、黒七百九、白七百十、黒七百十一、白七百十二、黒七百十三、白七百十四、黒七百十五、白七百十六、黒七百十七、白七百十八、黒七百十九、白七百二十、黒七百二十一、白七百二十二、黒七百二十三、白七百二十四、黒七百二十五、白七百二十六、黒七百二十七、白七百二十八、黒七百二十九、白七百三十、黒七百三十一、白七百三十二、黒七百三十三、白七百三十四、黒七百三十五、白七百三十六、黒七百三十七、白七百三十八、黒七百三十九、白七百四十、黒七百四十一、白七百四十二、黒七百四十三、白七百四十四、黒七百四十五、白七百四十六、黒七百四十七、白七百四十八、黒七百四十九、白七百五十、黒七百五十一、白七百五十二、黒七百五十三、白七百五十四、黒七百五十五、白七百五十六、黒七百五十七、白七百五十八、黒七百五十九、白七百六十、黒七百六十一、白七百六十二、黒七百六十三、白七百六十四、黒七百六十五、白七百六十六、黒七百六十七、白七百六十八、黒七百六十九、白七百七十、黒七百七十一、白七百七十二、黒七百七十三、白七百七十四、黒七百七十五、白七百七十六、黒七百七十七、白七百七十八、黒七百七十九、白七百八十、黒七百八十一、白七百八十二、黒七百八十三、白七百八十四、黒七百八十五、白七百八十六、黒七百八十七、白七百八十八、黒七百八十九、白七百九十、黒七百九十一、白七百九十二、黒七百九十三、白七百九十四、黒七百九十五、白七百九十六、黒七百九十七、白七百九十八、黒七百九十九、白八百、黒八百一、白八百二、黒八百三、白八百四、黒八百五、白八百六、黒八百七、白八百八、黒八百九、白八百十、黒八百十一、白八百十二、黒八百十三、白八百十四、黒八百十五、白八百十六、黒八百十七、白八百十八、黒八百十九、白八百二十、黒八百二十一、白八百二十二、黒八百二十三、白八百二十四、黒八百二十五、白八百二十六、黒八百二十七、白八百二十八、黒八百二十九、白八百三十、黒八百三十一、白八百三十二、黒八百三十三、白八百三十四、黒八百三十五、白八百三十六、黒八百三十七、白八百三十八、黒八百三十九、白八百四十、黒八百四十一、白八百四十二、黒八百四十三、白八百四十四、黒八百四十五、白八百四十六、黒八百四十七、白八百四十八、黒八百四十九、白八百五十、黒八百五十一、白八百五十二、黒八百五十三、白八百五十四、黒八百五十五、白八百五十六、黒八百五十七、白八百五十八、黒八百五十九、白八百六十、黒八百六十一、白八百六十二、黒八百六十三、白八百六十四、黒八百六十五、白八百六十六、黒八百六十七、白八百六十八、黒八百六十九、白八百七十、黒八百七十一、白八百七十二、黒八百七十三、白八百七十四、黒八百七十五、白八百七十六、黒八百七十七、白八百七十八、黒八百七十九、白八百八十、黒八百八十一、白八百八十二、黒八百八十三、白八百八十四、黒八百八十五、白八百八十六、黒八百八十七、白八百八十八、黒八百八十九、白八百九十、黒八百九十一、白八百九十二、黒八百九十三、白八百九十四、黒八百九十五、白八百九十六、黒八百九十七、白八百九十八、黒八百九十九、白九百、黒九百一、白九百二、黒九百三、白九百四、黒九百五、白九百六、黒九百七、白九百八、黒九百九、白九百十、黒九百十一、白九百十二、黒九百十三、白九百十四、黒九百十五、白九百十六、黒九百十七、白九百十八、黒九百十九、白九百二十、黒九百二十一、白九百二十二、黒九百二十三、白九百二十四、黒九百二十五、白九百二十六、黒九百二十七、白九百二十八、黒九百二十九、白九百三十、黒九百三十一、白九百三十二、黒九百三十三、白九百三十四、黒九百三十五、白九百三十六、黒九百三十七、白九百三十八、黒九百三十九、白九百四十、黒九百四十一、白九百四十二、黒九百四十三、白九百四十四、黒九百四十五、白九百四十六、黒九百四十七、白九百四十八、黒九百四十九、白九百五十、黒九百五十一、白九百五十二、黒九百五十三、白九百五十四、黒九百五十五、白九百五十六、黒九百五十七、白九百五十八、黒九百五十九、白九百六十、黒九百六十一、白九百六十二、黒九百六十三、白九百六十四、黒九百六十五、白九百六十六、黒九百六十七、白九百六十八、黒九百六十九、白九百七十、黒九百七十一、白九百七十二、黒九百七十三、白九百七十四、黒九百七十五、白九百七十六、黒九百七十七、白九百七十八、黒九百七十九、白九百八十、黒九百八十一、白九百八十二、黒九百八十三、白九百八十四、黒九百八十五、白九百八十六、黒九百八十七、白九百八十八、黒九百八十九、白九百九十、黒九百九十一、白九百九十二、黒九百九十三、白九百九十四、黒九百九十五、白九百九十六、黒九百九十七、白九百九十八、黒九百九十九、白千、黒千一、白千二、黒千三、白千四、黒千五、白千六、黒千七、白千八、黒千九、白千十、黒千十一、白千十二、黒千十三、白千十四、黒千十五、白千十六、黒千十七、白千十八、黒千十九、白千二十、黒千二十一、白千二十二、黒千二十三、白千二十四、黒千二十五、白千二十六、黒千二十七、白千二十八、黒千二十九、白千三十、黒千三十一、白千三十二、黒千三十三、白千三十四、黒千三十五、白千三十六、黒千三十七、白千三十八、黒千三十九、白千四十、黒千四十一、白千四十二、黒千四十三、白千四十四、黒千四十五、白千四十六、黒千四十七、白千四十八、黒千四十九、白千五十、黒千五十一、白千五十二、黒千五十三、白千五十四、黒千五十五、白千五十六、黒千五十七、白千五十八、黒千五十九、白千六十、黒千六十一、白千六十二、黒千六十三、白千六十四、黒千六十五、白千六十六、黒千六十七、白千六十八、黒千六十九、白千七十、黒千七十一、白千七十二、黒千七十三、白千七十四、黒千七十五、白千七十六、黒千七十七、白千七十八、黒千七十九、白千八十、黒千八十一、白千八十二、黒千八十三、白千八十四、黒千八十五、白千八十六、黒千八十七、白千八十八、黒千八十九、白千九十、黒千九十一、白千九十二、黒千九十三、白千九十四、黒千九十五、白千九十六、黒千九十七、白千九十八、黒千九十九、白二千、黒二千一、白二千二、黒二千三、白二千四、黒二千五、白二千六、黒二千七、白二千八、黒二千九、白二千十、黒二千十一、白二千十二、黒二千十三、白二千十四、黒二千十五、白二千十六、黒二千十七、白二千十八、黒二千十九、白二千二十、黒二千二十一、白二千二十二、黒二千二十三、白二千二十四、黒二千二十五、白二千二十六、黒二千二十七、白二千二十八、黒二千二十九、白二千三十、黒二千三十一、白二千三十二、黒二千三十三、白二千三十四、黒二千三十五、白二千三十六、黒二千三十七、白二千三十八、黒二千三十九、白二千四十、黒二千四十一、白二千四十二、黒二千四十三、白二千四十四、黒二千四十五、白二千四十六、黒二千四十七、白二千四十八、黒二千四十九、白二千五十、黒二千五十一、白二千五十二、黒二千五十三、白二千五十四、黒二千五十五、白二千五十六、黒二千五十七、白二千五十八、黒二千五十九、白二千六十、黒二千六十一、白二千六十二、黒二千六十三、白二千六十四、黒二千六十五、白二千六十六、黒二千六十七、白二千六十八、黒二千六十九、白二千七十、黒二千七十一、白二千七十二、黒二千七十三、白二千七十四、黒二千七十五、白二千七十六、黒二千七十七、白二千七十八、黒二千七十九、白二千八十、黒二千八十一、白二千八十二、黒二千八十三、白二千八十四、黒二千八十五、白二千八十六、黒二千八十七、白二千八十八、黒二千八十九、白二千九十、黒二千九十一、白二千九十二、黒二千九十三、白二千九十四、黒二千九十五、白二千九十六、黒二千九十七、白二千九十八、黒二千九十九、白三千、黒三千一、白三千二、黒三千三、白三千四、黒三千五、白三千六、黒三千七、白三千八、黒三千九、白三千十、黒三千十一、白三千十二、黒三千十三、白三千十四、黒三千十五、白三千十六、黒三千十七、白三千十八、黒三千十九、白三千二十、黒三千二十一、白三千二十二、黒三千二十三、白三千二十四、黒三千二十五、白三千二十六、黒三千二十七、白三千二十八、黒三千二十九、白三千三十、黒三千三十一、白三千三十二、黒三千三十三、白三千三十四、黒三千三十五、白三千三十六、黒三千三十七、白三千三十八、黒三千三十九、白三千四十、黒三千四十一、白三千四十二、黒三千四十三、白三千四十四、黒三千四十五、白三千四十六、黒三千四十七、白三千四十八、黒三千四十九、白三千五十、黒三千五十一、白三千五十二、黒三千五十三、白三千五十四、黒三千五十五、白三千五十六、黒三千五十七、白三千五十八、黒三千五十九、白三千六十、黒三千六十一、白三千六十二、黒三千六十三、白三千六十四、黒三千六十五、白三千六十六、黒三千六十七、白三千六十八、黒三千六十九、白三千七十、黒三千七十一、白三千七十二、黒三千七十三、白三千七十四、黒三千七十五、白三千七十六、黒三千七十七、白三千七十八、黒三千七十九、白三千八十、黒三千八十一、白三千八十二、黒三千八十三、白三千八十四、黒三千八十五、白三千八十六、黒三千八十七、白三千八十八、黒三千八十九、白三千九十、黒三千九十一、白三千九十二、黒三千九十三、白三千九十四、黒三千九十五、白三千九十六、黒三千九十七、白三千九十八、黒三千九十九、白四千、黒四千一、白四千二、黒四千三、白四千四、黒四千五、白四千六、黒四千七、白四千八、黒四千九、白四千十、黒四千十一、白四千十二、黒四千十三、白四千十四、黒四千十五、白四千十六、黒四千十七、白四千十八、黒四千十九、白四千二十、黒四千二十一、白四千二十二、黒四千二十三、白四千二十四、黒四千二十五、白四千二十六、黒四千二十七、白四千二十八、黒四千二十九、白四千三十、黒四千三十一、白四千三十二、黒四千三十三、白四千三十四、黒四千三十五、白四千三十六、黒四千三十七、白四千三十八、黒四千三十九、白四千四十、黒四千四十一、白四千四十二、黒四千四十三、白四千四十四、黒四千四十五、白四千四十六、黒四千四十七、白四千四十八、黒四千四十九、白四千五十、黒四千五十一、白四千五十二、黒四千五十三、白四千五十四、黒四千五十五、白四千五十六、黒四千五十七、白四千五十八、黒四千五十九、白四千六十、黒四千六十一、白四千六十二、黒四千六十三、白四千六十四、黒四千六十五、白四千六十六、黒四千六十七、白四千六十八、黒四千六十九、白四千七十、黒四千七十一、白四千七十二、黒四千七十三、白四千七十四、黒四千七十五、白四千七十六、黒四千七十七、白四千七十八、黒四千七十九、白四千八十、黒四千八十一、白四千八十二、黒四千八十三、白四千八十四、黒四千八十五、白四千八十六、黒四千八十七、白四千八十八、黒四千八十九、白四千九十、黒四千九十一、白四千九十二、黒四千九十三、白四千九十四、黒四千九十五、白四千九十六、黒四千九十七、白四千九十八、黒四千九十九、白五千、黒五千一、白五千二、黒五千三、白五千四、黒五千五、白五千六、黒五千七、白五千八、黒五千九、白五千十、黒五千十一、白五千十二、黒五千十三、白五千十四、黒五千十五、白五千十六、黒五千十七、白五千十八、黒五千十九、白五千二十、黒五千二十一、白五千二十二、黒五千二十三、白五千二十四、黒五千二十五、白五千二十六、黒五千二十七、白五千二十八、黒五千二十九、白五千三十、黒五千三十一、白五千三十二、黒五千三十三、白五千三十四、黒五千三十五、白五千三十六、黒五千三十七、白五千三十八、黒五千三十九、白五千四十、黒五千四十一、白五千四十二、黒五千四十三、白五千四十四、黒五千四十五、白五千四十六、黒五千四十七、白五千四十八、黒五千四十九、白五千五十、黒五千五十一、白五千五十二、黒五千五十三、白五千五十四、黒五千五十五、白五千五十六、黒五千五十七、白五千五十八、黒五千五十九、白五千六十、黒五千六十一、白五千六十二、黒五千六十三、白五千六十四、黒五千六十五、白五千六十六、黒五千六十七、白五千六十八、黒五千六十九、白五千七十、黒五千七十一、白五千七十二、黒五千七十三、白五千七十四、黒五千七十五、白五千七十六、黒五千七十七、白五千七十八、黒五千七十九、白五千八十、黒五千八十一、白五千八十二、黒五千八十三、白五千八十四、黒五千八十五、白五千八十六、黒五千八十七、白五千八十八、黒五千八十九、白五千九十、黒五千九十一、白五千九十二、黒五千九十三、白五千九十四、黒五千九十五、白五千九十六、黒五千九十七、白五千九十八、黒五千九十九、白六千、黒六千一、白六千二、黒六千三、白六千四、黒六千五、白六千六、黒六千七、白六千八、黒六千九、白六千十、黒六千十一、白六千十二、黒六千十三、白六千十四、黒六千十五、白六千十六、黒六千十七、白六千十八、黒六千十九、白六千二十、黒六千二十一、白六千二十二、黒六千二十三、白六千二十四、黒六千二十五、白六千二十六、黒六千二十七、白六千二十八、黒六千二十九、白六千三十、黒六千三十一、白六千三十二、黒六千三十三、白六千三十四、黒六千三十五、白六千三十六、黒六千三十七、白六千三十八、黒六千三十九、白六千四十、黒六千四十一、白六千四十二、黒六千四十三、白六千四十四、黒六千四十五、白六千四十六、黒六千四十七、白六千四十八、黒六千四十九、白六千五十、黒六千五十一、白六千五十二、黒六千五十三、白六千五十四、黒六千五十五、白六千五十六、黒六千五十七、白六千五十八、黒六千五十九、白六千六十、黒六千六十一、白六千六十二、黒六千六十三、白六千六十四、黒六千六十五、白六千六十六、黒六千六十七、白六千六十八、黒六千六十九、白六千七十、黒六千七十一、白六千七十二、黒六千七十三、白六千七十四、黒六千七十五、白六千七十六、黒六千七十七、白六千七十八、黒六千七十九、白六千八十、黒六千八十一、白六千八十二、黒六千八十三、白六千八十四、黒六千八十五、白六千八十六、黒六千八十七、白六千八十八、黒六千八十九、白六千九十、黒六千九十一、白六千九十二、黒六千九十三、白六千九十四、黒六千九十五、白六千九十六、黒六千九十七、白六千九十八、黒六千九十九、白七千、黒七千一、白七千二、黒七千三、白七千四、黒七千五、白七千六、黒七千七、白七千八、黒七千九、白七千十、黒七千十一、白七千十二、黒七千十三、白七千十四、黒七千十五、白七千十六、黒七千十七、白七千十八、黒七千十九、白七千二十、黒七千二十一、白七千二十二、黒七千二十三、白七千二十四、黒七千二十五、白七千二十六、黒七千二十七、白七千二十八、黒七千二十九、白七千三十、黒七千三十一、白七千三十二、黒七千三十三、白七千三十四、黒七千三十五、白七千三十六、黒七千三十七、白七千三十八、黒七千三十九、白七千四十、黒七千四十一、白七千四十二、黒七千四十三、白七千四十四、黒七千四十五、白七千四十六、黒七千四十七、白七千四十八、黒七千四十九、白七千五十、黒七千五十一、白七千五十二、黒七千五十三、白七千五十四、黒七千五十五、白七千五十六、黒七千五十七、白七千五十八、黒七千五十九、白七千六十、黒七千六十一、白七千六十二、黒七千六十三、白七千六十四、黒七千六十五、白七千六十六、黒七千六十七、白七千六十八、黒七千六十九、白七千七十、黒七千七十一、白七千七十二、黒七千七十三、白七千七十四、黒七千七十五、白七千七十六、黒七千七十七、白七千七十八、黒七千七十九、白七千八十、黒七千八十一、白七千八十二、黒七千八十三、白七千八十四、黒七千八十五、白七千八十六、黒七千八十七、白七千八十八、黒七千八十九、白七千九十、黒七千九十一、白七千九十二、黒七千九十三、白七千九十四、黒七千九十五、白七千九十六、黒七千九十七、白七千九十八、黒七千九十九、白八千、黒八千一、白八千二、黒八千三、白八千四、黒八千五、白八千六、黒八千七、白八千八、黒八千九、白八千十、黒八千十一、白八千十二、黒八千十三、白八千十四、黒八千十五、白八千十六、黒八千十七、白八千十八、黒八千十九、白八千二十、黒八千二十一、白八千二十二、黒八千二十三、白八千二十四、黒八千二十五、白八千二十六、黒八千二十七、白八千二十八、黒八千二十九、白八千三十、黒八千三十一、白八千三十二、黒八千三十三、白八千三十四、黒八千三十五、白八千三十六、黒八千三十七、白八千三十八、黒八千三十九、白八千四十、黒八千四十一、白八千四十二、黒八千四十三、白八千四十四、黒八千四十五、白八千四十六、黒八千四十七、白八千四十八、黒八千四十九、白八千五十、黒八千五十一、白八千五十二、黒八千五十三、白八千五十四、黒八千五十五、白八千五十六、黒八千五十七、白八千五十八、黒八千五十九、白八千六十、黒八千六十一、白八千六十二、黒八千六十三、白八千六十四、黒八千六十五、白八千六十六、黒八千六十七、白八千六十八、黒八千六十九、白八千七十、黒八千七十一、白八千七十二、黒八千七十三、白八千七十四、黒八千七十五、白八千七十六、黒八千七十七、白八千七十八、黒八千七十九、白八千八十、黒八千八十一、白八千八十二、黒八千八十三、白八千八十四、黒八千八十五、白八千八十六、黒八千八十七、白八千八十八、黒八千八十九、白八千九十、黒八千九十一、白八千九十二、黒八千九十三、白八千九十四、黒八千九十五、白八千九十六、黒八千九十七、白八千九十八、黒八千九十九、白九千、黒九千一、白九千二、黒九千三、白九千四、黒九千五、白九千六、黒九千七、白九千八、黒九千九、白九千十、黒九千十一、白九千十二、黒九千十三、白九千十四、黒九千十五、白九千十六、黒九千十七、白九千十八、黒九千十九、白九千二十、黒九千二十一、白九千二十二、黒九千二十三、白九千二十四、黒九千二十五、白九千二十六、黒九千二十七、白九千二十八、黒九千二十九、白九千三十、黒九千三十一、白九千三十二、黒九千三十三、白九千三十四、黒九千三十五、白九千三十六、黒九千三十七、白九千三十八、黒九千三十九、白九千四十、黒九千四十一、白九千四十二、黒九千四十三、白九千四十四、黒九千四十五、白九千四十六、黒九千四十七、白九千四十八、黒九千四十九、白九千五十、黒九千五十一、白九千五十二、黒九千五十三、白九千五十四、黒九千五十五、白九千五十六、黒九千五十七、白九千五十八、黒九千五十九、白九千六十、黒九千六十一、白九千六十二、黒九千六十三、白九千六十四、黒九千六十五、白九千六十六、黒九千六十七、白九千六十八、黒九千六十九、白九千七十、黒九千七十一、白九千七十二、黒九千七十三、白九千七十四、黒九千七十五、白九千七十六、黒九千七十七、白九千七十八、黒九千七十九、白九千八十、黒九千八十一、白九千八十二、黒九千八十三、白九千八十四、黒九千八十五、白九千八十六、黒九千八十七、白九千八十八、黒九千八十九、白九千九十、黒九千九十一、白九千九十二、黒九千九十三、白九千九十四、黒九千九十五、白九千九十六、黒九千九十七、白九千九十八、黒九千九十九、白一万、黒一万一、白一万二、黒一万三、白一万四、黒一万五、白一万六、黒一万七、白一万八、黒一万九、白一万十、黒一万十一、白一万十二、黒一万十三、白一万十四、黒一万十五、白一万十六、黒一万十七、白一万十八、黒一万十九、白一万二十、黒一万二十一、白一万二十二、黒一万二十三、白一万二十四、黒一万二十五、白一万二十六、黒一万二十七、白一万二十八、黒一万二十九、白一万三十、黒一万三十一、白一万三十二、黒一万三十三、白一万三十四、黒一万三十五、白一万三十六、黒一万三十七、白一万三十八、黒一万三十九、白一万四十、黒一万四十一、白一万四十二、黒一万四十三、白一万四十四、黒一万四十五、白一万四十六、黒一万四十七、白一万四十八、黒一万四十九、白一万五十、黒一万五十一、白一万五十二、黒一万五十三、白一万五十四、黒一万五十五、白一万五十六、黒一万五十七、白一万五十八、黒一万五十九、白一万六十、黒一万六十一、白一万六十二、黒一万六十三、白一万六十四、黒一万六十五、白一万六十六、黒一万六十七、白一万六十八、黒一万六十九、白一万七十、黒一万七十一、白一万七十二、黒一万七十三、白一万七十四、黒一万七十五、白一万七十六、黒一万七十七、白一万七十八、黒一万七十九、白一万八十、黒一万八十一、白一万八十二、黒一万八十三、白一万八十四、黒一万八十五、白一万八十六、黒一万八十七、白一万八十八、黒一万八十九、白一万九十、黒一万九十一、白一万九十二、黒一万九十三、白一万九十四、黒一万九十五、白一万九十六、黒一万九十七、白一万九十八、黒一万九十九、白二万、黒二万一、白二万二、黒二万三、白二万四、黒二万五、白二万六、黒二万七、白二万八、黒二万九、白二万十、黒二万十一、白二万十二、黒二万十三、白二万十四、黒二万十五、白二万十六、黒二万十七、白二万十八、黒二万十九、白二万二十、黒二万二十一、白二万二十二、黒二万二十三、白二万二十四、黒二万二十五、白二万二十六、黒二万二十七、白二万二十八、黒二万二十九、白二万三十、黒二万三十一、白二万三十二、黒二万三十三、白二万三十四、黒二万三十五、白二万三十六、黒二万三十七、白二万三十八、黒二万三十九、白二万四十、黒二万四十一、白二万四十二、黒二万四十三、白二万四十四、黒二万四十五、白二万四十六、黒二万四十七、白二万四十八、黒二万四十九、白二万五十、黒二万五十一、白二万五十二、黒二万五十三、白二万五十四、黒二万五十五、白二万五十六、黒二万五十七、白二万五十八、黒二万五十九、白二万六十、黒二万六十一、白二万六十二、黒二万六十三、白二万六十四、黒二万六十五、白二万六十六、黒二万六十七、白二万六十八、黒二万六十九、白二万七十、黒二万七十一、白二万七十二、黒二万七十三、白二万七十四、黒二万七十五、白二万七十六、黒二万七十七、白二万七十八、黒二万七十九、白二万八十、黒二万八十一、白二万八十二、黒二万八十三、白二万八十四、黒二万八十五、白二万八十六、黒二万八十七、白二万八十八、黒二万八十九、白二万九十、黒二万九十一、白二万九十二、黒二万九十三、白二万九十四、黒二万九十五、白二万九十六、黒二万九十七、白二万九十八、黒二万九十九、白三万、黒三万一、白三万二、黒三万三、白三万四、黒三万五、白三万六、黒三万七、白三万八、黒三万九、白三万十、黒三万十一、白三万十二、黒三万十三、白三万十四、黒三万十五、白三万十六、黒三万十七、白三万十八、黒三万

〔一二一二〇〕
要點約言
（第一〇七型ロの一）
黒三・五なれば、白六の下、正着なり。尤も、此形、征如何によれども、黒ハ白ニ黒ホ白ヘにて、

〔一二一二一〕
基本圖
（第一〇七型ロの二）
黒五、白に④、㋑、㋺の應けあるも、何れも變則にして、其結果白好まず。

〔一二一二二〕
黒正着
白六、八は好まず、次に黒は戰ひ既に曲つて利あり。白十六は、勿論、次に有利なる白二七は、合の着にして、黒勢厚し。（次々圖外）

〔一二一二三〕
如何
黒十二・十四と打ち、外部の先手十六れば、前圖と格段の相違あり。普通は黒イを怠れば、白イにて黒十七を拙し。

〔一二一二四〕
黒勝
白九を前圖の如く行るも次に白イの征悪しき場合は、一と打つ位の九の十なれば、白遂に覆滅し了んぬ。次に黒ハ。

〔一二一二五〕
黒必勝の勢
白十一・十三悪しく、黒二・八以下三・九と打てば、白は二段劫なれど、加之、白好まず。黒は二段劫にて利を疑はず。

〔一二一二六〕
黒勝
黒八のとき、白十六に曲らず、此時、白は九以下五の十一着は、黒十直ちに九以下十四。認識不足の一着、白十六、尋で、黒十七の切、白粘、黒ヘに手段無し。

〔一二一二七〕
白甚だ不利
黒十一と粘げば、白十二に次つて善し。

〔一二一二八〕
黒劫勝
白イでなく直ちに十三と約するも、黒は四・十六に掛て宜し。白十四・黒九に粘げば、白二、黒二にて、次に劫を黒は、必ず二六。

〔一二一二九〕
黒正着
黒既に五。殺陣展開！激切り合ひ、此時、白六、黒七一風雲の趣あり。白は此筋に面白き似た變化多く、白手抜、黒五同じ。或は白イなれば、黒ハ、白二なれば、黒ホと切て黒善し。

〔一二一三〇〕
黒の勢優る
白三・五。此時、黒六は身を擬して左右に双敵を睨む。黒ここに死子似たり。白七は跳ね黒八は遂に強靱な黒を攻撃に似て虚喝など、三・五の風、颯たるも、黒は二を居つて利を制す。白の勢厚し。

〔一二一三一〕
中の白弱し
白五と曲れば、黒六に隅の白を窺ふ。白七と守らざるを得ず。かく上辺を守るなつては、中央の白は強國の如き哀れし。

〔一二一三二〕
黒善し
白十一。黒十二。筋の妙。此時白イなれば、黒ロ。又白イをロと黒ハ。白イなれば、黒ホと切て黒善し。

〔一二一三三〕
黒の形厚し
白七・九・十一は、シボリ形なれども、白遂に思ひ切つて十一と打つ。黒は彼我共に要點、黒十二と曲りて厚く、白十三と逃げて骨折り。黒十四と反して厚く、白十五と補強して、黒は厚壮、白は薄く、黒十六と先手を取つて氣既に敵を壓す。

〔一二一三四〕
黒優る
白三と綿ねば、黒ホと二而して四。此形にしからず、白十黒五を許すは、黒十二と曲り、白十三と逃げて、黒十四と補強して、黒イと厚く、白十五と寄つて、黒十六と先手を取つて、白の眼形を奪ふ。

〔一二一三五〕
黒優る
白三と綿ねば、變化簡單など、險難を越えて、光あり。白が棄石無策の崇りにて、黒遂に十三、四なれば、白十三、何れも白敗。

〔一二一三六〕
白敗
白七の手段、不可なり。九と曲れば、黒十二と打て、白十三、而して白十四・十六の時、黒十五と曲りて、白十七と守らざるを得ず。かく上辺を守るなつては、中央の白は強國の如き哀れし。

〔一二一三七〕
黒正着
白六は、調子外れ。黒七と惡手、此時、白十八がでしまたは黒イに有利なる場合は、黒ロの征ありて善し。黒ロなれば白イを黒ハと白ニなれば、黒ホと切て黒善し。

〔一二一三八〕
互角の分れ
前圖の如く變化なつて、黒征悪しき場合は、黒二而して四。以下、白十一と打つて要點を先取し遂に黒十二と曲りて厚く、白十三と逃げて骨折り。黒十四と反して厚く、白十五と補強して、黒は厚壮、白は薄く、黒十六と先手を取つて、白の眼形を奪ふ。

〔一二一三九〕
黒の形厚し
白七・九・十一は、シボリ形なれども、白遂に思ひ切つて十一と打つ。黒は彼我共に要點、黒十二と曲りて厚く、白十三と逃げて骨折り。黒十四と反して厚く、白十五と補強して、黒は厚壮、白は薄く、黒十六と先手を取つて、白の眼形を奪ふ。

【一二一四〇】
要點約言
（第一〇七型ロの二）
此形、次に白④なれば黒ニ白ホ黒ヘ。又白㋑なれば黒ト。黒ホに白チ黒リの筋にて、或は白㋑なれば、何れも其結果黒善し。

【一二一四一】
基本圖
（第一〇七型ロの三）
白は、時に八と手段も粘あり。黒は次に此結果も、無論、九。多くは白好まず。

【一二一四二】
黒正着
白十。此時、黒の行き方に、左中仙道、東海道、右中仙道、二つの道あり。若し十五の征宜しき場合は、黒は十一の本道を行いて、善し。

【一二一四四】
黒善し
白若し十三以下十七の後、十九に劫を、黒は上一に引抜き、先づれば、白二の打込に、黒乃ち二一に絶對。中此形、上邊の白の損甚し。

【一二一四五】
場合による
白一に對して、黒二の伏を設けつ。此形、白ニの加はれる時は、黒十二の敵の急所を待ちて、黒十三より手筋なる一に着。黒十四、白十五、黒十六、白十七に叩いて、黒十九、白十三の大いに異る四圖以下（一二五圖へ參照）と、白三以下九、黒下の如く變化して、以下、如何白遂に起たず。

【一二一四六】
白嵌る
白三・五、敵の伏、八に陷る。黒四は自己の生死、白五、黒六に對して、白七に逃出せば、黒ハ白ニ黒リホ白ヘ黒ト白チニ黒リホせし。白ヘ黒ト白チニ黒リホせし。白ヘ黒ト白チニ黒リホせし。

〔一二一六三〕
黒有利の形

白三。此時、黒四に偵よ、此虚實躍動ず、之を六なれば、黒直ちにイ。黒八は、良し。次に白の根據を奪ふ、大いに良し。

〔一二一六四〕
黒利勢

白五。此時は、黒は、敵の虚を衝くに八に戰ひ、次に二子を切取る。十二までの形、黒は後手なれど、隅の實利大なり。

〔一二一六五〕
黒利勢

白九なれば、黒は無論十。此時は、黒十二悍の作着、善し。一に切れば、黒三目結ぎ、白イなれば、黒ロに切つて逆襲し、白ホ、黒ヘハの時トと、敵を壓してはニ黒チと進む。

(注)劫

〔一二一七二〕
黒大に善し

白二一、更に二三。黒四に戻を轉ず、十一以下の三子よしや逃ぐるとも潰、白二の外に走、白二五に綿上まで上げ來るも壓連、黒は五子も忍ばず。後なれば

〔一二一七三〕
黒勢稍優る

白十七惡し。かく打たては、前の圖に見たる白ら解消好點。自づから黒遂に力押す。二三八までの二に壓下の白、黒の加はらんとす。苦痛漸く

〔一二一七四〕
攻合白敗

白直ちに三・五と出切り。黒は、無理な六・八に逃り・次に十に擊つて、白軍の形潰る。黒遂に二の十。

〔一二一七五〕
黒攻合勝

白、黒十七。されど着に、白八の一、白萬一、但し圖の尖は如く白一、黒二十べに二し、圖の形は、面白かれらず。

〔一二一七六〕
黒勝

白一、なれば、黒十七の二に、黒は十八に二、而して十八に二、かくては白三は、五以下の白子は、五あるの甲斐無き無カの姿。

〔一二一七七〕
黒勝

白三・五は、結果白の實み、黒は鋭に傾斯にし、白軍十六。黒遂一に擧つて十六に逃り、隅の八の白數、頓に滅ず。白の手には悲風蕭

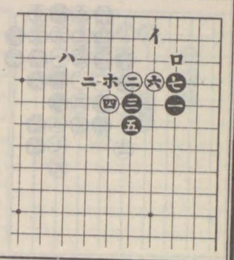
〔一二一七八〕
黒優れり

白七と堅く粘ぐも、黒は白十八に約ねて宜しく、白十一に出でれば、黒は下を十二に出でて取れば、白八に以下同じ。黒二子を取れるは大勢上の差あり。

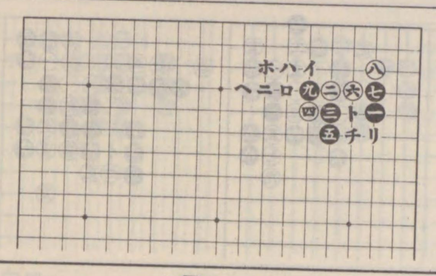
〔一二一七九〕
黒勝

白七而は九に切つれば、黒は宜しく十に切つて、白十三。白は九まで、一圖の如く黒十四と取る手も得ず。白十八せ、黒十四と取る手も得ず。白十八せ、黒十四と取る手も得ず。白十八せ、

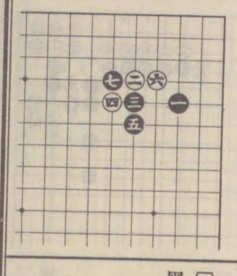
〔一二一八二〕
要點約言（甲）
（第一〇七型ハの一）
白六、黒次に七と打ち、白イと打ち時は、黒ロ・三の白を定石とす。若し白イをニとイなれば黒ロ。又白イは強くホにて切るべし。



〔一二一八三〕
要點約言（乙）
次に白八、黒九と切り時は、白ロ黒ハ黒ニとなり。白ホイ黒ヘとなり。白も黒手強くトに出で、黒チ白リと切るべし。其他の手段にては、何れも白面白からず。



〔一二一八四〕
基本圖
（第一〇七型ハの二）
黒七の強硬手段あり。此の手段は他方面の隅及び其他如何に拘らず何にも成立する手段なり。



〔一二一八五〕
定石
黒七、次に白の手には、八・九・十・四に萩！三種あり！情趣・女郎・桔梗・花などなり。白十四は、黒九と飛ぶ手もあり、外厚、白十八までの形、黒の實利。

〔一二一八六〕
黒優勢
白若し九と附ければ、黒は十と附けて良し。黒十三を十四は、惡し。次に黒十三！白イに黒ロ白ハ黒ニ白ホイ黒ヘ白ト黒チ白リ黒ヌ、となつて、白甚し。

〔一二一八七〕
場合による
黒八は、イの約束を可とす。されど、黒十の拓きが好點なる局の勢に於ては、黒八の後に黒イの下りもあり。黒八は、蓋し白の九絶對。

〔一二一九〇〕
黒活
白一と、敵の急所を衝き、尋で戈を忍びて寄せて三と轉じて右より後手に十に打ち拔いて大利を得たり。

〔一二一八八〕
黒稍可なり
黒七に白八と飛べば、十に透かされて、八、隅と大なり。此の形の出得を研究するに高く掛るべきか、白の處まで廻らざるべからず。細説すれば、以下の白ロに懸り、至つて黒ロに切るに至つて、其結果白に面白からずとすれば、白ロに懸り、至つて、其結果白に面白からずとすれば、白ロに懸り、至つて、其結果白に面白からずとすれば、白ロに懸り、

〔一二〇〇〕
白敗
白七に約へて、次に白イと十一を望むに、黒八・十に「さゝれど、此時、凡の策「かくつて逢、白宿望の一に至りしも、黒十一に十二・十四で、遂に白敗。

〔一二〇一〕
白に手段無し
白十一。此時、黒なづ十二、尋で十四に附けて、邀へ撃つ、善し。白、憫然、色を失ふ。黒先づ二十九と攻めて、左右の凌ぎに資す、妙。

〔一二〇二〕
黒善し
（前々圖）黒十三の變化。白十四。黒十五・十七に盤にる。黒遂に二十一でに出で、白ホへで、白潰滅。

〔一二〇三〕
黒善し
白十三、次に十一・十四。白九、次に十四。白、勢ひ遂に十五の切。黒、此形、十六。而して黒の二十九と左右に逃げ、白十三と逃げのび、白自ら死す。

〔一二〇四〕
黒稍劣る
黒六は、一見、形に似たれど、實情に對する、畢竟、不足の手なり。白七、黒八へ、二間に拓に遂に手あり。攻合遂に黒敗。十五までに結果、黒は厚味に於て稍劣る。

〔一二〇五〕
黒定着
白八に約込む型は、黒は九に征けて最も簡明なり。但し、黒征悪しき時は、次圖以下のつべし。十一二四二圖以下參照を乞ふ。

〔一二〇六〕
黒可なり
黒二、強硬。黒は假令三と取るも、征宜しき場合にても、かく強く戰ふ手あり。九まで草の白は、根無しの如く、是より後は、白必ず不利。

〔一二〇七〕
黒攻合勝
白八に掛來れば、黒は十に抵抗れど、十二に先じ、隅の白三の眼を奪ふ。而して最後の一手、黒六と四順に攻合して、黒勝。

〔一二〇八〕
黒可なり
白五の時、黒六に約へ、白七の時、黒八へ、二間に拓に遂に手あり。白七、黒遂に抑へ、攻合遂に中十一・十三・十五で結果、黒は厚味に於て稍劣る。

〔一二〇九〕
白寄劫
白七、打過ぎなり。黒十二と、隅の白を取りに行くに先だつて八・十は、止むを得ず白十一と寄せ、黒遂に劫の不利あり。

〔一二一〇〕
黒勝
黒十六と、白の手數を縮めて、當りし善しめて。白十七に白十、次の時、黒十八。白ホに尋で、黒ロ白ハ、黒ニへ。白窮して、出づるを知らず。所

〔一二一一〕
黒善し
白若し先づ十三とれば、黒は十四と活き、白十五・十七に切つて出るに、黒外れる。此結果は、白十六と面白から、ず、面と前圖を乞ふ。研究を比較圖白

〔一二一二〕
白潰滅す
白九悪し、尖端を利して十に、黒は十一・十三なれば、白十四。白、勢遂に十五の二形、白十六の切。而して此二形、白十七と左右に逃げ、白十八と黒の二眼を奪ふ。

〔一二一三〕
黒敗
黒八・十を打つて後、十二・十四とあたびはれ！十五の手あり。白九の生じたるなり。黒十六をイなれば、白十二三にて、黒ロ白二三黒悪し。

〔一二一四〕
白形勢善し
黒六は、拓き過ぎ。白七、九に敵の虚を衝く、大に善し。九に餘して、黒儀無く十・十二に乞食盤。十三・十五。圖は白に比せば、白勢に於て遙に優る。

〔一二一五〕
攻合黒敗
氣の拔けたるの悪しきもの、ビー・ルのサイダーにあらず。黒四は氣拔けの手、悪し。黒白五に着掩撃を求むる黒六に走路を之を沮むも、白七に

〔一二一六〕
持の形
白は、次に白イ四十一に、黒ロ白ハを見てニ活きて、白ホ、黒ヘ、白ト、黒チ、白リ、黒ヌ、白ル、黒ヲ、白ワ、黒カ、白ヨ、黒タ、白レ、黒ソ、白ツ、黒ネ、白ナ、黒ラ、白ム、黒ウ、白ヰ、黒ノ、白オ、黒ク、白ヤ、黒マ、白ケ、黒フ、白コ、黒エ、白テ、黒ア、白サ、黒キ、白ユ、黒メ、白ミ、黒シ、白ヒ、黒モ、白セ、黒ス、白ン、黒ヱ、白ヘ、黒ホ

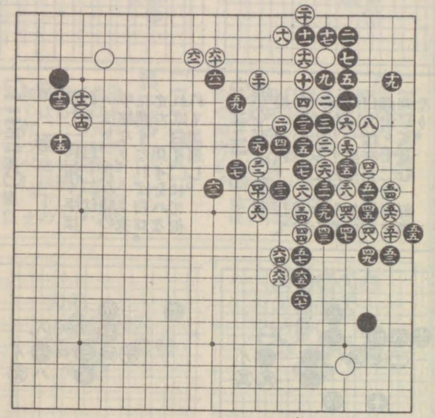
〔一二二二五〕

黒の手段堅實

瀬越憲作七段 當時
中押勝 先 林有太郎五段

黒は九而して十一と打つ時は、一二二一の如く白二四の尖の効も無し。白二二以下、激戰始まる。——黒三の一子の征は此對局に於ては黒に有利なりしものと見えたり。かくて白三一と切るに至つて、戰亂また派生し、遂に、戰火、全局に擴がる強敵を向ふに廻はしこの遮莫、黒がこの間に馳驅して効を失はざりしは、感服の外無し。

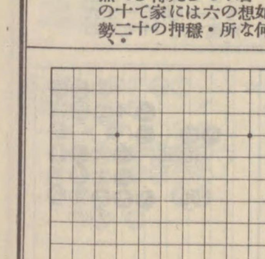
㊟ッグ



〔一二二二六〕

黒善し

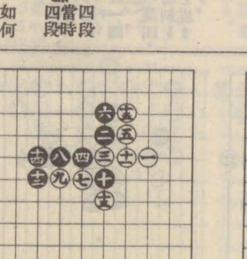
黒はさた、八・十と打つ手あり。——これは、勿論、黒十の征宜しき場合。さなくば黒は十をイに行びるべし。



〔一二二二七〕

黒厚し

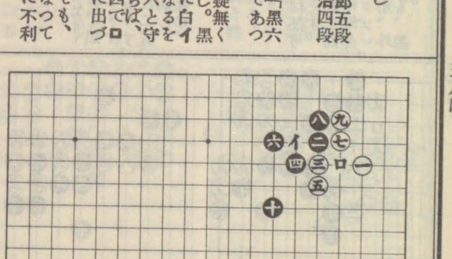
白五の掛着ぎ、損なり。黒六と三の取る。——の要點に一切、俄然として、白薄く、黒遂に十二の稜を揚げて進む。黒の勢壯んな



〔一二二二八〕

白の形好し

勝 橋本宇太郎五段
先番 鹿間千代治四段



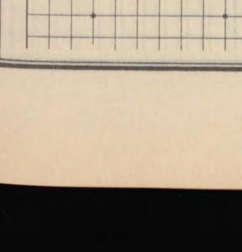
威想に曰く「黒六は矢張り損であつたと。——黒六とは運疑無く七に打つべし。黒六の切り、次に白イと七、六となる守を恐れて、黒六と守るもなら、黒は遡つて四でロに綽込む筋に出づべしにしても、いづれにしても、かゝる形となつては、黒明かに不利なり。

〔一二二二九〕

黒確なり

小島春一四段 當時
先番 勝 清源四段

白五・七は、如何にも無骨の着想なり。黒未だ十分に隱忍して六の所に押せるに、白九には八・健の手段ありて、次に白七と切り、黒遂に十二の寶刀を脫、傳家の鞘を拂つて、一寸、尋で二十の切り、——黒の勢、確かなり。



〔一二二三〇〕

要點約言

（第一〇七型ハの二）

白六の時、七に切るも手なり。黒は此時白イと外れば、黒ロにて攻合黒ホし。又白イを黒ロなれば、黒ニへと白ハにて攻合黒宜

〔一二二三五〕

黒厚き形

白は、單に三もあり。此時黒は手抜も宜しく、また四・打つとせばく六と附行びする手、宜しく。——黒遂に十の構へ、白形となく何となく不十分なり。

〔一二二三六〕

白窮す

黒二は、我が逸を以て、敵の勢を待ちしもの。果然、白一八に六と掛けるに、白一〇圖の如く同じく打過ぎくると及んで黒鋭く四・六に出づ。黒良し。

〔一二二三七〕

白苦戰なり

白七なれば、黒八以下十二。黒八を火イは好まず。——白十五に黒十六白ロとなりて、白遂に十四・七と先を得。これ白小廉を白窮す。——白十七をハなれば黒ニ。※

〔一二二三八〕

黒可なり

黒八・白七も惡し。尋で十二・十四と覆壓す。白低迷五に走り、黒十八の一の切り、白十三となつては、白形厚くして良し。

〔一二二三九〕

前變化にあり

白十一五に接双し來れば、黒ち十一にれゆ。約束出での變化の種々

〔一二二四〇〕

白虚喝奏功す

黒四の働ひは、白の外勢、優れる場合、白遂に七と先は緩しる。白三の虚喝功す。——白中原を備成れり。

〔一二二四一〕

白厚く好し

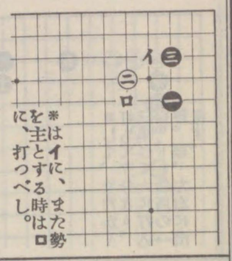
黒二・四は、強ひて先手を得んとする小細工の卻て白を堅くせし切取り、滋味一の厚の方が、白形厚くして良し。

〔一二二三一〕

基本圖

（第一〇八型）

白二の高懸りに對する、黒三は、調子も惡しく、且つ白二へ利きも効果的に非ず。白三は前型の如く、地を主とするに※



※はイに、また勢を主とする時はロに、打つべし。

〔一二二三二〕

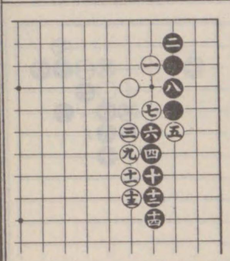
常形

黒三なれば、白は此儘。手を拔いて良し。處に若し打つとすれば、白よりこれ、四に尖附け、黒五と飛ぶ手、常形なり。

〔一二二三三〕

黒可なり

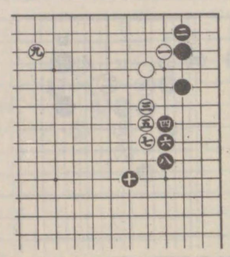
白はまた、五・七と押して、九に廣がる處まで。——白五・七は、十一・十三と倍して何んさんれど、五の策なる交換、七と、六・八との交換は、白の不利なれば、一考を要す。



〔一二二三四〕

白面白からず

白五・七は、次に九・十の壓力を、倍して押し忍ぶ。黒突如出づ。——白五・七と、六・八との交換は、黒を堅くす、加之、白は形稍損る。



〔一二二四二〕黒稍好ましず

黒二も、前圖のそれと略ぼ同意にして、面白からず。黒四・六は止むを得ず。——若し黒四を七と下れば、白イに掛けて、大勢をリードす。

〔一二二四三〕常形

白四と只拓く手も有り。四は悪しきも手にはあらざるも、かく陣地を布く以上は、先づ四で上は、先づ四で交換をするべしの交換をするべしの交換をするべしの

〔一二二六二〕 黒可なり

白九の形、好まず。此時は、黒は、壓封を望みつゝ、十二、此形、黒十一善し。尚ほ、イと附ける狙あり。！次に白ロなれば、黒ハ白ニ黒ホなど。

〔一二二六三〕 黒形薄弱なり

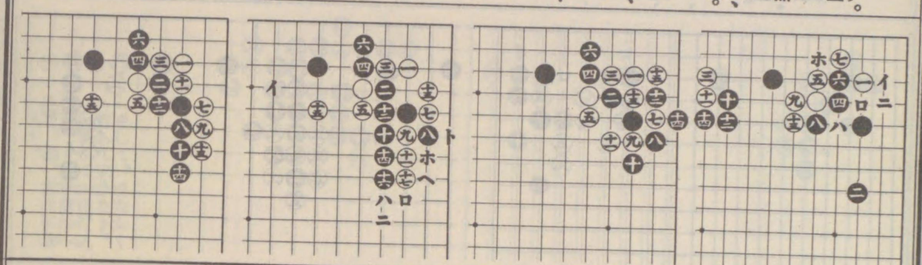
黒直ちに二・四は、如何にも無理筋。善果惡因善果惡果——白七以下十五までとなつては、黒薄くして惡し。尤も、白七では九六六圖參照）。〔一二二

〔一二二六四〕 白可なり

黒い、は十。白は十次に黒十一出づべし。時に十二の三で宜し。黒十八イなれば、白ロなれば、黒ハイを白ロなれば、白ホ黒ニ白イ。何れも白良し。

〔一二二六五〕 場合による

黒八なれば、白九・十一・黒十二・白十三によつて、黒十四・白十五に崩し飛ぶ。此形、黒は前化、白は優る。即ち、初めより八を可とす。



〔一二二六六〕 分れ得失無し

白七で十八は、前圖の如く黒七で局面の釣合なりとせば、白不可。如くば、白は一廳九なれば、黒の動靜を探つて後に死す。これ死間の妙用？

〔一二二六七〕 白の形好まず

白二一は、前圖の如く三一に整形にする方、宜し。後に白三一と苦しき廳を強ひられしは、この爲なり。黒は、四となり、隅の二攻合は、黒勝。

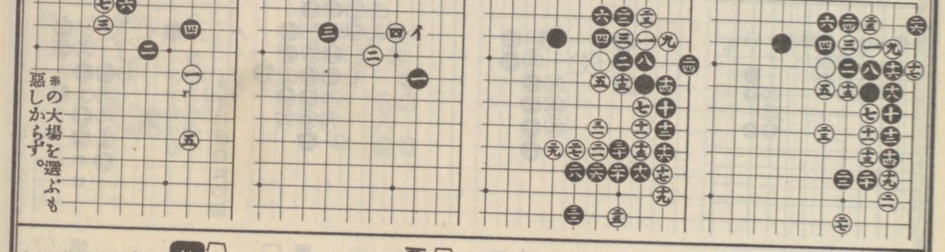
〔一二二六八〕 前變化參照

白四は、遠慮なくイ即ち「三の三」の要點を占取し得るチャンスを逸し。此形、隅は未だ白の專有と言へず。たるものゝ、綾の一一〇二八圖と同形。

〔一二二六九〕 常形

瀬越憲作七段
林有太郎六段
番勝

黒六と斜走すれば、堅なれど、白七では好手は此處を手抜して他は點



〔一二二七〇〕 場合による

篠原正美當時四段
先 木谷實當時四段
番勝

專ら中腹の形勢を主とする時は、黒イに掛けて守らずしてあり。黒一と地を主とするイとの四はイに守る手もあり。可否は、主とすべきか、主たるべきかによりて定まる。

〔一二二七一〕 要點約言

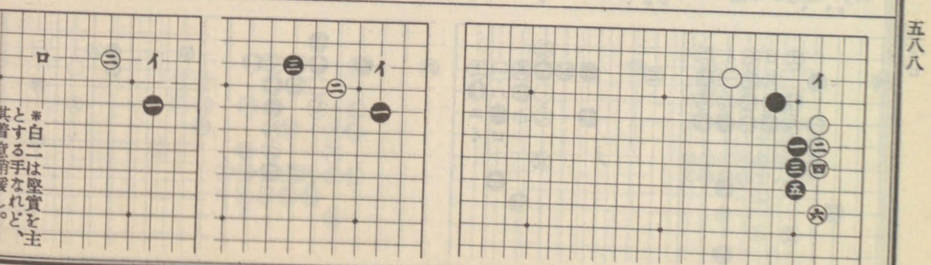
（第一〇九型）

黒三、特殊の形勢に於ける變則の手段なり。普通斯く打つ含み。打點を占められて、白イに好なれば、黒好まず。

〔一二二七二〕 基本圖

（第一一〇型）

白二は最も溫順の手にして、これは、次に黒イなれば白ロ、もた白イを、白イと打



*の大場を選ぶも惡しからず。

*白二は堅實を主とする手なれど、其着意稍緩し。

〔一二二七三〕 定石

白二なれば、黒は無論、要點を占むべし。黒この要點を占取するを要さず、故に、白二は、好つて打つ手にはあらざるなり。非ず。

〔一二二七四〕 常形

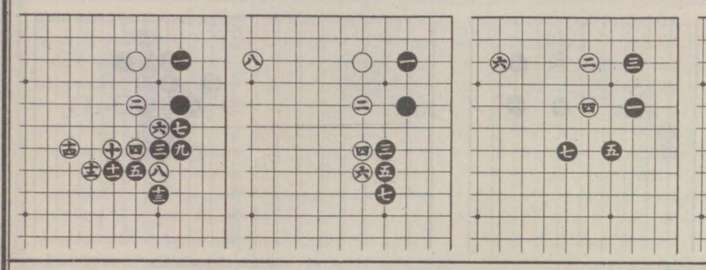
黒三、白は四と、高く一間に飛出すもあり。白は四に飛出すの志は、無論、中原に在り。白六、常形。されど、白六、中原へ更に飛躍を期して七で形は、と打つもあるべし。

〔一二二七五〕 場合による

白はまた、四・六と押して、而る後に廣く拓く手もあり。尤も、白四・七・六は、黒の五・白の交換となりて、これは普通は白損なり。

〔一二二七六〕 黒確實なり

黒五と綿ねれば、白は六、次に八と切つて、黒一先づ傷手を負せらるゝ後、十四と行はるゝ。十四も、可なれど、白四の形は、この勢如何にも大。否。形勢



〔一二二七七〕 白可なり

黒十、三は、手強けれど、時に打過ぎ。白十四・六の善きことあり。白十征宜しき場合の方。白征打つた方。しきは、白二は、黒イ。十八惡手抜、單にイ。

〔一二二七八〕 黒、一策なり

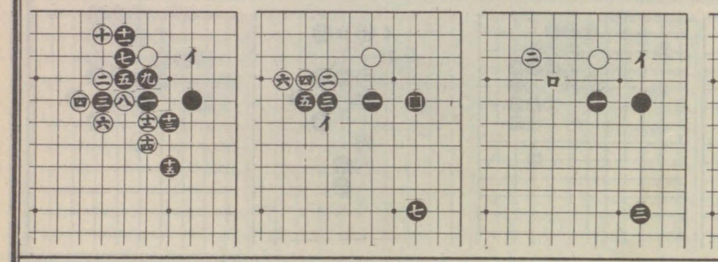
黒一と掛ける手もあり。黒一は、二七四圖と同じく、中原志に在り。次に白二なれば、黒イなれば、白二を三に封じて中を厚くすべし。

〔一二二七九〕 黒好まず

白はニとも廳けもあり。白なれば、黒三・六五と、白七に宜しく、黒は、白はニ七に拓けて徐ろに圖イの間隙を狙ふ。

〔一二二八〇〕 白稍可なり

形と比較（一二二七六圖の白イに看取らるゝ穴をざせしに在り、手段に變化面白く、隅の黒の地は大で、且つ白も先手。勢厚



〔一二二八一〕 白の形崩れず

黒一、鋭くして着、時に奇功を奏する、普通は無理。黒三なれば、白四・六善。黒三なれば、白四に綿上げて、黒の一を厭らす。尤も、四はイに守るもあり。

〔一二二八二〕 互角の分れ

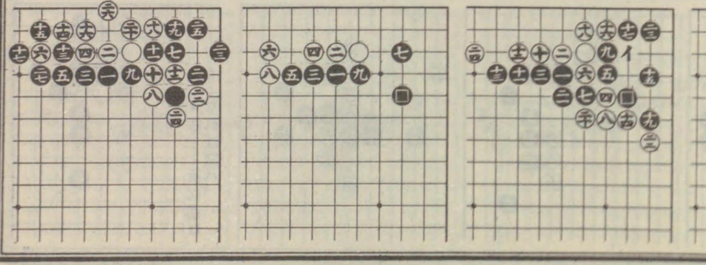
黒三なれば、白は四に、黒圖と一の間に伸び、強ひて衝く、尤も、四は穩かに十に、黒イ白イを、黒一白他に打つもあり。一二〇七圖參照。

〔一二二八三〕 黒堅實

白四・六の廳けは、甚だ堅し、これに乘すべき、白がさきの間隙を、黒のーとの圖逃すもの、稍緩し。黒七・九、遂に整ふ。

〔一二二八四〕 黒稍優る

黒七の後に、白八と衝いて出し、後は、時に既に遲し。黒九、十一。黒七は、中後手なれど、も、で優る。厚味は黒大いに



〔一二二八五〕
場合の手段

久保松勝喜代六段 當時
先 吳 清 源 四段
勝

黒九と當てし時、黒十と當てたるに、白十二と當てたる後、十四と粘ぎしは、味に於て劫なりと見る、常に此形は、手筋なるも、黒十二と粘ぎしに、遙かに優れる。白十三へ黒十五、白十六、黒十七を得ず。共に止むを劫トル（注）劫トッグ（注）

〔一二二八六〕
要點約言
（第一一〇型）

白二は場合の懸り。次に黒の應ずるを正着とすれば、白イを主とするも時にはロに飛ぶ手もあり。

〔一二二八七〕
基本圖
（第一一一型）

白二は、特殊の形勢に於て、稀れに用ゆる手なるも、普通は懸りとして、近頃まではまり手ざりしが、見受け一般配置高く來りなりしため、※の二の懸りも時々、實戰に用ゐらる。

〔一二二八八〕
定石

白二には、黒三、五次に七と尖むを定石とす。これは一間高懸りと同形なれど、六六二八一圖の定石とは、黒は一路高あり。互に一得一失あり。

〔一二二八九〕
普通は黒有利

黒七の應け、良し。白八次に下に守る手、肝要なり。若し白十を拔せば、黒十一と常形に附次にイと拔けては、引けば、黒ロにハと綿出すを手あしとす。

〔一二二九〇〕
㊀手順良し

黒七と二間に拓けば、白は差し込む手順なれば、面白し。黒九と下に、白十九と上に、白十一と先手の利を收めて、次に黒ロと四の十二と拓くも、稍〻大場に手を缺く。黒形の十四と尖むるも、形、穩當なり。

〔一二二九一〕
白面白からず

白十六は普通の手筋なれど、此場合、黒乃至黒十三までの堅固の十七を見ての十六は、面白からず。黒場合、綿出し、白の意表に出づ、鋭し。二三。白却て、遂に薄し。

〔一二二九二〕
白正形

可否場合による

黒九に守れば、白は妙に變ゆるを利かす。飛を先にして、次に黒十一を若し手拔せば、白イにて形頽れ※の如く然として形頽※

〔一二二九三〕
場合による

白六の掛けは、前形九六より、もキビシク敵に當れど、黒よりの代りに逆に九と切らるる虞もあり。此手段場合により、普通は白、無理形。

〔一二二九四〕
外形白稍好し

黒七・九は穩かなれど、こは、幾分無理筋なり。白六を徹させ、黒は、白も敵の前形、白は六をイの優るをイの無きに、あらず。此感敵の虚喝に怯えし、黒の一手不足なり。

〔一二二九五〕
黒地を主とす

黒三は、四圍の形勢如何によつては、かく打つ方、却つて宜しきこともあり。普通は、此形、黒十三、行兵、黒好まず。白十四と緩なり。

〔一二二九六〕
上邊の形勢如何によつては白はイにくへんしてイかへしの手もあり。

白二は、特殊の形勢に於て、稀れに用ゆる手なるも、普通は懸りとして、近頃まではまり手ざりしが、見受け一般配置高く來りなりしため、※の二の懸りも時々、實戰に用ゐらる。

〔一二二九七〕
互角の形

黒五と斜走すれば、白は五の方面に恰好の着手を得ず。白乃ち轉じて八・十二。此形は低劣なれど、黒九・十一は不利なれど、五の方面に利せり。

〔一二二九八〕
黒の形好まず

黒五。白六は唯一の此形に於ける點。かくて白は、好點敏に向つて觸手の銳に向つて働く。黒の隅は、次に白イの狙ひあり。隅は黒地とは、確實に未だ得ず。

〔一二二九九〕
互角の分れ

白は又、四の突當りを先きに六と斜走する手もあり。十までは一二九五圖に比すると互に一得一失あり。

〔一二三〇〇〕
黒善し

白四は、黒即ち五に逆ち、黒軍左右に、黒棋歩、要點。黒九は、黒遂に先手を二前めに、敵を一段す。次に黒、イとロの攻を見る。

〔一二三〇一〕
黒善し

白若し十に尖めば、黒は十一と進、白十二と鋭く二に辛活をせる。黒子十の足場を尖峰一團厚し。

〔一二三〇二〕
黒優れり

白窮鼠猫を噛むの類、黒八・十に反噛し來らば、十三。黒かは九・十一と得も、十三までに、黒の二子を取りも、形如何にも厚し。

〔一二三〇三〕
黒　勝

白十二は、寧ろ黒十三と殺到す。白應酬し、潰ゆるあらず、白十四を十六と逃れば、黒ロ。

〔一二三〇四〕
黒優れり

白六・八なれば、黒は九に、隅を堅く守ると同時に、白を駄目を詰むるに、可。攻むるも、可。一旦づれにしても、白四に打過ぎ、黒は、白五と逆撃されて不可なり。

〔一二三〇五〕
常　形

此形、黒はまた、五と外より附ける手もあり。其結果は前圖一二八と略〻同じき、多少意味の異る處もあり。白八・十手厚し。黒九は、一着隅※

〔一二三〇六〕
場合による

白六の時、黒若し右邊の形勢を主とする場合には、七・九・十一と打つべし。此形、十・十一兩共に、十邊に勢ひを爭ふ。

〔一二三〇七〕
白の形崩る

白六の飛びは、如何なる高踏にも過ぎも、實性を缺く。果然、黒七に要點を占むるに至つては、白根據を奪はるるも、切りし、白八・黒十と切りし時、黒十一・十三、大いに善し。

〔一二三〇八〕白氣の利かぬ形

白十二に綿上げれば、黒十一に無論下ぬ。時に白十四に打抜れば、黒十三に切るべし。白十四で宜し。粘れば、次に八でも十でも、或は八と十の打抜たる事なれば、黒は白ニを見合ひたる処。黒ニとは、白ニとなし。此形上辺は黒十五面に白十七良し。黒ホは白ニなれば、黒ヘは白ト切れば、白ヌ黒ワリに良し。

〔一二三〇九〕白悪しからず

黒若し三と行びば、白は四に次ぎ六。黒九の切りは痛烈。但し此時、白が六と忍びて十以下十一と驚かずして、大勢の利を失ひたる老巧。

〔一二三一〇〕白稍難色あり

凡そ事時を得ざれば成り難し。白ん六・八は、ビシ〳〵も、機尚早なり。黒二時き目詰めの為めに、稍窮屈の憾あり。

〔一二三一一〕白の形稍優る

白八もあり。黒九に追撃は無論上げ、次に下切れば、黒十三に切るべし。白十四で宜し。時に白十六・八に切り傷を負ふは、然れども後二手の策無し。

〔一二三一二〕形勢互角

黒十一は、前図の不結果なり。未然に避けんには、白十二に鼓むとも、黒十三に此時白ニに切れば、黒ホ白ヘ。

〔一二三一三〕白地確定せず

白四、而して黒五の時白六には、七に行びて悪し。黒七に行びて好稍良し。反之、白形好なるも、黒遂に九に尚ほ走り得ず。白の足場猶確れり。

〔一二三一四〕征如何による

白直ちに二、これも白好まず。黒五の尖端に白好手段無し。此形、白十に切て宜し。

〔一二三一五〕白低く好まず

前変化の如く打つは、黒征悪しき時は、一に下切れば、白十五で宜し。白十六な！黒十七に白十八。黒ニ転斯く、白二の如く、一、三の策無し。

〔一二三一六〕黒良し

白十四悪点。黒は十五の要点に叩く。以下黒二八で一に厚曲れば、白ニに此時黒ホと打つの攻めて宜し。

〔一二三一七〕黒の勢善し

白八に粘げば、黒九に追ひ、尋で白十に来る。次や、黒は白十一に関係なるも、白十二に厚く、黒ヘに善し。白十三に利して、黒二・三を先だつ敏なり。白十四に低く、黒二・三を後なり。白十五に向ひ、黒ホ・ヘの攻合黒敗れ、白ニに掛粘げば

【一二三三〇】互角の分れ

白四のとき黒は一手抜が此場合、黒は五と尖む手善し。黒五とは、此形には、場合の手段九〇七一圖に九に粘げば、白イと引いて良し。

【一二三三一】黒低し

黒五は一手抜、低くして好まず。白六と尾を切り、黒七と宜しく擊ち、白八・十と遂に黒七なれば、黒は一手抜、白イと飛出して良し。

【一二三三二】互角の分れ

黒一を手抜のときは、白は此場合二と内側より附けるも、十四手目の形、白は一手で多きも形、勢は先づ互角なり。

【一二三三三】白稍不利

白六の方より切り、黒は一に飛出すに至つて、形堅く、加之、白は抱へ・十と、形も未だ完全ならず。

【一二三三四】黒の形拙し

黒五、低くして悪し。白は六・八にて宜し。黒九なれば、白十に、黒一隅に封ず。——平、嗟、憂き目、雄圖遂に空し。

【一二三三五】變化未定

先 柴山文吾三段
番 松澤鶴次郎三段
勝

白ロに打ち以下の變化は、四圖の形勢上、白黒共に打つの外、無かりしものなら ん。白二四まで遁れ、未だ亂撃の最中なれども、真の形に單にこれだけの形にて見るときは、黒可なり。如何となれば、黒は、且つ隅に地を有し、且つ九以下の黒も健全なればなり。

【一二三三六】手段共に精妙

先 久保松勝喜代六段
勝 長谷川章當時四段

兵挙曰く「勝兵は、先づ勝ちて而る後に戦を求む。所謂勝兵は、此形、黒が豫め棋勢を察して一手抜の趣あり。後ふもの、五と高く懸りて一手抜の趣あり。後ふもの、五と高く懸りて一手抜の趣あり。後ふもの、五と高く懸りて

〔一二三四五〕

基本原圖

大斜千變

白目外し、黒二の小斜走懸り、に對し白三と掛ける變化を大斜定石と云ふ。元來此變化は、前型「目外し」小斜走懸りの中に含まるべきものなれども、此形には實に端倪すべからざる微妙の變化あり。蓋し、此の大斜掛けの問題は、その打始められてより今日に至るまで、上下壹百有餘年、その間、棋界に現はれし幾多の名人上手が、その天稟の大才と深き蘊蓄を傾けて研究せしも未だ以て究盡し能はざるなり。

故に、此處には篇を別とし新たに基本原圖を起して、この大斜千變の難問題をあらゆる方面より研究して、今日に於ける可能の範圍内に於ては、萬遺漏なきを期せんとするものなり。

〔一二三四六〕

基本序圖

此變化、初めに白を一と、せしは、此大斜定石を局面を廣く持たんとするに打つ手なれば時になり。次に白三に對しては、黒＊

〔一二三四七〕

基本圖

（第一一二型）

白三に對し、黒四と附けれは以下七まで常形。尤も、白黒双方共に本圖以外の打ち方も無きにはあらざれ＊

〔一二三四八〕

基本圖

（第一一二型イ）

白七の時、黒は圖の如く八に粘ぐ手と、八を九と上に粘ぐ手とあり。そのうち、黒八は常形。八を九と＊

〔一二三五〇〕

基本圖

（第一一二型イの一變化）

白は十九の、大々斜と飛ぶ形、普通にあまりに考へれば過ぎるやうなれど、熟看せば、此手は、輕妙にして豪快、且つ以下との釣合も宜し。

＊十三は正着。イとロなどは、共に場合の手段なり。

＊粘ぐりは、場合の手段なり。

＊ど、それらは變則、場合の手段なり。

＊イ・ロ・ハ・ニの應け及び手抜と其他の手段あり。

〔一二三四九〕

基本圖

（第一一二型イの一）

次に白九と切りし時、黒は十と、イとの應けあり。十は正着。イの切返しは、以下棋勢の紛糾とするを避けんとする場合に用ゆる定石なり。次に白十一と、黒十二とは共に必然の着手。

〔一二三五一〕

基本圖

（第一一二型イの一變化の甲）

白十三には黒は必ず十四。第卷二五七圖以下參照に十五は、外になどの手段あり。その、十五正着。而して以下は稍緩手にして類し、はキビシク、は面白からず。

〔一二三五二〕

定石

黒十六以下九まで、此に正着にては、共に形は、大斜定石中實戰に現はるること最も多し。蓋し、此の定石は、大斜定石の基本調を爲すものなり。

〔一二三五三〕

三間夾と同形

黒五と尖めば、第二卷に見る三間夾五二七八圖以下と同形なれど、白四の時、黒が後から尖むる理無し。此場合黒五は無論イに飛ぶ筋なり。

〔一二三五四〕

好まず

五 黒五ではイが正形なり。五をロ・ハ・ニ・或は圖の五而して七の形に於ては、特殊の形勢に於ては、稀に打つことあれども、何れも、イの正着に及ばず。

〔一二三五五〕

味悪し

五 黒五は、早く右下隅に達せんと、かくあらざれば、急ぐに打つことの無きを、此形に於ては、後に白よりイなはロに切断を試みらるゝ＊

＊後患を殘す。五はイに及ばず。

〔一二三五六〕

定石

白二、劍を挾じて迫る。黒三、止むを得ず。若し黒二を怠れば、白イ、黒ロ、白ハと、黒ニの時、白ホと、なつて割箏なる。黒は左右に生くる如き、苦しみあり。次に、黒二に、白ホは、次稍

〔一二三五七〕

常形

白二、黒三、白四、黒五、白六、黒七、白八、黒九、白十、黒十一、白十二、黒十三、白十四、黒十五、白十六、黒十七、白十八、黒十九、白二十、黒二十一、白二十二、黒二十三、白二十四、黒二十五、白二十六、黒二十七、白二十八、黒二十九、白三十、黒三十一、白三十二、黒三十三、白三十四、黒三十五、白三十六、黒三十七、白三十八、黒三十九、白四十、黒四十一、白四十二、黒四十三、白四十四、黒四十五、白四十六、黒四十七、白四十八、黒四十九、白五十、黒五十一、白五十二、黒五十三、白五十四、黒五十五、白五十六、黒五十七、白五十八、黒五十九、白六十、黒六十一、白六十二、黒六十三、白六十四、黒六十五、白六十六、黒六十七、白六十八、黒六十九、白七十、黒七十一、白七十二、黒七十三、白七十四、黒七十五、白七十六、黒七十七、白七十八、黒七十九、白八十、黒八十一、白八十二、黒八十三、白八十四、黒八十五、白八十六、黒八十七、白八十八、黒八十九、白九十、黒九十一、白九十二、黒九十三、白九十四、黒九十五、白九十六、黒九十七、白九十八、黒九十九、白百、黒百一、白百二、黒百三、白百四、黒百五、白百六、黒百七、白百八、黒百九、白百十、黒百十一、白百十二、黒百十三、白百十四、黒百十五、白百十六、黒百十七、白百十八、黒百十九、白百二十、黒百二十一、白百二十二、黒百二十三、白百二十四、黒百二十五、白百二十六、黒百二十七、白百二十八、黒百二十九、白百三十、黒百三十一、白百三十二、黒百三十三、白百三十四、黒百三十五、白百三十六、黒百三十七、白百三十八、黒百三十九、白百四十、黒百四十一、白百四十二、黒百四十三、白百四十四、黒百四十五、白百四十六、黒百四十七、白百四十八、黒百四十九、白百五十、黒百五十一、白百五十二、黒百五十三、白百五十四、黒百五十五、白百五十六、黒百五十七、白百五十八、黒百五十九、白百六十、黒百六十一、白百六十二、黒百六十三、白百六十四、黒百六十五、白百六十六、黒百六十七、白百六十八、黒百六十九、白百七十、黒百七十一、白百七十二、黒百七十三、白百七十四、黒百七十五、白百七十六、黒百七十七、白百七十八、黒百七十九、白百八十、黒百八十一、白百八十二、黒百八十三、白百八十四、黒百八十五、白百八十六、黒百八十七、白百八十八、黒百八十九、白百九十、黒百九十一、白百九十二、黒百九十三、白百九十四、黒百九十五、白百九十六、黒百九十七、白百九十八、黒百九十九、白二百、黒二百一、白二百二、黒二百三、白二百四、黒二百五、白二百六、黒二百七、白二百八、黒二百九、白二百十、黒二百十一、白二百十二、黒二百十三、白二百十四、黒二百十五、白二百十六、黒二百十七、白二百十八、黒二百十九、白二百二十、黒二百二十一、白二百二十二、黒二百二十三、白二百二十四、黒二百二十五、白二百二十六、黒二百二十七、白二百二十八、黒二百二十九、白二百三十、黒二百三十一、白二百三十二、黒二百三十三、白二百三十四、黒二百三十五、白二百三十六、黒二百三十七、白二百三十八、黒二百三十九、白二百四十、黒二百四十一、白二百四十二、黒二百四十三、白二百四十四、黒二百四十五、白二百四十六、黒二百四十七、白二百四十八、黒二百四十九、白二百五十、黒二百五十一、白二百五十二、黒二百五十三、白二百五十四、黒二百五十五、白二百五十六、黒二百五十七、白二百五十八、黒二百五十九、白二百六十、黒二百六十一、白二百六十二、黒二百六十三、白二百六十四、黒二百六十五、白二百六十六、黒二百六十七、白二百六十八、黒二百六十九、白二百七十、黒二百七十一、白二百七十二、黒二百七十三、白二百七十四、黒二百七十五、白二百七十六、黒二百七十七、白二百七十八、黒二百七十九、白二百八十、黒二百八十一、白二百八十二、黒二百八十三、白二百八十四、黒二百八十五、白二百八十六、黒二百八十七、白二百八十八、黒二百八十九、白二百九十、黒二百九十一、白二百九十二、黒二百九十三、白二百九十四、黒二百九十五、白二百九十六、黒二百九十七、白二百九十八、黒二百九十九、白三百、黒三百一、白三百二、黒三百三、白三百四、黒三百五、白三百六、黒三百七、白三百八、黒三百九、白三百十、黒三百十一、白三百十二、黒三百十三、白三百十四、黒三百十五、白三百十六、黒三百十七、白三百十八、黒三百十九、白三百二十、黒三百二十一、白三百二十二、黒三百二十三、白三百二十四、黒三百二十五、白三百二十六、黒三百二十七、白三百二十八、黒三百二十九、白三百三十、黒三百三十一、白三百三十二、黒三百三十三、白三百三十四、黒三百三十五、白三百三十六、黒三百三十七、白三百三十八、黒三百三十九、白三百四十、黒三百四十一、白三百四十二、黒三百四十三、白三百四十四、黒三百四十五、白三百四十六、黒三百四十七、白三百四十八、黒三百四十九、白三百五十、黒三百五十一、白三百五十二、黒三百五十三、白三百五十四、黒三百五十五、白三百五十六、黒三百五十七、白三百五十八、黒三百五十九、白三百六十、黒三百六十一、白三百六十二、黒三百六十三、白三百六十四、黒三百六十五、白三百六十六、黒三百六十七、白三百六十八、黒三百六十九、白三百七十、黒三百七十一、白三百七十二、黒三百七十三、白三百七十四、黒三百七十五、白三百七十六、黒三百七十七、白三百七十八、黒三百七十九、白三百八十、黒三百八十一、白三百八十二、黒三百八十三、白三百八十四、黒三百八十五、白三百八十六、黒三百八十七、白三百八十八、黒三百八十九、白三百九十、黒三百九十一、白三百九十二、黒三百九十三、白三百九十四、黒三百九十五、白三百九十六、黒三百九十七、白三百九十八、黒三百九十九、白四百、黒四百一、白四百二、黒四百三、白四百四、黒四百五、白四百六、黒四百七、白四百八、黒四百九、白四百十、黒四百十一、白四百十二、黒四百十三、白四百十四、黒四百十五、白四百十六、黒四百十七、白四百十八、黒四百十九、白四百二十、黒四百二十一、白四百二十二、黒四百二十三、白四百二十四、黒四百二十五、白四百二十六、黒四百二十七、白四百二十八、黒四百二十九、白四百三十、黒四百三十一、白四百三十二、黒四百三十三、白四百三十四、黒四百三十五、白四百三十六、黒四百三十七、白四百三十八、黒四百三十九、白四百四十、黒四百四十一、白四百四十二、黒四百四十三、白四百四十四、黒四百四十五、白四百四十六、黒四百四十七、白四百四十八、黒四百四十九、白四百五十、黒四百五十一、白四百五十二、黒四百五十三、白四百五十四、黒四百五十五、白四百五十六、黒四百五十七、白四百五十八、黒四百五十九、白四百六十、黒四百六十一、白四百六十二、黒四百六十三、白四百六十四、黒四百六十五、白四百六十六、黒四百六十七、白四百六十八、黒四百六十九、白四百七十、黒四百七十一、白四百七十二、黒四百七十三、白四百七十四、黒四百七十五、白四百七十六、黒四百七十七、白四百七十八、黒四百七十九、白四百八十、黒四百八十一、白四百八十二、黒四百八十三、白四百八十四、黒四百八十五、白四百八十六、黒四百八十七、白四百八十八、黒四百八十九、白四百九十、黒四百九十一、白四百九十二、黒四百九十三、白四百九十四、黒四百九十五、白四百九十六、黒四百九十七、白四百九十八、黒四百九十九、白五百、黒五百一、白五百二、黒五百三、白五百四、黒五百五、白五百六、黒五百七、白五百八、黒五百九、白五百十、黒五百十一、白五百十二、黒五百十三、白五百十四、黒五百十五、白五百十六、黒五百十七、白五百十八、黒五百十九、白五百二十、黒五百二十一、白五百二十二、黒五百二十三、白五百二十四、黒五百二十五、白五百二十六、黒五百二十七、白五百二十八、黒五百二十九、白五百三十、黒五百三十一、白五百三十二、黒五百三十三、白五百三十四、黒五百三十五、白五百三十六、黒五百三十七、白五百三十八、黒五百三十九、白五百四十、黒五百四十一、白五百四十二、黒五百四十三、白五百四十四、黒五百四十五、白五百四十六、黒五百四十七、白五百四十八、黒五百四十九、白五百五十、黒五百五十一、白五百五十二、黒五百五十三、白五百五十四、黒五百五十五、白五百五十六、黒五百五十七、白五百五十八、黒五百五十九、白五百六十、黒五百六十一、白五百六十二、黒五百六十三、白五百六十四、黒五百六十五、白五百六十六、黒五百六十七、白五百六十八、黒五百六十九、白五百七十、黒五百七十一、白五百七十二、黒五百七十三、白五百七十四、黒五百七十五、白五百七十六、黒五百七十七、白五百七十八、黒五百七十九、白五百八十、黒五百八十一、白五百八十二、黒五百八十三、白五百八十四、黒五百八十五、白五百八十六、黒五百八十七、白五百八十八、黒五百八十九、白五百九十、黒五百九十一、白五百九十二、黒五百九十三、白五百九十四、黒五百九十五、白五百九十六、黒五百九十七、白五百九十八、黒五百九十九、白六百、黒六百一、白六百二、黒六百三、白六百四、黒六百五、白六百六、黒六百七、白六百八、黒六百九、白六百十、黒六百十一、白六百十二、黒六百十三、白六百十四、黒六百十五、白六百十六、黒六百十七、白六百十八、黒六百十九、白六百二十、黒六百二十一、白六百二十二、黒六百二十三、白六百二十四、黒六百二十五、白六百二十六、黒六百二十七、白六百二十八、黒六百二十九、白六百三十、黒六百三十一、白六百三十二、黒六百三十三、白六百三十四、黒六百三十五、白六百三十六、黒六百三十七、白六百三十八、黒六百三十九、白六百四十、黒六百四十一、白六百四十二、黒六百四十三、白六百四十四、黒六百四十五、白六百四十六、黒六百四十七、白六百四十八、黒六百四十九、白六百五十、黒六百五十一、白六百五十二、黒六百五十三、白六百五十四、黒六百五十五、白六百五十六、黒六百五十七、白六百五十八、黒六百五十九、白六百六十、黒六百六十一、白六百六十二、黒六百六十三、白六百六十四、黒六百六十五、白六百六十六、黒六百六十七、白六百六十八、黒六百六十九、白六百七十、黒六百七十一、白六百七十二、黒六百七十三、白六百七十四、黒六百七十五、白六百七十六、黒六百七十七、白六百七十八、黒六百七十九、白六百八十、黒六百八十一、白六百八十二、黒六百八十三、白六百八十四、黒六百八十五、白六百八十六、黒六百八十七、白六百八十八、黒六百八十九、白六百九十、黒六百九十一、白六百九十二、黒六百九十三、白六百九十四、黒六百九十五、白六百九十六、黒六百九十七、白六百九十八、黒六百九十九、白七百、黒七百一、白七百二、黒七百三、白七百四、黒七百五、白七百六、黒七百七、白七百八、黒七百九、白七百十、黒七百十一、白七百十二、黒七百十三、白七百十四、黒七百十五、白七百十六、黒七百十七、白七百十八、黒七百十九、白七百二十、黒七百二十一、白七百二十二、黒七百二十三、白七百二十四、黒七百二十五、白七百二十六、黒七百二十七、白七百二十八、黒七百二十九、白七百三十、黒七百三十一、白七百三十二、黒七百三十三、白七百三十四、黒七百三十五、白七百三十六、黒七百三十七、白七百三十八、黒七百三十九、白七百四十、黒七百四十一、白七百四十二、黒七百四十三、白七百四十四、黒七百四十五、白七百四十六、黒七百四十七、白七百四十八、黒七百四十九、白七百五十、黒七百五十一、白七百五十二、黒七百五十三、白七百五十四、黒七百五十五、白七百五十六、黒七百五十七、白七百五十八、黒七百五十九、白七百六十、黒七百六十一、白七百六十二、黒七百六十三、白七百六十四、黒七百六十五、白七百六十六、黒七百六十七、白七百六十八、黒七百六十九、白七百七十、黒七百七十一、白七百七十二、黒七百七十三、白七百七十四、黒七百七十五、白七百七十六、黒七百七十七、白七百七十八、黒七百七十九、白七百八十、黒七百八十一、白七百八十二、黒七百八十三、白七百八十四、黒七百八十五、白七百八十六、黒七百八十七、白七百八十八、黒七百八十九、白七百九十、黒七百九十一、白七百九十二、黒七百九十三、白七百九十四、黒七百九十五、白七百九十六、黒七百九十七、白七百九十八、黒七百九十九、白八百、黒八百一、白八百二、黒八百三、白八百四、黒八百五、白八百六、黒八百七、白八百八、黒八百九、白八百十、黒八百十一、白八百十二、黒八百十三、白八百十四、黒八百十五、白八百十六、黒八百十七、白八百十八、黒八百十九、白八百二十、黒八百二十一、白八百二十二、黒八百二十三、白八百二十四、黒八百二十五、白八百二十六、黒八百二十七、白八百二十八、黒八百二十九、白八百三十、黒八百三十一、白八百三十二、黒八百三十三、白八百三十四、黒八百三十五、白八百三十六、黒八百三十七、白八百三十八、黒八百三十九、白八百四十、黒八百四十一、白八百四十二、黒八百四十三、白八百四十四、黒八百四十五、白八百四十六、黒八百四十七、白八百四十八、黒八百四十九、白八百五十、黒八百五十一、白八百五十二、黒八百五十三、白八百五十四、黒八百五十五、白八百五十六、黒八百五十七、白八百五十八、黒八百五十九、白八百六十、黒八百六十一、白八百六十二、黒八百六十三、白八百六十四、黒八百六十五、白八百六十六、黒八百六十七、白八百六十八、黒八百六十九、白八百七十、黒八百七十一、白八百七十二、黒八百七十三、白八百七十四、黒八百七十五、白八百七十六、黒八百七十七、白八百七十八、黒八百七十九、白八百八十、黒八百八十一、白八百八十二、黒八百八十三、白八百八十四、黒八百八十五、白八百八十六、黒八百八十七、白八百八十八、黒八百八十九、白八百九十、黒八百九十一、白八百九十二、黒八百九十三、白八百九十四、黒八百九十五、白八百九十六、黒八百九十七、白八百九十八、黒八百九十九、白九百、黒九百一、白九百二、黒九百三、白九百四、黒九百五、白九百六、黒九百七、白九百八、黒九百九、白九百十、黒九百十一、白九百十二、黒九百十三、白九百十四、黒九百十五、白九百十六、黒九百十七、白九百十八、黒九百十九、白九百二十、黒九百二十一、白九百二十二、黒九百二十三、白九百二十四、黒九百二十五、白九百二十六、黒九百二十七、白九百二十八、黒九百二十九、白九百三十、黒九百三十一、白九百三十二、黒九百三十三、白九百三十四、黒九百三十五、白九百三十六、黒九百三十七、白九百三十八、黒九百三十九、白九百四十、黒九百四十一、白九百四十二、黒九百四十三、白九百四十四、黒九百四十五、白九百四十六、黒九百四十七、白九百四十八、黒九百四十九、白九百五十、黒九百五十一、白九百五十二、黒九百五十三、白九百五十四、黒九百五十五、白九百五十六、黒九百五十七、白九百五十八、黒九百五十九、白九百六十、黒九百六十一、白九百六十二、黒九百六十三、白九百六十四、黒九百六十五、白九百六十六、黒九百六十七、白九百六十八、黒九百六十九、白九百七十、黒九百七十一、白九百七十二、黒九百七十三、白九百七十四、黒九百七十五、白九百七十六、黒九百七十七、白九百七十八、黒九百七十九、白九百八十、黒九百八十一、白九百八十二、黒九百八十三、白九百八十四、黒九百八十五、白九百八十六、黒九百八十七、白九百八十八、黒九百八十九、白九百九十、黒九百九十一、白九百九十二、黒九百九十三、白九百九十四、黒九百九十五、白九百九十六、黒九百九十七、白九百九十八、黒九百九十九、白千、黒千一、白千二、黒千三、白千四、黒千五、白千六、黒千七、白千八、黒千九、白千十、黒千十一、白千十二、黒千十三、白千十四、黒千十五、白千十六、黒千十七、白千十八、黒千十九、白千二十、黒千二十一、白千二十二、黒千二十三、白千二十四、黒千二十五、白千二十六、黒千二十七、白千二十八、黒千二十九、白千三十、黒千三十一、白千三十二、黒千三十三、白千三十四、黒千三十五、白千三十六、黒千三十七、白千三十八、黒千三十九、白千四十、黒千四十一、白千四十二、黒千四十三、白千四十四、黒千四十五、白千四十六、黒千四十七、白千四十八、黒千四十九、白千五十、黒千五十一、白千五十二、黒千五十三、白千五十四、黒千五十五、白千五十六、黒千五十七、白千五十八、黒千五十九、白千六十、黒千六十一、白千六十二、黒千六十三、白千六十四、黒千六十五、白千六十六、黒千六十七、白千六十八、黒千六十九、白千七十、黒千七十一、白千七十二、黒千七十三、白千七十四、黒千七十五、白千七十六、黒千七十七、白千七十八、黒千七十九、白千八十、黒千八十一、白千八十二、黒千八十三、白千八十四、黒千八十五、白千八十六、黒千八十七、白千八十八、黒千八十九、白千九十、黒千九十一、白千九十二、黒千九十三、白千九十四、黒千九十五、白千九十六、黒千九十七、白千九十八、黒千九十九、白千百、黒千百一、白千百二、黒千百三、白千百四、黒千百五、白千百六、黒千百七、白千百八、黒千百九、白千百十、黒千百十一、白千百十二、黒千百十三、白千百十四、黒千百十五、白千百十六、黒千百十七、白千百十八、黒千百十九、白千百二十、黒千百二十一、白千百二十二、黒千百二十三、白千百二十四、黒千百二十五、白千百二十六、黒千百二十七、白千百二十八、黒千百二十九、白千百三十、黒千百三十一、白千百三十二、黒千百三十三、白千百三十四、黒千百三十五、白千百三十六、黒千百三十七、白千百三十八、黒千百三十九、白千百四十、黒千百四十一、白千百四十二、黒千百四十三、白千百四十四、黒千百四十五、白千百四十六、黒千百四十七、白千百四十八、黒千百四十九、白千百五十、黒千百五十一、白千百五十二、黒千百五十三、白千百五十四、黒千百五十五、白千百五十六、黒千百五十七、白千百五十八、黒千百五十九、白千百六十、黒千百六十一、白千百六十二、黒千百六十三、白千百六十四、黒千百六十五、白千百六十六、黒千百六十七、白千百六十八、黒千百六十九、白千百七十、黒千百七十一、白千百七十二、黒千百七十三、白千百七十四、黒千百七十五、白千百七十六、黒千百七十七、白千百七十八、黒千百七十九、白千百八十、黒千百八十一、白千百八十二、黒千百八十三、白千百八十四、黒千百八十五、白千百八十六、黒千百八十七、白千百八十八、黒千百八十九、白千百九十、黒千百九十一、白千百九十二、黒千百九十三、白千百九十四、黒千百九十五、白千百九十六、黒千百九十七、白千百九十八、黒千百九十九、白千二百、黒千二百一、白千二百二、黒千二百三、白千二百四、黒千二百五、白千二百六、黒千二百七、白千二百八、黒千二百九、白千二百十、黒千二百十一、白千二百十二、黒千二百十三、白千二百十四、黒千二百十五、白千二百十六、黒千二百十七、白千二百十八、黒千二百十九、白千二百二十、黒千二百二十一、白千二百二十二、黒千二百二十三、白千二百二十四、黒千二百二十五、白千二百二十六、黒千二百二十七、白千二百二十八、黒千二百二十九、白千二百三十、黒千二百三十一、白千二百三十二、黒千二百三十三、白千二百三十四、黒千二百三十五、白千二百三十六、黒千二百三十七、白千二百三十八、黒千二百三十九、白千二百四十、黒千二百四十一、白千二百四十二、黒千二百四十三、白千二百四十四、黒千二百四十五、白千二百四十六、黒千二百四十七、白千二百四十八、黒千二百四十九、白千二百五十、黒千二百五十一、白千二百五十二、黒千二百五十三、白千二百五十四、黒千二百五十五、白千二百五十六、黒千二百五十七、白千二百五十八、黒千二百五十九、白千二百六十、黒千二百六十一、白千二百六十二、黒千二百六十三、白千二百六十四、黒千二百六十五、白千二百六十六、黒千二百六十七、白千二百六十八、黒千二百六十九、白千二百七十、黒千二百七十一、白千二百七十二、黒千二百七十三、白千二百七十四、黒千二百七十五、白千二百七十六、黒千二百七十七、白千二百七十八、黒千二百七十九、白千二百八十、黒千二百八十一、白千二百八十二、黒千二百八十三、白千二百八十四、黒千二百八十五、白千二百八十六、黒千二百八十七、白千二百八十八、黒千二百八十九、白千二百九十、黒千二百九十一、白千二百九十二、黒千二百九十三、白千二百九十四、黒千二百九十五、白千二百九十六、黒千二百九十七、白千二百九十八、黒千二百九十九、白千三百、黒千三百一、白千三百二、黒千三百三、白千三百四、黒千三百五、白千三百六、黒千三百七、白千三百八、黒千三百九、白千三百十、黒千三百十一、白千三百十二、黒千三百十三、白千三百十四、黒千三百十五、白千三百十六、黒千三百十七、白千三百十八、黒千三百十九、白千三百二十、黒千三百二十一、白千三百二十二、黒千三百二十三、白千三百二十四、黒千三百二十五、白千三百二十六、黒千三百二十七、白千三百二十八、黒千三百二十九、白千三百三十、黒千三百三十一、白千三百三十二、黒千三百三十三、白千三百三十四、黒千三百三十五、白千三百三十六、黒千三百三十七、白千三百三十八、黒千三百三十九、白千三百四十、黒千三百四十一、白千三百四十二、黒千三百四十三、白千三百四十四、黒千三百四十五、白千三百四十六、黒千三百四十七、白千三百四十八、黒千三百四十九、白千三百五十、黒千三百五十一、白千三百五十二、黒千三百五十三、白千三百五十四、黒千三百五十五、白千三百五十六、黒千三百五十七、白千三百五十八、黒千三百五十九、白千三百六十、黒千三百六十一、白千三百六十二、黒千三百六十三、白千三百六十四、黒千三百六十五、白千三百六十六、黒千三百六十七、白千三百六十八、黒千三百六十九、白千三百七十、黒千三百七十一、白千三百七十二、黒千三百七十三、白千三百七十四、黒千三百七十五、白千三百七十六、黒千三百七十七、白千三百七十八、黒千三百七十九、白千三百八十、黒千三百八十一、白千三百八十二、黒千三百八十三、白千三百八十四、黒千三百八十五、白千三百八十六、黒千三百八十七、白千三百八十八、黒千三百八十九、白千三百九十、黒千三百九十一、白千三百九十二、黒千三百九十三、白千三百九十四、黒千三百九十五、白千三百九十六、黒千三百九十七、白千三百九十八、黒千三百九十九、白千四百、黒千四百一、白千四百二、黒千四百三、白千四百四、黒千四百五、白千四百六、黒千四百七、白千四百八、黒千四百九、白千四百十、黒千四百十一、白千四百十二、黒千四百十三、白千四百十四、黒千四百十五、白千四百十六、黒千四百十七、白千四百十八、黒千四百十九、白千四百二十、黒千四百二十一、白千四百二十二、黒千四百二十三、白千四百二十四、黒千四百二十五、白千四百二十六、黒千四百二十七、白千四百二十八、黒千四百二十九、白千四百三十、黒千四百三十一、白千四百三十二、黒千四百三十三、白千四百三十四、黒千四百三十五、白千四百三十六、黒千四百三十七、白千四百三十八、黒千四百三十九、白千四百四十、黒千四百四十一、白千四百四十二、黒千四百四十三、白千四百四十四、黒千四百四十五、白千四百四十六、黒千四百四十七、白千四百四十八、黒千四百四十九、白千四百五十、黒千四百五十一、白千四百五十二、黒千四百五十三、白千四百五十四、黒千四百五十五、白千四百五十六、黒千四百五十七、白千四百五十八、黒千四百五十九、白千四百六十、黒千四百六十一、白千四百六十二、黒千四百六十三、白千四百六十四、黒千四百六十五、白千四百六十六、黒千四百六十七、白千四百六十八、黒千四百六十九、白千四百七十、黒千四百七十一、白千四百七十二、黒千四百七十三、白千四百七十四、黒千四百七十五、白千四百七十六、黒千四百七十七、白千四百七十八、黒千四百七十九、白千四百八十、黒千四百八十一、白千四百八十二、黒千四百八十三、白千四百八十四、黒千四百八十五、白千四百八十六、黒千四百八十七、白千四百八十八、黒千四百八十九、白千四百九十、黒千四百九十一、白千四百九十二、黒千四百九十三、白千四百九十四、黒千四百九十五、白千四百九十六、黒千四百九十七、白千四百九十八、黒千四百九十九、白千五百、黒千五百一、白千五百二、黒千五百三、白千五百四、黒千五百五、白千五百六、黒千五百七、白千五百八、黒千五百九、白千五百十、黒千五百十一、白千五百十二、黒千五百十三、白千五百十四、黒千五百十五、白千五百十六、黒千五百十七、白千五百十八、黒千五百十九、白千五百二十、黒千五百二十一、白千五百二十二、黒千五百二十三、白千五百二十四、黒千五百二十五、白千五百二十六、黒千五百二十七、白千五百二十八、黒千五百二十九、白千五百三十、黒千五百三十一、白千五百三十二、黒千五百三十三、白千五百三十四、黒千五百三十五、白千五百三十六、黒千五百三十七、白千五百三十八、黒千五百三十九、白千五百四十、黒千五百四十一、白千五百四十二、黒千五百四十三、白千五百四十四、黒千五百四十五、白千五百四十六、黒千五百四十七、白千五百四十八、黒千五百四十九、白千五百五十、黒千五百五十一、白千五百五十二、黒千五百五十三、白千五百五十四、黒千五百五十五、白千五百五十六、黒千五百五十七、白千五百五十八、黒千五百五十九、白千五百六十、黒千五百六十一、白千五百六十二、黒千五百六十三、白千五百六十四、黒千五百六十五、白千五百六十六、黒千五百六十七、白千五百六十八、黒千五百六十九、白千五百七十、黒千五百七十一、白千五百七十二、黒千五百七十三、白千五百七十四、黒千五百七十五、白千五百七十六、黒千五百七十七、白千五百七十八、黒千五百七十九、白千五百八十、黒千五百八十一、白千五百八十二、黒千五百八十三、白千五百八十四、黒千五百八十五、白千五百八十六、黒千五百八十七、白千五百八十八、黒千五百八十九、白千五百九十、黒千五百九十一、白千五百九十二、黒千五百九十三、白千五百九十四、黒千五百九十五、白千五百九十六、黒千五百九十七、白千五百九十八、黒千五百九十九、白千六百、黒千六百一、白千六百二、黒千六百三、白千六百四、黒千六百五、白千六百六、黒千六百七、白千六百八、黒千六百九、白千六百十、黒千六百十一、白千六百十二、黒千六百十三、白千六百十四、黒千六百十五、白千六百十六、黒千六百十七、白千六百十八、黒千六百十九、白千六百二十、黒千六百二十一、白千六百二十二、黒千六百二十三、白千六百二十四、黒千六百二十五、白千六百二十六、黒千六百二十七、白千六百二十八、黒千六百二十九、白千六百三十、黒千六百三十一、白千六百三十二、黒千六百三十三、白千六百三十四、黒千六百三十五、白千六百三十六、黒千六百三十七、白千六百三十八、黒千六百三十九、白千六百四十、黒千六百四十一、白千六百四十二、黒千六百四十三、白千六百四十四、黒千六百四十五、白千六百四十六、黒千六百四十七、白千六百四十八、黒千六百四十九、白千六百五十、黒千六百五十一、白千六百五十二、黒千六百五十三、白千六百五十四、黒千六百五十五、白千六百五十六、黒千六百五十七、白千六百五十八、黒千六百五十九、白千六百六十、黒千六百六十一、白千六百六十二、黒千六百六十三、白千六百六十四、黒千六百六十五、白千六百六十六、黒千六百六十七、白千六百六十八、黒千六百六十九、白千六百七十、黒千六百七十一、白千六百七十二、黒千六百七十三、白千六百七十四、黒千六百七十五、白千六百七十六、黒千六百七十七、白千六百七十八、黒千六百七十九、白千六百八十、黒千六百八十一、白千六百八十二、黒千六百八十三、白千六百八十四、黒千六百八十五、白千六百八十六、黒千六百八十七、白千六百八十八、黒千六百八十九、白千六百九十、黒千六百九十一、白千六百九十二、黒千六百九十三、白千六百九十四、黒千六百九十五、白千六百九十六、黒千六百九十七、白千六百九十八、黒千六百九十九、白千七百、黒千七百一、白千七百二、黒千七百三、白千七百四、黒千七百五、白千七百六、黒千七百七、白千七百八、黒千七百九、白千七百十、黒千七百十一、白千七百十二、黒千七百十三、白千七百十四、黒千七百十五、白千七百十六、黒千七百十七、白千七百十八、黒千七百十九、白千七百二十、黒千七百二十一、白千七百二十二、黒千七百二十三、白千七百二十四、黒千七百二十五、白千七百二十六、黒千七百二十七、白千七百二十八、黒千七百二十九、白千七百三十、黒千七百三十一、白千七百三十二、黒千七百三十三、白千七百三十四、黒千七百三十五、白千七百三十六、黒千七百三十七、白千七百三十八、黒千七百三十九、白千七百四十、黒千七百四十一、白千七百四十二、黒千七百四十三、白千七百四十四、黒千七百四十五、白千七百四十六、黒千七百四十七、白千七百四十八、黒千七百四十九、白千七百五十、黒千七百五十一、白千七百五十二、黒千七百五十三、白千七百五十四、黒千七百五十五、白千七百五十六、黒千七百五十七、白千七百五十八、黒千七百五十九、白千七百六十、黒千七百六十一、白千七百六十二、黒千七百六十三、白千七百六十四、黒千七百六十五、白千七百六十六、黒千七百六十七、白千七百六十八、黒千七百六十九、白千七百七十、黒千七百七十一、白千七百七十二、黒千七百七十三、白千七百七十四、黒千七百七十五、白千七百七十六、黒千七百七十七、白千七百七十八、黒千七百七十九、白千七百八十、黒千七百八十一、白千七百八十二、黒千七百八十三、白千七百八十四、黒千七百八十五、白千七百八十六、黒千七百八十七、白千七百八十八、黒千七百八十九、白千七百九十、黒千七百九十一、白千七百九十二、黒千七百九十三、白千七百九十四、黒千七百九十五、白千七百九十六、黒千七百九十七、白千七百九十八、黒千七百九十九、白千八百、黒千八百一、白千八百二、黒千八百三、白千八百四、黒千八百五、白千八百六、黒千八百七、白千八百八、黒千八百九、白千八百十、黒千八百十一、白千八百十二、黒千八百十三、白千八百十四、黒千八百十五、白千八百十六、黒千八百十七、白千八百十八、黒千八百十九、白千八百二十、黒千八百二十一、白千八百二十二、黒千八百二十三、白千八百二十四、黒千八百二十五、白千八百二十六、黒千八百二十七、白千八百二十八、黒千八百二十九、白千八百三十、黒千八百三十一、白千八百三十二、黒千八百三十三、白千八百三十四、黒千八百三十五、白千八百三十六、黒千八百三十七、白千八百三十八、黒千八百三十九、白千八百四十、黒千八百四十一、白千八百四十二、黒千八百四十三、白千八百四十四、黒千八百四十五、白千八百四十六、黒千八百四十七、白千八百四十八、黒千八百四十九、白千八百五十、黒千八百五十一、白千八百五十二、黒千八百五十三、白千八百五十四、黒千八百五十五、白千八百五十六、黒千八百五十七、白千八百五十八、黒千八百五十九、白千八百六十、黒千八百六十一、白千八百六十二、黒千八百六十三、白千八百六十四、黒千八百六十五、白千八百六十六、黒千八百六十七、白千八百六十八、黒千八百六十九、白千八百七十、黒千八百七十一、白千八百七十二、黒千八百七十三、白千八百七十四、黒千八百七十五、白千八百七十六、黒千八百七十七、白千八百七十八、黒千八百七十九、白千八百八十、黒千八百八十一、白千八百八十二、黒千八百八十三、白千八百八十四、黒千八百八十五、白千八百八十六、黒千八百八十七、白千八百八十八、黒千八百八十九、白千八百九十、黒千八百九十一、白千八百九十二、黒千八百九十三、白千八百九十四、黒千八百九十五、白千八百九十六、黒千八百九十七、白千八百九十八、黒千八百九十九、白千九百、黒千九百一、白千九百二、黒千九百三、白千九百四、黒千九百五、白千九百六、黒千九百七、白千九百八、黒千九百九、白千九百十、黒千九百十一、白千九百十二、黒千九百十三、白千九百十四、黒千九百十五、白千九百十六、黒千九百十七、白千九百十八、黒千九百十九、白千九百二十、黒千九百二十一、白千九百二十二、黒千九百二十三、白千九百二十四、黒千九百二十五、白千九百二十六、黒千九百二十七、白千九百二十八、黒千九百二十九、白千九百三十、黒千九百三十一、白千九百三十二、黒千九百三十三、白千九百三十四、黒千九百三十五、白千九百三十六、黒千九百三十七、白千九百三十八、黒千九百三十九、白千九百四十、黒千九百四十一、白千九百四十二、黒千九百四十三、白千九百四十四、黒千九百四十五、白千九百四十六、黒千九百四十七、白千九百四十八、黒千九百四十九、白千九百五十、黒千九百五十一、白千九百五十二、黒千九百五十三、白千九百五十四、黒千九百五十五、白千九百五十六、黒千九百五十七、白千九百五十八、黒千九百五十九、白千

〔一二三五八〕
白の形輕し

黒若し九と一間に飛べば、白は一と二と四の間を補ふ如きも必要あるが、これ等は直接に四の間に突出する作戦を可とす、黒も乃ち、四と十一とに鋭く二撃せず、白は故意に手抜きして外輕き方針を採り、二と四との後間に衝き、次に十を以て敵手を攻撃せんとするの作戦なり。

＊四の間を切断せんとすれば、よつて白は十二に守る。

〔一二三六〇〕
白は隅と替る

黒一、白二と、黒三、白四の附近へ越し、良し。白は六に振替れば、黒五をも、妙。白は六に、黒七も、黒は、白八に、決。白は、黒・白の如くツルリと脱け出る。

〔一二三六一〕
白、中に進む

また、黒一なれば、白二。黒五は尋で、此一手。白は六にも手を粘き、黒が蔑視したゆゑ、つぎ、八と、の穢を掲げて、中原に疾く馳す。

〔一二三六二〕
好着なり

白四。黒は五に整形しつゝ、同時に、二と四との間隙を、狙ふ。白六にては、今更ら二、四の間を守るも、堅過ぎるる故に、拆く白六に來るを待つ。

〔一二三六三〕
白無理形

白四は、黒の五との交換は、白の損なり。白六は、四の時よりの豫定の要撃なれども、黒七・九・白十一——四までの形なり。黒七・九・白、俄然、薄し。

〔一二三六四〕
黒低し

黒三、好まず。白四まで六以下十九まで下の黒は、白九の故に、黒三は、特殊の場合は、是非此方面を必要とする或は白に四と打たるゝも差支なり。＊

〔一二三六五〕
黒無理形

黒五・七は、圖の如く、黒三とある場合は、時に無き筋なれども、多くは無理筋なり。黒三の従つてイは、言語道断の惡手なり。

〔一二三六六〕
定石

白十七は、中原に游弋の形、時に面白し。次に白イの攻と、ロの追撃を含む。

〔一二三六七〕
中央戰の形

黒三に對する白四は、手筋にして、且つ二と打ちしての豫定の手段なり。黒五手強段なり。——敵の心臓を塞がしむ。確に黒五をイなれば、稍緩し。

〔一二三六九〕
黒厚壯

白若しくは直ちに十と綿ねれば、黒一、尋で十一に切るに至つては、黒甚だ厚壯なり。

〔一二三七〇〕
白大に惡し

白六・八は甚だ無理なり。黒九・十は、白の左右に痛き一手。黒は一見巧みなるも、白は遂に二に白を打開す。局勢を紛糾して、振替つて、動もすれば簡単に明有利に外勢黒厚し。

〔一二三七一〕
黒可なり

白若し六、次に八、黒十切と、來れば、一・三と動もすれば、白イをロなれば、黒ハ。

〔一二三七二〕
互角の分れ

黒若し、無事平穏を欲すれば、白六と、黒九・痛き一手。白は左右に心は一つに遂に二に白を起たず、黒七も、白イをロなれば、黒ハ。

〔一二三七四〕
場合による

白は先づ四と攻め、黒の五と出るも、白六・八も、亦一理なり。白は、黒の五と拍子に、前後の優劣は、四圖の形勢如何による。

〔一二三七五〕
白優れり

黒三は、稍守備に偏して攻撃力に缺く。白乃ち四と、輕く六と、足下に踏んまへて、友軍呼應して、六まで八に邀へ撃の形勢、白優る。

〔一二三七六〕
白、一策なり

白二は、圖以下の三子との連絡不充分にして、如何にも幽微。連絡絶えず。黒三なれば、黒四に、白二と形、即ち、白一策なり。

〔一二三七三〕
常形

黒十八あり。白十九、黒十、此時二十、白十一定型。尚ほ、此圖、白十一に、あるを、比すれば、黒七の方、形勢必要にして、是非特殊の場合は、白に四と、或は白イに、三五の圖に、なす、とも、差支なり。

〔一二三七五〕
黒厚き形

白十二と綿ねれば、黒十三——次に黒十六と、白十七の形、無理なり。白稍無理なれど、變化至難なり。此の形、來、危機あり。

ライマックス——黒も一歩を誤れば、一瞬に、破滅の淵に、顚落すべし。

圖に、於て、黒は、先に、此圖の、如く、白二、四と、出でゝも、直に、白イと、黒ロとの、交換、白ハ、黒ニと、切つて、黒ヘ、白ホと、黒チと、切つて、活きるべし。

但し、白イに、黒トに、綿ねて、活くべし。

然らざれば、白イ、黒ロと、粘げば、白ハ、黒チと、引いて、上邊の、黒の、活路を、妨げ、至難の處なり。

〔一二三七七〕白の應答善し

先番 加藤 信 當時六段
後番 宮坂栄二 六段

黒勇を鼓して三ヶ所の敵を攻むれば、此時、白は強ねて連絡は圖らず直ちに二目の眞を衝けば、黒は窮地に陷りて、上邊の黒九を振替りに突出せば、白イ。

黒五の時、白六に擬したるは善手。

黒全く逆襲して、四・四の六に十二に連繋をうす。

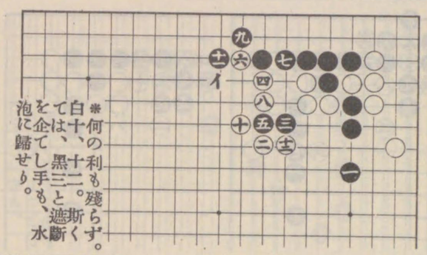
守るに攻むるは即ち逆サ粉れに、そのドサクサに十二に連繋をうす。

黒勇を鼓して三ヶ所の敵を攻むれば、此時、白は強ねて連絡は圖らず直ちに二目の眞を衝けば、黒は窮地に陷りて、上邊の黒九を振替りに突出せば、白イ。

黒五の時、白六に擬したるは善手。

黒全く逆襲して、四・四の六に十二に連繋をうす。

守るに攻むるは即ち逆サ粉れに、そのドサクサに十二に連繋をうす。



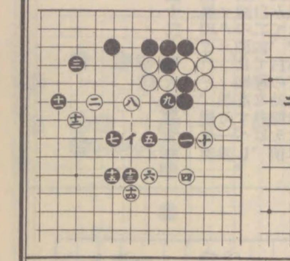
〔一二三七八〕白、一策なり

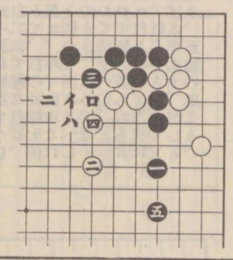
白單に二の一策なり

黒面白きこともあり。

白は、場合により、輕變をも孕みて、黒三、四にて若しイ白ハ黒ニ。

白は、場合により、輕變をも孕みて、黒三、四にて若しイ白ハ黒ニ。

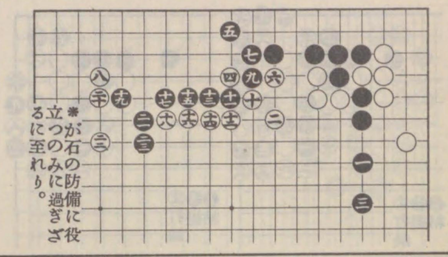




〔一二三七九〕黒厚き形なり

白二なる左方への大斜走は、前圖と異りて、急所を外る。黒は三に應じ、白四、五と、七と、白を上邊に隔て擊つ。

黒は三に應じ、白四、五と、七と、白を上邊に隔て擊つ。



〔一二三八〇〕常形

先番 加藤 信 當時六段
後番 宮坂栄二 六段

黒二十まで、白一も、所謂實戰に屢見る黒二は、大勢力消長に關係ある要點なり。

白二、四・二六に起つ、黒の中の薄なる白に迫る。

黒二十まで、白一も、所謂實戰に屢見る黒二は、大勢力消長に關係ある要點なり。

白二、四・二六に起つ、黒の中の薄なる白に迫る。

〔一二三八一〕黒輕快

先番 瀬越憲作 七段
後番 小島春一 三段

黒の左上隅の星に黒■と席を掩して、上邊一帶に中原をの白に迫り、寄でで、白五の時、黒は六と■より兵を發して根據を築くと同時に五を扼すでの白の進路をす。可。

黒の左上隅の星に黒■と席を掩して、上邊一帶に中原をの白に迫り、寄でで、白五の時、黒は六と■より兵を發して根據を築くと同時に五を扼すでの白の進路をす。可。

〔一二三八二〕一目勝

先番 林有太郎 當時五段
後番 小杉 丁 四段

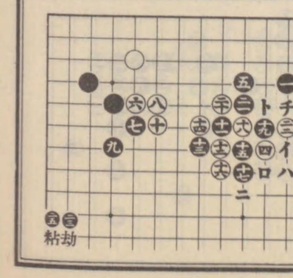
白六と隅より發し時、切とり矛盾せる意と順みて五と定型にて、白二と連絡を保ち、置くを可とす。

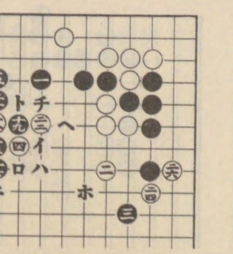
黒十一と走路を取り、白二と下、黒二、三。

白二と下、黒二、三。

丁々發止と打ち合ひしなんど、いよいよ蓋し、最善の秩序に移りて兩軍共に無し。

但し、右手順中、白二に十一に不可にて手は次に黒ハ白ニ黒ホ白ト黒チと振替る。





〔一二三八三〕替り得失無し

先番 幸雄 初段 當時
後番 田中不二男 初段 當時

黒十一と走路を取り、白二と下、黒二、三。

白二と下、黒二、三。

丁々發止と打ち合ひしなんど、いよいよ蓋し、最善の秩序に移りて兩軍共に無し。

但し、右手順中、白二に十一に不可にて手は次に黒ハ白ニ黒ホ白ト黒チと振替る。

〔一二三八四〕黒の勢善し

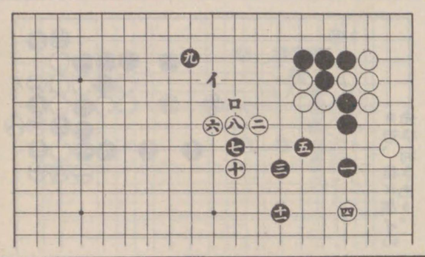
先番 井上一郎 當時四段
後番 關山利一 四段

白、八、如何。これ十四と守べきも、先づ所なら黒乃ち、敵の備へを九と乗じて十一と兵鋒鋭し。

此形、初めは黒しも、七に出切りも、此四つの一目を取るに至て優勢の形となれり。

白、八、如何。これ十四と守べきも、先づ所なら黒乃ち、敵の備へを九と乗じて十一と兵鋒鋭し。

此形、初めは黒しも、七に出切りも、此四つの一目を取るに至て優勢の形となれり。



〔一二三八五〕形勢互角

先番 篠原正美 五段
後番 清源 實 當時五段

黒三は、白のイの防ぎ、隔てば、黒ロ。斯く隔てては、三に打つ位置最良しも、白遂に二三に行切るに至つて、十八は、白の厚みに下、十八は、効果で、黒五まで、白の二以下、十八は、効果で、黒五まで、白の二以下、十八は、効果で、黒五まで、白の二以

〔一二三九〇〕黒善し

白二の時、黒は三以下七まで、陥穽に落ちしが如くなるも、遂に危機一髪を免れて引上げ。｜白は於て満身創痍。鼓に於て、黒の三・四・五・六・七と、白の四・五・六・七・八と交換は、黒に利あり。

〔一二三九一〕黒遂に悦る

黒の白十三子を攻めて、中央の白十二に守るとき、白十一に先手を取られて、白十の時、黒十足の拂ひ出しに大いに潰ゆ。白遂に二十。黒の幽魂、呼べども還らず。

〔一二三九二〕黒悪し

黒十七と飛べば、次に、白十八・二十で良し。白遂にも、二十六で良し。これも劫なれど、甚だ詰まらぬ劫。｜黒は勝つて持（セキ）、敗れば、損甚だ大なり。

〔一二三九三〕黒愈よ悪し

黒十九と附けれども、劫は劫なり。黒の損は、白遂に二十。｜白これに代るべき劫無き故、若し打拔かるいとに至れば、生氣頓に奄々、失子は氣息「屍」と異ならず。

〔一二三九四〕黒厚し

先番藤田豊次郎四段
小野田千代太郎六段
福田正義五段

白十四なれば、黒は○の白三子を屠つて厚し。白二十は、これ得せず、黒二十一に出て次に白イと絞りの手を狙ふ。｜黒ロ白ハ黒二十白ニの絞り。

〔一二三九五〕形勢互角

黒三は、好ずー次に、隅の白四を作られ易き好形。○・二の失着を咎むるの機を逸せり。

〔一二三九六〕互角の分れ

黒三に飛ぶも、これまた、隅の白四に粘こまれ、隙無きに、白遂に十二。此形前圖と略ぼ同じ。

〔一二三九七〕白の勢優る

黒五も、重き筋。白は直ちに六・八と出動して善し。｜俄然、○の白三子に、更生の息吹。白遂に十六と、黒に迫つて五までの中央に勢を得たり。

〔一二三九八〕黒可なり

白二なれば、黒は更に三と押し。黒九、以下白良し。十二に受、止めるとき、黒十三と嗇に壓後の切り。｜ロの形、黒可なり。此はイまた含むを。

〔一二三九九〕形勢互角

黒十一白は、十三に廻り、十二に潤歩して、前進せしは面白し。黒十三な白十四。これを見れば、これによつて白十四にこれを打てば、既に白○に上は、白は此打ち、以後最も良し。

〔一二四〇〇〕右邊に手あり

黒十三の時、白は前圖の如く十六に守りおくべし。これ守りを怠れば、黒に一と、下は二に、脚下以下五まで、忍び寄つて敵を覆す手段あり。即ち、｜黒二一の次に白イなれば、黒ロに白は取られ。白ロなれば、黒ハ白ニに黒ホにて劫。

〔一二四〇一〕白不氣味なり

白四なれば、黒は五、そこで白六と、黒七と、中の白三子を脅かす。｜黒は同時に十一・十三と右邊に襲つて、白を窮地に陥つて、白十四で白ホ、黒ヘ白トハイ、黒チとなりて、黒善し。

〔一二四〇二〕白稍優る

先番藤田豊次郎四段
勝鈴木秀子四段

白既にして十四・十五、白六・七は、一の白と相呼應せる強手段なり。然るに、若し白十八圖の如く、イ二三と打てば、駄着一の白は殆んど駄目を取りし形甚だ厚し。

〔一二四〇三〕基本圖

（第一變化の一）（第一二型イの一）

白は一着十五と押し、十六と飛ぶ手あり。｜七に、如何に、黒イの嫁型の前、斯くすれば、黒も無きが如く、その代りに、六、三を丈夫に、三子を屠り、以下の手段も、十五・十七の多く弱し。

〔一二四〇四〕要點約言

（第一變化の乙）（第一二型イの一）

白十五なれば、黒イ白ロ黒ハ白ニ黒ホ白チと打つて、これまた白ヘと打つべく、これ定石の豫定の計畫なり。｜此時、黒は必ずしも白ヘと逃げるべし。引上げるに、白形がかくすれば、黒は必ず拙し。

【一二四〇六】
黒正着
白十七なれば、黒は十八・二十と、白を攻めつつ黒を厚きに導く、手段。
附記　凡そ着手の善悪は、同時に二、三方面へ発展したるか或は影響を与ふる最善よりも見れば、若し相手に着手をなすの余地を与へざるが如く必ず悪手となるなり。圖の白十五は悪手なり。｜次に黒の打ち十六の手が右と中との両方の急所。

【一二四〇七】
黒善し
黒三は、次に黒イの切断を狙ふ。白の四も連絡せしめ黒に五と延いては七と働かざるを得ず。白の損少なからず。要之、黒の三の打ち難き形なり。

【一二四〇八】
白好まず
白八は、敵を攻むるに急にして自らを急ならざるの順序を能はず。黒の九は機敏なる切り、鋭し。

【一二四〇九】
黒良し
白四、手筋なれど、白は手を先きにすれば厚く黒は手段なれば遂に面白からず。｜黒攻勢に厚く曲す。｜黒攻勢と、共に立てり。地と勢と優る。㊈粘

【一二四一〇】
黒大に善し
白六、甚だ重き筋なり。黒乃ち七・九。｜十四迄で、白愚形となるも、止むを得ず。かくて黒は中の眼無き白を睨みつゝ十五と十七に先鋒を前む。

【一二四一一】
黒の形好し
白二なれば、黒は三。次に白イと、黒は四・六、形なり。白八の時、黒九の攻守両様に整形なり。｜次に白十なれば黒十一となれば、白十一となれば、黒ロ。

【一二四一二】
黒勢稍可なり
前田陣爾　當時四段
先番鈴木秀子　當時三段
勝
白二なれば、黒は一を利して、四では無く一歩先んじて掛歴す、善し。白四を㊀なれば、白処は黒ロ。此処へ這へば、黒随つて行びる、これ随つて黒の勢可なり。

【一二四一三】
基本圖
（第一二型イの丁一変化の丁）
黒イ及び㊀㊁何れも可なり。白ロと黒ハ利若候段

【一二四一四】
黒の應け正し
白いま十五に、巡つて迫る。黒は同じく二三と九に■と工異曲、先ブ十と十八・二十と、白イと敵して白二一を與へ、時、俄然、馬首を上く、引二に取れば、白二三に四・六に可なり。｜黒白二に四・六に取れば、白先手を得をなす。これ白若し七善しイなれば、黒ロの利あり。｜次に黒二七に挑劫の狙ひ。

【一二四一五】
黒優れり
白九。黒は、敵中に北首を挿へ、四の一子と呼應し、十一・二遂に中央十四・十原と押し、要點十六・十七の揚の中て意氣軒昂を倍せり。白の黒地に厚味なり。

【一二四一六】
黒嵌る
綺麗なバラの花に棘あり、油断大敵は、黒八は、悠然張れり。白即ち九。これは、一二三九。圖と同形。黒、間髪を容れずして潰ゆ。

【一二四一七】
黒正形
白十五、肉弾を以て直接に當筋なり。｜キビシ、これも、さればピシ、及び前型、イと十七と同じく十六の好點を伐たれて輕く引上れば、次に白は注文外れの損、開いたる口が塞がれたには、天罰覿面にに低卑、白遂に餘儀無く、三の守りを怠れば、次に白ハと黒ロ、白二、黒無しに念の切と（次圖）

【一二四一八】
黒稍優る
白九も好點。されど、此時、黒は敵の實を避けて慮に向ふ。｜白十と黒十一を交換なれば、白二十と黒ホと切るべし。黒の三白ニ。

【一二四一九】
絶對劫
白七と挿れば、黒下遂に十四。以下、此時、白イに打或は十四、此いづれにでも、黒は次ロ、黒絶對劫。｜白の他の劫ハに抛ずに打ちて善し必ず。

【一二四二〇】
黒優る
白七而して九なれば、黒十かなすれば、黒の十の急所を襲ふ。逃れの得も、七と八と交換も、損なれば、これも白なり。白面白から、ず嵐の如く遂ひ行く。黒の

【一二四二一】
嵌手成功の圖
黒二、白三。此時ぞ、黒左極楽右地獄。然るに熟慮黒去、大事の時、白十三と四は白十五と四をイは白十五。黒ロ白ハ。

【一二四二二】
黒益々悪し
黒十二以下は、断末魔の苦しみにて、のた打ち廻る如き勝敗の數は決せり。天王よ、既に敗れし光秀よ、山に「一運命の丘」のナポレオン。

【一二四二三】
白却て嵌る
白十一、悪しに流、星光底長蛇に為し。黒十四の一、八まで逸す。斜に馳奔し、着遂に生氣を蘇る。｜黒絶劫に此時、白ニに抛ち、黒遂ニあり。て勝つ。好の劫あり

【一二四二四】
白悪し
白ま十五なれば、黒十六・十八出づ。白二を二一に、黒ブ。白ニ一、黒二一、白ブにて粘げば、黒イ。白ロ黒ハ後に勝つも。黒遂に白ニの二の切し。｜白三方に危し。

【一二四二五】
黒可なり
白直ちに三は、打過ぎ。黒四以下、白十、黒三、白十に打抜くと、黒十と抬くと、白四を中の白、動く。｜中に随つて、黒利。

〔一二四二六〕
黒攻合勝
白五なれば、黒は六・八が良し。白九なれば、黒十・十二・四・十六。而して、白十七に来るを待つて、黒は初めて十九、白十八と當て、白二十、黒二、攻合、黒勝綿く。
此邊の手順の前後、黒は次圖以下一二四二九圖までと、比較研究を乞ふ。

〔一二四二七〕
黒善し
白十七・黒十九なれば、先づ二十一。而して白二十一の一手善し。黒十四・十六・十八・二十と出でゝ、黒十二・十四・十六・十八と當て、黒勝。
不利。次に黒十八などに動し出ずるの、好調あり。

〔一二四二八〕
白悪し
白十五に手を延ばせば、黒は先づ十六に起ち、一太刀浴せたく。
白は後に、二・四の求活と、隅の逃避の急進とに、退路兩ながら苦戰なり。

〔一二四二九〕
白大に優る
黒六・八には、白に九と二段に約へられて悪し。白五の次に、圖のと打つのと、輕く八に斜走する（前變化）とは、結果に於て非常なる差あり。

〔一二四三〇〕
要點約言
（第一變化のイ）
黒十四の時、白④及び回は共に變則にして、若し黒に正しく應答せらるれば何れも白好まずず。
即ち、白④に、黒ホ、白ニ、黒ハ、白チに、黒ト、白ヘ、黒リと身輕き轉向。白ヌは、白ヘ、黒ヲ。

〔一二四三一〕
基本圖
（第一變化のイの戊）
白十五は、普通の次手なり。
（第一二型イの丁）
黒十四の時、白④及び回は共に變則にして、若し黒に正しく應答せらるれば何れも白好まず。
即ち、白④に、黒ホ、白ニ、黒ハ、白チに、黒ト、白ヘ、黒リと身輕き轉向。白ヌは、白ヘ、黒ヲ。
（第一二型イの戊）
白十五は、普通の次手なり。
（第一二型イの丁）
黒十四の時、白④及び回は共に變則にして、若し黒に正しく應答せらるれば何れも白好まず。
即ち、白④に、黒ホ、白ニ、黒ハ、白チに、黒ト、白ヘ、黒リと身輕き轉向。白ヌは、白ヘ、黒ヲ。

〔一二四三二〕
共に正着
黒十八と、白十八を、又二十に下つて、只一手と下るうち、黒は二十一と約へられて、白に宜しく。二十一と八に、黒は必ず二と約へられて、白の應答。
然るに白の攻圖は、黒七を二に乗ずるに、弱點にして面白し。

〔一二四三三〕
黒、一策なり
白十一は佳手。白十三にして十五と假借せば、黒は一歩も損せざるキビシ。白十七以下、黒は二・十一・敵腹を二に切つて、寒からしめ、而る後二四。

〔一二四三四〕
黒悪しからず
黒は十四と、五子を遺棄して打つも、一策なり。此時、白十九の打抜き、最も良し。尋で黒二に、白一派の生ん。
十、回以下、黒は二・十一・敵腹を二に寒からしめ、而る後二四。

〔一二四三五〕
場合による
黒はまた、十二。而して、白十三の一手。
と、先きに、黒十四と出す。黒十六と、白十七と、黒十八と、白十九と、黒二十と、白二十一と、黒二十二と、白二十三と、黒二十四と、白二十五と、黒二十六と、白二十七と、黒二十八と、白二十九と、黒三十と、白三十一と、黒三十二と、白三十三と、黒三十四と、白三十五と、黒三十六と、白三十七と、黒三十八と、白三十九と、黒四十と、白四十一と、黒四十二と、白四十三と、黒四十四と、白四十五と、黒四十六と、白四十七と、黒四十八と、白四十九と、黒五十と、白五十一と、黒五十二と、白五十三と、黒五十四と、白五十五と、黒五十六と、白五十七と、黒五十八と、白五十九と、黒六十と、白六十一と、黒六十二と、白六十三と、黒六十四と、白六十五と、黒六十六と、白六十七と、黒六十八と、白六十九と、黒七十と、白七十一と、黒七十二と、白七十三と、黒七十四と、白七十五と、黒七十六と、白七十七と、黒七十八と、白七十九と、黒八十と、白八十一と、黒八十二と、白八十三と、黒八十四と、白八十五と、黒八十六と、白八十七と、黒八十八と、白八十九と、黒九十と、白九十一と、黒九十二と、白九十三と、黒九十四と、白九十五と、黒九十六と、白九十七と、黒九十八と、白九十九と、黒百と、白百一と、黒百二と、白百三と、黒百四と、白百五と、黒百六と、白百七と、黒百八と、白百九と、黒百十と、白百十一と、黒百十二と、白百十三と、黒百十四と、白百十五と、黒百十六と、白百十七と、黒百十八と、白百十九と、黒百二十と、白百二十一と、黒百二十二と、白百二十三と、黒百二十四と、白百二十五と、黒百二十六と、白百二十七と、黒百二十八と、白百二十九と、黒百三十と、白百三十一と、黒百三十二と、白百三十三と、黒百三十四と、白百三十五と、黒百三十六と、白百三十七と、黒百三十八と、白百三十九と、黒百四十と、白百四十一と、黒百四十二と、白百四十三と、黒百四十四と、白百四十五と、黒百四十六と、白百四十七と、黒百四十八と、白百四十九と、黒百五十と、白百五十一と、黒百五十二と、白百五十三と、黒百五十四と、白百五十五と、黒百五十六と、白百五十七と、黒百五十八と、白百五十九と、黒百六十と、白百六十一と、黒百六十二と、白百六十三と、黒百六十四と、白百六十五と、黒百六十六と、白百六十七と、黒百六十八と、白百六十九と、黒百七十と、白百七十一と、黒百七十二と、白百七十三と、黒百七十四と、白百七十五と、黒百七十六と、白百七十七と、黒百七十八と、白百七十九と、黒百八十と、白百八十一と、黒百八十二と、白百八十三と、黒百八十四と、白百八十五と、黒百八十六と、白百八十七と、黒百八十八と、白百八十九と、黒百九十と、白百九十一と、黒百九十二と、白百九十三と、黒百九十四と、白百九十五と、黒百九十六と、白百九十七と、黒百九十八と、白百九十九と、黒二百と、白二百一と、黒二百二と、白二百三と、黒二百四と、白二百五と、黒二百六と、白二百七と、黒二百八と、白二百九と、黒二百十と、白二百十一と、黒二百十二と、白二百十三と、黒二百十四と、白二百十五と、黒二百十六と、白二百十七と、黒二百十八と、白二百十九と、黒二百二十と、白二百二十一と、黒二百二十二と、白二百二十三と、黒二百二十四と、白二百二十五と、黒二百二十六と、白二百二十七と、黒二百二十八と、白二百二十九と、黒二百三十と、白二百三十一と、黒二百三十二と、白二百三十三と、黒二百三十四と、白二百三十五と、黒二百三十六と、白二百三十七と、黒二百三十八と、白二百三十九と、黒二百四十と、白二百四十一と、黒二百四十二と、白二百四十三と、黒二百四十四と、白二百四十五と、黒二百四十六と、白二百四十七と、黒二百四十八と、白二百四十九と、黒二百五十と、白二百五十一と、黒二百五十二と、白二百五十三と、黒二百五十四と、白二百五十五と、黒二百五十六と、白二百五十七と、黒二百五十八と、白二百五十九と、黒二百六十と、白二百六十一と、黒二百六十二と、白二百六十三と、黒二百六十四と、白二百六十五と、黒二百六十六と、白二百六十七と、黒二百六十八と、白二百六十九と、黒二百七十と、白二百七十一と、黒二百七十二と、白二百七十三と、黒二百七十四と、白二百七十五と、黒二百七十六と、白二百七十七と、黒二百七十八と、白二百七十九と、黒二百八十と、白二百八十一と、黒二百八十二と、白二百八十三と、黒二百八十四と、白二百八十五と、黒二百八十六と、白二百八十七と、黒二百八十八と、白二百八十九と、黒二百九十と、白二百九十一と、黒二百九十二と、白二百九十三と、黒二百九十四と、白二百九十五と、黒二百九十六と、白二百九十七と、黒二百九十八と、白二百九十九と、黒三百と、白三百一と、黒三百二と、白三百三と、黒三百四と、白三百五と、黒三百六と、白三百七と、黒三百八と、白三百九と、黒三百十と、白三百十一と、黒三百十二と、白三百十三と、黒三百十四と、白三百十五と、黒三百十六と、白三百十七と、黒三百十八と、白三百十九と、黒三百二十と、白三百二十一と、黒三百二十二と、白三百二十三と、黒三百二十四と、白三百二十五と、黒三百二十六と、白三百二十七と、黒三百二十八と、白三百二十九と、黒三百三十と、白三百三十一と、黒三百三十二と、白三百三十三と、黒三百三十四と、白三百三十五と、黒三百三十六と、白三百三十七と、黒三百三十八と、白三百三十九と、黒三百四十と、白三百四十一と、黒三百四十二と、白三百四十三と、黒三百四十四と、白三百四十五と、黒三百四十六と、白三百四十七と、黒三百四十八と、白三百四十九と、黒三百五十と、白三百五十一と、黒三百五十二と、白三百五十三と、黒三百五十四と、白三百五十五と、黒三百五十六と、白三百五十七と、黒三百五十八と、白三百五十九と、黒三百六十と、白三百六十一と、黒三百六十二と、白三百六十三と、黒三百六十四と、白三百六十五と、黒三百六十六と、白三百六十七と、黒三百六十八と、白三百六十九と、黒三百七十と、白三百七十一と、黒三百七十二と、白三百七十三と、黒三百七十四と、白三百七十五と、黒三百七十六と、白三百七十七と、黒三百七十八と、白三百七十九と、黒三百八十と、白三百八十一と、黒三百八十二と、白三百八十三と、黒三百八十四と、白三百八十五と、黒三百八十六と、白三百八十七と、黒三百八十八と、白三百八十九と、黒三百九十と、白三百九十一と、黒三百九十二と、白三百九十三と、黒三百九十四と、白三百九十五と、黒三百九十六と、白三百九十七と、黒三百九十八と、白三百九十九と、黒四百と、白四百一と、黒四百二と、白四百三と、黒四百四と、白四百五と、黒四百六と、白四百七と、黒四百八と、白四百九と、黒四百十と、白四百十一と、黒四百十二と、白四百十三と、黒四百十四と、白四百十五と、黒四百十六と、白四百十七と、黒四百十八と、白四百十九と、黒四百二十と、白四百二十一と、黒四百二十二と、白四百二十三と、黒四百二十四と、白四百二十五と、黒四百二十六と、白四百二十七と、黒四百二十八と、白四百二十九と、黒四百三十と、白四百三十一と、黒四百三十二と、白四百三十三と、黒四百三十四と、白四百三十五と、黒四百三十六と、白四百三十七と、黒四百三十八と、白四百三十九と、黒四百四十と、白四百四十一と、黒四百四十二と、白四百四十三と、黒四百四十四と、白四百四十五と、黒四百四十六と、白四百四十七と、黒四百四十八と、白四百四十九と、黒四百五十と、白四百五十一と、黒四百五十二と、白四百五十三と、黒四百五十四と、白四百五十五と、黒四百五十六と、白四百五十七と、黒四百五十八と、白四百五十九と、黒四百六十と、白四百六十一と、黒四百六十二と、白四百六十三と、黒四百六十四と、白四百六十五と、黒四百六十六と、白四百六十七と、黒四百六十八と、白四百六十九と、黒四百七十と、白四百七十一と、黒四百七十二と、白四百七十三と、黒四百七十四と、白四百七十五と、黒四百七十六と、白四百七十七と、黒四百七十八と、白四百七十九と、黒四百八十と、白四百八十一と、黒四百八十二と、白四百八十三と、黒四百八十四と、白四百八十五と、黒四百八十六と、白四百八十七と、黒四百八十八と、白四百八十九と、黒四百九十と、白四百九十一と、黒四百九十二と、白四百九十三と、黒四百九十四と、白四百九十五と、黒四百九十六と、白四百九十七と、黒四百九十八と、白四百九十九と、黒五百と、白五百一と、黒五百二と、白五百三と、黒五百四と、白五百五と、黒五百六と、白五百七と、黒五百八と、白五百九と、黒五百十と、白五百十一と、黒五百十二と、白五百十三と、黒五百十四と、白五百十五と、黒五百十六と、白五百十七と、黒五百十八と、白五百十九と、黒五百二十と、白五百二十一と、黒五百二十二と、白五百二十三と、黒五百二十四と、白五百二十五と、黒五百二十六と、白五百二十七と、黒五百二十八と、白五百二十九と、黒五百三十と、白五百三十一と、黒五百三十二と、白五百三十三と、黒五百三十四と、白五百三十五と、黒五百三十六と、白五百三十七と、黒五百三十八と、白五百三十九と、黒五百四十と、白五百四十一と、黒五百四十二と、白五百四十三と、黒五百四十四と、白五百四十五と、黒五百四十六と、白五百四十七と、黒五百四十八と、白五百四十九と、黒五百五十と、白五百五十一と、黒五百五十二と、白五百五十三と、黒五百五十四と、白五百五十五と、黒五百五十六と、白五百五十七と、黒五百五十八と、白五百五十九と、黒五百六十と、白五百六十一と、黒五百六十二と、白五百六十三と、黒五百六十四と、白五百六十五と、黒五百六十六と、白五百六十七と、黒五百六十八と、白五百六十九と、黒五百七十と、白五百七十一と、黒五百七十二と、白五百七十三と、黒五百七十四と、白五百七十五と、黒五百七十六と、白五百七十七と、黒五百七十八と、白五百七十九と、黒五百八十と、白五百八十一と、黒五百八十二と、白五百八十三と、黒五百八十四と、白五百八十五と、黒五百八十六と、白五百八十七と、黒五百八十八と、白五百八十九と、黒五百九十と、白五百九十一と、黒五百九十二と、白五百九十三と、黒五百九十四と、白五百九十五と、黒五百九十六と、白五百九十七と、黒五百九十八と、白五百九十九と、黒六百と、白六百一と、黒六百二と、白六百三と、黒六百四と、白六百五と、黒六百六と、白六百七と、黒六百八と、白六百九と、黒六百十と、白六百十一と、黒六百十二と、白六百十三と、黒六百十四と、白六百十五と、黒六百十六と、白六百十七と、黒六百十八と、白六百十九と、黒六百二十と、白六百二十一と、黒六百二十二と、白六百二十三と、黒六百二十四と、白六百二十五と、黒六百二十六と、白六百二十七と、黒六百二十八と、白六百二十九と、黒六百三十と、白六百三十一と、黒六百三十二と、白六百三十三と、黒六百三十四と、白六百三十五と、黒六百三十六と、白六百三十七と、黒六百三十八と、白六百三十九と、黒六百四十と、白六百四十一と、黒六百四十二と、白六百四十三と、黒六百四十四と、白六百四十五と、黒六百四十六と、白六百四十七と、黒六百四十八と、白六百四十九と、黒六百五十と、白六百五十一と、黒六百五十二と、白六百五十三と、黒六百五十四と、白六百五十五と、黒六百五十六と、白六百五十七と、黒六百五十八と、白六百五十九と、黒六百六十と、白六百六十一と、黒六百六十二と、白六百六十三と、黒六百六十四と、白六百六十五と、黒六百六十六と、白六百六十七と、黒六百六十八と、白六百六十九と、黒六百七十と、白六百七十一と、黒六百七十二と、白六百七十三と、黒六百七十四と、白六百七十五と、黒六百七十六と、白六百七十七と、黒六百七十八と、白六百七十九と、黒六百八十と、白六百八十一と、黒六百八十二と、白六百八十三と、黒六百八十四と、白六百八十五と、黒六百八十六と、白六百八十七と、黒六百八十八と、白六百八十九と、黒六百九十と、白六百九十一と、黒六百九十二と、白六百九十三と、黒六百九十四と、白六百九十五と、黒六百九十六と、白六百九十七と、黒六百九十八と、白六百九十九と、黒七百と、白七百一と、黒七百二と、白七百三と、黒七百四と、白七百五と、黒七百六と、白七百七と、黒七百八と、白七百九と、黒七百十と、白七百十一と、黒七百十二と、白七百十三と、黒七百十四と、白七百十五と、黒七百十六と、白七百十七と、黒七百十八と、白七百十九と、黒七百二十と、白七百二十一と、黒七百二十二と、白七百二十三と、黒七百二十四と、白七百二十五と、黒七百二十六と、白七百二十七と、黒七百二十八と、白七百二十九と、黒七百三十と、白七百三十一と、黒七百三十二と、白七百三十三と、黒七百三十四と、白七百三十五と、黒七百三十六と、白七百三十七と、黒七百三十八と、白七百三十九と、黒七百四十と、白七百四十一と、黒七百四十二と、白七百四十三と、黒七百四十四と、白七百四十五と、黒七百四十六と、白七百四十七と、黒七百四十八と、白七百四十九と、黒七百五十と、白七百五十一と、黒七百五十二と、白七百五十三と、黒七百五十四と、白七百五十五と、黒七百五十六と、白七百五十七と、黒七百五十八と、白七百五十九と、黒七百六十と、白七百六十一と、黒七百六十二と、白七百六十三と、黒七百六十四と、白七百六十五と、黒七百六十六と、白七百六十七と、黒七百六十八と、白七百六十九と、黒七百七十と、白七百七十一と、黒七百七十二と、白七百七十三と、黒七百七十四と、白七百七十五と、黒七百七十六と、白七百七十七と、黒七百七十八と、白七百七十九と、黒七百八十と、白七百八十一と、黒七百八十二と、白七百八十三と、黒七百八十四と、白七百八十五と、黒七百八十六と、白七百八十七と、黒七百八十八と、白七百八十九と、黒七百九十と、白七百九十一と、黒七百九十二と、白七百九十三と、黒七百九十四と、白七百九十五と、黒七百九十六と、白七百九十七と、黒七百九十八と、白七百九十九と、黒八百と、白八百一と、黒八百二と、白八百三と、黒八百四と、白八百五と、黒八百六と、白八百七と、黒八百八と、白八百九と、黒八百十と、白八百十一と、黒八百十二と、白八百十三と、黒八百十四と、白八百十五と、黒八百十六と、白八百十七と、黒八百十八と、白八百十九と、黒八百二十と、白八百二十一と、黒八百二十二と、白八百二十三と、黒八百二十四と、白八百二十五と、黒八百二十六と、白八百二十七と、黒八百二十八と、白八百二十九と、黒八百三十と、白八百三十一と、黒八百三十二と、白八百三十三と、黒八百三十四と、白八百三十五と、黒八百三十六と、白八百三十七と、黒八百三十八と、白八百三十九と、黒八百四十と、白八百四十一と、黒八百四十二と、白八百四十三と、黒八百四十四と、白八百四十五と、黒八百四十六と、白八百四十七と、黒八百四十八と、白八百四十九と、黒八百五十と、白八百五十一と、黒八百五十二と、白八百五十三と、黒八百五十四と、白八百五十五と、黒八百五十六と、白八百五十七と、黒八百五十八と、白八百五十九と、黒八百六十と、白八百六十一と、黒八百六十二と、白八百六十三と、黒八百六十四と、白八百六十五と、黒八百六十六と、白八百六十七と、黒八百六十八と、白八百六十九と、黒八百七十と、白八百七十一と、黒八百七十二と、白八百七十三と、黒八百七十四と、白八百七十五と、黒八百七十六と、白八百七十七と、黒八百七十八と、白八百七十九と、黒八百八十と、白八百八十一と、黒八百八十二と、白八百八十三と、黒八百八十四と、白八百八十五と、黒八百八十六と、白八百八十七と、黒八百八十八と、白八百八十九と、黒八百九十と、白八百九十一と、黒八百九十二と、白八百九十三と、黒八百九十四と、白八百九十五と、黒八百九十六と、白八百九十七と、黒八百九十八と、白八百九十九と、黒九百と、白九百一と、黒九百二と、白九百三と、黒九百四と、白九百五と、黒九百六と、白九百七と、黒九百八と、白九百九と、黒九百十と、白九百十一と、黒九百十二と、白九百十三と、黒九百十四と、白九百十五と、黒九百十六と、白九百十七と、黒九百十八と、白九百十九と、黒九百二十と、白九百二十一と、黒九百二十二と、白九百二十三と、黒九百二十四と、白九百二十五と、黒九百二十六と、白九百二十七と、黒九百二十八と、白九百二十九と、黒九百三十と、白九百三十一と、黒九百三十二と、白九百三十三と、黒九百三十四と、白九百三十五と、黒九百三十六と、白九百三十七と、黒九百三十八と、白九百三十九と、黒九百四十と、白九百四十一と、黒九百四十二と、白九百四十三と、黒九百四十四と、白九百四十五と、黒九百四十六と、白九百四十七と、黒九百四十八と、白九百四十九と、黒九百五十と、白九百五十一と、黒九百五十二と、白九百五十三と、黒九百五十四と、白九百五十五と、黒九百五十六と、白九百五十七と、黒九百五十八と、白九百五十九と、黒九百六十と、白九百六十一と、黒九百六十二と、白九百六十三と、黒九百六十四と、白九百六十五と、黒九百六十六と、白九百六十七と、黒九百六十八と、白九百六十九と、黒九百七十と、白九百七十一と、黒九百七十二と、白九百七十三と、黒九百七十四と、白九百七十五と、黒九百七十六と、白九百七十七と、黒九百七十八と、白九百七十九と、黒九百八十と、白九百八十一と、黒九百八十二と、白九百八十三と、黒九百八十四と、白九百八十五と、黒九百八十六と、白九百八十七と、黒九百八十八と、白九百八十九と、黒九百九十と、白九百九十一と、黒九百九十二と、白九百九十三と、黒九百九十四と、白九百九十五と、黒九百九十六と、白九百九十七と、黒九百九十八と、白九百九十九と、黒千と、白千一と、黒千二と、白千三と、黒千四と、白千五と、黒千六と、白千七と、黒千八と、白千九と、黒千十と、白千十一と、黒千十二と、白千十三と、黒千十四と、白千十五と、黒千十六と、白千十七と、黒千十八と、白千十九と、黒千二十と、白千二十一と、黒千二十二と、白千二十三と、黒千二十四と、白千二十五と、黒千二十六と、白千二十七と、黒千二十八と、白千二十九と、黒千三十と、白千三十一と、黒千三十二と、白千三十三と、黒千三十四と、白千三十五と、黒千三十六と、白千三十七と、黒千三十八と、白千三十九と、黒千四十と、白千四十一と、黒千四十二と、白千四十三と、黒千四十四と、白千四十五と、黒千四十六と、白千四十七と、黒千四十八と、白千四十九と、黒千五十と、白千五十一と、黒千五十二と、白千五十三と、黒千五十四と、白千五十五と、黒千五十六と、白千五十七と、黒千五十八と、白千五十九と、黒千六十と、白千六十一と、黒千六十二と、白千六十三と、黒千六十四と、白千六十五と、黒千六十六と、白千六十七と、黒千六十八と、白千六十九と、黒千七十と、白千七十一と、黒千七十二と、白千七十三と、黒千七十四と、白千七十五と、黒千七十六と、白千七十七と、黒千七十八と、白千七十九と、黒千八十と、白千八十一と、黒千八十二と、白千八十三と、黒千八十四と、白千八十五と、黒千八十六と、白千八十七と、黒千八十八と、白千八十九と、黒千九十と、白千九十一と、黒千九十二と、白千九十三と、黒千九十四と、白千九十五と、黒千九十六と、白千九十七と、黒千九十八と、白千九十九と、黒千百と、白千百一と、黒千百二と、白千百三と、黒千百四と、白千百五と、黒千百六と、白千百七と、黒千百八と、白千百九と、黒千百十と、白千百十一と、黒千百十二と、白千百十三と、黒千百十四と、白千百十五と、黒千百十六と、白千百十七と、黒千百十八と、白千百十九と、黒千百二十と、白千百二十一と、黒千百二十二と、白千百二十三と、黒千百二十四と、白千百二十五と、黒千百二十六と、白千百二十七と、黒千百二十八と、白千百二十九と、黒千百三十と、白千百三十一と、黒千百三十二と、白千百三十三と、黒千百三十四と、白千百三十五と、黒千百三十六と、白千百三十七と、黒千百三十八と、白千百三十九と、黒千百四十と、白千百四十一と、黒千百四十二と、白千百四十三と、黒千百四十四と、白千百四十五と、黒千百四十六と、白千百四十七と、黒千百四十八と、白千百四十九と、黒千百五十と、白千百五十一と、黒千百五十二と、白千百五十三と、黒千百五十四と、白千百五十五と、黒千百五十六と、白千百五十七と、黒千百五十八と、白千百五十九と、黒千百六十と、白千百六十一と、黒千百六十二と、白千百六十三と、黒千百六十四と、白千百六十五と、黒千百六十六と、白千百六十七と、黒千百六十八と、白千百六十九と、黒千百七十と、白千百七十一と、黒千百七十二と、白千百七十三と、黒千百七十四と、白千百七十五と、黒千百七十六と、白千百七十七と、黒千百七十八と、白千百七十九と、黒千百八十と、白千百八十一と、黒千百八十二と、白千百八十三と、黒千百八十四と、白千百八十五と、黒千百八十六と、白千百八十七と、黒千百八十八と、白千百八十九と、黒千百九十と、白千百九十一と、黒千百九十二と、白千百九十三と、黒千百九十四と、白千百九十五と、黒千百九十六と、白千百九十七と、黒千百九十八と、白千百九十九と、黒千二百と、白千二百一と、黒千二百二と、白千二百三と、黒千二百四と、白千二百五と、黒千二百六と、白千二百七と、黒千二百八と、白千二百九と、黒千二百十と、白千二百十一と、黒千二百十二と、白千二百十三と、黒千二百十四と、白千二百十五と、黒千二百十六と、白千二百十七と、黒千二百十八と、白千二百十九と、黒千二百二十と、白千二百二十一と、黒千二百二十二と、白千二百二十三と、黒千二百二十四と、白千二百二十五と、黒千二百二十六と、白千二百二十七と、黒千二百二十八と、白千二百二十九と、黒千二百三十と、白千二百三十一と、黒千二百三十二と、白千二百三十三と、黒千二百三十四と、白千二百三十五と、黒千二百三十六と、白千二百三十七と、黒千二百三十八と、白千二百三十九と、黒千二百四十と、白千二百四十一と、黒千二百四十二と、白千二百四十三と、黒千二百四十四と、白千二百四十五と、黒千二百四十六と、白千二百四十七と、黒千二百四十八と、白千二百四十九と、黒千二百五十と、白千二百五十一と、黒千二百五十二と、白千二百五十三と、黒千二百五十四と、白千二百五十五と、黒千二百五十六と、白千二百五十七と、黒千二百五十八と、白千二百五十九と、黒千二百六十と、白千二百六十一と、黒千二百六十二と、白千二百六十三と、黒千二百六十四と、白千二百六十五と、黒千二百六十六と、白千二百六十七と、黒千二百六十八と、白千二百六十九と、黒千二百七十と、白千二百七十一と、黒千二百七十二と、白千二百七十三と、黒千二百七十四と、白千二百七十五と、黒千二百七十六と、白千二百七十七と、黒千二百七十八と、白千二百七十九と、黒千二百八十と、白千二百八十一と、黒千二百八十二と、白千二百八十三と、黒千二百八十四と、白千二百八十五と、黒千二百八十六と、白千二百八十七と、黒千二百八十八と、白千二百八十九と、黒千二百九十と、白千二百九十一と、黒千二百九十二と、白千二百九十三と、黒千二百九十四と、白千二百九十五と、黒千二百九十六と、白千二百九十七と、黒千二百九十八と、白千二百九十九と、黒三百と、白三百一と、黒三百二と、白三百三と、黒三百四と、白三百五と、黒三百六と、白三百七と、黒三百八と、白三百九と、黒三百十と、白三百十一と、黒三百十二と、白三百十三と、黒三百十四と、白三百十五と、黒三百十六と、白三百十七と、黒三百十八と、白三百十九と、黒三百二十と、白三百二十一と、黒三百二十二と、白三百二十三と、黒三百二十四と、白三百二十五と、黒三百二十六と、白三百二十七と、黒三百二十八と、白三百二十九と、黒三百三十と、白三百三十一と、黒三百三十二と、白三百三十三と、黒三百三十四と、白三百三十五と、黒三百三十六と、白三百三十七と、黒三百三十八と、白三百三十九と、黒三百四十と、白三百四十一と、黒三百四十二と、白三百四十三と、黒三百四十四と、白三百四十五と、黒三百四十六と、白三百四十七と、黒三百四十八と、白三百四十九と、黒三百五十と、白三百五十一と、黒三百五十二と、白三百五十三と、黒三百五十四と、白三百五十五と、黒三百五十六と、白三百五十七と、黒三百五十八と、白三百五十九と、黒三百六十と、白三百六十一と、黒三百六十二と、白三百六十三と、黒三百六十四と、白三百六十五と、黒三百六十六と、白三百六十七と、黒三百六十八と、白三百六十九と、黒三百七十と、白三百七十一と、黒三百七十二と、白三百七十三と、黒三百七十四と、白三百七十五と、黒三百七十六と、白三百七十七と、黒三百七十八と、白三百七十九と、黒三百八十と、白三百八十一と、黒三百八十二と、白三百八十三と、黒三百八十四と、白三百八十五と、黒三百八十六と、白三百八十七と、黒三百八十八と、白三百八十九と、黒三百九十と、白三百九十一と、黒三百九十二と、白三百九十三と、黒三百九十四と、白三百九十五と、黒三百九十六と、白三百九十七と、黒三百九十八と、白三百九十九と、黒四百と、白四百一と、黒四百二と、白四百三と、黒四百四と、白四百五と、黒四百六と、白四百七と、黒四百八と、白四百九と、黒四百十と、白四百十一と、黒四百十二と、白四百十三と、黒四百十四と、白四百十五と、黒四百十六と、白四百十七と、黒四百十八と、白四百十九と、黒四百二十と、白四百二十一と、黒四百二十二と、白四百二十三と、黒四百二十四と、白四百二十五と、黒四百二十六と、白四百二十七と、黒四百二十八と、白四百二十九と、黒四百三十と、白四百三十一と、黒四百三十二と、白四百三十三と、黒四百三十四と、白四百三十五と、黒四百三十六と、白四百三十七と、黒四百三十八と、白四百三十九と、黒四百四十と、白四百四十一と、黒四百四十二と、白四百四十三と、黒四百四十四と、白四百四十五と、黒四百四十六と、白四百四十七と、黒四百四十八と、白四百四十九と、黒四百五十と、白四百五十一と、黒四百五十二と、白四百五十三と、黒四百五十四と、白四百五十五と、黒四百五十六と、白四百五十七と、黒四百五十八と、白四百五十九と、黒四百六十と、白四百六十一と、黒四百六十二と、白四百六十三と、黒四百六十四と、白四百六十五と、黒四百六十六と、白四百六十七と、黒四百六十八と、白四百六十九と、黒四百七十と、白四百七十一と、黒四百七十二と、白四百七十三と、黒四百七十四と、白四百七十五と、黒四百七十六と、白四百七十七と、黒四百七十八と、白四百七十九と、黒四百八十と、白四百八十一と、黒四百八十二と、白四百八十三と、黒四百八十四と、白四百八十五と、黒四百八十六と、白四百八十七と、黒四百八十八と、白四百八十九と、黒四百九十と、白四百九十一と、黒四百九十二と、白四百九十三と、黒四百九十四と、白四百九十五と、黒四百九十六と、白四百九十七と、黒四百九十八と、白四百九十九と、黒五百と、白五百一と、黒五百二と、白五百三と、黒五百四と、白五百五と、黒五百六と、白五百七と、黒五百八と、白五百九と、黒五百十と、白五百十一と、黒五百十二と、白五百十三と、黒五百十四と、白五百十五と、黒五百十六と、白五百十七と、黒五百十八と、白五百十九と、黒五百二十と、白五百二十一と、黒五百二十二と、白五百二十三と、黒五百二十四と、白五百二十五と、黒五百二十六と、白五百二十七と、黒五百二十八と、白五百二十九と、黒五百三十と、白五百三十一と、黒五百三十二と、白五百三十三と、黒五百三十四と、白五百三十五と、黒五百三十六と、白五百三十七と、黒五百三十八と、白五百三十九と、黒五百四十と、白五百四十一と、黒五百四十二と、白五百四十三と、黒五百四十四と、白五百四十五と、黒五百四十六と、白五百四十七と、黒五百四十八と、白五百四十九と、黒五百五十と、白五百五十一と、黒五百五十二と、白五百五十三と、黒五百五十四と、白五百五十五と、黒五百五十六と、白五百五十七と、黒五百五十八と、白五百五十九と、黒五百六十と、白五百六十一と、黒五百六十二と、白五百六十三と、黒五百六十四と、白五百六十五と、黒五百六十六と、白五百六十七と、黒五百六十八と、白五百六十九と、黒五百七十と、白五百七十一と、黒五百七十二と、白五百七十三と、黒五百七十四と、白五百七十五と、黒五百七十六と、白五百七十七と、黒五百七十八と、白五百七十九と、黒五百八十と、白五百八十一と、黒五百八十二と、白五百八十三と、黒五百八十四と、白五百八十五と、黒五百八十六と、白五百八十七と、黒五百八十八と、白五百八十九と、黒五百九十と、白五百九十一と、黒五百九十二と、白五百九十三と、黒五百九十四と、白五百九十五と、黒五百九十六と、白五百九十七と、黒五百九十八と、白五百九十九と、黒六百と、白六百一と、黒六百二と、白六百三と、黒六百四と、白六百五と、黒六百六と、白六百七と、黒六百八と、白六百九と、黒六百十と、白六百十一と、黒六百十二と、白六百十三と、黒六百十四と、白六百十五と、黒六百十六と、白六百十七と、黒六百十八と、白六百十九と、黒六百二十と、白六百二十一と、黒六百二十二と、白六百二十三と、黒六百二十四と、白六百二十五と、黒六百二十六と、白六百二十七と、黒六百二十八と、白六百二十九と、黒六百三十と、白六百三十一と、黒六百三十二と、白六百三十三と、黒六百三十四と、白六百三十五と、黒六百三十六と、白六百三十七と、黒六百三十八と、白六百三十九と、黒六百四十と、白六百四十一と、黒六百四十二と、白六百四十三と、黒六百四十四と、白六百四十五と、黒六百四十六と、白六百四十七と、黒六百四十八と、白六百四十九と、黒六百五十と、白六百五十一と、黒六百五十二と、白六百五十三と、黒六百五十四と、白六百五十五と、黒六百五十六と、白六百五十七と、黒六百五十八と、白六百五十九と、黒六百六十と、白六百六十一と、黒六百六十二と、白六百六十三と、黒六百六十四と、白六百六十五と、黒六百六十六と、白六百六十七と、黒六百六十八と、白六百六十九と、黒六百七十と、白六百七十一と、黒六百七十二と、白六百七十三と、黒六百七十四と、白六百七十五と、黒六百七十六と、白六百七十七と、黒六百七十八と、白六百七十九と、黒六百八十と、白六百八十一と、黒六百八十二と、白六百八十三と、黒六百八十四と、白六百八十五と、黒六百八十六と、白六百八十七と、黒六百八十八と、白六百八十九と、黒六百九十と、白六百九十一と、黒六百九十二と、白六百九十三と、黒六百九十四と、白六百九十五と、黒六百九十六と、白六百九十七と、黒六百九十八と、白六百九十九と、黒七百と、白七百一と、黒七百二と、白七百三と、黒七百四と、白七百五と、黒七百六と、白七百七と、黒七百八と、白七百九と、黒七百十と、白七百十一と、黒七百十二と、白七百十三と、黒七百十四と、白七百十五と、黒七百十六と、白七百十七と、黒七百十八と、白七百十九と、黒七百二十と、白七百二十一と、黒七百二十二と、白七百二十三と、黒七百二十四と、白七百二十五と、黒七百二十六と、白七百二十七と、黒七百二十八と、白七百二十九と、黒七百三十と、白七百三十一と、黒七百三十二と、白七百三十三と、黒七百三十四と、白七百三十五と、黒七百三十六と、白七百三十七と、黒七百三十八と、白七百三十九と、黒七百四十と、白七百四十一と、黒七百四十二と、白七百四十三と、黒七百四十四と、白七百四十五と、黒七百四十六と、白七百四十七と、黒七百四十八と、白七百四十九と、黒七百五十と、白七百五十一と、黒七百五十二と、白七百五十三と、黒七百五十四と、白七百五十五と、黒七百五十六と、白七百五十七と、黒七百五十八と、白七百五十九と、黒七百六十と、白七百六十一と、黒七百六十二と、白七百六十三と、黒七百六十四と、白七百六十五と、黒七百六十六と、白七百六十七と、黒七百六十八と、白七百六十九と、黒七百七十と、白七百七十一と、黒七百七十二と、白七百七十三と、黒七百七十四と、白七百七十五と、黒七百七十六と、白七百七十七と、黒七百七十八と、白七百七十九と、黒七百八十と、白七百八十一と、黒七百八十二と、白七百八十三と、黒七百八十四と、白七百八十五と、黒七百八十六と、白七百八十七と、黒七百八十八と、白七百八十九と、黒七百九十と、白七百九十一と、黒七百九十二と、白七百九十三と、黒七百九十四と、白七百九十五と、黒七百九十六と、白七百九十七と、黒七百九十八と、白七百九十九と、黒八百と、白八百一と、黒八百二と、白八百三と、黒八百四と、白八百五と、黒八百六と、白八百七と、黒八百八と、白八百九と、黒八百十と、白八百十一と、黒八百十二と、白八百十三と、黒八百十四と、白八百十五と、黒八百十六と、白八百十七と、黒八百十八と、白八百十九と、黒八百二十と、白八百二十一と、黒八百二十二と、白八百二十三と、黒八百二十四と、白八百二十五と、黒八百二十六と、白八百二十七と、黒八百二十八と、白八百二十九と、黒八百三十と、白八百三十一と、黒八百三十二と、白八百三十三と、黒八百三十四と、白八百三十五と、黒八百三十六と、白八百三十七と、黒八百三十八と、白八百三十九と、黒八百四十と、白八百四十一と、黒八百四十二と、白八百四十三と、黒八百四十四と、白八百四十五と、黒八百四十六と、白八百四十七と、黒八百四十八と、白八百四十九と、黒八百五十と、白八百五十一と、黒八百五十二と、白八百五十三と、黒八百五十四と、白八百五十五と、黒八百五十六と、白八百五十七と、黒八百五十八と、白八百五十九と、黒八百六十と、白八百六十一と、黒八百六十二

【一二四四四】黒可なり

白二三は可ならず。黒先づ二四・二六と、上邊に轉じて二固め、次に白二は黒九を攻めた・三十に盤上の大きな生べくんば、黒は喜んで二九に劫を挑むとなるなり。

【一二四四五】黒稍可なり

白十九の時、黒は直ちに二十に盤上の大きな手もあり、二一段落。此時、白は三三に至つて、黒は三五の厚みを利して當然なり。㊀粘

【一二四四六】黒稍好まず

黒三四・三六、惡手。白卽ち三五に追蹤す。右側の白壁は厚し、右黒窮す。此時に、黒イは白ロへの時白ニに粘れば、黒ホの時白ヘ。

【一二四四七】黒、花見劫

白二一惡し。黒乃ち二二に劫を挑む。此處は黒はいゆる花見劫、假令、此劫に負けるとも黒は決して不利に非ず。

【一二四四八】㊀要點なり

黒はまた二十と、上邊の要所に先着し、白二一のとき黒二二と押すも手もあり。白二三、善し。これによつて、黒イの遺味絶滅す。

【一二四四九】黒可なり

白はイの當てを打たずして、單に十七にて粘らば、黒やうな形あり。既にかやうな形となれば、黒十四の白ロの一子は輕しへ。黒ハの要領の要所に先着す。

【一二四五〇】征如何による

黒十六のとき、白二十七、而して十九・この可否は、專ら、白イまたは、黒ロの征關係。若し黒征宜しく二で勝。圖（次圖）

【一二四五一】黒善し

また、黒の征の惡しき時は、黒二二、而して、白二三の先手切の時黒二四の後、尋で黒二六での良し。白イは好まず。此形、白ハ黒ニと押しきることゝなつて、黒ロの交換却つて黒の勢を增さしむるのみ。

【一二四五二】白大敗

黒二四。此時、白は寧ろ氷を踏み深淵に臨むの危機！果然、白二五に黒二六・五二の五子は、白一息絶えたり。

【一二四五三】黒大勢を占む

白二三なれば、黒二四に包圍して、二六・二八、遂に黒厚の威上に、中邊を外勢を席捲する形あり。黒二六での方、概ね二七もあり、それよりは圖の方善し。

【一二四五四】黒優れり

白十七而して十九と粘げば、黒二十。白二一で、黒イ白ロ黒二遮。黒ハ白二一で、白潰滅。黒ニ白二一で、黒遂に此形、黒一二四二の勢よりは、黒の勢善し。

【一二四五五】後圖參照

白十一、俄然好まず。黒機加はる。此時に黒イと切れば、白一二四九五圖をロに打てば、其形は、一二四二圖と同じ。

【一二四五六】黒可なり

白十一惡し。黒卽ち十二の下。此形、黒十一が先手利きにて盤上の大きな生べくんば、黒は喜んで二に劫を挑むとなるなり。

【一二四五八】常形

黒は、三四と附ける手もあり。斯く打つも惡しきにあらざれど、非ざれよりは前形、二五と附ける方、變化の妙ありて下面白し。白二五實に堅實なり。

【一二四五九】形勢互角

黒十に對しては白一の行、正着なり。これを十二に約へる手は、黒イ・ロせたは十一と切る手あり。（後圖參照）黒十八、二十の時白二一善し。

【一二四六〇】白稍可なり

黒は、十八に出て、左は十七の白に當りイ・白ロ・黒ハ、の出切りを狙ふ手もあれど、白二一となりては黒の形稍好まず。

【一二四六一】形勢互角

黒は十八と附ける手あり。白十九、次に二一と切る筋、嚴し。白二五の時、黒は二六と粘さゝしに二八の下りを利かせしは、機敏なり。卽ち隅の黒は二八の下りにて、死の懸念去る。白二一、手筋。また黒の三二・三六も手筋、共に絢爛たる兩軍手筋を競ふ。以下黒五十にて此石は一切に持。尙ほ、時は、白五に振替つて以下黒は此一手を拾てる手もあり。形勢先づ互角なり。

【一二四六二】白稍可なり

黒二二と約へれば、白一に振替つて黒は二二。斯く打つも惡しきにあらざれど、非ざれよりは前形、二五と附ける方、變化の妙ありて下面白し。白二五實に堅實なり。

〔一二四六三〕
優劣未定

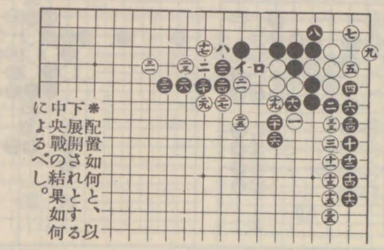
黒中腹に断然優勢なりと見る時は、二十八と切るも一手強く、二十八と切るも一手強く、蓋し、斯く打つ手は種々雑多なる変化を生ずるも、結果決して悪しからず。白は二二と尖出すべく、黒をロと附けば、白ハと二二に切って戦ふも黒優勢。

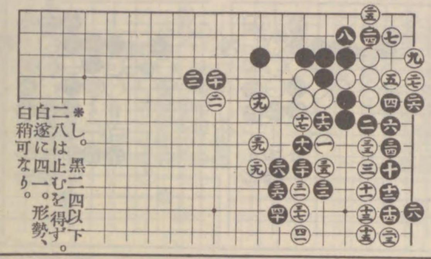
〔一二四六四〕
白稍優る

白十五の時黒は二三に押さずして直ちに十六と切るも、白から加へて厚きを得、白は急上方の一手、而して八の方は二三と厚く凌ぎ、黒は二四と附けて十五と尖出すべく、白は二二と尖れば、黒は二三に切って戦ふも黒優勢。

〔一二四六五〕
白敗戦

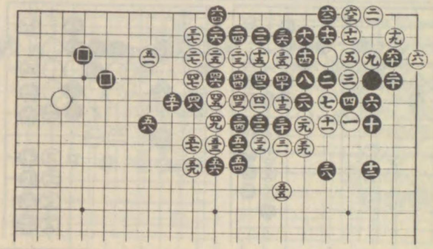
白二七まで、前変化と同形なり、此場合黒は二十八と直ちに二八・三十と切りし、機に臨みたる変に応じたる手段なり、白三八一・三三は只黒精勤の一手。

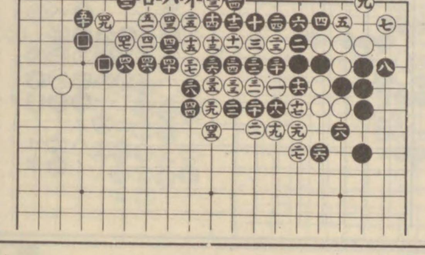




〔一二四六六〕
攻合黒勝

黒二六（前図三八の当る）に白二七に掛粘げば、黒は二八をカシて後に二八に突出すべし、時に白三九と急攻す、黒は三十に突出て形勢大に優る。





〔一二四六七〕
白苦戦

白十九と飛べば、黒は二十と行くべし、黒二四の概、大鵬空を搏つの勢あり、以下善しく、黒二八と白が二七と突破するも、白は遂に黒の包囲網を出でんとす、黒四の一手段無しと見て、白イと打つ、黒ロと切るも、白ハと黒ニを取り、黒ホと白ヘと打ちたるも、白トと黒チを取り、黒リと白ヌを取り、黒ルと白ヲを取り、黒ワと白カを取り、黒ヨと白タを取り、黒レと白ソを取り、黒ツと白ネを取り、黒ナと白ラを取り、黒ムと白ウを取り、黒ヰと白ノを取り、黒オと白クを取り、黒ヤと白マを取り、黒ケと白フを取り、黒コと白エを取り、黒テと白アを取り、黒サと白キを取り、黒ユと白メを取り、黒ミと白シを取り、黒ヱと白ヒを取り、黒モと白セを取り、黒スと白ンを取り、黒ンと白ロを取り、黒ロと白イを取り、黒イと白ハを取り、黒ハと白ニを取り、黒ホと白ヘを取り、黒ヘと白ホを取り、黒トと白チを取り、黒チと白リ

〔一二四七八〕
黒大勢を占む

黒十四と附けて面白し。此手筋に良くて白先づ一九を二八なれば、黒二八と二九などの時、白イに生ずれば、黒二九と二八の手順にて白四十七を取られ、黒十八以下四六の攻合に勝ちて次に七七急に粘りて攻めるも、黒三八と切りて六一・三二・三三と大勢を観すれば、白二八・二九・二七・二六・二五・二四・二三・二二・二一と下りて黒三八・三九・四〇・四一・四二・四三・四四・四五・四六・四七・四八・四九・五〇・五一・五二・五三・五四・五五・五六・五七・五八・五九・六〇・六一・六二・六三・六四・六五・六六・六七・六八・六九・七〇・七一・七二・七三・七四・七五・七六・七七・七八・七九・八〇・八一・八二・八三・八四・八五・八六・八七・八八・八九・九〇・九一・九二・九三・九四・九五・九六・九七・九八・九九・一〇〇・一〇一・一〇二・一〇三・一〇四・一〇五・一〇六・一〇七・一〇八・一〇九・一一〇・一一一・一一二・一一三・一一四・一一五・一一六・一一七・一一八・一一九・一二〇・一二一・一二二・一二三・一二四・一二五・一二六・一二七・一二八・一二九・一三〇・一三一・一三二・一三三・一三四・一三五・一三六・一三七・一三八・一三九・一四〇・一四一・一四二・一四三・一四四・一四五・一四六・一四七・一四八・一四九・一五〇・一五一・一五二・一五三・一五四・一五五・一五六・一五七・一五八・一五九・一六〇・一六一・一六二・一六三・一六四・一六五・一六六・一六七・一六八・一六九・一七〇・一七一・一七二・一七三・一七四・一七五・一七六・一七七・一七八・一七九・一八〇・一八一・一八二・一八三・一八四・一八五・一八六・一八七・一八八・一八九・一九〇・一九一・一九二・一九三・一九四・一九五・一九六・一九七・一九八・一九九・二〇〇・二〇一・二〇二・二〇三・二〇四・二〇五・二〇六・二〇七・二〇八・二〇九・二一〇・二一一・二一二・二一三・二一四・二一五・二一六・二一七・二一八・二一九・二二〇・二二一・二二二・二二三・二二四・二二五・二二六・二二七・二二八・二二九・二三〇・二三一・二三二・二三三・二三四・二三五・二三六・二三七・二三八・二三九・二四〇・二四一・二四二・二四三・二四四・二四五・二四六・二四七・二四八・二四九・二五〇・二五一・二五二・二五三・二五四・二五五・二五六・二五七・二五八・二五九・二六〇・二六一・二六二・二六三・二六四・二六五・二六六・二六七・二六八・二六九・二七〇・二七一・二七二・二七三・二七四・二七五・二七六・二七七・二七八・二七九・二八〇・二八一・二八二・二八三・二八四・二八五・二八六・二八七・二八八・二八九・二九〇・二九一・二九二・二九三・二九四・二九五・二九六・二九七・二九八・二九九・三〇〇・三〇一・三〇二・三〇三・三〇四・三〇五・三〇六・三〇七・三〇八・三〇九・三一〇・三一一・三一二・三一三・三一四・三一五・三一六・三一七・三一八・三一九・三二〇・三二一・三二二・三二三・三二四・三二五・三二六・三二七・三二八・三二九・三三〇・三三一・三三二・三三三・三三四・三三五・三三六・三三七・三三八・三三九・三四〇・三四一・三四二・三四三・三四四・三四五・三四六・三四七・三四八・三四九・三五〇・三五一・三五二・三五三・三五四・三五五・三五六・三五七・三五八・三五九・三六〇・三六一・三六二・三六三・三六四・三六五・三六六・三六七・三六八・三六九・三七〇・三七一・三七二・三七三・三七四・三七五・三七六・三七七・三七八・三七九・三八〇・三八一・三八二・三八三・三八四・三八五・三八六・三八七・三八八・三八九・三九〇・三九一・三九二・三九三・三九四・三九五・三九六・三九七・三九八・三九九・四〇〇・四〇一・四〇二・四〇三・四〇四・四〇五・四〇六・四〇七・四〇八・四〇九・四一〇・四一一・四一二・四一三・四一四・四一五・四一六・四一七・四一八・四一九・四二〇・四二一・四二二・四二三・四二四・四二五・四二六・四二七・四二八・四二九・四三〇・四三一・四三二・四三三・四三四・四三五・四三六・四三七・四三八・四三九・四四〇・四四一・四四二・四四三・四四四・四四五・四四六・四四七・四四八・四四九・四五〇・四五一・四五二・四五三・四五四・四五五・四五六・四五七・四五八・四五九・四六〇・四六一・四六二・四六三・四六四・四六五・四六六・四六七・四六八・四六九・四七〇・四七一・四七二・四七三・四七四・四七五・四七六・四七七・四七八・四七九・四八〇・四八一・四八二・四八三・四八四・四八五・四八六・四八七・四八八・四八九・四九〇・四九一・四九二・四九三・四九四・四九五・四九六・四九七・四九八・四九九・五〇〇・五〇一・五〇二・五〇三・五〇四・五〇五・五〇六・五〇七・五〇八・五〇九・五一〇・五一一・五一二・五一三・五一四・五一五・五一六・五一七・五一八・五一九・五二〇・五二一・五二二・五二三・五二四・五二五・五二六・五二七・五二八・五二九・五三〇・五三一・五三二・五三三・五三四・五三五・五三六・五三七・五三八・五三九・五四〇・五四一・五四二・五四三・五四四・五四五・五四六・五四七・五四八・五四九・五五〇・五五一・五五二・五五三・五五四・五五五・五五六・五五七・五五八・五五九・五六〇・五六一・五六二・五六三・五六四・五六五・五六六・五六七・五六八・五六九・五七〇・五七一・五七二・五七三・五七四・五七五・五七六・五七七・五七八・五七九・五八〇・五八一・五八二・五八三・五八四・五八五・五八六・五八七・五八八・五八九・五九〇・五九一・五九二・五九三・五九四・五九五・五九六・五九七・五九八・五九九・六〇〇・六〇一・六〇二・六〇三・六〇四・六〇五・六〇六・六〇七・六〇八・六〇九・六一〇・六一一・六一二・六一三・六一四・六一五・六一六・六一七・六一八・六一九・六二〇・六二一・六二二・六二三・六二四・六二五・六二六・六二七・六二八・六二九・六三〇・六三一・六三二・六三三・六三四・六三五・六三六・六三七・六三八・六三九・六四〇・六四一・六四二・六四三・六四四・六四五・六四六・六四七・六四八・六四九・六五〇・六五一・六五二・六五三・六五四・六五五・六五六・六五七・六五八・六五九・六六〇・六六一・六六二・六六三・六六四・六六五・六六六・六六七・六六八・六六九・六七〇・六七一・六七二・六七三・六七四・六七五・六七六・六七七・六七八・六七九・六八〇・六八一・六八二・六八三・六八四・六八五・六八六・六八七・六八八・六八九・六九〇・六九一・六九二・六九三・六九四・六九五・六九六・六九七・六九八・六九九・七〇〇・七〇一・七〇二・七〇三・七〇四・七〇五・七〇六・七〇七・七〇八・七〇九・七一〇・七一一・七一二・七一三・七一四・七一五・七一六・七一七・七一八・七一九・七二〇・七二一・七二二・七二三・七二四・七二五・七二六・七二七・七二八・七二九・七三〇・七三一・七三二・七三三・七三四・七三五・七三六・七三七・七三八・七三九・七四〇・七四一・七四二・七四三・七四四・七四五・七四六・七四七・七四八・七四九・七五〇・七五一・七五二・七五三・七五四・七五五・七五六・七五七・七五八・七五九・七六〇・七六一・七六二・七六三・七六四・七六五・七六六・七六七・七六八・七六九・七七〇・七七一・七七二・七七三・七七四・七七五・七七六・七七七・七七八・七七九・七八〇・七八一・七八二・七八三・七八四・七八五・七八六・七八七・七八八・七八九・七九〇・七九一・七九二・七九三・七九四・七九五・七九六・七九七・七九八・七九九・八〇〇・八〇一・八〇二・八〇三・八〇四・八〇五・八〇六・八〇七・八〇八・八〇九・八一〇・八一一・八一二・八一三・八一四・八一五・八一六・八一七・八一八・八一九・八二〇・八二一・八二二・八二三・八二四・八二五・八二六・八二七・八二八・八二九・八三〇・八三一・八三二・八三三・八三四・八三五・八三六・八三七・八三八・八三九・八四〇・八四一・八四二・八四三・八四四・八四五・八四六・八四七・八四八・八四九・八五〇・八五一・八五二・八五三・八五四・八五五・八五六・八五七・八五八・八五九・八六〇・八六一・八六二・八六三・八六四・八六五・八六六・八六七・八六八・八六九・八七〇・八七一・八七二・八七三・八七四・八七五・八七六・八七七・八七八・八七九・八八〇・八八一・八八二・八八三・八八四・八八五・八八六・八八七・八八八・八八九・八九〇・八九一・八九二・八九三・八九四・八九五・八九六・八九七・八九八・八九九・九〇〇・九〇一・九〇二・九〇三・九〇四・九〇五・九〇六・九〇七・九〇八・九〇九・九一〇・九一一・九一二・九一三・九一四・九一五・九一六・九一七・九一八・九一九・九二〇・九二一・九二二・九二三・九二四・九二五・九二六・九二七・九二八・九二九・九三〇・九三一・九三二・九三三・九三四・九三五・九三六・九三七・九三八・九三九・九四〇・九四一・九四二・九四三・九四四・九四五・九四六・九四七・九四八・九四九・九五〇・九五一・九五二・九五三・九五四・九五五・九五六・九五七・九五八・九五九・九六〇・九六一・九六二・九六三・九六四・九六五・九六六・九六七・九六八・九六九・九七〇・九七一・九七二・九七三・九七四・九七五・九七六・九七七・九七八・九七九・九八〇・九八一・九八二・九八三・九八四・九八五・九八六・九八七・九八八・九八九・九九〇・九九一・九九二・九九三・九九四・九九五・九九六・九九七・九九八・九九九・一〇〇〇・一〇〇一・一〇〇二・一〇〇三・一〇〇四・一〇〇五・一〇〇六・一〇〇七・一〇〇八・一〇〇九・一〇一〇・一〇一一・一〇一二・一〇一三・一〇一四・一〇一五・一〇一六・一〇一七・一〇一八・一〇一九・一〇二〇・一〇二一・一〇二二・一〇二三・一〇二四・一〇二五・一〇二六・一〇二七・一〇二八・一〇二九・一〇三〇・一〇三一・一〇三二・一〇三三・一〇三四・一〇三五・一〇三六・一〇三七・一〇三八・一〇三九・一〇四〇・一〇四一・一〇四二・一〇四三・一〇四四・一〇四五・一〇四六・一〇四七・一〇四八・一〇四九・一〇五〇・一〇五一・一〇五二・一〇五三・一〇五四・一〇五五・一〇五六・一〇五七・一〇五八・一〇五九・一〇六〇・一〇六一・一〇六二・一〇六三・一〇六四・一〇六五・一〇六六・一〇六七・一〇六八・一〇六九・一〇七〇・一〇七一・一〇七二・一〇七三・一〇七四・一〇七五・一〇七六・一〇七七・一〇七八・一〇七九・一〇八〇・一〇八一・一〇八二・一〇八三・一〇八四・一〇八五・一〇八六・一〇八七・一〇八八・一〇八九・一〇九〇・一〇九一・一〇九二・一〇九三・一〇九四・一〇九五・一〇九六・一〇九七・一〇九八・一〇九九・一一〇〇・一一〇一・一一〇二・一一〇三・一一〇四・一一〇五・一一〇六・一一〇七・一一〇八・一一〇九・一一一〇・一一一一・一一一二・一一一三・一一一四・一一一五・一一一六・一一一七・一一一八・一一一九・一一二〇・一一二一・一一二二・一一二三・一一二四・一一二五・一一二六・一一二七・一一二八・一一二九・一一三〇・一一三一・一一三二・一一三三・一一三四・一一三五・一一三六・一一三七・一一三八・一一三九・一一四〇・一一四一・一一四二・一一四三・一一四四・一一四五・一一四六・一一四七・一一四八・一一四九・一一五〇・一一五一・一一五二・一一五三・一一五四・一一五五・一一五六・一一五七・一一五八・一一五九・一一六〇・一一六一・一一六二・一一六三・一一六四・一一六五・一一六六・一一六七・一一六八・一一六九・一一七〇・一一七一・一一七二・一一七三・一一七四・一一七五・一一七六・一一七七・一一七八・一一七九・一一八〇・一一八一・一一八二・一一八三・一一八四・一一八五・一一八六・一一八七・一一八八・一一八九・一一九〇・一一九一・一一九二・一一九三・一一九四・一一九五・一一九六・一一九七・一一九八・一一九九・一二〇〇・一二〇一・一二〇二・一二〇三・一二〇四・一二〇五・一二〇六・一二〇七・一二〇八・一二〇九・一二一〇・一二一一・一二一二・一二一三・一二一四・一二一五・一二一六・一二一七・一二一八・一二一九・一二二〇・一二二一・一二二二・一二二三・一二二四・一二二五・一二二六・一二二七・一二二八・一二二九・一二三〇・一二三一・一二三二・一二三三・一二三四・一二三五・一二三六・一二三七・一二三八・一二三九・一二四〇・一二四一・一二四二・一二四三・一二四四・一二四五・一二四六・一二四七・一二四八・一二四九・一二五〇・一二五一・一二五二・一二五三・一二五四・一二五五・一二五六・一二五七・一二五八・一二五九・一二六〇・一二六一・一二六二・一二六三・一二六四・一二六五・一二六六・一二六七・一二六八・一二六九・一二七〇・一二七一・一二七二・一二七三・一二七四・一二七五・一二七六・一二七七・一二七八・一二七九・一二八〇・一二八一・一二八二・一二八三・一二八四・一二八五・一二八六・一二八七・一二八八・一二八九・一二九〇・一二九一・一二九二・一二九三・一二九四・一二九五・一二九六・一二九七・一二九八・一二九九・一三〇〇・一三〇一・一三〇二・一三〇三・一三〇四・一三〇五・一三〇六・一三〇七・一三〇八・一三〇九・一三一〇・一三一一・一三一二・一三一三・一三一四・一三一五・一三一六・一三一七・一三一八・一三一九・一三二〇・一三二一・一三二二・一三二三・一三二四・一三二五・一三二六・一三二七・一三二八・一三二九・一三三〇・一三三一・一三三二・一三三三・一三三四・一三三五・一三三六・一三三七・一三三八・一三三九・一三四〇・一三四一・一三四二・一三四三・一三四四・一三四五・一三四六・一三四七・一三四八・一三四九・一三五〇・一三五一・一三五二・一三五三・一三五四・一三五五・一三五六・一三五七・一三五八・一三五九・一三六〇・一三六一・一三六二・一三六三・一三六四・一三六五・一三六六・一三六七・一三六八・一三六九・一三七〇・一三七一・一三七二・一三七三・一三七四・一三七五・一三七六・一三七七・一三七八・一三七九・一三八〇・一三八一・一三八二・一三八三・一三八四・一三八五・一三八六・一三八七・一三八八・一三八九・一三九〇・一三九一・一三九二・一三九三・一三九四・一三九五・一三九六・一三九七・一三九八・一三九九・一四〇〇・一四〇一・一四〇二・一四〇三・一四〇四・一四〇五・一四〇六・一四〇七・一四〇八・一四〇九・一四一〇・一四一一・一四一二・一四一三・一四一四・一四一五・一四一六・一四一七・一四一八・一四一九・一四二〇・一四二一・一四二二・一四二三・一四二四・一四二五・一四二六・一四二七・一四二八・一四二九・一四三〇・一四三一・一四三二・一四三三・一四三四・一四三五・一四三六・一四三七・一四三八・一四三九・一四四〇・一四四一・一四四二・一四四三・一四四四・一四四五・一四四六・一四四七・一四四八・一四四九・一四五〇・一四五一・一四五二・一四五三・一四五四・一四五五・一四五六・一四五七・一四五八・一四五九・一四六〇・一四六一・一四六二・一四六三・一四六四・一四六五・一四六六・一四六七・一四六八・一四六九・一四七〇・一四七一・一四七二・一四七三・一四七四・一四七五・一四七六・一四七七・一四七八・一四七九・一四八〇・一四八一・一四八二・一四八三・一四八四・一四八五・一四八六・一四八七・一四八八・一四八九・一四九〇・一四九一・一四九二・一四九三・一四九四・一四九五・一四九六・一四九七・一四九八・一四九九・一五〇〇・一五〇一・一五〇二・一五〇三・一五〇四・一五〇五・一五〇六・一五〇七・一五〇八・一五〇九・一五一〇・一五一一・一五一二・一五一三・一五一四・一五一五・一五一六・一五一七・一五一八・一五一九・一五二〇・一五二一・一五二二・一五二三・一五二四・一五二五・一五二六・一五二七・一五二八・一五二九・一五三〇・一五三一・一五三二・一五三三・一五三四・一五三五・一五三六・一五三七・一五三八・一五三九・一五四〇・一五四一・一五四二・一五四三・一五四四・一五四五・一五四六・一五四七・一五四八・一五四九・一五五〇・一五五一・一五五二・一五五三・一五五四・一五五五・一五五六・一五五七・一五五八・一五五九・一五六〇・一五六一・一五六二・一五六三・一五六四・一五六五・一五六六・一五六七・一五六八・一五六九・一五七〇・一五七一・一五七二・一五七三・一五七四・一五七五・一五七六・一五七七・一五七八・一五七九・一五八〇・一五八一・一五八二・一五八三・一五八四・一五八五・一五八六・一五八七・一五八八・一五八九・一五九〇・一五九一・一五九二・一五九三・一五九四・一五九五・一五九六・一五九七・一五九八・一五九九・一六〇〇・一六〇一・一六〇二・一六〇三・一六〇四・一六〇五・一六〇六・一六〇七・一六〇八・一六〇九・一六一〇・一六一一・一六一二・一六一三・一六一四・一六一五・一六一六・一六一七・一六一八・一六一九・一六二〇・一六二一・一六二二・一六二三・一六二四・一六二五・一六二六・一六二七・一六二八・一六二九・一六三〇・一六三一・一六三二・一六三三・一六三四・一六三五・一六三六・一六三七・一六三八・一六三九・一六四〇・一六四一・一六四二・一六四三・一六四四・一六四五・一六四六・一六四七・一六四八・一六四九・一六五〇・一六五一・一六五二・一六五三・一六五四・一六五五・一六五六・一六五七・一六五八・一六五九・一六六〇・一六六一・一六六二・一六六三・一六六四・一六六五・一六六六・一六六七・一六六八・一六六九・一六七〇・一六七一・一六七二・一六七三・一六七四・一六七五・一六七六・一六七七・一六七八・一六七九・一六八〇・一六八一・一六八二・一六八三・一六八四・一六八五・一六八六・一六八七・一六八八・一六八九・一六九〇・一六九一・一六九二・一六九三・一六九四・一六九五・一六九六・一六九七・一六九八・一六九九・一七〇〇・一七〇一・一七〇二・一七〇三・一七〇四・一七〇五・一七〇六・一七〇七・一七〇八・一七〇九・一七一〇・一七一一・一七一二・一七一三・一七一四・一七一五・一七一六・一七一七・一七一八・一七一九・一七二〇・一七二一・一七二二・一七二三・一七二四・一七二五・一七二六・一七二七・一七二八・一七二九・一七三〇・一七三一・一七三二・一七三三・一七三四・一七三五・一七三六・一七三七・一七三八・一七三九・一七四〇・一七四一・一七四二・一七四三・一七四四・一七四五・一七四六・一七四七・一七四八・一七四九・一七五〇・一七五一・一七五二・一七五三・一七五四・一七五五・一七五六・一七五七・一七五八・一七五九・一七六〇・一七六一・一七六二・一七六三・一七六四・一七六五・一七六六・一七六七・一七六八・一七六九・一七七〇・一七七一・一七七二・一七七三・一七七四・一七七五・一七七六・一七七七・一七七八・一七七九・一七八〇・一七八一・一七八二・一七八三・一七八四・一七八五・一七八六・一七八七・一七八八・一七八九・一七九〇・一七九一・一七九二・一七九三・一七九四・一七九五・一七九六・一七九七・一七九八・一七九九・一八〇〇・一八〇一・一八〇二・一八〇三・一八〇四・一八〇五・一八〇六・一八〇七・一八〇八・一八〇九・一八一〇・一八一一・一八一二・一八一三・一八一四・一八一五・一八一六・一八一七・一八一八・一八一九・一八二〇・一八二一・一八二二・一八二三・一八二四・一八二五・一八二六・一八二七・一八二八・一八二九・一八三〇・一八三一・一八三二・一八三三・一八三四・一八三五・一八三六・一八三七・一八三八・一八三九・一八四〇・一八四一・一八四二・一八四三・一八四四・一八四五・一八四六・一八四七・一八四八・一八四九・一八五〇・一八五一・一八五二・一八五三・一八五四・一八五五・一八五六・一八五七・一八五八・一八五九・一八六〇・一八六一・一八六二・一八六三・一八六四・一八六五・一八六六・一八六七・一八六八・一八六九・一八七〇・一八七一・一八七二・一八七三・一八七四・一八七五・一八七六・一八七七・一八七八・一八七九・一八八〇・一八八一・一八八二・一八八三・一八八四・一八八五・一八八六・一八八七・一八八八・一八八九・一八九〇・一八九一・一八九二・一八九三・一八九四・一八九五・一八九六・一八九七・一八九八・一八九九・一九〇〇・一九〇一・一九〇二・一九〇三・一九〇四・一九〇五・一九〇六・一九〇七・一九〇八・一九〇九・一九一〇・一九一一・一九一二・一九一三・一九一四・一九一五・一九一六・一九一七・一九一八・一九一九・一九二〇・一九二一・一九二二・一九二三・一九二四・一九二五・一九二六・一九二七・一九二八・一九二九・一九三〇・一九三一・一九三二・一九三三・一九三四・一九三五・一九三六・一九三七・一九三八・一九三九・一九四〇・一九四一・一九四二・一九四三・一九四四・一九四五・一九四六・一九四七・一九四八・一九四九・一九五〇・一九五一・一九五二・一九五三・一九五四・一九五五・一九五六・一九五七・一九五八・一九五九・一九六〇・一九六一・一九六二・一九六三・一九六四・一九六五・一九六六・一九六七・一九六八・一九六九・一九七〇・一九七一・一九七二・一九七三・一九七四・一九七五・一九七六・一九七七・一九七八・一九七九・一九八〇・一九八一・一九八二・一九八三・一九八四・一九八五・一九八六・一九八七・一九八八・一九八九・一九九〇・一九九一・一九九二・一九九三・一九九四・一九九五・一九九六・一九九七・一九九八・一九九九・二〇〇〇・二〇〇一・二〇〇二・二〇〇三・二〇〇四・二〇〇五・二〇〇六・二〇〇七・二〇〇八・二〇〇九・二〇一〇・二〇一一・二〇一二・二〇一三・二〇一四・二〇一五・二〇一六・二〇一七・二〇一八・二〇一九・二〇二〇・二〇二一・二〇二二・二〇二三・二〇二四・二〇二五・二〇二六・二〇二七・二〇二八・二〇二九・二〇三〇・二〇三一・二〇三二・二〇三三・二〇三四・二〇三五・二〇三六・二〇三七・二〇三八・二〇三九・二〇四〇・二〇四一・二〇四二・二〇四三・二〇四四・二〇四五・二〇四六・二〇四七・二〇四八・二〇四九・二〇五〇・二〇五一・二〇五二・二〇五三・二〇五四・二〇五五・二〇五六・二〇五七・二〇五八・二〇五九・二〇六〇・二〇六一・二〇六二・二〇六三・二〇六四・二〇六五・二〇六六・二〇六七・二〇六八・二〇六九・二〇七〇・二〇七一・二〇七二・二〇七三・二〇七四・二〇七五・二〇七六・二〇七七・二〇七八・二〇七九・二〇八〇・二〇八一・二〇八二・二〇八三・二〇八四・二〇八五・二〇八六・二〇八七・二〇八八・二〇八九・二〇九〇・二〇九一・二〇九二・二〇九三・二〇九四・二〇九五・二〇九六・二〇九七・二〇九八・二〇九九・二一〇〇・二一〇一・二一〇二・二一〇三・二一〇四・二一〇五・二一〇六・二一〇七・二一〇八・二一〇九・二一一〇・二一一一・二一一二・二一一三・二一一四・二一一五・二一一六・二一一七・二一一八・二一一九・二一二〇・二一二一・二一二二・二一二三・二一二四・二一二五・二一二六・二一二七・二一二八・二一二九・二一三〇・二一三一・二一三二・二一三三・二一三四・二一三五・二一三六・二一三七・二一三八・二一三九・二一四〇・二一四一・二一四二・二一四三・二一四四・二一四五・二一四六・二一四七・二一四八・二一四九・二一五〇・二一五一・二一五二・二一五三・二一五四・二一五五・二一五六・二一五七・二一五八・二一五九・二一六〇・二一六一・二一六二・二一六三・二一六四・二一六五・二一六六・二一六七・二一六八・二一六九・二一七〇・二一七一・二一七二・二一七三・二一七四・二一七五・二一七六・二一七七・二一七八・二一七九・二一八〇・二一八一・二一八二・二一八三・二一八四・二一八五・二一八六・二一八七・二一八八・二一八九・二一九〇・二一九一・二一九二・二一九三・二一九四・二一九五・二一九六・二一九七・二一九八・二一九九・二二〇〇・二二〇一・二二〇二・二二〇三・二二〇四・二二〇五・二二〇六・二二〇七・二二〇八・二二〇九・二二一〇・二二一一・二二一二・二二一三・二二一四・二二一五・二二一六・二二一七・二二一八・二二一九・二二二〇・二二二一・二二二二・二二二三・二二二四・二二二五・二二二六・二二二七・二二二八・二二二九・二二三〇・二二三一・二二三二・二二三三・二二三四・二二三五・二二三六・二二三七・二二三八・二二三九・二二四〇・二二四一・二二四二・二二四三・二二四四・二二四五・二二四六・二二四七・二二四八・二二四九・二二五〇・二二五一・二二五二・二二五三・二二五四・二二五五・二二五六・二二五七・二二五八・二二五九・二二六〇・二二六一・二二六二・二二六三・二二六四・二二六五・二二六六・二二六七・二二六八・二二六九・二二七〇・二二七一・二二七二・二二七三・二二七四・二二七五・二二七六・二二七七・二二七八・二二七九・二二八〇・二二八一・二二八二・二二八三・二二八四・二二八五・二二八六・二二八七・二二八八・二二八九・二二九〇・二二九一・二二九二・二二九三・二二九四・二二九五・二二九六・二二九七・二二九八・二二九九・二三〇〇・二三〇一・二三〇二・二三〇三・二三〇四・二三〇五・二三〇六・二三〇七・二三〇八・二三〇九・二三一〇・二三一一・二三一二・二三一三・二三一四・二三一五・二三一六・二三一七・二三一八・二三一九・二三二〇・二三二一・二三二二・二三二三・二三二四・二三二五・二三二六・二三二七・二三二八・二三二九・二三三〇・二三三一・二三三二・二三三三・二三三四・二三三五・二三三六・二三三七・二三三八・二三三九・二三四〇・二三四一・二三四二・二三四三・二三四四・二三四五・二三四六・二三四七・二三四八・二三四九・二三五〇・二三五一・二三五二・二三五三・二三五四・二三五五・二三五六・二三五七・二三五八・二三五九・二三六〇・二三六一・二三六二・二三六三・二三六四・二三六五・二三六六・二三六七・二三六八・二三六九・二三七〇・二三七一・二三七二・二三七三・二三七四・二三七五・二三七六・二三七七・二三七八・二三七九・二三八〇・二三八一・二三八二・二三八三・二三八四・二三八五・二三八六・二三八七・二三八八・二三八九・二三九〇・二三九一・二三九二・二三九三・二三九四・二三九五・二三九六・二三九七・二三九八・二三九九・二四〇〇・二四〇一・二四〇二・二四〇三・二四〇四・二四〇五・二四〇六・二四〇七・二四〇八・二四〇九・二四一〇・二四一一・二四一二・二四一三・二四一四・二四一五・二四一六・二四一七・二四一八・二四一九・二四二〇・二四二一・二四二二・二四二三・二四二四・二四二五・二四二六・二四二七・二四二八・二四二九・二四三〇・二四三一・二四三二・二四三三・二四三四・二四三五・二四三六・二四三七・二四三八・二四三九・二四四〇・二四四一・二四四二・二四四三・二四四四・二四四五・二四四六・二四四七・二四四八・二四四九・二四五〇・二四五一・二四五二・二四五三・二四五四・二四五五・二四五六・二四五七・二四五八・二四五九・二四六〇・二四六一・二四六二・二四六三・二四六四・二四六五・二四六六・二四六七・二四六八・二四六九・二四七〇・二四七一・二四七二・二四七三・二四七四・二四七五・二四七六・二四七七・二四七八・二四七九・二四八〇・二四八一・二四八二・二四八三・二四八四・二四八五・二四八六・二四八七・二四八八・二四八九・二四九〇・二四九一・二四九二・二四九三・二四九四・二四九五・二四九六・二四九七・二四九八・二四九九・二五〇〇・二五〇一・二五〇二・二五〇三・二五〇四・二五〇五・二五〇六・二五〇七・二五〇八・二五〇九・二五一〇・二五一一・二五一二・二五一三・二五一四・二五一五・二五一六・二五一七・二五一八・二五一九・二五二〇・二五二一・二五二二・二五二三・二五二四・二五二五・二五二六・二五二七・二五二八・二五二九・二五三〇・二五三一・二五三二・二五三三・二五三四・二五三五・二五三六・二五三七・二五三八・二五三九・二五四〇・二五四一・二五四二・二五四三・二五四四・二五四五・二五四六・二五四七・二五四八・二五四九・二五五〇・二五五一・二五五二・二五五三・二五五四・二五五五・二五五六・二五五七・二五五八・二五五九・二五六〇・二五六一・二五六二・二五六三・二五六四・二五六五・二五六六・二五六七・二五六八・二五六九・二五七〇・二五七一・二五七二・二五七三・二五七四・二五七五・二五七六・二五七七・二五七八・二五七九・二五八〇・二五八一・二五八二・二五八三・二五八四・二五八五・二五八六・二五八七・二五八八・二五八九・二五九〇・二五九一・二五九二・二五九三・二五九四・二五九五・二五九六・二五九七・二五九八・二五九九・二六〇〇・二六〇一・二六〇二・二六〇三・二六〇四・二六〇五・二六〇六・二六〇七・二六〇八・二六〇九・二六一〇・二六一一・二六一二・二六一三・二六一四・二六一五・二六一六・二六一七・二六一八・二六一九・二六二〇・二六二一・二六二二・二六二三・二六二四・二六二五・二六二六・二六二七・二六二八・二六二九・二六三〇・二六三一・二六三二・二六三三・二六三四・二六三五・二六三六・二六三七・二六三八・二六三九・二六四〇・二六四一・二六四二・二六四三・二六四四・二六四五・二六四六・二六四七・二六四八・二六四九・二六五〇・二六五一・二六五二・二六五三・二六五四・二六五五・二六五六・二六五七・二六五八・二六五九・二六六〇・二六六一・二六六二・二六六三・二六六四・二六六五・二六六六・二六六七・二六六八・二六六九・二六七〇・二六七一・二六七二・二六七三・二六七四・二六七五・二六七六・二六七七・二六七八・二六七九・二六八〇・二六八一・二六八二・二六八三・二六八四・二六八五・二六八六・二六八七・二六八八・二六八九・二六九〇・二六九一・二六九二・二六九三・二六九四・二六九五・二六九六・二六九七・二六九八・二六九九・二七〇〇・二七〇一・二七〇二・二七〇三・二七〇四・二七〇五・二七〇六・二七〇七・二七〇八・二七〇九・二七一〇・二七一一・二七一二・二七一三・二七一四・二七一五・二七一六・二七一七・二七一八・二七一九・二七二〇・二七二一・二七二二・二七二三・二七二四・二七二五・二七二六・二七二七・二七二八・二七二九・二七三〇・二七三一・二七三二・二七三三・二七三四・二七三五・二七三六・二七三七・二七三八・二七三九・二七四〇・二七四一・二七四二・二七四三・二七四四・二七四五・二七四六・二七四七・二七四八・二七四九・二七五〇・二七五一・二七五二・二七五三・二七五四・二七五五・二七五六・二七五七・二七五八・二七五九・二七六〇・二七六一・二七六二・二七六三・二七六四・二七六五・二七六六・二七六七・二七六八・二七六九・二七七〇・二七七一・二七七二・二七七三・二七七四・二七七五・二七七六・二七七七・二七七八・二七七九・二七八〇・二七八一・二七八二・二七八三・二七八四・二七八五・二七八六・二七八七・二七八八・二七八九・二七九〇・二七九一・二七九二・二七九三・二七九四・二七九五・二七九六・二七九七・二七九八・二七九九・二八〇〇・二八〇一・二八〇二・二八〇三・二八〇四・二八〇五・二八〇六・二八〇七・二八〇八・二八〇九・二八一〇・二八一一・二八一二・二八一三・二八一四・二八一五・二八一六・二八一七・二八一八・二八一九・二八二〇・二八二一・二八二二・二八二三・二八二四・二八二五・二八二六・二八二七・二八二八・二八二九・二八三〇・二八三一・二八三二・二八三三・二八三四・二八三五・二八三六・二八三七・二八三八・二八三九・二八四〇・二八四一・二八四二・二八四三・二八四四・二八四五・二八四六・二八四七・二八四八・二八四九・二八五〇・二八五一・二八五二・二八五三・二八五四・二八五五・二八五六・二八五七・二八五八・二八五九・二八六〇・二八六一・二八六二・二八六三・二八六四・二八六五・二八六六・二八六七・二八六八・二八六九・二八七〇・二八七一・二八七二・二八七三・二八七四・二八七五・二八七六・二八七七・二八七八・二八七九・二八八〇・二八八一・二八八二・二八八三・二八八四・二八八五・二八八六・二八八七・二八八八・二八八九・二八九〇・二八九一・二八九二・二八九三・二八九四・二八九五・二八九六・二八九七・二八九八・二八九九・二九〇〇・二九〇一・二九〇二・二九〇三・二九〇四・二九〇五・二九〇六・二九〇七・二九〇八・二九〇九・二九一〇・二九一一・二九一二・二九一三・二九一四・二九一五・二九一六・二九一七・二九一八・二九一九・二九二〇・二九二一・二九二二・二九二三・二九二四・二九二五・二九二六・二九二七・二九二八・二九二九・二九三〇・二九三一・二九三二・二九三三・二九三四・二九三五・二九三六・二九三七・二九三八・二九三九・二九四〇・二九四一・二九四二・二九四三・二九四四・二九四五・二九四六・二九四七・二九四八・二九四九・二九五〇・二九五一・二九五二・二九五三・二九五四・二九五五・二九五六・二九五七・二九五八・二九五九・二九六〇・二九六一・二九六二・二九六三・二九六四・二九六五・二九六六・二九六七・二九六八・二九六九・二九七〇・二九七一・二九七二・二九七三・二九七四・二九七五・二九七六・二九七七・二九七八・二九七九・二九八〇・二九八一・二九八二・二九八三・二九八四・二九八五・二九八六・二九八七・二九八八・二九八九・二九九〇・二九九一・二九九二・二九九三・二九九四・二九九五・二九九六・二九九七・二九九八・二九九九・三〇〇〇・三〇〇一・三〇〇二・三〇〇三・三〇〇四・三〇〇五・三〇〇六・三〇〇七・三〇〇八・三〇〇九・三〇一〇・三〇一一・三〇一二・三〇一三・三〇一四・三〇一五・三〇一六・三〇一七・三〇一八・三〇一九・三〇二〇・三〇二一・三〇二二・三〇二三・三〇二四・三〇二五・三〇二六・三〇二七・三〇二八・三〇二九・三〇三〇・三〇三一・三〇三二・三〇三三・三〇三四・三〇三五・三〇三六・三〇三七・三〇三八・三〇三九・三〇四〇・三〇四一・三〇四二・三〇四三・三〇四四・三〇四五・三〇四六・三〇四七・三〇四八・三〇四九・三〇五〇・三〇五一・三〇五二・三〇五三・三〇五四・三〇五五・三〇五六・三〇五七・三〇五八・三〇五九・三〇六〇・三〇六一・三〇六二・三〇六三・三〇六四・三〇六五・三〇六六・三〇六七・三〇六八・三〇六九・三〇七〇・三〇七一・三〇七二・三〇七三・三〇七四・三〇七五・三〇七六・三〇七七・三〇七八・三〇七九・三〇八〇・三〇八一・三〇八二・三〇八三・三〇八四・三〇八五・三〇八六・三〇八七・三〇八八・三〇八九・三〇九〇・三〇九一・三〇九二・三〇九三・三〇九四・三〇九五・三〇九六・三〇九七・三〇九八・三〇九九・三一〇〇・三一〇一・三一〇二・三一〇三・三一〇四・三一〇五・三一〇六・三一〇七・三一〇八・三一〇九・三一一〇・三一一一・三一一二・三一一三・三一一四・三一一五・三一一六・三一一七・三一一八・三一一九・三一二〇・三一二一・三一二二・三一二三・三一二四・三一二五・三一二六・三一二七・三一二八・三一二九・三一三〇・三一三一・三一三二・三一三三・三一三四・三一三五・三一三六・三一三七・三一三八・三一三九・三一四〇・三一四一・三一四二・三一四三・三一四四・三一四五・三一四六・三一四七・三一四八・三一四九・三一五〇・三一五一・三一五二・三一五三・三一五四・三一五五・三一五六・三一五七・三一五八・三一五九・三一六〇・三一六一・三一六二・三一六三・三一六四・三一六五・三一六六・三一六七・三一六八・三一六九・三一七〇・三一七一・三一七二・三一七三・三一七四・三一七五・三一七六・三一七七・三一七八・三一七九・三一八〇・三一八一・三一八二・三一八三・三一八四・三一八五・三一八六・三一八七・三一八八・三一八九・三一九〇・三一九一・三一九二・三一九三・三一九四・三一九五・三一九六・三一九七・三一九八・三一九九・三二〇〇・三二〇一・三二〇二・三二〇三・三二〇四・三二〇五・三二〇六・三二〇七・三二〇八・三二〇九・三二一〇・三二一一

【一二四九五】
黒優れり

白十一、此時に黒は直ちに十二と切るも良しと雖も、これも黒遂に十三、白十四、黒十五と結果黒可なり。白勝つには手筋なれど、此場合は手順中の一手段にて、黒に好手あり。白十一と打たれては、白遂に十二と一段の好手を誘ひ出し、黒は二三と発展して大いに白を締めつけ、次に五の一手を打つて突破し、白勝つべきも

〔一二五一一〕
七手順良し

黒十四に切つて、白十五の時、黒十六と突出す。此時、白先づ十七と附け、次に黒イと打つて、白善し。

（なれば、白ロに起つての上調子の黒を捉ふ。（一二四八六圖）。なれば、黒ハイを白チ黒ロ白ト打つて、白リと打つて、白善し。

〔一二五一二〕
白稍可なり

黒十六の時、白は直ちに十七と約へて、黒十六の時、白は直ちに十七と約へて、黒遂に二四に劫を取り、而して白よりも厚れど、黒の右辺に突出すことゝなり、代りに白が実利を得て、闘ひ上手なり、その上辺に、黒の損、即ち白一の多大なるもの、（一二四九五圖）と比較参照）

三劫
三粘

〔一二五一三〕
白稍優る

白一の時黒二と押し、次に四・六と打つ手あり。斯打てば黒は前の如く難、黒は避けて樂の途を擇び、圖に至るまで白よりも厚く、

〔一二五二九〕
先づ互角
本因坊秀哉九段 當時
岩佐銈六段 二子番勝

黒四は、矢張り五と綿粘イ筋なり。白七を八と約れば、その變化は前掲諸圖の如し。黒十二は、單に十一へ策なり（圖）。妙。此手若し三に五なれば、黒二六、白二七、黒イ、白二五、黒ハとなる。斯くなるに先手にて黒ことなつては、白ロなれば、黒ニに圍まれることとなつては、白は數子を取るも形勢惡し。

〔一二五三〇〕
手筋なり

黒十二、面白き筋なり。されど、これには征關係もあるにて、若し、黒征惡しければ、この筋は成立せず。次に、白十三なれば、黒十四、次に白十五には、此一手、二十白、二十一黒十五にては、イ或はイ忽ち潰ゆ。黒二六。此時、白ロなれば、黒ハまた白ロの征。黒ホにて勝。

〔一二五三一〕
黒稍優る
先番 顧水如三段
宮坂栄二五段 二子番勝

黒八の時は、白は二二へ約して宜し。（一二五一七圖參照）。尤も、白九・十一の着手とは云ひ難きも、氣骨あり。黒十六に尋で白十七に絞つて白の手數を延ばすことを得ば、全く九の綿込の手順宜しきによるなり。遮莫、白遂に二七に粘く。此時、黒は、隅との攻合不利と見※

〔一二五三二〕
常形
本因坊秀哉九段 當時
宮坂栄二五段 二子番勝

黒二四の時、白は二五・二七もあり。ピシキ手段なり。黒遂に三二。これは一二四三二圖と同形なり。

〔一二五三三〕
白の勢優る
勝岩本薫六段 當時
先番鈴木秀子三段

黒十六・十八の出切りは、一二四五圖以下の變化に、白九より二五と先手無厚曲——黒、餘儀無く三十に辛活、遂に形勢を失せり。

〔一二五三四〕
要點約言（其六）
（第一一二型イの一變化の戊）

白十五は、嚴しき手段なり。以下、至難なる變化もあれど、結果は白も惡しからず。

〔一二五三五〕
要點約言（其七）
（第一一二型イの一變化の戊）

白十六と粘げば、黒十七、白十八、二一。白は卽ち十七に、黒十九、二一。白の勢左右に頗る厚し。

〔一二五三六〕
要點約言（其八）
（第一一二型イの一變化の戊）

黒十二、面白き筋なり。されど、これには征關係もあるにて、若し、黒征惡しければ、この筋は成立せず。次に、白十三なれば、黒十四、次に白十五にては、此一手、二十白、二十一黒十五にては、イ或はイ忽ち潰ゆ。黒二六。此時、白ロなれば、黒ハまた白ロの征。黒ホにて勝。

〔一二五三七〕
基本圖
（第一一二型イの一）

白十五にカケル手は、前型イと、意味は略ぼ同じやうなれども、その變化は異る。而して黒は、前型の如くイと打たれるよりは、白十五の方がイと打易し。

〔一二五三八〕
黒正着

黒十六なれば、白十七、黒イ、白二八、以下必然に二八と遂かず。白十七にて止むを得ず。黒二は善し。これに四以下の生の途開けり。

〔一二五三九〕
征

白十二は、征關係。黒若し左の征場合は、宜しき三以下二一に而も黒ロと征に取る。但し、征惡しき場合は、黒は一二五四四圖によるべし。

〔一二五四〇〕
黒善し

白若し十二に粘げば、黒十三。白一に敵圖をイに破るも、遂に十一へ。白又十一に黒十三に無論十一へ。白ハで黒ホ白ニなれば、黒ホ白ヘ。

〔一二五四一〕
白の圍み破る

白若し十より打てば、黒は、その拍子に、黒との間に、白十一と出るも、黒は、遂に三妙。

〔一二五四六〕
黒大に優れり

白二十に粘ぎし時、黒は臨機應變、俄然として七子を棄てて、つるの二策に出でを、遂に先手締附け、厚。要點の大に優る。

〔一二五四七〕
九の別法

一二五三九圖の征の如くなり、黒九と打ち、白八に黒十一と出でを可とす。白十二と手順善し。黒遂に十九。白十二と互角。

〔一二五四八〕
黒の勢善し

白十四の打抜き、宜し。されど、局部的の問題にては、見よ、黒の擊ち方宜しく、十五にて攻勢遂に守勢に墮ちたり。

〔一二五四九〕
白潰滅の勢

白十六と粘げば、黒は卽ち十七、二一。白の勢左右に頗る厚し。

〔一二五五〇〕
手筋なり

黒十二、面白き筋なり。されど、これには征關係もあるにて、若し、黒征惡しければ、この筋は成立せず。次に、白十三なれば、黒十四、次に白十五にては、此一手、二十白、二十一黒十五にては、イ或はイ忽ち潰ゆ。黒二六。此時、白ロなれば、黒ハまた白ロの征。黒ホにて勝。

〔一二五四五〕
黒　勝

白イなれば、黒直ちに尖に切るの鋭先、白十一に切るを！止むを得ず。黒乃ち十五、十二・四と出でて十七・十八を急ぐ。（黒イ）白、十九と尋で、白本圖の如く大に猶ほ前圖の變化に潰ゆ。遂れば黒十七の時、白ロの應けに非ず、以下に結果は二十八と打つに如かず。其の時、黒若し此時、白イなれば黒ハとなれば、白イなれば黒ニ。

〔一二五四六〕
白に手段無し

白若し攻合の態度に出れば、黒十八と綿ねて堅守す。白急なり。黒ロ、白イなれば黒ハを切り。

〔一二五四八〕
白に好手無し

白もた十八となれば、黒は十九と而して白十の時、黒二と頓に非ず。此時、白イなれば黒ハとなれば黒ニ。

〔一二五四九〕
黒　勝

白十二に引けば、黒は敵の間に乗じて此時、三・六・五と、白、先づ十・七に出でれば、白を待つて十八に形嶺十九。白イは、黒ロにて勝。

〔一二五五〇〕
黒悪し

白二の時、黒九の筋は好ず。白十四に逃出し得るも、白好調十八に上邊を凭れ撃ちつつ、中の黒を脱むる。

〔一二五五一〕
白優勢

黒三は同様、白四と同じく、黒面白から五に十一と身を挺して遮二・四と至つては、大勢白優る。

〔一二五五二〕
白厚し

黒が一の方面に打つ手は、前の一二五二圖以下と同じく、黒面白から六に活きも、白十五と厚壮なり。

〔一二五五三〕
黒潰滅す

黒五・七・九は俗筋にして、此形に特に悪し。白、六・十に乗じて遂に以下、十一の割込みよつて、妙勢に出づ。黒軍、局面收拾の途無し。

〔一二五五四〕
白厚し

久保松勝喜代六段
異一目勝　清　源四段
黒三の綿ねは、手順としては宜しく、また氣合としても尤もな所なれど、此場合、稍緩な※

〔一二五五五〕
黒可なり

白四に約へれば、黒は五・七而して九。白、十に活きざるを得ず。此時黒十一の割込み、妙。これに手段相違いで出づ。（一二五三八圖以下參照）。

〔一二五五六〕
參考圖

白十三の時黒十四は、別に悪しらざれど程に黒、は飛に比せば、前型稍重き手なり。

〔一二五五七〕
征

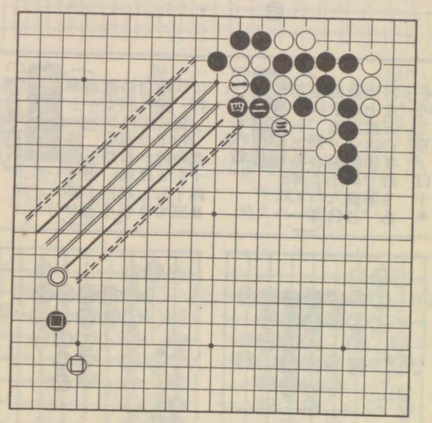
白イと征出し、次に黒二八の逃出し得る場合は、白十三・十五の佳手なり。

〔一二五五八〕
白勝

白先づ八に引き、以下黒十五と守り、十六と攻合にすると白二の時、黒勢一層の強味を加へ、白ロの如く黒十七の粘れば、黒イを以て

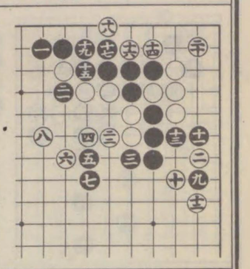
〔一二五六六〕
征當りの圖

前述の如く大斜定石も、此白一・黒二・白三・黒四の征の如く大いに關係あり。而して此征のアタリとして、白の宜しき場合を假想すれば、例へば圖の□に對し◎の如き一間夾、或は二間等の夾のある時なり。但し又た斜間夾の時は、多く非掛けるか、掛くるかなれば、打初めなれば、二或は三間夾の位置にいふ所の石の無きを普通とす。故に征の關係は、多くは黒に有利なるものと見て、大過無きなり。



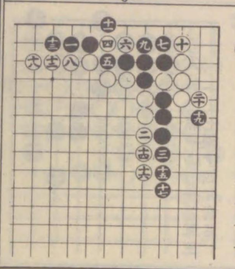
〔一二五六七〕
白可なり

黒十七なれば、白は十八に綿めて、尋で二に收めて隅の補ひを二十に置くべし。此形は、前圖と略ぼ同じなり、白は下の黒を整へて、上下共に眺むるを以て、白可なり。



〔一二五六八〕
白悪しからず

黒七は、或る意味の嫌手——白を一二五七〇圖の如く導かんとするの魂膽なり。遺憾なるは、前圖と略ぼ同形にて、隅の十一まで振替りとなりては、外勢白壯なり。前圖よりも白稍可し。

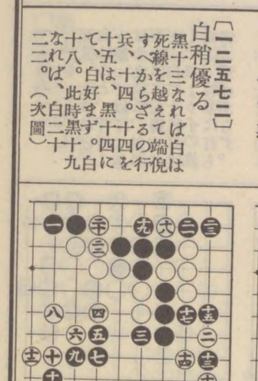


〔一二五六九〕
白稍優る

黒九と取れば、白は十と約へて宜しく、白八と至つて終に白が初目の外面包囲の策成れり。

〔一二五七〇〕
白悪し

白八は、黒七の誘ひの罠に陥る。黒九に、白は所謂る乞食十二にて、寸效無し。斯くも盤上を爲せるもの一層白悪し。

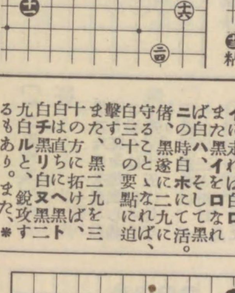


〔一二五七一〕
應答共に正し

黒十八。此時、白一走れば、轉段して十九と走る。此時は白面種々なる變化を藏す。從つて黒實地少し。黒三十・三十一・三十二の處、中の大切の處なり。白は、三十一と附けて三十二と蓋し、此出は緩手にして、直ちに三十二と走るも一局なり。

〔一二五七二〕
白稍優る

黒十三なれば白は死線を越えざるを得ず、十四に行けば、白十五、黒十六、白十七、黒十八、此時白二に打つ。

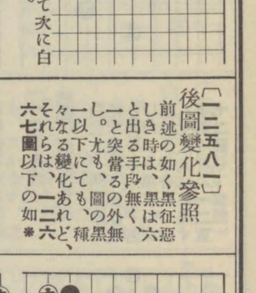


〔一二五七三〕
白可なり

黒十九なれば、白二十と背後より迫る。白二十一と隅を活きるも、白二十一と四の二を得れば、此儘にて活。

〔一二五七四〕
白可なり

黒十七なれば、白は十八に綿めて、尋で二に收めて隅の補ひを二十に置くべし。此形は、前圖と略ぼ同形にて、隅の十一まで振替りとなりては、外勢白壯なり。前圖よりも白稍可し。



〔一二五七五〕
白悪しからず

黒三。白は一着、四に押し置くべし。黒は、白の一を防ぎ、白乃ち八。黒いで七。白の一二三五二圖の如き定石に比して難きにはあらざるも、白も相當に打てる形なり。

〔一二五七六〕
白の勢可なり

黒三は、筋なれど打過ぎなり。白四と以下十まで連押し、尋で轉じて十二に置き、黒の勢、稍制覇の形なるも、白の黒孤立して、漸く薄し。

〔一二五七七〕
黒可なり

白若し綿れば、單に一よりも、黒三・五・七。白六は尋で正着なり。黒は尋で二に正着なり。此形は、黒七に十一圖。白八に十二圖。正形にて、黒利あるに、黒の利きあるだけに、黒可なり。

〔一二五七八〕
黒、根據あり

黒は、又た、九而して、一、もあり。九は、これを前圖の如くイと當てるも、白は十一と當てにて、一得二損の二段綿ねば、互角なり。

〔一二五七九〕
黒有利の形

白四・黒五。此時、白六に綿出せば、黒は七に、隅の九に上邊と行びて、白十と振替り、黒十一と遂に此邊も、白厚く、黒は地に及ばず。

〔一二五八〇〕
白大勢を占む

黒悪しき場合は、一齋の行出、好果、即ち白のさばき、黒は五と四まざるを得ず。白八。此時に黒九以下なれば、甚だ苦しき事既に至つては、他に手段無し。白二に打つて四を先にして、而る後白二六の行遂に、廣表千里の中原を呑吐する、雄渾の姿。白大いに善しと皆本圖以下六の變化を征、黒悪しき*圖。

〔一二五八一〕
後圖變化參照

前述の如く黒悪しき時は、黒は六と出て、白は無く、段の外、突當りの無黒、一と下に、尤も圖の種々の變化あれど、それらは一二六以下の如く*。

〔一二五八二〕
白優勢

黒一悪し。白は二、四・八を打つて後、尋で九に凄壯の切、十と互に活き活きで、黒九まで、白乃ち中原に厚壯な。白も。

〔一二五八三〕
白優れり

白イの拆しを打つて直ちに二と打つた手段も、綿出して六と抱へて、八と征に當てるも、白十七は、一つに征如何による手、黒十一、白十二と抱へて、黒十三と止むを得ず、白十四を黒十五と得ず。

〔一二五八四〕
要點約言

第二變化の甲（第二型イの一）

白十七は、一つに征如何による手、白三と大斜に掛けるも、一般に、多く局初に掛けるは、従つて征*。

〔一二五八五〕
基本圖
（第一二變化の乙）

白十七、手筋なり。これを狙わば白イの附近を方面の形に整へんとするに十三以下十七まで。

〔一二五八六〕
正形

黒十八。此形にも、白は十九が善し。若しイなれば黒ロに、白ハまたは白ニ。黒二の次の一、黒イ・白二なれば五七一圖以下（二一イ参照）

〔一二五八七〕
黒悪し

黒いまイの出ず、白ロの定法に圖（一前）を攻めて妨げて一、二・四と攻むる。黒六、白二、黒七、白止むを得ず。黒乃ち二八を要す。

〔一二五八八〕
黒正着

白若し直ちに十九・二一なれば、黒二〇。白は中の二を護し、掩ひつつ右の黒二三を攻むる。黒二七、白二八、黒無念なり。

〔一二五九九〕
黒可なり

白六。黒則ち七。白八、止むを得ず。黒九は次に八を取りて隅の死を救ふ。〔一二五七圖参照〕白は三圖以下守れば、白十七にて守れば、黒死生の劫。白は半生の劫。

〔一二六〇〇〕
應答共に正し

黒は直ちに十八・二十と打つも手あり。前形十八を二十七に守れば、黒十七に切つて出づ。白十六尋で、黒十七・九・一一中の白動かば、黒イに尋で白ハに逃げて黒十二に約すれば、白ロ、黒七は、前圖の如くイを可とす。

〔一二六〇一〕
互角の分れ

黒直ちに五と打過ぎ。白六に八と、敵の備未だ完からざるの隙を見て黒十三に乗じ、此形厚きに似たれど、尚ほ遺味もあり。イの稍厚きには、黒遂に十三と宜しきを得たり。

〔一二六〇二〕
黒の樂觀不許

白十二、悪しからず。黒は十三に行びて乃ち五位の白十四に掩撃し、白イに此形など、黒ロなどの筋もあり、黒の樂觀を許さず。

〔一二六〇三〕
黒惨敗

黒十三の逃走は、重ねて無理なり。白十四・十六と押し、尋で十七・九と轉じて十八の黒手筋を驚かす。妙なれば、白十七をイと黒悪し。

〔一二六〇四〕
白必勝の勢

黒十九・二一と、通走を圖れば、白二二、黒二三に、二四と、黒遂に二七にて、以下臥薪嘗膽、辛うして脱出を經、白二八圖と同じく黒悪しく、白二八・二九と、黒三〇、白二七、黒二八、白三一、黒三二、白三三、黒三四、白三五、黒三六、白三七、黒三八、白三九、黒四〇、白四一、黒四二、白四三、黒四四、白四五、黒四六、白四七、黒四八、白四九、黒五〇、白五一、黒五二、白五三、黒五四、白五五、黒五六、白五七、黒五八、白五九、黒六〇、白六一、黒六二、白六三、黒六四、白六五、黒六六、白六七、黒六八、白六九、黒七〇、白七一、黒七二、白七三、黒七四、白七五、黒七六、白七七、黒七八、白七九、黒八〇、白八一、黒八二、白八三、黒八四、白八五、黒八六、白八七、黒八八、白八九、黒九〇、白九一、黒九二、白九三、黒九四、白九五、黒九六、白九七、黒九八、白九九、黒一〇〇、白一〇一、黒一〇二、白一〇三、黒一〇四、白一〇五、黒一〇六、白一〇七、黒一〇八、白一〇九、黒一一〇、白一一一、黒一一二、白一一三、黒一一四、白一一五、黒一一六、白一一七、黒一一八、白一一九、黒一二〇、白一二一、黒一二二、白一二三、黒一二四、白一二五、黒一二六、白一二七、黒一二八、白一二九、黒一三〇、白一三一、黒一三二、白一三三、黒一三四、白一三五、黒一三六、白一三七、黒一三八、白一三九、黒一四〇、白一四一、黒一四二、白一四三、黒一四四、白一四五、黒一四六、白一四七、黒一四八、白一四九、黒一五〇、白一五一、黒一五二、白一五三、黒一五四、白一五五、黒一五六、白一五七、黒一五八、白一五九、黒一六〇、白一六一、黒一六二、白一六三、黒一六四、白一六五、黒一六六、白一六七、黒一六八、白一六九、黒一七〇、白一七一、黒一七二、白一七三、黒一七四、白一七五、黒一七六、白一七七、黒一七八、白一七九、黒一八〇、白一八一、黒一八二、白一八三、黒一八四、白一八五、黒一八六、白一八七、黒一八八、白一八九、黒一九〇、白一九一、黒一九二、白一九三、黒一九四、白一九五、黒一九六、白一九七、黒一九八、白一九九、黒二〇〇、白二〇一、黒二〇二、白二〇三、黒二〇四、白二〇五、黒二〇六、白二〇七、黒二〇八、白二〇九、黒二一〇、白二一一、黒二一二、白二一三、黒二一四、白二一五、黒二一六、白二一七、黒二一八、白二一九、黒二二〇、白二二一、黒二二二、白二二三、黒二二四、白二二五、黒二二六、白二二七、黒二二八、白二二九、黒二三〇、白二三一、黒二三二、白二三三、黒二三四、白二三五、黒二三六、白二三七、黒二三八、白二三九、黒二四〇、白二四一、黒二四二、白二四三、黒二四四、白二四五、黒二四六、白二四七、黒二四八、白二四九、黒二五〇、白二五一、黒二五二、白二五三、黒二五四、白二五五、黒二五六、白二五七、黒二五八、白二五九、黒二六〇、白二六一、黒二六二、白二六三、黒二六四、白二六五、黒二六六、白二六七、黒二六八、白二六九、黒二七〇、白二七一、黒二七二、白二七三、黒二七四、白二七五、黒二七六、白二七七、黒二七八、白二七九、黒二八〇、白二八一、黒二八二、白二八三、黒二八四、白二八五、黒二八六、白二八七、黒二八八、白二八九、黒二九〇、白二九一、黒二九二、白二九三、黒二九四、白二九五、黒二九六、白二九七、黒二九八、白二九九、黒三〇〇、白三〇一、黒三〇二、白三〇三、黒三〇四、白三〇五、黒三〇六、白三〇七、黒三〇八、白三〇九、黒三一〇、白三一一、黒三一二、白三一三、黒三一四、白三一五、黒三一六、白三一七、黒三一八、白三一九、黒三二〇、白三二一、黒三二二、白三二三、黒三二四、白三二五、黒三二六、白三二七、黒三二八、白三二九、黒三三〇、白三三一、黒三三二、白三三三、黒三三四、白三三五、黒三三六、白三三七、黒三三八、白三三九、黒三四〇、白三四一、黒三四二、白三四三、黒三四四、白三四五、黒三四六、白三四七、黒三四八、白三四九、黒三五〇、白三五一、黒三五二、白三五三、黒三五四、白三五五、黒三五六、白三五七、黒三五八、白三五九、黒三六〇、白三六一、黒三六二、白三六三、黒三六四、白三六五、黒三六六、白三六七、黒三六八、白三六九、黒三七〇、白三七一、黒三七二、白三七三、黒三七四、白三七五、黒三七六、白三七七、黒三七八、白三七九、黒三八〇、白三八一、黒三八二、白三八三、黒三八四、白三八五、黒三八六、白三八七、黒三八八、白三八九、黒三九〇、白三九一、黒三九二、白三九三、黒三九四、白三九五、黒三九六、白三九七、黒三九八、白三九九、黒四〇〇、白四〇一、黒四〇二、白四〇三、黒四〇四、白四〇五、黒四〇六、白四〇七、黒四〇八、白四〇九、黒四一〇、白四一一、黒四一二、白四一三、黒四一四、白四一五、黒四一六、白四一七、黒四一八、白四一九、黒四二〇、白四二一、黒四二二、白四二三、黒四二四、白四二五、黒四二六、白四二七、黒四二八、白四二九、黒四三〇、白四三一、黒四三二、白四三三、黒四三四、白四三五、黒四三六、白四三七、黒四三八、白四三九、黒四四〇、白四四一、黒四四二、白四四三、黒四四四、白四四五、黒四四六、白四四七、黒四四八、白四四九、黒四五〇、白四五一、黒四五二、白四五三、黒四五四、白四五五、黒四五六、白四五七、黒四五八、白四五九、黒四六〇、白四六一、黒四六二、白四六三、黒四六四、白四六五、黒四六六、白四六七、黒四六八、白四六九、黒四七〇、白四七一、黒四七二、白四七三、黒四七四、白四七五、黒四七六、白四七七、黒四七八、白四七九、黒四八〇、白四八一、黒四八二、白四八三、黒四八四、白四八五、黒四八六、白四八七、黒四八八、白四八九、黒四九〇、白四九一、黒四九二、白四九三、黒四九四、白四九五、黒四九六、白四九七、黒四九八、白四九九、黒五〇〇、白五〇一、黒五〇二、白五〇三、黒五〇四、白五〇五、黒五〇六、白五〇七、黒五〇八、白五〇九、黒五一〇、白五一一、黒五一二、白五一三、黒五一四、白五一五、黒五一六、白五一七、黒五一八、白五一九、黒五二〇、白五二一、黒五二二、白五二三、黒五二四、白五二五、黒五二六、白五二七、黒五二八、白五二九、黒五三〇、白五三一、黒五三二、白五三三、黒五三四、白五三五、黒五三六、白五三七、黒五三八、白五三九、黒五四〇、白五四一、黒五四二、白五四三、黒五四四、白五四五、黒五四六、白五四七、黒五四八、白五四九、黒五五〇、白五五一、黒五五二、白五五三、黒五五四、白五五五、黒五五六、白五五七、黒五五八、白五五九、黒五六〇、白五六一、黒五六二、白五六三、黒五六四、白五六五、黒五六六、白五六七、黒五六八、白五六九、黒五七〇、白五七一、黒五七二、白五七三、黒五七四、白五七五、黒五七六、白五七七、黒五七八、白五七九、黒五八〇、白五八一、黒五八二、白五八三、黒五八四、白五八五、黒五八六、白五八七、黒五八八、白五八九、黒五九〇、白五九一、黒五九二、白五九三、黒五九四、白五九五、黒五九六、白五九七、黒五九八、白五九九、黒六〇〇、白六〇一、黒六〇二、白六〇三、黒六〇四、白六〇五、黒六〇六、白六〇七、黒六〇八、白六〇九、黒六一〇、白六一一、黒六一二、白六一三、黒六一四、白六一五、黒六一六、白六一七、黒六一八、白六一九、黒六二〇、白六二一、黒六二二、白六二三、黒六二四、白六二五、黒六二六、白六二七、黒六二八、白六二九、黒六三〇、白六三一、黒六三二、白六三三、黒六三四、白六三五、黒六三六、白六三七、黒六三八、白六三九、黒六四〇、白六四一、黒六四二、白六四三、黒六四四、白六四五、黒六四六、白六四七、黒六四八、白六四九、黒六五〇、白六五一、黒六五二、白六五三、黒六五四、白六五五、黒六五六、白六五七、黒六五八、白六五九、黒六六〇、白六六一、黒六六二、白六六三、黒六六四、白六六五、黒六六六、白六六七、黒六六八、白六六九、黒六七〇、白六七一、黒六七二、白六七三、黒六七四、白六七五、黒六七六、白六七七、黒六七八、白六七九、黒六八〇、白六八一、黒六八二、白六八三、黒六八四、白六八五、黒六八六、白六八七、黒六八八、白六八九、黒六九〇、白六九一、黒六九二、白六九三、黒六九四、白六九五、黒六九六、白六九七、黒六九八、白六九九、黒七〇〇、白七〇一、黒七〇二、白七〇三、黒七〇四、白七〇五、黒七〇六、白七〇七、黒七〇八、白七〇九、黒七一〇、白七一一、黒七一二、白七一三、黒七一四、白七一五、黒七一六、白七一七、黒七一八、白七一九、黒七二〇、白七二一、黒七二二、白七二三、黒七二四、白七二五、黒七二六、白七二七、黒七二八、白七二九、黒七三〇、白七三一、黒七三二、白七三三、黒七三四、白七三五、黒七三六、白七三七、黒七三八、白七三九、黒七四〇、白七四一、黒七四二、白七四三、黒七四四、白七四五、黒七四六、白七四七、黒七四八、白七四九、黒七五〇、白七五一、黒七五二、白七五三、黒七五四、白七五五、黒七五六、白七五七、黒七五八、白七五九、黒七六〇、白七六一、黒七六二、白七六三、黒七六四、白七六五、黒七六六、白七六七、黒七六八、白七六九、黒七七〇、白七七一、黒七七二、白七七三、黒七七四、白七七五、黒七七六、白七七七、黒七七八、白七七九、黒七八〇、白七八一、黒七八二、白七八三、黒七八四、白七八五、黒七八六、白七八七、黒七八八、白七八九、黒七九〇、白七九一、黒七九二、白七九三、黒七九四、白七九五、黒七九六、白七九七、黒七九八、白七九九、黒八〇〇、白八〇一、黒八〇二、白八〇三、黒八〇四、白八〇五、黒八〇六、白八〇七、黒八〇八、白八〇九、黒八一〇、白八一一、黒八一二、白八一三、黒八一四、白八一五、黒八一六、白八一七、黒八一八、白八一九、黒八二〇、白八二一、黒八二二、白八二三、黒八二四、白八二五、黒八二六、白八二七、黒八二八、白八二九、黒八三〇、白八三一、黒八三二、白八三三、黒八三四、白八三五、黒八三六、白八三七、黒八三八、白八三九、黒八四〇、白八四一、黒八四二、白八四三、黒八四四、白八四五、黒八四六、白八四七、黒八四八、白八四九、黒八五〇、白八五一、黒八五二、白八五三、黒八五四、白八五五、黒八五六、白八五七、黒八五八、白八五九、黒八六〇、白八六一、黒八六二、白八六三、黒八六四、白八六五、黒八六六、白八六七、黒八六八、白八六九、黒八七〇、白八七一、黒八七二、白八七三、黒八七四、白八七五、黒八七六、白八七七、黒八七八、白八七九、黒八八〇、白八八一、黒八八二、白八八三、黒八八四、白八八五、黒八八六、白八八七、黒八八八、白八八九、黒八九〇、白八九一、黒八九二、白八九三、黒八九四、白八九五、黒八九六、白八九七、黒八九八、白八九九、黒九〇〇、白九〇一、黒九〇二、白九〇三、黒九〇四、白九〇五、黒九〇六、白九〇七、黒九〇八、白九〇九、黒九一〇、白九一一、黒九一二、白九一三、黒九一四、白九一五、黒九一六、白九一七、黒九一八、白九一九、黒九二〇、白九二一、黒九二二、白九二三、黒九二四、白九二五、黒九二六、白九二七、黒九二八、白九二九、黒九三〇、白九三一、黒九三二、白九三三、黒九三四、白九三五、黒九三六、白九三七、黒九三八、白九三九、黒九四〇、白九四一、黒九四二、白九四三、黒九四四、白九四五、黒九四六、白九四七、黒九四八、白九四九、黒九五〇、白九五一、黒九五二、白九五三、黒九五四、白九五五、黒九五六、白九五七、黒九五八、白九五九、黒九六〇、白九六一、黒九六二、白九六三、黒九六四、白九六五、黒九六六、白九六七、黒九六八、白九六九、黒九七〇、白九七一、黒九七二、白九七三、黒九七四、白九七五、黒九七六、白九七七、黒九七八、白九七九、黒九八〇、白九八一、黒九八二、白九八三、黒九八四、白九八五、黒九八六、白九八七、黒九八八、白九八九、黒九九〇、白九九一、黒九九二、白九九三、黒九九四、白九九五、黒九九六、白九九七、黒九九八、白九九九、黒一〇〇〇、白一〇〇一、黒一〇〇二、白一〇〇三、黒一〇〇四、白一〇〇五、黒一〇〇六、白一〇〇七、黒一〇〇八、白一〇〇九、黒一〇一〇、白一〇一一、黒一〇一二、白一〇一三、黒一〇一四、白一〇一五、黒一〇一六、白一〇一七、黒一〇一八、白一〇一九、黒一〇二〇、白一〇二一、黒一〇二二、白一〇二三、黒一〇二四、白一〇二五、黒一〇二六、白一〇二七、黒一〇二八、白一〇二九、黒一〇三〇、白一〇三一、黒一〇三二、白一〇三三、黒一〇三四、白一〇三五、黒一〇三六、白一〇三七、黒一〇三八、白一〇三九、黒一〇四〇、白一〇四一、黒一〇四二、白一〇四三、黒一〇四四、白一〇四五、黒一〇四六、白一〇四七、黒一〇四八、白一〇四九、黒一〇五〇、白一〇五一、黒一〇五二、白一〇五三、黒一〇五四、白一〇五五、黒一〇五六、白一〇五七、黒一〇五八、白一〇五九、黒一〇六〇、白一〇六一、黒一〇六二、白一〇六三、黒一〇六四、白一〇六五、黒一〇六六、白一〇六七、黒一〇六八、白一〇六九、黒一〇七〇、白一〇七一、黒一〇七二、白一〇七三、黒一〇七四、白一〇七五、黒一〇七六、白一〇七七、黒一〇七八、白一〇七九、黒一〇八〇、白一〇八一、黒一〇八二、白一〇八三、黒一〇八四、白一〇八五、黒一〇八六、白一〇八七、黒一〇八八、白一〇八九、黒一〇九〇、白一〇九一、黒一〇九二、白一〇九三、黒一〇九四、白一〇九五、黒一〇九六、白一〇九七、黒一〇九八、白一〇九九、黒一一〇〇、白一一〇一、黒一一〇二、白一一〇三、黒一一〇四、白一一〇五、黒一一〇六、白一一〇七、黒一一〇八、白一一〇九、黒一一一〇、白一一一一、黒一一一二、白一一一三、黒一一一四、白一一一五、黒一一一六、白一一一七、黒一一一八、白一一一九、黒一一二〇、白一一二一、黒一一二二、白一一二三、黒一一二四、白一一二五、黒一一二六、白一一二七、黒一一二八、白一一二九、黒一一三〇、白一一三一、黒一一三二、白一一三三、黒一一三四、白一一三五、黒一一三六、白一一三七、黒一一三八、白一一三九、黒一一四〇、白一一四一、黒一一四二、白一一四三、黒一一四四、白一一四五、黒一一四六、白一一四七、黒一一四八、白一一四九、黒一一五〇、白一一五一、黒一一五二、白一一五三、黒一一五四、白一一五五、黒一一五六、白一一五七、黒一一五八、白一一五九、黒一一六〇、白一一六一、黒一一六二、白一一六三、黒一一六四、白一一六五、黒一一六六、白一一六七、黒一一六八、白一一六九、黒一一七〇、白一一七一、黒一一七二、白一一七三、黒一一七四、白一一七五、黒一一七六、白一一七七、黒一一七八、白一一七九、黒一一八〇、白一一八一、黒一一八二、白一一八三、黒一一八四、白一一八五、黒一一八六、白一一八七、黒一一八八、白一一八九、黒一一九〇、白一一九一、黒一一九二、白一一九三、黒一一九四、白一一九五、黒一一九六、白一一九七、黒一一九八、白一一九九、黒一二〇〇、白一二〇一、黒一二〇二、白一二〇三、黒一二〇四、白一二〇五、黒一二〇六、白一二〇七、黒一二〇八、白一二〇九、黒一二一〇、白一二一一、黒一二一二、白一二一三、黒一二一四、白一二一五、黒一二一六、白一二一七、黒一二一八、白一二一九、黒一二二〇、白一二二一、黒一二二二、白一二二三、黒一二二四、白一二二五、黒一二二六、白一二二七、黒一二二八、白一二二九、黒一二三〇、白一二三一、黒一二三二、白一二三三、黒一二三四、白一二三五、黒一二三六、白一二三七、黒一二三八、白一二三九、黒一二四〇、白一二四一、黒一二四二、白一二四三、黒一二四四、白一二四五、黒一二四六、白一二四七、黒一二四八、白一二四九、黒一二五〇、白一二五一、黒一二五二、白一二五三、黒一二五四、白一二五五、黒一二五六、白一二五七、黒一二五八、白一二五九、黒一二六〇、白一二六一、黒一二六二、白一二六三、黒一二六四、白一二六五、黒一二六六、白一二六七、黒一二六八、白一二六九、黒一二七〇、白一二七一、黒一二七二、白一二七三、黒一二七四、白一二七五、黒一二七六、白一二七七、黒一二七八、白一二七九、黒一二八〇、白一二八一、黒一二八二、白一二八三、黒一二八四、白一二八五、黒一二八六、白一二八七、黒一二八八、白一二八九、黒一二九〇、白一二九一、黒一二九二、白一二九三、黒一二九四、白一二九五、黒一二九六、白一二九七、黒一二九八、白一二九九、黒一三〇〇、白一三〇一、黒一三〇二、白一三〇三、黒一三〇四、白一三〇五、黒一三〇六、白一三〇七、黒一三〇八、白一三〇九、黒一三一〇、白一三一一、黒一三一二、白一三一三、黒一三一四、白一三一五、黒一三一六、白一三一七、黒一三一八、白一三一九、黒一三二〇、白一三二一、黒一三二二、白一三二三、黒一三二四、白一三二五、黒一三二六、白一三二七、黒一三二八、白一三二九、黒一三三〇、白一三三一、黒一三三二、白一三三三、黒一三三四、白一三三五、黒一三三六、白一三三七、黒一三三八、白一三三九、黒一三四〇、白一三四一、黒一三四二、白一三四三、黒一三四四、白一三四五、黒一三四六、白一三四七、黒一三四八、白一三四九、黒一三五〇、白一三五一、黒一三五二、白一三五三、黒一三五四、白一三五五、黒一三五六、白一三五七、黒一三五八、白一三五九、黒一三六〇、白一三六一、黒一三六二、白一三六三、黒一三六四、白一三六五、黒一三六六、白一三六七、黒一三六八、白一三六九、黒一三七〇、白一三七一、黒一三七二、白一三七三、黒一三七四、白一三七五、黒一三七六、白一三七七、黒一三七八、白一三七九、黒一三八〇、白一三八一、黒一三八二、白一三八三、黒一三八四、白一三八五、黒一三八六、白一三八七、黒一三八八、白一三八九、黒一三九〇、白一三九一、黒一三九二、白一三九三、黒一三九四、白一三九五、黒一三九六、白一三九七、黒一三九八、白一三九九、黒一四〇〇、白一四〇一、黒一四〇二、白一四〇三、黒一四〇四、白一四〇五、黒一四〇六、白一四〇七、黒一四〇八、白一四〇九、黒一四一〇、白一四一一、黒一四一二、白一四一三、黒一四一四、白一四一五、黒一四一六、白一四一七、黒一四一八、白一四一九、黒一四二〇、白一四二一、黒一四二二、白一四二三、黒一四二四、白一四二五、黒一四二六、白一四二七、黒一四二八、白一四二九、黒一四三〇、白一四三一、黒一四三二、白一四三三、黒一四三四、白一四三五、黒一四三六、白一四三七、黒一四三八、白一四三九、黒一四四〇、白一四四一、黒一四四二、白一四四三、黒一四四四、白一四四五、黒一四四六、白一四四七、黒一四四八、白一四四九、黒一四五〇、白一四五一、黒一四五二、白一四五三、黒一四五四、白一四五五、黒一四五六、白一四五七、黒一四五八、白一四五九、黒一四六〇、白一四六一、黒一四六二、白一四六三、黒一四六四、白一四六五、黒一四六六、白一四六七、黒一四六八、白一四六九、黒一四七〇、白一四七一、黒一四七二、白一四七三、黒一四七四、白一四七五、黒一四七六、白一四七七、黒一四七八、白一四七九、黒一四八〇、白一四八一、黒一四八二、白一四八三、黒一四八四、白一四八五、黒一四八六、白一四八七、黒一四八八、白一四八九、黒一四九〇、白一四九一、黒一四九二、白一四九三、黒一四九四、白一四九五、黒一四九六、白一四九七、黒一四九八、白一四九九、黒一五〇〇、白一五〇一、黒一五〇二、白一五〇三、黒一五〇四、白一五〇五、黒一五〇六、白一五〇七、黒一五〇八、白一五〇九、黒一五一〇、白一五一一、黒一五一二、白一五一三、黒一五一四、白一五一五、黒一五一六、白一五一七、黒一五一八、白一五一九、黒一五二〇、白一五二一、黒一五二二、白一五二三、黒一五二四、白一五二五、黒一五二六、白一五二七、黒一五二八、白一五二九、黒一五三〇、白一五三一、黒一五三二、白一五三三、黒一五三四、白一五三五、黒一五三六、白一五三七、黒一五三八、白一五三九、黒一五四〇、白一五四一、黒一五四二、白一五四三、黒一五四四、白一五四五、黒一五四六、白一五四七、黒一五四八、白一五四九、黒一五五〇、白一五五一、黒一五五二、白一五五三、黒一五五四、白一五五五、黒一五五六、白一五五七、黒一五五八、白一五五九、黒一五六〇、白一五六一、黒一五六二、白一五六三、黒一五六四、白一五六五、黒一五六六、白一五六七、黒一五六八、白一五六九、黒一五七〇、白一五七一、黒一五七二、白一五七三、黒一五七四、白一五七五、黒一五七六、白一五七七、黒一五七八、白一五七九、黒一五八〇、白一五八一、黒一五八二、白一五八三、黒一五八四、白一五八五、黒一五八六、白一五八七、黒一五八八、白一五八九、黒一五九〇、白一五九一、黒一五九二、白一五九三、黒一五九四、白一五九五、黒一五九六、白一五九七、黒一五九八、白一五九九、黒一六〇〇、白一六〇一、黒一六〇二、白一六〇三、黒一六〇四、白一六〇五、黒一六〇六、白一六〇七、黒一六〇八、白一六〇九、黒一六一〇、白一六一一、黒一六一二、白一六一三、黒一六一四、白一六一五、黒一六一六、白一六一七、黒一六一八、白一六一九、黒一六二〇、白一六二一、黒一六二二、白一六二三、黒一六二四、白一六二五、黒一六二六、白一六二七、黒一六二八、白一六二九、黒一六三〇、白一六三一、黒一六三二、白一六三三、黒一六三四、白一六三五、黒一六三六、白一六三七、黒一六三八、白一六三九、黒一六四〇、白一六四一、黒一六四二、白一六四三、黒一六四四、白一六四五、黒一六四六、白一六四七、黒一六四八、白一六四九、黒一六五〇、白一六五一、黒一六五二、白一六五三、黒一六五四、白一六五五、黒一六五六、白一六五七、黒一六五八、白一六五九、黒一六六〇、白一六六一、黒一六六二、白一六六三、黒一六六四、白一六六五、黒一六六六、白一六六七、黒一六六八、白一六六九、黒一六七〇、白一六七一、黒一六七二、白一六七三、黒一六七四、白一六七五、黒一六七六、白一六七七、黒一六七八、白一六七九、黒一六八〇、白一六八一、黒一六八二、白一六八三、黒一六八四、白一六八五、黒一六八六、白一六八七、黒一六八八、白一六八九、黒一六九〇、白一六九一、黒一六九二、白一六九三、黒一六九四、白一六九五、黒一六九六、白一六九七、黒一六九八、白一六九九、黒一七〇〇、白一七〇一、黒一七〇二、白一七〇三、黒一七〇四、白一七〇五、黒一七〇六、白一七〇七、黒一七〇八、白一七〇九、黒一七一〇、白一七一一、黒一七一二、白一七一三、黒一七一四、白一七一五、黒一七一六、白一七一七、黒一七一八、白一七一九、黒一七二〇、白一七二一、黒一七二二、白一七二三、黒一七二四、白一七二五、黒一七二六、白一七二七、黒一七二八、白一七二九、黒一七三〇、白一七三一、黒一七三二、白一七三三、黒一七三四、白一七三五、黒一七三六、白一七三七、黒一七三八、白一七三九、黒一七四〇、白一七四一、黒一七四二、白一七四三、黒一七四四、白一七四五、黒一七四六、白一七四七、黒一七四八、白一七四九、黒一七五〇、白一七五一、黒一七五二、白一七五三、黒一七五四、白一七五五、黒一七五六、白一七五七、黒一七五八、白一七五九、黒一七六〇、白一七六一、黒一七六二、白一七六三、黒一七六四、白一七六五、黒一七六六、白一七六七、黒一七六八、白一七六九、黒一七七〇、白一七七一、黒一七七二、白一七七三、黒一七七四、白一七七五、黒一七七六、白一七七七、黒一七七八、白一七七九、黒一七八〇、白一七八一、黒一七八二、白一七八三、黒一七八四、白一七八五、黒一七八六、白一七八七、黒一七八八、白一七八九、黒一七九〇、白一七九一、黒一七九二、白一七九三、黒一七九四、白一七九五、黒一七九六、白一七九七、黒一七九八、白一七九九、黒一八〇〇、白一八〇一、黒一八〇二、白一八〇三、黒一八〇四、白一八〇五、黒一八〇六、白一八〇七、黒一八〇八、白一八〇九、黒一八一〇、白一八一一、黒一八一二、白一八一三、黒一八一四、白一八一五、黒一八一六、白一八一七、黒一八一八、白一八一九、黒一八二〇、白一八二一、黒一八二二、白一八二三、黒一八二四、白一八二五、黒一八二六、白一八二七、黒一八二八、白一八二九、黒一八三〇、白一八三一、黒一八三二、白一八三三、黒一八三四、白一八三五、黒一八三六、白一八三七、黒一八三八、白一八三九、黒一八四〇、白一八四一、黒一八四二、白一八四三、黒一八四四、白一八四五、黒一八四六、白一八四七、黒一八四八、白一八四九、黒一八五〇、白一八五一、黒一八五二、白一八五三、黒一八五四、白一八五五、黒一八五六、白一八五七、黒一八五八、白一八五九、黒一八六〇、白一八六一、黒一八六二、白一八六三、黒一八六四、白一八六五、黒一八六六、白一八六七、黒一八六八、白一八六九、黒一八七〇、白一八七一、黒一八七二、白一八七三、黒一八七四、白一八七五、黒一八七六、白一八七七、黒一八七八、白一八七九、黒一八八〇、白一八八一、黒一八八二、白一八八三、黒一八八四、白一八八五、黒一八八六、白一八八七、黒一八八八、白一八八九、黒一八九〇、白一八九一、黒一八九二、白一八九三、黒一八九四、白一八九五、黒一八九六、白一八九七、黒一八九八、白一八九九、黒一九〇〇、白一九〇一、黒一九〇二、白一九〇三、黒一九〇四、白一九〇五、黒一九〇六、白一九〇七、黒一九〇八、白一九〇九、黒一九一〇、白一九一一、黒一九一二、白一九一三、黒一九一四、白一九一五、黒一九一六、白一九一七、黒一九一八、白一九一九、黒一九二〇、白一九二一、黒一九二二、白一九二三、黒一九二四、白一九二五、黒一九二六、白一九二七、黒一九二八、白一九二九、黒一九三〇、白一九三一、黒一九三二、白一九三三、黒一九三四、白一九三五、黒一九三六、白一九三七、黒一九三八、白一九三九、黒一九四〇、白一九四一、黒一九四二、白一九四三、黒一九四四、白一九四五、黒一九四六、白一九四七、黒一九四八、白一九四九、黒一九五〇、白一九五一、黒一九五二、白一九五三、黒一九五四、白一九五五、黒一九五六、白一九五七、黒一九五八、白一九五九、黒一九六〇、白一九六一、黒一九六二、白一九六三、黒一九六四、白一九六五、黒一九六六、白一九六七、黒一九六八、白一九六九、黒一九七〇、白一九七一、黒一九七二、白一九七三、黒一九七四、白一九七五、黒一九七六、白一九七七、黒一九七八、白一九七九、黒一九八〇、白一九八一、黒一九八二、白一九八三、黒一九八四、白一九八五、黒一九八六、白一九八七、黒一九八八、白一九八九、黒一九九〇、白一九九一、黒一九九二、白一九九三、黒一九九四、白一九九五、黒一九九六、白一九九七、黒一九九八、白一九九九、黒二〇〇〇、白二〇〇一、黒二〇〇二、白二〇〇三、黒二〇〇四、白二〇〇五、黒二〇〇六、白二〇〇七、黒二〇〇八、白二〇〇九、黒二〇一〇、白二〇一一、黒二〇一二、白二〇一三、黒二〇一四、白二〇一五、黒二〇一六、白二〇一七、黒二〇一八、白二〇一九、黒二〇二〇、白二〇二一、黒二〇二二、白二〇二三、黒二〇二四、白二〇二五、黒二〇二六、白二〇二七、黒二〇二八、白二〇二九、黒二〇三〇、白二〇三一、黒二〇三二、白二〇三三、黒二〇三四、白二〇三五、黒二〇三六、白二〇三七、黒二〇三八、白二〇三九、黒二〇四〇、白二〇四一、黒二〇四二、白二〇四三、黒二〇四四、白二〇四五、黒二〇四六、白二〇四七、黒二〇四八、白二〇四九、黒二〇五〇、白二〇五一、黒二〇五二、白二〇五三、黒二〇五四、白二〇五五、黒二〇五六、白二〇五七、黒二〇五八、白二〇五九、黒二〇六〇、白二〇六一、黒二〇六二、白二〇六三、黒二〇六四、白二〇六五、黒二〇六六、白二〇六七、黒二〇六八、白二〇六九、黒二〇七〇、白二〇七一、黒二〇七二、白二〇七三、黒二〇七四、白二〇七五、黒二〇七六、白二〇七七、黒二〇七八、白二〇七九、黒二〇八〇、白二〇八一、黒二〇八二、白二〇八三、黒二〇八四、白二〇八五、黒二〇八六、白二〇八七、黒二〇八八、白二〇八九、黒二〇九〇、白二〇九一、黒二〇九二、白二〇九三、黒二〇九四、白二〇九五、黒二〇九六、白二〇九七、黒二〇九八、白二〇九九、黒二一〇〇、白二一〇一、黒二一〇二、白二一〇三、黒二一〇四、白二一〇五、黒二一〇六、白二一〇七、黒二一〇八、白二一〇九、黒二一一〇、白二一一一、黒二一一二、白二一一三、黒二一一四、白二一一五、黒二一一六、白二一一七、黒二一一八、白二一一九、黒二一二〇、白二一二一、黒二一二二、白二一二三、黒二一二四、白二一二五、黒二一二六、白二一二七、黒二一二八、白二一二九、黒二一三〇、白二一三一、黒二一三二、白二一三三、黒二一三四、白二一三五、黒二一三六、白二一三七、黒二一三八、白二一三九、黒二一四〇、白二一四一、黒二一四二、白二一四三、黒二一四四、白二一四五、黒二一四六、白二一四七、黒二一四八、白二一四九、黒二一五〇、白二一五一、黒二一五二、白二一五三、黒二一五四、白二一五五、黒二一五六、白二一五七、黒二一五八、白二一五九、黒二一六〇、白二一六一、黒二一六二、白二一六三、黒二一六四、白二一六五、黒二一六六、白二一六七、黒二一六八、白二一六九、黒二一七〇、白二一七一、黒二一七二、白二一七三、黒二一七四、白二一七五、黒二一七六、白二一七七、黒二一七八、白二一七九、黒二一八〇、白二一八一、黒二一八二、白二一八三、黒二一八四、白二一八五、黒二一八六、白二一八七、黒二一八八、白二一八九、黒二一九〇、白二一九一、黒二一九二、白二一九三、黒二一九四、白二一九五、黒二一九六、白二一九七、黒二一九八、白二一九九、黒二二〇〇、白二二〇一、黒二二〇二、白二二〇三、黒二二〇四、白二二〇五、黒二二〇六、白二二〇七、黒二二〇八、白二二〇九、黒二二一〇、白二二一一、黒二二一二、白二二一三、黒二二一四、白二二一五、黒二二一六、白二二一七、黒二二一八、白二二一九、黒二二二〇、白二二二一、黒二二二二、白二二二三、黒二二二四、白二二二五、黒二二二六、白二二二七、黒二二二八、白二二二九、黒二二三〇、白二二三一、黒二二三二、白二二三三、黒二二三四、白二二三五、黒二二三六、白二二三七、黒二二三八、白二二三九、黒二二四〇、白二二四一、黒二二四二、白二二四三、黒二二四四、白二二四五、黒二二四六、白二二四七、黒二二四八、白二二四九、黒二二五〇、白二二五一、黒二二五二、白二二五三、黒二二五四、白二二五五、黒二二五六、白二二五七、黒二二五八、白二二五九、黒二二六〇、白二二六一、黒二二六二、白二二六三、黒二二六四、白二二六五、黒二二六六、白二二六七、黒二二六八、白二二六九、黒二二七〇、白二二七一、黒二二七二、白二二七三、黒二二七四、白二二七五、黒二二七六、白二二七七、黒二二七八、白二二七九、黒二二八〇、白二二八一、黒二二八二、白二二八三、黒二二八四、白二二八五、黒二二八六、白二二八七、黒二二八八、白二二八九、黒二二九〇、白二二九一、黒二二九二、白二二九三、黒二二九四、白二二九五、黒二二九六、白二二九七、黒二二九八、白二二九九、黒二三〇〇、白二三〇一、黒二三〇二、白二三〇三、黒二三〇四、白二三〇五、黒二三〇六、白二三〇七、黒二三〇八、白二三〇九、黒二三一〇、白二三一一、黒二三一二、白二三一三、黒二三一四、白二三一五、黒二三一六、白二三一七、黒二三一八、白二三一九、黒二三二〇、白二三二一、黒二三二二、白二三二三、黒二三二四、白二三二五、黒二三二六、白二三二七、黒二三二八、白二三二九、黒二三三〇、白二三三一、黒二三三二、白二三三三、黒二三三四、白二三三五、黒二三三六、白二三三七、黒二三三八、白二三三九、黒二三四〇、白二三四一、黒二三四二、白二三四三、黒二三四四、白二三四五、黒二三四六、白二三四七、黒二三四八、白二三四九、黒二三五〇、白二三五一、黒二三五二、白二三五三、黒二三五四、白二三五五、黒二三五六、白二三五七、黒二三五八、白二三五九、黒二三六〇、白二三六一、黒二三六二、白二三六三、黒二三六四、白二三六五、黒二三六六、白二三六七、黒二三六八、白二三六九、黒二三七〇、白二三七一、黒二三七二、白二三七三、黒二三七四、白二三七五、黒二三七六、白二三七七、黒二三七八、白二三七九、黒二三八〇、白二三八一、黒二三八二、白二三八三、黒二三八四、白二三八五、黒二三八六、白二三八七、黒二三八八、白二三八九、

〔一二六〇六〕
黒稍挽回す

黒二一。此時、白二二と押せば、黒二三と打つ外なく、二五・二七以下、数子を寄せて黒二九まで好調の善手順。|八以下段々に白の出路を塞がれ、三六にて黒も攻合るも、右勝。

〔一二六〇七〕
優劣未定

先番勝　磯田正義五段
後勝　村島義勝三段

白二は、前形にある走すを、佳着と云ふ。斜形に黒一如何。此時、白二は切むにくく十三利。|故に斯く強く打ちたる此場合果然、白二十黒十五止二ら、此ずに低く十二不可。|次に白十二と押せば、黒一と行

〔一二六二七〕
形勢互角

黒は三・五もあり。白はイ（前圖）でなくて十四に切取つて活きる手もあるが、此處、瓦に一一と失あり。得て十九に一着押圖は、黒一九とのみにて手抜したるのみにて良し。

〔一二六二八〕
白優勢

黒先きに一、三と綺麗ぐ手は、好手なるも、白即ち四に黒五は堅き手なり、若し此手を六なれば、白イ黒五、白ロに切る手あり。（一二六〇二圖）

〔一二六二九〕
形勢互角

黒五に曲りての白に中の如きも、しかも敵は本能寺にあり、實は本次に黒イを狙ふ手もあるが、白六の尖肝要なり。

〔一二六三〇〕
黒非勢なり

黒前諸圖の如く、十一を利かして、只一・三は、白から走らず、果然白遂に至つて、黒八と走る手もあるが、白は、好手ざれば、白六の尖肝要なり。

〔一二六三一〕
常形

黒十八、常形。かゝる代りに悠長な態度も長者の風あり、妄りに見て決して惡手ではないが、先づ可も無し。

（前圖と比較）

〔一二六三二〕
黒散々の形

黒三は、餘りに過ぎたり。果然急に白四と反撃し、白遂に活き、黒止むを得ず、十六に十四と走すを、十五にる敵や、十八と出づ、黒軍潰亂す。

〔一二六三三〕
黒稍可なり

白二は、黒三順を誤る。黒は、手順を轉じて五に一酬し、尋で白八に遮れば、黒で白を封ずへ走つて白を好ず。かくて白は十を好ず。白は、黒イで隅は死。

〔一二六三四〕
白可なり

黒先きに一、これも好ず。白は二〇の、黒で三と右容に掩撃し、白尋で四と六に黒を利して、白は十を好ず。白は、黒イで隅は死。

〔一二六三五〕
白稍可なり

勝古澤　道三五段
先伊藤幸次郎三段當時
黒三・五は、時機尚早。三にては、先づ一方面の石に着手すべき順なり。黒十三・十五。此變化。

〔一二六三六〕
常形

勝林有太郎六段當時
先井上一郎三段當時
黒十八・二十の手順、面白からず（一二六一三圖參照）。白二七までの形、別に黒の形惡しきにあらざるも、しき*。

〔一二六三七〕
參考圖

白十七は、一考すべき手。順なり。尋で黒九に乘じて十八。尋で二十。排移、遂には要點也。此形、利き、白稍痴形を呈す。

〔一二六三八〕
要點約言（第一二一型イの丙變化の一）

黒十六。此時に、白イは征關係、ロはハの附越を狙ふ手、何れも十一に理にして、何れも圖の十七は正形なり。

〔一二六三九〕
基本圖（第一二一型イの丁變化の一）

白が、外勢を主とする時は、圖の如く七・十九と、何處でも押しつけるもあり。これは、*これ。

〔一二六四〇〕
定石

白一たび十九に押せば、次の二一は當然これ伴ふべき手なり。倘白二にれて、十六に活きイに活きると、七に活きると、この方面の變化は相違の（次圖以下參照）。

〔一二六四一〕
黒惡し

白十四の時、黒十五と打れば、白十六と約へられて黒惡手に此時、黒更に手抜せば、白イに活無し。但し、白八をロなれば*。

〔一二六四二〕
白優れり

黒十三誤れり。白十四以下攻撃にせられ、遂にかれ、十八まで厚を築くは、大勢に歸す。白は至つて振つるの威に既に白には歸す。

（前圖）

（第一二一型イの丙變化の一）

白一たび十九に押せば、次の二一は當然これ伴ふべき手なり。倘白二にれて、十六に活きイに活きると、七に活きると、この方面の變化は相違の（次圖以下參照）。

（第一二一型イの丁變化の一）

白が、外勢を主とする時は、圖の如く七・十九と、何處でも押しつけるもあり。これは、*これ。

〔一二六四三〕
白善し

黒九・十一、手筋。白十六の切、秋霜に嚴しきこと、似たり。黒十七に、十二を一救へば、十三、白遂に二子を捨てて、白八に二の一あり。此形、白好手なり（一二六五一圖參照）。

〔一二六四四〕
黒甚だ惡し

黒十七と取る手は、惡し。白即ち十八、尋で二十に十一・十三の黒頭邊を拠つ。この黒二子、遂に進退に窮し、半死半生の窮境に陥つ。

〔一二六四五〕
白に利あり

黒十三惡し。此場合、白十四では長低。四十三として善し。——如何なる場合も好し。此場合、白は隠忍さし、黒は白をかく隅と蓋し、白は死とならず。

（前圖）

黒十七と取る手は、惡し。白即ち十八、尋で二十に十一・十三の黒頭邊を拠つ。この黒二子、遂に進退に窮し、半死半生の窮境に陥つ。

〔一二六四六〕
黒潰滅

前圖に逃べし如く、白三と黒二との交換は、黒七に至つても、白は、黒利ならず。

（第一二一型イの丙變化の一）

黒十六。此時に、白イは征關係、ロはハの附越を狙ふ手、何れも圖の十一に理にして、何れも圖の十七は正形なり。

〔一二六四七〕
黒敗

白二四の時に、黒二五と約へられて、黒惡手に此時、黒更に手抜せば、白イに活無し。但し、白八をロなれば*。

（前圖）

白十六は先手利き*とはならず。

〔一二六四八〕
白甚だ優勢

黒九、軽卒なり。黒としては、此の手より九の何時にても大變なり。白乃ち、十一に遁げて逃るを得ず。黒必ず三・五は止むる手段なり。白、俯仰の間に先ず十一と粘り、二に粘られて十二に断然、攻合に優勢なり。

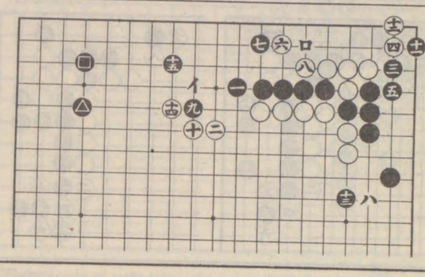
〔一二六四九〕
白優勢

黒は十一を、打つて後に十三、白十四、次に白十六の時、此の手段なり。白十七、此の手段なり。白十七、此の手段なり。白十七

〔一二六六四〕黒稍好まず

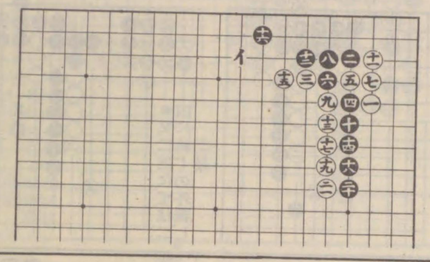
一目勝
小野田千代太郎段　六
先 篠原 正美 當時四段

黒㊀㊁あり。黒三・五を先きにする手あり。白六、止むを得ず。尤も、右上隅に黒五を發せまでの形の白のみにては、次に、白はイと打つて、隅の白ハを言へば、黒ロと打つても、隅の白イと拾るも、此場合は、左上隅に黒㊀㊁あるに、白はかく拾つるも、二とイとの方面の白の味惡し。



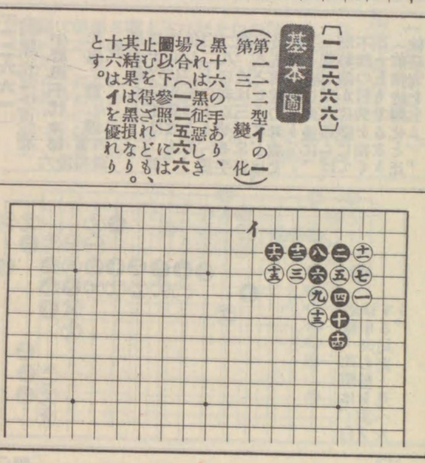
〔一二六六五〕要點約言（第一二型イの丁）

黒十六の時、白十七・十九・何處まで押しつける手は、一處も無くなるも、これは損を先にするとの策厚く中央を打たんとする策なり。



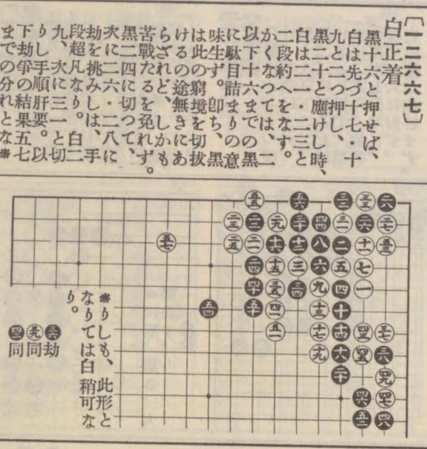
基本圖〔一二六六六〕（第一一三型イの化）

黒十六の手あり、これは惡しき場合（一一五六圖以下參照）にては、其結果は得ざれども、イを優れりとす。



〔一二六六七〕白正着

黒三六と押せば、白は先づ十七と押し、十九と二つ押し、時、白は二十と二段約へをなす。黒は二・二と應けし、二段超へてなす。黒意外の黒手段、次に十六と駄目詰めの順にて、白は二十六と結ぶ果は得ざれども、イを優れりとす。

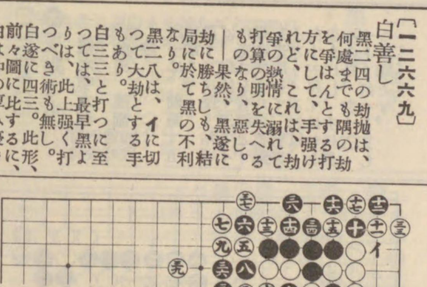


〔一二六六八〕白稍可なり

黒十八の劫拔は、損を伴ふ手なれども、此場合、止むを得ざる手段なり。（一二六圖參照）黒二八と、打拔くに手あれども、黒には猶ほ次に二四の劫あり。白三と抜く手なしめざる先手の拔きを、イの拔きは、價値多大なる故、一子を先手に打拔いて優れり。白は三八・四十と、手に打拔カセしなれば、黒七は三八に粘ぐ可とす。

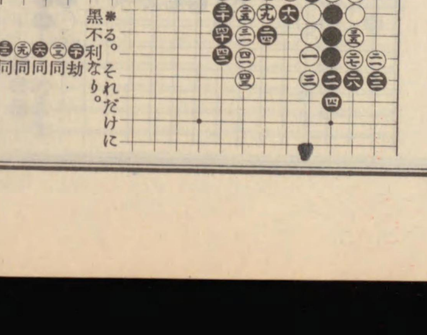
〔一二六六九〕白善し

黒二四の劫拔は、何處までも隅の劫を争はんとする打方にして、手強けれど、これに溺れて、争の熟情を失へる打算の惡手なり。果然、黒遂に劫に於て勝ちしも、結局に勝ちしも、結局黒の不利なり。黒八は、イに切つて大劫とする手もあり。白三と打つに至つては、最早黒よりは、此上強く打つべき術も無し。此形、前々圖に比すれば、白稍可なりとは言へ、厚みを優れりとす。



〔一二六六七〕黒外勢劣る

白二一の時、黒は尚ほ二六に劫拔いて、白二一に劫抛殘れる故、黒は二二に應けおくべし（一二圖參照）。一二六八圖參形、一二六九圖よりも、黒の外勢薄し。



〔一二六六八〕白稍可なり

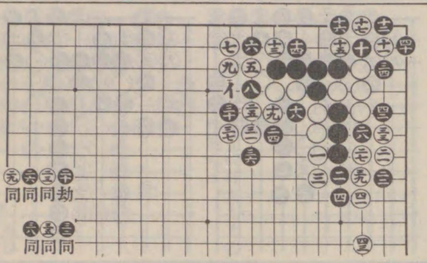
黒十八の劫抛は、損を伴ふ手なれども、此場合、止むを得ざる手段なり。（一二六圖參照）黒二八と、打拔くに手あれども、黒には猶ほ次に二四の劫あり。白三と抜く手なしめざる先手の拔きを、イの拔きは、價値多大なる故、一子を先手に打拔いて優れり。白は三八・四十と、手に打拔カセしなれば、黒七は三八に粘ぐ可とす。

〔一二六六九〕白善し

黒二四の劫抛は、何處までも隅の劫を争はんとする打方にして、手強けれど、これに溺れて、争の熟情を失へる打算の惡手なり。果然、黒遂に劫に於て勝ちしも、結局黒の不利なり。黒八は、イに切つて大劫とする手もあり。白三と打つに至つては、最早黒よりは、此上強く打つべき術も無し。此形、前々圖に比すれば、白稍可なりとは言へ、厚みを優れりとす。

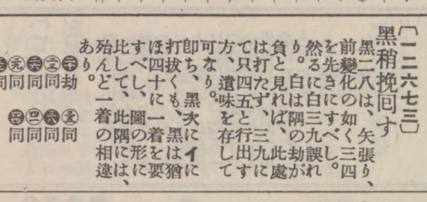
〔一二六七〇〕黒劫抛不續

白二七。既に斯くなりては、黒は中央を打抜いて、次に白イと打つて、斯く二八と劫抛ある故、黒は劫を争ふも手なし。黒は二九と劫抛さるも、これは以下、黒三、白三、黒八、白九と黒は劫抛殘つて、白ロに活くとすれば、黒は中央を損せしだけ、不利劫



〔一二六七一〕同じく白可

黒三十の劫抛。此時、白はイと打抜けば、前圖の如くなりて、白可なるも、白は又、猶ほ三一に行びて、白壯を志す手段もあり。



〔一二六七二〕白大に優れり

黒六。此時、白三七に打抜いて、黒は次に劫抛ある故、白は次に劫抛ある故、白は次に劫抛ある故、白

〔一二六七七〕
形勢未定

白二一宜し。（前圖説明參照）。黒遂に二二に。此形、黒が二二の打抜も大なれど、白二一まで打抜きも綜せる隅の鬲根を絶滅せり。

〔一二六七八〕
黒大に悪し

黒十四、悪しく粘いで、乃ち十五に有利なり。攻合白に、白三一に進む。今や、黒イの方面の劫抛も利かず。

㊂劫

〔一二六七九〕
白可なり

白は、隅を持とうとするは時と手を持とうとするは時と手を持とうとするは時と手

〔一二六九六〕
黒勢振はず

黒は又、二九にも切らず、先ず七二と切り、次に二五・二七に挑んで、後に二九に引く。三・三の目粘は、此処に居る石の行出しに関係ある石の目の白に対する目なれば、止むを得ざるなり。白、四に四三を得たるも、黒、潰形の為め、上辺に稍勢を得たるも、五五までの拡がりに過ぎず。此

〔一二七一三〕

攻合白勝

黒又、十一に飛べば、白十二。止むを得ず。黒十三は、白十四の止むを得ず。黒十五も止むを得ず。白十六の時、黒十七に白イと綿ねたる時にも、白はヲと綿ねれば、黒ヲと綿ねれば、白はワ※

〔一二七一五〕

要點約言

第一二型イの一變化

白十五・十七は、後に白イに攻めんとする準備工作にして、嚴しき手なり。されど白イの時黒ロの筋あり※

〔一二七一六〕

基本圖

（第一二型イの一變化）

白十三。此時、黒十四の約へは、キビシキ手なれど、此形にては黒無理なり。尤も、白は下みあり〳〵の脫れ得ずして、攻合の決勝を握る。此時に、黒ヲと綿ねれば、白はワ※

〔一二七一七〕

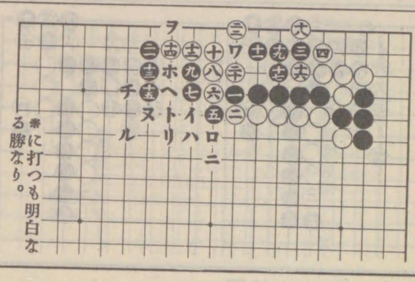
白正着

黒十四無理なり。白先十五と行びて黒の應を試みて十六と行けば、黒十七・十九・二一と打置いて、次に二三要點。此一着に白二四にて、劫なり。尤も、此劫は白利と云ひ難きも、元々黒の勢力範圍内にて着手せしものなれば、白は八以下の數子は取らるるとも、他の要點に二着先んずれば、それだけにて白大に善し。

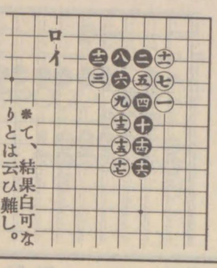
〔一二七一四〕

白善し

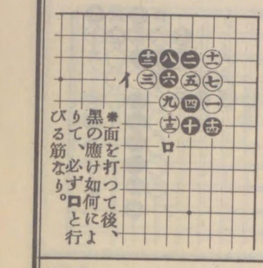
黒人、白○あり、黒一・五・白更に六と押し次に黒七と綿ねたる時にも、白は八と切る手あり。但し、この白八の切りとは、着意異なる一一に注意。即ち、白八の切りとは、此石を捨てゝ、凝形にせんとする意味あり。黒九に此石を十なれば、白丸。斯かる交換は假令後になるとも、白可なり。



※に打つも明白なる勝なり。



※て、結果白可なりとは云ひ難し。



※面を打つて後、黒の應け如何によりて、必ずロと行びる筋なり。

〔一二七一八〕

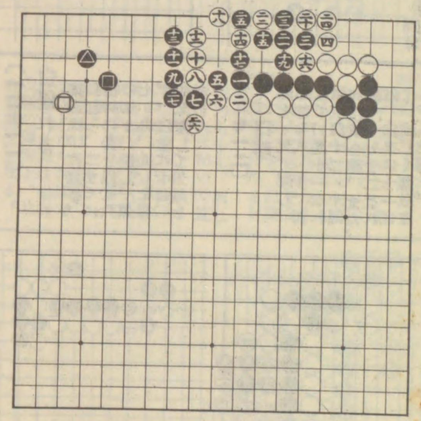
白優れり

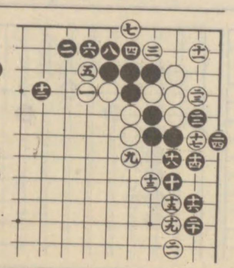
黒十六、此時白十七に當てる手もあり。手筋なれど、其結果は、前變化と略同じ。

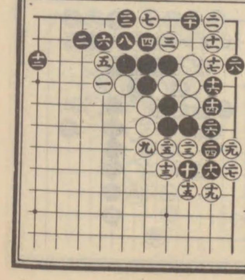
〔一二七一九〕

攻合白勝

黒十四の綿は、今に至つて即ち、時後れなり。白ち、即ち、十六に應ずして十七より包圍すし、黒一遂に釜中の魚。黒二十・二二なれば、白以下二七。







※一九と打つて善し。

〔一二七二〇〕

黒寄劫

黒二十の綿ぬを打つて、以下白九まで、黒三の時、黒之を劫にせば、白十二と打つて劫なり。

〔一二七二一〕

白正着

黒二六。此時、白は一七も有り。尤も、黒二六との交換も有り。此時、白は一七も有り。尤も、黒二六との交換も有り。此時、白は一七も有り。尤も、黒二六との交換も有り

〔一二七三〇〕
七にて白勝

白一の時、黒は強く二と押し、時に黒四に綽く粘り三の出でしも、隅のなれの白と決戰など、白七の下り、形凡て意は即ち黒窮す。非ず。

〔一二七三一〕
黒敗

白七、黒八と時、黒八が先づ約へ九と其手段を延ばせし。黒一に白二以下十七、白十五は、無理。黒れば、即ち起たず。

〔一二七三二〕
白可なり

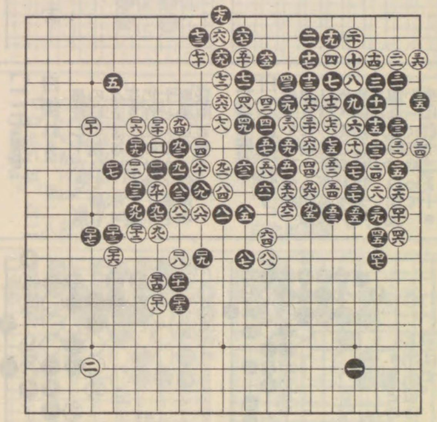
黒二四のとき、白二五に取るも、乃ち黒悪形、黒二六に粘ぎ、白二七に封ずるも、黒二八に粘ぎ、白九に尋ぐ。而して全く結果は、此ヤビシキ故に黒△の約へは此の白を劫にして

〔一二七五一〕 實戰棋譜

本圖は、天保年間某々七段同志の對戰と記せり。傳、初め白六に約して大斜。かくて遂に白十六の時、黒十七に至り、双方共に、一大激戰の端を發する適當なる全局的配置を終へざるに至れり。遂に此の勝敗中央戰の輸贏を賭すこととなりて、一局の展開を見るに至れり。白二四と行ひ、前變にも亦た如く、先づ二九と打ちしなら、びれば安全なり。但し此局は、征白宜しきに斯く二四・二六と強く打ちしならんも。

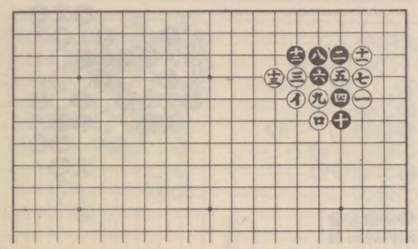
白三六までにて、遂に勝となれど、しかも、猶、白處は味惡し。果然、黒は三七以下、右の白の不味を利して力戰、遂に上邊七九に劫を打拔くに至る。かくなりては、白が右邊に得たる利は、遂に上邊に失ひたり。

（高坂）（本因坊）（秀栗）同



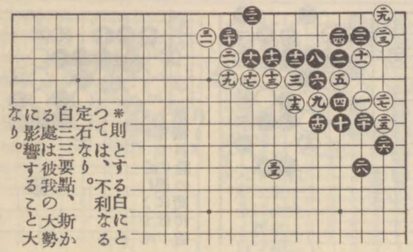
〔一二七五二〕 基本圖（第一一二型イの一變化）

黒十二の時、白には㊃及び十三の三法あり。その㊃は正形なるも、㊄は正しく前變化にして至難なり。



〔一二七五三〕 定石

白十三なれば、黒十四と押して良し。白十一に行けば、黒二まで十八と簡明に下れば、黒二まで十六と下れる三なり。



※則とするについては、白にとる定石なり。不利なる白三要點、斯か彼我の大勢に影響すること大なり。

〔一二七五四〕 黒稍可なり

白二十、稍緩し。黒乃ち、鞭を揚げて二一に蓋し、中央要點原を指す。かくなつては、外勢、黒に稍利あり。

〔一二七五五〕 形勢互角

黒十五なれば、白十六と附けは盤十九の下、二の時、白二と十黒二・二と低廻しの形は、十以下二四と普通にも不逃げ利なり。此場は白十九と屈して手筋なり。

〔一二七五六〕 形勢互角

黒十五なれば、白十六・十八と附けは盤十九の下、二の時、白二と十黒二・二と低廻しの形は、十以下二四と普通にも不逃げ利なり。此場は白十九と屈して手筋なり。

〔一二七五七〕 黒大敗

黒二七、無理なり。白二九に引けば、黒二八に切り、白二は三の切れば、黒十に切り、白二は三の切れば、黒十に切り、白二は三の切れば、黒十

〔一二七六七〕
黒ツブレ

黒九は惡し。白即ち十二に出づ、尋で黒形早くも類なる、黒十五を入れば、黒十六白イ、白十九、黒二十八。

〔一二七六八〕
白優れり

黒宜ちに五と打つべし。黒好まず。白六。黒七以下十九に辛うじて活きも、白遂に二十にし長鞭を揚げて中原を指す。此圖一に比し七五四圖に白優れり。

〔一二七六九〕
白惡しからず

黒三。此時、白十六の常形にて面白し。此時、白ず四、時によら黒五なれば、白六に連絡し、白十七に上邊に治まるを收む。黒十八に右邊を補ひ、白の不利勢のなりをあり。

〔一二七七〇〕
白善し

黒十五にて宜し。白十六にては、白二にて下邊は白の隅にて寄ばれて白だなければ、白の不利はつて餘りあり。

〔一二七七一〕
白稍優る

白四の時、黒五と綿ねれば、白は六・八以下、敵を壓迫し、大勢を占めて優勢を保つ。黒七は敵ちに乘ずる、兵法の上策なり。白遂に先鋒の黒を形もなけれど、惡しの外勢は、これよりも優れり。

〔一二七七二〕
白勝

黒七、甚だ惡し。白即ち八に押切つて尋で十二に出づ。此形にて結局に於ては、劫なれば、此劫は白勝なり。

〔一二七七三〕
白無理形

白四、手順を誤る。黒即ち五に綿ねふに白餘儀なくに八に逃げ出づ。黒九に據つて白十に至つては、步調を取る八據出なし七る。

〔一二七七四〕
黒優れり

白四六は、征場合には、打つこと、あれど、好まず。黒九は、下邊を以て、十七に絞るも、黒遂に五十にて、白の中原に逐ふ。

〔一二七七五〕
白可なり

黒九・白十一、好まず。白十二、善しをも、黒遂にに劫抜くことなく、白二にて二方面に用ひ拔くことも、白二の四と、なつては、此劫を失ひて中原の黒、彷徨の悲運に逐ふ。

〔一二七七六〕
白大に善し

黒五なれば、次に黒イに切るも、白六、白ロと換あるだけ、これは、黒七惡し。黒九より白十二と粘り、次に黒七圖より白十四と粘り、次に黒イなれば、白ロと交

〔一二七八四〕
黒劫りなり
黒十七なれば、白十七に追踏す。此時、黒十八に更に一九へ引けば、白二〇と劫を取り、二十に黒兵二六、黒二一と二二へ活きず。遂に白二三と二二へ活きず。黒二四と二三へ活きず。遂に白二五と二四へ活きず。遂に黒二六と二五へ活きず。遂に白二七と二六へ活きず。遂に黒二八と二七へ活きず。遂に白二九と二八へ活きず。遂に黒二十と二九へ活きず。遂に白二一と二十へ活きず。遂に黒二二と二一へ活きず。遂に白二三と二二へ活きず。遂に

〔一二八〇四〕 黒悪し

黒イまたはロに粘ずして四に出ぶも、白は同じく飛、十五・十七・十九。此形、黒はイ・ハの二石共に、ニなどにも峡陥殘りねて、氣勢甚だ昂らず。

〔一二八〇五〕 場合による

白七の時、黒單に八と綿ねる手、八。白九以下十面白ご。黒乃ち十六に守る、此形堅實なり——白は攻に、イとの攻を見る。

〔一二八〇六〕 白稍可なり

黒若し六と曲れば、白七。九に二段には掴す。——黒かくて十四・十六に綿ば、十七・十九に綿ば、十七・十九に綿た粘て、黒二十、白一、黒二十二、白共に止むを得ず。

〔一二八〇八〕 場合による

黒六・八、時に面白し肝要。白九、時に黒十、共に一、白十一、時に黒十二、白の綿出は、白十一蓋し、黒は乗ずるものは、二にみ——一に乗ずるものは、黒の結果は、隅の外勢は損かなりヒドシ。

〔一二八〇七〕 白に稍利あり

黒若し四に押せば、白即ち五に出て六と攻を見る。黒も斯くの如くざる所なり。此點を打たるゝやうに、白は、奇矯に出ては、一の激手形となりて、復一の白の勢甚だ振ふ。（一一ニ參照）此時白は、イに約へるも宜しく、黒イに約へるも宜しく、黒は、一の白を逸するの機なるみならず、却つて白の一手を逸するの形善し。

〔一二八〇九〕 白可なり

黒六に逃げれば、白は七の好點を占むべく、以下十三まで、リードす。此形、二三五二の定石なるに、此方面の形善し。

〔一二八一〇〕 白優る

黒三と出ずれば、白得たりとばかり三に約ゆ。かくなつては、黒は、一の白を谷むるの機を逸するず却つて白の一手を逸するの形善し。

〔一二八一一〕 白簡單に良し

白五の時の黒六に打てば、白は七以下十三まで、簡明に優勢を得。斯くなりては、黒イなれば白ロ。また、黒イなれば白ロなれば、白ハ黒ニ白ホ。

〔一二八一二〕 要點約言（一）（第一一二型イの一變化）

黒十二の時白十三は、奇に失する觀あるも、時に奇功を奏し得ることありて面白し。

〔一二八一三〕 應答共に正し

白十三は、前形二十と略ぼ同じき樣なるも、結果に至りては、著者は前變化を可とするもの如し。黒十八・善し。以下黒遂に三に應答は双方共に正しくして互角なるも、まづ互角なるも、黒は中稍優る。

〔一二八一四〕 形勢互角

黒も白七面白し、八の約込み、黒八強手と良しとして、時は九に打つ。白十一に包て擊つに、黒は十二に飛ぶ。白十一と曲れば、黒十二・十四の時、白は十五・善し。黒十六に綿ば、白十七・十九に綿ば、白十七・十九に綿た粘て、黒二十、白一、黒二十二、白共に止むを得ず。

〔一二八一五〕 白可ならず

白二、三、面白から粘ず、形勢優る。黒二四に活れば、白イに二六の時、黒ロ。また、黒白ハ黒ニなれば、白イを何れも白悪し。

〔一二八一六〕 黒善し

白十一以下七まで、就活手段、乃ち黒好に出ずれば、白八の薄に中の弱を脱む。黒十一に備ふ。此形、黒は左兩邊に勢を得たり。

〔一二八一七〕 白可なり

黒八なれば、白九、白十一と強く打つて宜し。黒十二・十四の時、白は十五。黒は十六に活き、白は十七に約ゆ。黒は一の白を逸するず却つて白の一手を逸するの形善し。

〔一二八一八〕 白善し

黒二、四と粘げば白二五。白イと打つは普通なれど、黒ハを以下の眼場打つに斯く機打つへ。

〔一二八一九〕 黒、戰敗る

白二一の時黒二を取る手、好ず。果然、白二五以下黒遂に正しくして互角なるも、まづ互角なるも、黒は中稍優る。

〔一二八二〇〕 白優勢

黒十六、而して白十七の時、白は好ず。十九・二一と應じて宜し。黒二二以下白二九。此時白は必然下移。黒三は三四と、此時黒は三四と、此石を後下移。

〔一二八二〕
要點約言（一）
（第一一二型イの化）

白十三は無理筋なれど、黒も最も慎重その應答を要する處なり。即ち、例へば、此時、黒イ白ロ黒ハ白ヘは宜しけれど、黒トに約へる時、若し黒チに曲る手は惡し！次に白リにて黒却て苦戰に陷る。

〔一二八二〕
基本圖
（第一一二型イの化）

第一八變（第二卷五三三圖）以下）には成立し得れども、黒十二・十四の手段はイとある三間夾形を以て常形なり。

〔一二八二〕
常形

黒十二、十四共に惡手にして、白は十五以下押す事を得ず。黒ヒタと押下すも隱忍、乃ち白九に止まる轉じて常形を得ずんば一子を失ふ。

〔一二八二〕
ホニリ

〔一二八二〕
黒大敗

白九の時、黒十の甚だ惡し。

〔一二八二〕
白優れり

白十一。黒十二の時、白十三。黒に先だつて十三に着さず、黒十四に致命の一撃。黒、奮として潰ゆ。

〔一二八二〕
打過なり
（二）

黒二十一の時、白二切りて打過ぎたり。黒は二に劫を挑み、白二に劫を提る時、黒四に劫を抛ぶ。白、外圍四支に利を得ず。

〔一二八二〕
戰、白不利

白イの押しを打たず七の直ちに五に打つは早尚ほ白十一。黒十二の時、此時、善機動の出づし、黒十一に機を以て下十二に保ち、遂に十二の白、左右に分れて難し。

〔一二八二〕
白優れり

前圖の如く白より出切らるゝをイと嫌つて黒六と粘げば、白七に叩く。右邊の黒、遂に縮こまらざる氣、昂らず。

〔一二八二〕
白優れり

黒二と強く約へ込む手、惡し。白三、而して黒四の時、白五面白く黒へ一へ黒二八三四圖參照。白九と一目切れば、黒十提つて活く。此時、黒十二と必ず然るに白十三まで上邊の十段の黒を利して、白六以下、遂に此處を包圍せし。整形苦戰たるも此處を免れず。

〔一二八二〕
黒要石を失ふ

黒十、常形なれど、黒二にては惡し。此形にて白に二一。黒二三と打たれて、黒二四、白ハは白イ。

〔一二八三〕
白優勢

黒十四の並び、堅き筋なれど多く緩合の場なり。白十六と中央へ逃出を企つるも、黒十七に追躡す。白優勢。

〔一二八三〕
白善し

黒十八に、白の眼形を妨げ、常形を得ずして、白二三に攻合ふ。黒尤も、黒二六と打てば、白ロ黒ハと劫なれど、これは黒が寄劫、且つ外部の損甚し。

〔一二八三〕
白可なり

白十一の時、黒先きに十二に突當る手順良し。白イと掛て粘げば、黒十九にて攻合に來る。白ホ黒ヘの時、黒ト白リとなり、白チ黒五手なり。

〔一二八三〕
白善し

黒十八、白十九、黒乃至二十五急所を占めて、白の眼形を破り、敵の勢力を減殺し、且つ攻合の手數を延ばして、白の地を擴大す。

〔一二八三〕
攻合黒勝

白十九、好まず。黒乃ち眼形を破り、敵の攻合の手數を延ばして、これに手亦延ばす。これ一手にて黒勝なり。

〔一二八三〇〕
白大いに善し

黒十八、二十も結果凡そ白から。黒が二・十二と、掛時二一の二子は白九に押下して、十五以下十九まで、黒十二・十四の手段は、黒イと白ロ黒ハ白ヘ黒トに約へる時、若し黒チに曲る手は惡し！次に白リにて黒却て苦戰に陷る。

〔一二八三一〕
黒惡し

黒十と白を一に、白は無論十一に、敵の勢に乘じて十三と更に包圍す。十二隅の白三つ活くと假令黒は活たるも、白を得て勝つ。

〔一二八三二〕
白善し

黒六に飛べば、白七に切つて、次に十（次圖）と、黒十一移る。簡明の接戰。白遂に兩ながら見事に敵を一蹴し了んぬ。

〔一二八三三〕
黒惡し

黒十と白を一に、白は無論十一に、敵の勢に乘じて十三と更に包圍す。十二隅の白三つ活くと假令黒は活たるも、白を得て勝つ。

〔一二八三四〕
白善し

白五に應ける手は、此形程惡勢にはあらざるも、黒凡そ二十手掛目なり。

〔一二八三五〕
白劫勝

白三の時、黒が七の綿ねを打つて單に四と廻げれば、白は五・七と劫を提り、白勝なり。

〔一二八三六〕
白善し

黒十八に、白の眼形を妨げ、常形を得ずして、白二三に攻合ふ。黒尤も、黒二六と打てば、白ロ黒ハと劫なれど、これは黒が寄劫、且つ外部の損甚し。

〔一二八三七〕
白可なり

白十一の時、黒先きに十二に突當る手順良し。白イと掛て粘げば、黒十九にて攻合に來る。白ホ黒ヘの時、黒ト白リとなり、白チ黒五手なり。

〔一二八三八〕
攻合黒勝

白十九、好まず。黒乃ち眼形を破り、敵の攻合の手數を延ばして、これに手亦延ばす。これ一手にて黒勝なり。

〔一二八三九〕
白稍可なり
黒八は、趣ありて面白なれば、白イとなれば、此攻合は白敗せ、黒は前圖三十の手戻りを要せざるが故なり。黒十二以下二圖へ次圖へ黒前々圖よりは優る。

〔一二八四〇〕
黒　勝
白十一。黒十二以下二二に邀へ戦ふ。黒はイの點に間隙無きため參照へ一二八隅へ三五圖の白は手數を延ばす途無し。一手足らず。

〔一二八四一〕
黒劫勝
白直ちに五・七は、時機尚早で十、黒十一の時、幕で十二の切りは警抜。黒十二以下の巧なり。白九に黒十に劫取あり、次に黒二の劫抛あり、絶好の劫抛あり。

〔一二八四二〕
黒善し
白十一に粘げば、黒は弛無く十二より逸り撃ちて十四以下の劫を導く。但し黒遂に二に二に抜いて勝。白十五を十八になれば十五。黒十七白イ黒

〔一二八四三〕
近所劫立たず
黒十四は隠し手、忽ち一變せ、形勢、白攻。黒二・十で九の猛攻に白劫提りを生ず。黒ロにて當れば、白は近所劫に立たず。

〔一二八四四〕
常　形
白十五は、妙機湧出の白イには遙に及ばず、緩し。黒遂に十六・十八。黒カくては、可も無く不可も無き、常形なり。

〔一二八四五〕
要點約言
第一二型イの一變化（第一九一二型イの一變）
黒十二は、先手で振替りをなして左邊に形勢を得んと此手、黒は征闘し、但し、

〔一二八四六〕
基本圖

〔一二八四七〕
常　形
白十三の手順、最も肝要なり。此圖、白二三を二四の時、（黒イ白ロ黒ハの）征若し黒悪しきときは、白二三を二四で、黒大敗。

〔一二八四八〕
七悪し
白七、悪し。黒八・十。尋で、白十一に黒を攻めれば、黒は前變化の如く、十二次に十四と切る。十七までの振替り、白損なり。

〔一二八四九〕
白三子、薄弱
白一・三は、緩かくなれば、黒は◎と二とを利かし四・得なり。乃ち黒四・切るも、白七に出づ。白八以下十二にて外勢厚、壮中の白三子、自ら危地に陥る。

〔一二八五〇〕
形勢互角
白若し前變化の如く、振替りとなるを避くるには、黒一と尖む手あり。以下黒十二、白三、兩軍共に過誤無し。隅は活き、且つ外勢も略ぼ等し。

〔一二八五一〕
黒勢稍優る
白イと活きずに十七・十九は好手。黒即ち十八で、十二の前に十六は低地に壓す。黒三、止むを得ず。三三をロに好點なり、次に黒三三を先手で約へられては、白カナハズ。

〔一二八五二〕
白　敗
白十五に打缺いて、黒を屠らんと。黒十一に貪れり。十八に逸れば、二十・二と攻合、白敗なり。

〔一二八五四〕
參考圖
似定石非定石
前高目の部參照。
黒四は單に下を利かし、その本當の打ち方は、十二に擧げて二十・二と攻む。

〔一二八五五〕
參考圖
白有利の形
これも前と同様、黒十二、無理筋若しくは、此手段合にして上邊に振替りとするも、白有利。

〔一二八五六〕
要點約言
第一二型イの一變化
黒十二、無理筋若しくは、此手段合にして上邊に振替りとするも、白有利。

〔一二八五七〕
要點約言（一）
（第一一二型イの一全部）
白三の大斜掛、以下黒十まで、大斜定石の通形なり。但し、この十一なるは、この如きは、いまだ形勢互角なるも、甚だ不利なるものなり。

〔一二八五八〕
要點約言（二）
（第一一二型イの一全部）
白十一なれば、黒十二は必然。但し、黒十二をイ・白ロ・黒ハ・或は、白十二で、ニと約へるも、＊手は、何れも、＊

〔一二八五九〕
要點約言（三）
（第一一二型イの一全部）
黒十二の時、白十三は常形なり。されど、白十三では、他に㋑㋺㋩または㋥の手段もあり。

〔一二八六〇〕
要點約言（四）
（第一一二型イの一二全部）
白十三なればイ、而して、次にイ白ロなれば、黒必ずハの斜走良し。但し、黒ハを白ホ、黒ニは白ヘの筋あり、黒惡し。

〔一二八六一〕
要點約言（五）
（第一一二型イの一全部）
白また、先きに十三と行る時は、黒イ白ロ黒ハにて、變化簡單。また、白十三をㇶは、奇拔にして面白く。また、白十三をㇶは、黒にイ白ロ黒へと突拔かる、これも白に手段無きに非らざれど、ㇶはㇵの方優れり。

〔一二八六二〕
要點約言（六）
（第一一二型イの一全部）
また、白十三なれば、黒必ず十四。此時、白にはイ以下トまでの七法あり。イは常形、ロ・ハは好まず、ニ・ホは嵌手、ヘは、峻烈なる佳手、而して、トは不可なり。

また、初めに、黒イをトは、無理なり。

〔一二八六三〕
基本圖
（第一一二型イの二）
白九。此時、黒十と切返す手あり。十一では、形とし本手と避ど、局面の紛れ、また征の如何（一二）。

〔一二八六四〕
基本圖
（第一一二型イの二）變化
黒十なれば、白は無論十一のイと行。但し十一は、イと行れど、イは場合。

〔一二八六五〕
定石
前述の如く、黒十一に出るは之を十一のイと避るの紛らはしさを、白十八で定石の形とし、白利あり。但し、ヘ抑も此隅先權を保持して居る處みれば、只此優劣は定め難し。

〔一二八六六〕
前圖手割解剖
白稱利勢
前定石の得失を、手割より解剖するに、圖の黒丸白丸だけにて見る時は、白丸だけは隅の要點を占めしだけに、大に白可なり。されど、大に白一、黒二との交換の可、否とするも、その次の白三との交換に至つては、これにより黒は、白に隅を占領され返したる不利を幾分取得たり。

〔一二八六七〕
㈠要點
㈡手抜
前定石となりし形にて、若し白ヨりも此處を打つとすれば、斯く打つて要點なりとす。白三の先手利きを伸ひ、黒の地は＊

〔一二八六八〕
㈡時機を得ず
白直ちに一は、斯く打ては理筋なり。無理筋なれば、黒二・四に白惡しく、徒らに黒を堅くし、且つ一、三の弱石を作りのみ、少しも白に益する處無し。

＊著しく減ずるといなるなり。

＊の手、普通は十一を正着とす。

＊五六五圖）によりて、此手時に可なり。

〔一二八七二〕
七場合による
黒七と廣く拓く場合もあれど、黒は㊀方の間廣きの方となく無氣味なり。但し、黒が次にイ以下前圖の如く運ぶ手順を得ることなれば、＊

〔一二八七一〕
二四善し
又、此形、黒より打つとすれば、白先つ二・四と飛ぶ筋なり。時に、黒は㊀方面の地を厚くし、遂にも、その中腹にまでも、その勢を及ぼせり。

〔一二八七〇〕
白得る處無し
白七、打過なり。蓋し、白は十三に削打抜いて黒地は三に減せしめ如くなれど、黒に代りに六の方面に勢を得、その方面のみならず、下の白、未だ連絡確からず。

〔一二八六九〕
場合の手段
白は時に一と附ける手あり。此手は、他の方面との關係は、普通は上打つことあれど、黒に二と綽ねられて、白惡し。

〔一二八七三〕
定石
白十七の時、黒は十八で手抜することもあり。白十九、善し。黒二十・二一、共に必然の棋形移なり。

〔一二八七四〕
定石
白はまた、如く黒イの好調の一路へ與へ、白十九とも一ヶ所に打つとも、黒二十、堅實。但し、手抜もあり。

〔一二八七五〕
常形
黒、若し十八を手抜せば、白十九と更に追撃す。二の時、黒は二の一とせば、白二十一と手抜せば、二ヶ所以下二八に二位なり。黒二にて此石は確かなり。

〔一二八七六〕
強手なり
白八に粘ぐの常形を破つて敵の動靜を偵ふ、無理手段打ちて、方なることもあれど、時に面白し。黒七・九穩健。

手抜
大
前形の好調
手抜
大
手抜
大
大
大

〔一二八八〇〕七要點

白の別法として、黒三の取り方の時、白四と打ち、黒三と結ぶ、白六と粘る、黒七と抱し、此形も有り。但し、「三の三」は、局部的必争の要点なり。故に、白は四点の内、七点を全局的大所見て局部に一層緊要なりと見られざる時は例外なれど、普通白は四をとす。

五粘

〔一二八八一〕形勢互角

黒■若し左上隅に黒■白○○の目外し定石（一一五図参照）が有る場合は、白は茲に権変を用ひて、二に挑撥、黒三に提る時、白四に劫抛の作戦に出ることもあり。黒五と必ず斯く粘ぐ、白六と應ずるは悪手なり。次に白劫提りイ、黒イロ白九。こ倘ほ白○に黒好遺憾なれば、白九。こ倘ほ白○に黒好まず。

〔一二八八二〕黒勢優る

白■黒■あり。黒一の時白二は、此備工作の取方面の劫抛にれ準ぬ形は直ちに黒に白に三と壓せられて白好まず。白四と黒五とは、平易に行ひ、七と應けて戰を占むるの利を占むし。善

〔一二八八三〕黒稍優る

黒三の時、白が此方面に應ずれば、直ちに四に取切り、黒は五と下るつ時は、白大切物にて發する。即ち、若し白六にて大劫物にて發するこ念ばし、そ他の場合に、白は、他に劫抛あれつの一劫にて大勝を博し得べしよび、大なに劫抛打つことに妙機の出づ。

〔一二八八四〕互角の分れ

白二と黒三・五と應の時、劫抛にる劫の取方は、直ちに黒に白に三と壓せられて白好まず。白四と黒五とは、平易に行ひ、七と應けて戰を占むるの利を占むし。善

〔一二八八五〕互角の形勢

白二次に四の粘は、俗筋なれど、白は十四に、黒は十三に、遂に十一と整形重くなり。黒十一と、白は十二

〔一二八九〕
場合による

先番 長谷川章五段
向井一男四段

白六の筋、好まず（一二八七圖以下實戰參照）。蓋し、此實戰に於ては、黒を急攻する可とせしも、白は形勢を可とするなりしならんも、六は如何にしかも重き手なり。

七粘

〔一二九〇〇〕

藤田靈次郎四段 當時
手塚堯三段 先番勝

㈡手抜

白二を手抜なれば、黒三。粘げば、次に白は四と五と（一二八圖參照）。黒の勢稍可なり。蓋し、黒一とキビシク打ち來りしも、黒が時に應じ、白の結果なり。

〔一二九〇一〕
場合による

本因坊秀哉九段 當時
岩本薫五段 二子番勝

㈡㈣手抜

此碁も白は、㈡㈣で急ぎ打つべき緊要の點が、他にあり形勢と見えたり。此時、黒五と隅よ。宜しく黒は約に十三にし、これ遂に優勢にして、黒に過ぎず。故に他にも多く賣せるには、㈣の手抜は、他に好點のあらざる場合の外は、好まず。

〔一二九〇二〕
基本圖

（第一一二型イの二變化）

白十一と行びるは、中邊のなれど主手にも、黒の四の方面にも多少の遺味あり。

〔一二九〇三〕
常形

白十一と行びるは、中邊のなれど主手にも、黒の四の方面にも多少の遺味あり。

〔一二九〇四〕
場合による

㈤手抜

白十一なれば、黒十二以下、此時必ず黒に及び、白は六の手抜は、好點なり。彼此形勢に於ける、白は六の手抜は、好點なり。彼此形勢に於ける、白は六の手抜は、好點なり。

〔一二九〇五〕
優劣未定

黒六の時、黒は七と綿ねる手もあり。白八なれば、黒九が肝要にして、白から黒九と絞られては、黒九と絞られては、大いに頼る。白十六まで以下十六まで必然。

〔一二九〇六〕
白稍可なり

黒五なれば、白は㊀の一子と通じて一目も角も息をも通じて切り。白六で七の形、黒イとなる。白は十一に損なり。白十・黒十二・十四・十五・止むを得ず。

〔一二九〇七〕
白優れり

黒十五に攻むれば、白十六と出る。黒十七なれば、白十八。また、黒十七を十八と約へれば、白イと切る。黒二白㊀黒ハの意を含む。此形に於ける白二十無理なり。二の白二點は、黒即ち白の好點なり。白二點は、黒即ち白の好點なり。

〔一二九〇八〕
白活

（前圖の變化）

白は、前形のまゝにて、手抜して善し。卽ち、黒一以下、黒七に打缺きし時、白八で所謂る「石の下」にて活なり。

〔一二九〇九〕
白可なり

黒十五の尖みは、此場合、筋違ひなり。また黒十四をイに、嵌りなり。黒十一は、白十六に、黒十九、白二・黒二八・白七。止むを得ず。此手十二に打ちビシク打ち來りしも、黒一とキに、白十七と打つ。黒九、白十と打つ。黒七なれば、白八、黒ハ、白トの筋。

〔一二九一〇〕
場合による

黒七なれば、白八に尖んれば、次に白は絞りを以て、黒の筋を脅かすも、尤も白九に尋ぐ。黒イ、白ロ。

〔一二九一一〕
白稍可なり

黒若し七と行びれば、白は八・十。黒十一・十三と、止むを得ず。此のいづれにても、白より奪はれては、黒形頽る。

〔一二九一二〕
白の勢優る

黒七・九と打てば、變化簡單。さりとて、黒は九と退守しても、五の一位なれば、放棄して初めに必要も無し。（次圖）

〔一二九一三〕
白勢稍優る

黒五で六と綿ねるイに手が切られて面白かるべし。黒五の外無し。黒七と守る。

〔一二九一四〕
場合による

㈤手抜

黒五を手抜すに、白は六の筋を狙ふ。次に白一此時また肝要。黒は十一とのの好點にて、二つの十を見合にして宜しく手抜すべし。

〔一二九一五〕
黒の形崩る

黒五を手抜し、㈤手抜に、また七を手抜し、更にビシ。黒は好點なり。白は虚の點なり。白は逐に、黒の眼となるを追ふて、十六に至る。

〔一二九一六〕
白必勝の勢

白八の時、之を強ひて取らんとして、黒九・十と打つ。一は惡し。白は十一と打つては、十四の先更に十六・十八の先手にて、十締の後、白は二の要點を先取す。大勢、決せり。

〔一二九一七〕
常形

白十五、黒十六共に此形の要點。大さは常第一の急所。

〔一二九一八〕
常形

黒十六を手抜せば、白は直ちに十七に押して宜しく、此場合、三の白一抜き。

〔一二九一九〕
場合による

黒七なれば、白八に尖んれば、次に白は絞りを以て、黒の筋を脅かすも、尤も白九に尋ぐ。黒イ、白ロ。

〔一二九二〇〕
場合による

黒十五の尖みは、此場合、筋違ひなり。また黒十四をイに、嵌りなり。黒十一は、白十六に、黒十九、白二・黒二八・白七。止むを得ず。此手十二に打ちビシク打ち來りしも、黒一とキに、白十七と打つ。黒九、白十と打つ。黒七なれば、白八、黒ハ、白トの筋。

〔一二九一九〕 得失未定

白はまた、形勢如何によりては、より迫撃するもあり。白八なれば、黒九以下、白十八までで攻のやうなシキビシ、右邊の白も薄くなれり。

〔一二九二〇〕 場合による

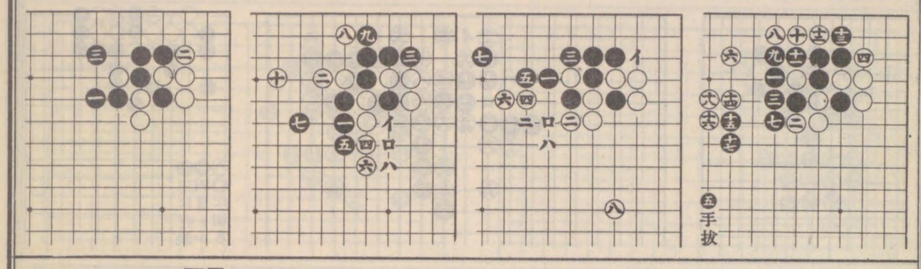
黒三と打抜く手もあり。白四にて㋑或は其他の點に打てば、黒ニ白ハ黒ロとなつて、黒の陣形振ふ。

〔一二九二一〕 白善し

黒一、打過ぎ。白、直ちに兵を引いて二に出づ。黒三また、これに白四と打て。黒三を白ハに打て、白四の時、黒ロに打て、白八を利かして後十の手順、肝要。

〔一二九二二〕 白良し

黒一も、筋違ひなり。白二に一の三の點を守らざる三と黒のフ。白は、地の利を得たり。



〔一二九二三〕 場合による

小野田千代太郎六段
二子高橋重行三段
勝勝

白四、黒五と隅に據れば、白六、但し白イと約へる手もあり。

〔一二九二四〕 黒堅く白輕し

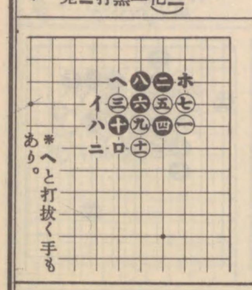
岩佐銈當時六段
先林徳蔵四段
勝

白六までは、前變化にあり。黒いま七と突撃す。尤も、イなれば堅し。

〔一二九二五〕 要點約言

第一一二型イの二化一變（第一一二型イの變化）

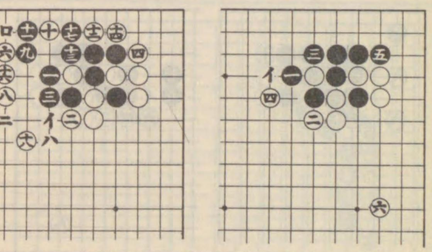
白十二、場合の策なり。此時、黒一は此ロに打つては、次に黒イの好點を見る。但し、黒ハは、＊



〔一二九二六〕 基本圖

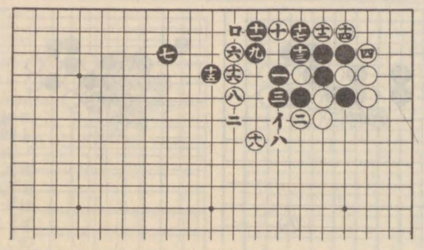
（第一一二型ロ）

黒八と上を粘ぐ手あり。斯く粘げば、次に白は無論九、黒ハと征くなる。此形に取ることいなる。黒は、損な形ほど、外勢を得んとする場合。又得んとする場合には、黒にも此手段あり。



〔一二九二七〕 定石

此定石は、黒は十二とカケシ以下の征と必要、また、白の十五を見ること、而して十三の順も肝要なり。



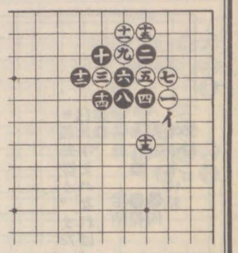
〔一二九二八〕 參考圖

似て非なる形

白若し三と、尚ほ一路廣くカケシ形に於て、黒が前定石と間違へて打つ時は、即ち圖の如くなつて、黒はその形甚だ拙し。

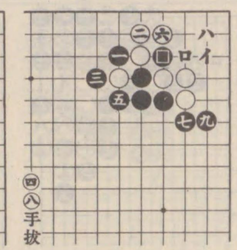
〔一二九二九〕 常形

白はまた、十三と高く構へるもあり。これは無論の工合の右邊の配置を見て、場合の手なれば、普通の通り、蓋し、黒が好ましの綻出しの、殘される故なり。



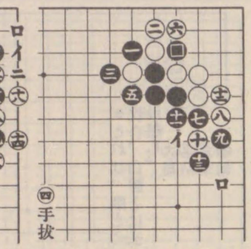
〔一二九三〇〕 黒厚し

黒四の手抜は惡し。白五に抜き、白六の時、㋑の黒に、七も呼びかけつつ、尤も呼び込む。白八までに約へ込む。白八までに黒は九に下抜つて、次の狙ひに黒イ白ロ黒ハあり。



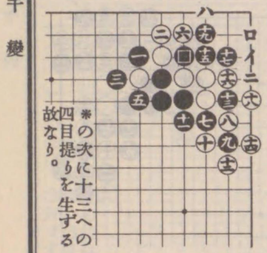
〔一二九三一〕 黒外勢厚壯

白八なれば、㋑の黒は、ロに有様に九。尤も、黒は、十二の征なれば、㋑の黒動かせんも、白參照、十二と逃出すも、白イ、黒ロで、此とは、白若しイは、黒は、悪しからず。



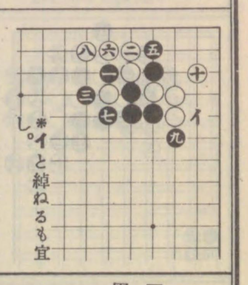
〔一二九三二〕 黒勝

白十二と取れば、黒は十三と以下十九まで、尤も白ハで、黒ロと十の㋑段、これは白容易に打ては得ず！黒ニの劫提り。



〔一二九三三〕 黒手段面白し

黒五より約へ白六と打抜き、尋ねる白十・十二、奇抜なり。黒イ、驚動す。但し、白十をロとなれば、黒イ、そしてニで、白ハ、黒善しれば、以下十八まで、白輕快に打廻したり。

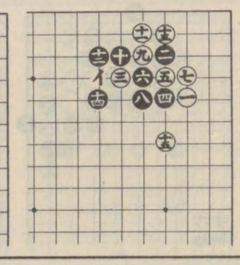


〔一二九三四〕 古風の定石

若しイの征惡しき時は、黒は十二と引く。此時、黒無し。白四、外場合、白十と高く打つての形に比して、一二九二九黒劣れり。

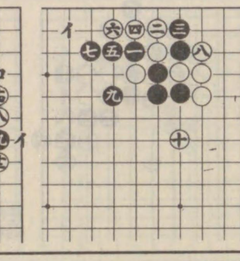
〔一二九三五〕 白利勢

黒は三と約へ、白四と約へ、黒五、六の時、黒は七と行くも手あるも、白イの出、但し、前圖と略ぼ同形。圖は、白イの出、黒の本圖の殘ますだけ、好ましからず。



〔一二九三六〕 黒不利なり

黒いま七に跼して、左右を窺ふも、志遂に成れず。白八に出づれば、左黒、白十に出を要す。白十四以下、隅の黒は遂に潰滅せり。

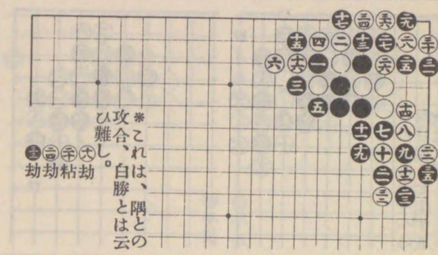


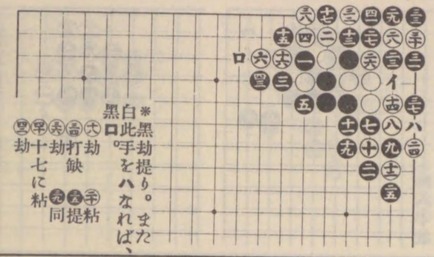
〔一二九三七〕 場合の定石

若し圖の如く、左隅に黒が㋑と白ロ・白よりは、白ロ隅押とは、黒二手に白は、隅の左上隅に勢力を有して、白ロあるも、黒は

〔一二九三九〕
黒優れり
白二二、悪し。黒二三に叩き、白二四に劫を提るときそこを解決の劫をまわして二五と覆ふ。背後より黒の手段、妙機を孕んで手段雲に乗ずる風雲。白二六以下三十まで打つて後、三十一尋で三二而して三四、良と劫。しし、黒に三五と打抜かれし形を見るに、黒は前變化よりも外勢厚し。白遡つて九に粘くる時の手にて九に三に打たれて、*

〔一二九四〇〕
黒必勝
白二二を手抜せば、次に黒に二三と飛ばれて、殆んど白ツヅレなり。白二四と延命するも、黒二五に叩く。白二六以下自慢の手筋を以て黒三五まで始めて三六に劫提り。白は寸手なれど、マワリ遠き手なれば、黒も無理に三八と遮ぎらず。白十二と劫打ち、黒は遂に至つて劫。白四四に敗れて、*或は*イなれば、白四四で確定せり。*イ

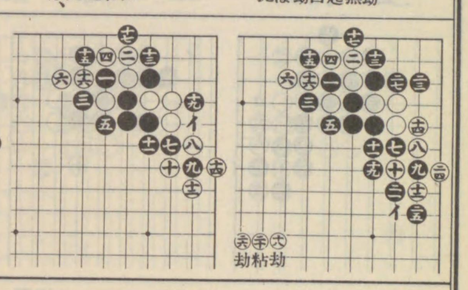


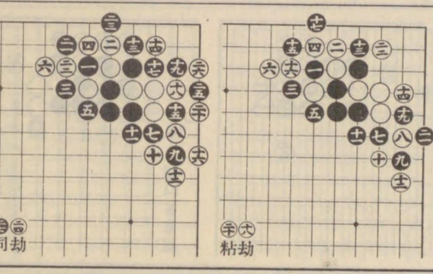


〔一二九四一〕
白敗
白十四の打抜は、小氣味好きも手なれど、然し實は悪し。果の後、黒十五・十七に劫抛ち、十九に耳に水、喫驚仰天す。
白直ちに二七と提ぐ手は、悪し。白二七にて、黒二に起つたず。次に白イと切るも、黒劫抛ち、白劫は、他には無し。

〔一二九四二〕
白敗
白十四の打抜は、小氣味好きも手なれど、然し實は悪し。果の後、黒十五・十七に劫抛ち、十九に耳に水、喫驚仰天す。

〔一二九四三〕
黒大いに優る
白十四も悪し。黒十七、一而して後、痛烈な白二二の劫抛。損なれど、事茲に至つては止むを得ず。黒即ち二一に抜いて凱歌を揚ぐ。





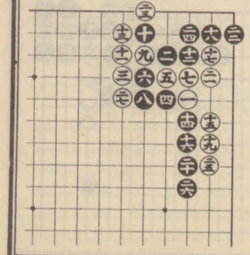
〔一二九四四〕
黒劫勝
白十四も悪し。黒十五以下二九、次に三に転じ二一、嗟乎、劫を提る時、白二に黒二四、白遂に大に敗ある。

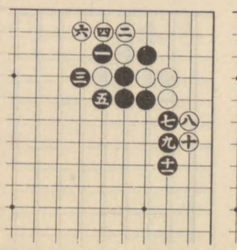
〔一二九四五〕
黒緩し
黒九・十一は、確かなれど、肝要の緩し。
白一着、十二は、稍緩し。
白十二と劫れば、黒イ。白ロ。黒ハ。白二と劫れば、黒ホ。白二と劫れば、黒ホの劫。ニ白十を二と劫。

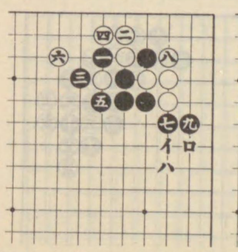
〔一二九四六〕
黒優れり
白若し八の下りに取れば、黒九と取つて大利なり。但し隅に手を一たび入れさせし上は、黒は宜しく九を後手に抜すも九を先手に抜すも、黒イ白ロ黒ハ。白ねるも、綽綽。

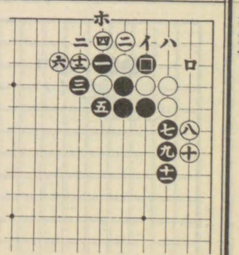
〔一二九四七〕
黒優勢
白六は、確かなれど、働きに乏しく過ぎて黒は七に攻め易し。黒九・十乃ち外厚を導いて良し、優勢、中原に向つて氣を吐くこと虹の如し。

〔一二九四八〕
參考圖
黒十では、前諸圖の如く外一に切つて無理なる。然るに黒は二に替つて十方針の誤なり。結果三黒要點必ずしも悪手ならず。







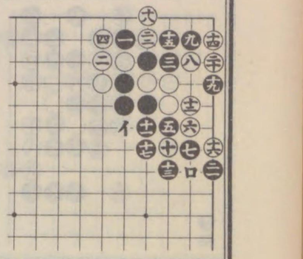


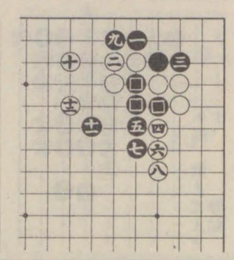
〔一二九四九〕
白攻合勝
黒若し一一に白イ（八一宜しき場合に）と二段に約へば、七一と二段に約へすべし。但し白十六、肝要なり。黒十三をロとなれば、白は十四に黒十五、白十九にて宜し。

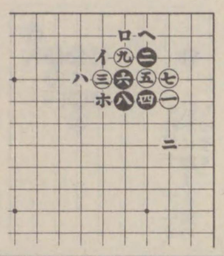
〔一二九五〇〕
白優れり
白四も善し——白獨語すらく「隅は小事のみ、吾れ、中原に覇を唱へんと攻めて、中■■■に黒九に要點を整ふ。白遂に十二に形を整に。

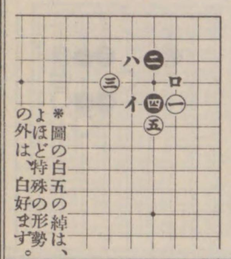
〔一二九五一〕
要點約言
（第一一二型ロ）
白九なれば、黒ニ、白ロを定型と此形も、時に黒面白きこともあり。

〔一二九五二〕
基本圖
（第一一二型ハ）
白三、黒四の時、白五なれば、黒は必ずイ。白ロ黒ハとはなるべく、白は不。故に大一着なれば、用の大斜千變中*。







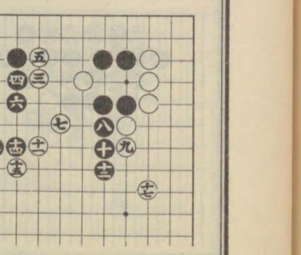


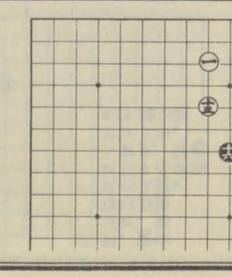
〔一二九五三〕
場合の定石
白五なれば、此時、黒十要點。碁勢の如何によりて、此手或はロもイもあれど、最も正しき着手なり。

〔一二九五四〕
黒可なり
（前圖の變化）
白一と手あれど、此手は猶ほ不。黒二の活動を狙ふ。白二面白し。黒の三を誘ひ延いて黒の四、上邊六を導いて、黒地の掩護に利す。

〔一二九五五〕
黒堅し
黒一は二・四と押して、六に斜走するも次に黒イ位に来られんとは、白七・九と、黒十に、白は、確かなれど、普通は前形なり。

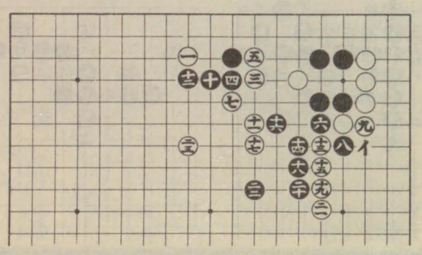
〔一二九五六〕
白善し
黒二を手抜せば、白は一に呼應して直ちに三と出づ。黒イにて五と出づれば、黒面白、白カラず。低れど、次圖止むを得ず。





〔一二九五七〕
白善し
黒四と、上に押せば、白は五に左右の一と外厚を導いて良し、黒優勢、中原に向つて氣を吐くこと虹の如し。

〔一二九五八〕
白利勢
黒若し先きに六と曲り出れば、白は七に相應して呼び出し、黒の弱きを擊つて、黒十、打過ぎ。十は十八と守るも、白の十二と出づるも、黒イと行かば、白十三と出づるも、黒の一子は好とに確定す。白地をは十二と十九の更に八・十二の拍子に確定す。黒の弱きを捉ふ。



〔一二九五九〕
黒好まず
黒五の手抜は、好まず。白六と善し。
鼓に至つて據を失ふ。これより後、黒は、身を中原にさすらすの
ひ行かんとす。嘻。
㊄手抜

〔一二九六〇〕
常形
黒八と隅に約へる手、白九と征宜しけれ、黒イと直ちに白十と切る
ロ、白十一へ一二九六但し、白九圖以下征悪しき場合は、白九の
手あり。

〔一二九六一〕
白の手段正し
黒十三と悪手に切る。白十一、此時宜しく十四に逆撃すれば、白
は無論十八にて五目勝。

〔一二九六二〕
白優れり
黒三十に二五と當る（前圖）を、白二六に先げ、黒十一へ白二七
に手を約すれば、白十二と屈する外なし。白三七と善し。
左右に辛き攻。白、潰えなんとす。

〔一二九六三〕
白優れり
黒二三に下四に出で、白一と右邊の危機を緩和し、黒五に先手約へ
善し。白邊の活結果も、前定十圖と略ぼ同じ。

〔一二九六四〕
互角の分れ
白十二、手順を誤つて一に造り、白十三と曲るに、黒かくて一に
以下白の大形出來、俄然として黒の優勢となる。

〔一二九六五〕
白善し
黒十三、二方共に覗れり。白は双方共に絶好のチャンス、下に絞
るを如何に。

〔一二九六六〕
中の黒弱し
黒九は、切りで狙ひ悪損し。白十は無論（征宜しくば）白イと切
つて黒の形勢逐に挽回し難し。

〔一二九六七〕
大勢白に歸す
黒十一・十三と打つも、既に九に打ち誤りし後なれば、白十四・
十六・黒十七・白十八と以下シボリを打つて後二四の附け、白の
手段絶妙に近し。

〔一二九六八〕
黒敗
白十二の時、黒十三の約へも結果黒十四・黒十五・白十六と絞り
し後、白十八と敵の胴を奪ふ。白遂に二二。
決す。

〔一二九七〇〕
黒に稍利あり
黒九手強し。白十、止むを得ず。黒十一、此形白より九方面の絞
りを利かざるもその代りに、白十八の行びを、利せり。
㊆粘

〔一二九七一〕
要點約言
（第一一二型八）
黒四の時、白五と綿めの三の大斜の意味なる手は、白六と附けら
れ、黒七の時は、白八・黒九の厚きを得ず。攻めて潜に屈して
遂に二八を止むるは辛けれど、白三の優勢。

〔一二九七二〕
基本圖
（第一一二型二）
黒四に對する白五は、前圖の對する白五と、意味の關聯ざるが故
に筋違ひにも、似たれども此手もあり。

〔一二九七三〕
前變化參照
白五に對する、黒六及び圖の六との三法あり。此時、白七に
は、イ・ロ・ハ・ニ・ホ・ヘ・ト・チ・リ・ヌ・ル・ヲ・ワ・カ
・ヨ・タ・レ・ソ・ツ・ネ・ナ・ラ・ム・ウ・ノ・オ・ク・ヤ・マ
・ケ・フ・コ・エ・テ・アの如く、白七圖の如く、黒八、白九、
黒十にて、白七圖より白稍可なり。

〔一二九七四〕
常形
黒六。此時、白七をイ、黒白八と切れば、黒ロ、白九と切れて同
形。圖の如く白七と打てば、黒十にて、此形は一二九五三圖より
白稍可なり。

〔一二九七六〕
黒稍可なり
白六なれば、黒七の走り面白し。此圖は一二九八〇圖に此するに
比して、黒の形稍可なり。

〔一二九七七〕
白大いに善し
黒若し五と附けられば、白は六と綿ねて良し。黒七の時、白八・
黒九まで上邊に作地を覚つたるも、白十と厳しく迫つて、黒十
一以下九まで邊に畢竟苦しみの跡なり。如く白二形を廻したる
に似りしも、此時、黒イと切れたなれば、白ホ、黒ニ或はヘと
切れば、白ト、黒ロ、白チ、黒リ、此時、白ヌ、黒ル、白ヲ、
黒ワ、白カ、黒ヨ、白タ、黒レ、白ソ、黒ツ、白ネ、黒ナ、白
ラ、黒ム、白ウ、黒ノ、白オ、黒ク、白ヤ、黒マ、白ケ、黒フ、
白コ、黒エ、白テ、黒ア、白ハ、黒ニ、白イと切る筋ある故なり。

〔一二九七五〕
黒の應け正し
前圖及び前圖に述べし、白五に對する白方は、何れも此處の應け
既掲の圖と同形。白五に對する黒六を、本手とは、黒六、白七、
黒八、白九、黒十、白十一、黒十二、白十三、黒十四、白十五、
黒十六、白十七、黒十八まで、白形は、よき場合にはよく黒十
八を可否全く金なる。

〔一二九七九〕
白善し

黒七なれば、白は八に下れば、敵の断点を狙ふと同時に方の九の切れを補ふ。黒は七の形の愚化に乗じて攻め、尋で十四二。

〔一二九八〇〕
互角の分れ

黒五と守れば、雁行六は、常形なり。白六を好まず。即ち、次に黒ロと白の分れとなるのが方面の手氣味なり。

〔一二九八一〕
白稍優る

黒先きに三と綿れば、白七に守れば、黒七・八と守れば、白九に次ぎ黒ニ、白ニとなりて荷厄介となる。

〔一二九八二〕
白優勢

黒五・七無理なり。白は八と約し、十と次に十二と當てゝ替つて良し。黒十三にて若し白イと切れば、白ロ黒十五白八。

〔一二九八三〕
攻合白勝

黒十七、悪し。白九の時、二と彼我の駄目を詰めに利して白遂に二四に至つて、静観すれば、白十九を二四にまたれ、一眼有り。※

〔一二九八四〕
黒潰滅

黒直ちに十三なれば、白十四に約へ、黒に手段絶ゆ。此時、白遂に二一と攻めなれば、黒八を白九と取つて、黒十一と四段に詰むと雖も、白十二と蓋して、黒ロと出でゝ、白イと突いて黒全部如何ともする事能はず。

〔一二九八五〕
要點約言

（第一一二型ニ）

白五も、同じく三と意味深きが故に白イと聯せざる悪き筋なり。さればとて前に鋭く白ロと見含みあり。時に白面白し。

〔一二九八六〕
基本圖

（第一一三型）

白三の大斜に對する、黒四は、堅實一方の應けなり。次に黒ロ、又は白イなれば黒ニ。白イをハなれば黒

〔一二九八七〕
定石

黒四なれば、白五が常形なり。若し白五をイなれば、黒六にて一一二四四圖と同形に歸す。又た白五は、イにあるよりも優れり。

〔一二九八八〕
善し

白三と廣く拓けば、黒は先づ四と堅くするを善しとす。此時、白ロと攻むるに次に黒イと狙ひ抜く。

〔一二九八九〕
白勢を主とす

白三と、掛流して進む。手筋なり。黒は此時、手抜を普通とす。黒四にて七は、好まず。即ち白イ、次に黒ロ白ハ、此形は徒らに白を厚くするのみなり。

〔一二九九〇〕
互角の分れ

白單に五と約へて、敵の動靜を偵ふ。手順を面白しと雖も、黒次に六なれば、白轉じて攻めに變化出でゝ、黒は没交渉なれば、白十なれば、黒イと攻めたる攻合の形にて、此一圖にて白稍働けり。

〔一二九九一〕
場合による

黒の十八に對し、白九と綿打過ぎなり。白は黒の隅を地に遂に黒二と中原を爲に踏躙して、白の外形薄弱なり。

〔一二九九二〕
白の形善し

黒四は、重き筋なり。白は、輕く飛して、黒の出しを要して、黒六を要なれば、而も白七と出しなり。

〔一二九九四〕
定石

黒の時、白五と一三に附け、黒六、白七は此場合、白イと行けば、黒八・十と善し形なり。若し黒八にて九に突かれば、白イと出でゝ、白ロに切つて良し。

〔一二九九五〕
常形

白七の時、黒よりは、此處に於て打つとすれば、黒八を可とすれども、次に白九と黒十に手を返して、白イと突いて黒ロに無かるべからず。※

〔一二九九六〕
白可なり

黒四不可なり。白九に綿ねずして直ちに白六、即ち七、悪し。黒九と出でゝ、白十に拓けば、黒ロと守備を堅くするを善しとす。

〔一二九九七〕
黒敗戰

黒十一と綿ねずして直ちに白六、即ち七、悪し。黒九と出でゝ、白十に拓けば、黒ロと守備を堅くするを善しとす。

〔一二九九八〕
互角の形

黒單に二もあり。白三と受けるも黒四で白五を取れば、白は不利なり。黒四で五もあり。

〔一二九九九〕
白可なり

黒四不可なり。白九と強く約ゆ。黒尋で五を先きにして、白六と守れば、黒七と出でゝ、白八と取つて、黒九と出でゝ、白十と取つて、黒ロと出でゝ、白イと取つて、黒ハと出でゝ、白ニと取つて、黒ホと出でゝ、白ヘと取つて、黒ト、白チ、黒リ、白ヌ、黒ル、白ヲ、黒ワ、白カ、黒ヨ、白タ、黒レ、白ソ、黒ツ、白ネ、黒ナ、白ラ、黒ム、白ウ、黒ヰ、白ノ、黒オ、白ク、黒ヤ、白マ、黒ケ、白フ、黒コ、白エ、黒テ、白ア、黒サ、白キ、黒ユ、白メ、黒ミ、白シ、黒ヒ、白モ、黒セ、白ス、黒ン、白ロ、黒ハ、白ニ、黒ホ、白ヘ

【一二九九】
白可なり

黒い㋥四。白五。黒六・八まで白を厚くはせむつ。尋ねて八に打ち、白十に、黒十一に打拓くと、白は、形一方輕し、尋ねで十一面三面。

【一三〇〇】
互角の分れ

白五なみれば、黒は之の綿ね善しして六。白に心地好き突抜を遂くるも亦、十、八・十、尋で十三、二。而して白尋黒十四。

【一三〇〇一】
黒優れり

白一は、重き筋なり。黒二・四以下九の變化は、一〇五圖以下と略ぼ同じ。黒十四より二四まで蓋し、初めに損をするも常用の手筋。右邊を爲るも黒優れり。

【一三〇〇二】
黒稍可なり

白十三。黒以下十四まで八と尋ねて形に就き、白は先づ十之を九に活き、故に妨げて十一・黒イの手時、始めて二十一と押すを順とす。

【一三〇〇三】
白稍可なり

先勝 林有太郎六段
勝 井上一郎四段

白一の時、黒二と打つ筋には、白三と打つ五圖にも述べし如く、黒イと飛ぶなり。黒二は輕快なるに如かず。

【一三〇〇四】
白可なり

勝 井上一郎 當時三段
先 小島春一 當時三段

黒一と打込みし形に於て、白は方面を整形するも、十六の利を以て、黒段下の二手を要するに如かず。

【一三〇〇五】
手順善し

八

先 篠原正美五段
勝 橋本宇太郎五段

黒八の手順、善し。黒㊀㊁の三子は、右邊より發し中原に亘つて、厚壯なり。白九を即ち、白イと粘げば、黒ロは十と委じ、白イの乘じて三・四と突出して善し。白は故に打つて敵の作戰に陷るを避く。

【一三〇〇六】
要點約言

（第一一三型）

黒四、堅實。此時、白イ次に黒ロは常形、白イをハなれば黒ホの押し。但し、白次にニなれば黒イでヘ。

【一三〇〇七】
基本圖

（第一一四型）

黒四の尖附けは、以下最も平明の棋着。路を導き得れど、此形緩し。白イなれば黒ロ、次に白イなれば黒イ。

【一三〇〇八】
定石

黒四には、白は五と約へて良し。黒六・八は、既に四と打ち時よりの、但し。豫定の黒六をイは、惡し。白はロ黒ハ白七、白またはロを白善し（一二九圖以下參照）。

【一三〇〇九】
前變化參照

黒四、此時白五と打てば、一〇五圖以下と此時黒はロなどの手段あり。

【一三〇一〇】
常形

一三〇C八圖の定石に於て、白ながらし形を一と打つて、白二而して五にて、下、以下五までは所謂常形。尋ねば黒六と粘げ、隅を收むれば黒は隅を確定し、白は地を得たり。

【一三〇一一】
㊀㊁もあり

白一・三と附下りて、次に白イの置きを狙ふ。次圖で黒は之を防いで六。前圖と比較すれば、四を本圖と爲して一得一失あり。

【一三〇一二】
白有利なり

黒四を手拔せば、白五急所。黒六止むを得ず、八・若し六を九に、七なれば、白は八を九に、白直ちに黒惡し。

【一三〇一三】
分れ得失無し

黒は直ちに二・四もあり。必然の棋結果、白は右邊の白を堅く移し、此に隅れば黒有利なり。兩軍、分互角。交綏す。

【一三〇一四】
黒實利を收む

㊀手拔

此形、黒よりも打つて四と粘げば、白五にて、下、尋ねば黒六と收むれば實利を得。白は隅に十、黒は隅を確定し、白は地を得たり。

【一三〇一五】
場合による

㊀手拔

黒白と粘げば、六に切り、尋で八に兵を引いて出で、取て黒は血戰、尤も黒は鮮せず。此手段、未だ熟せずと見合すべし。白は暫く見合すべし。

【一三〇一六】
黒不利なり

黒六の飛は、慌てて九と乘じて二・四段に敵失に攻めたる白は、十一と凄じく遂に十二と黒を得ず。

【一三〇一七】
場合の定石

白は、七と粘ぎ、黒八の時、七と九と右邊に拓く手もあれど、此形多くは白好まず。但し、白七をイと打てば、次に黒ハ、白ロに黒ニ、白ヘの時、黒ホに白九と方面に打たれて見る。白は面白からず、圖の白七、時に九の手段あり。

〔一三〇一八〕常形

白九の手抜の時、黒十を手抜の形にて、白より此處へ打つとせば、十一・十二・尤も大なり。イ、尤も黒ロ先と導一では、黒の鋒を多少鈍らせ、後白手抜するもあり。

〔一三〇一九〕場合の手段

黒二と綿ねば、白は八と行びし時、三・五・七と打つて三・五・七と打つては特殊の場合にあれど、これは普通の手段なり。（一三〇二六圖參照）。

〔一三〇二〇〕外勢如何なり

黒は手強く十二の白ありて切りを含みて、十三で必ず十七に切至の棋移なり。黒遂に二四に二・二と打つては、二四全く外勢の如く、何可否かゝる形は、外勢の如きによる。

〔一三〇二一〕中の黒強し

黒十六、白は十七、尋で黒九に追撃し、十七、普通には單に二に附じて二・二でよし。さは二・二・二・

【一三〇四二】
形勢未定

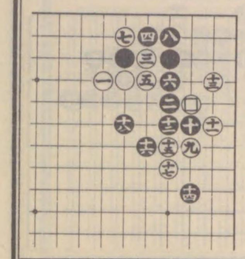
黒八、面白からず。白封鎖すれば、黒十に触れて無理筋のやうな手段に乗じたる手なれど、白ニと打つて厚くなり、後二八とりとなるは故なり。

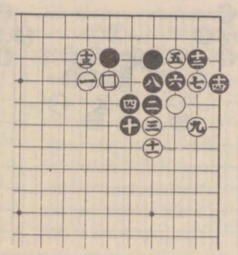
【一三〇四三】
黒堅く、良し

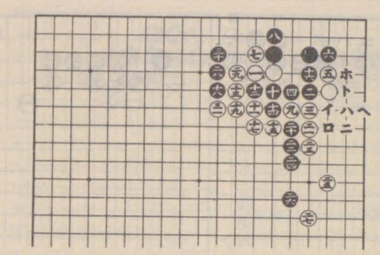
白九、黒十に止むを得ず。白十一と黒ホと交換したるは、黒ヘ、白ロ、黒ト、白イと打つて厚くなり、後二八とりとなるは故なり。

【一三〇四四】
黒大いに善し

白三。黒四・六・八。黒の二は、白五と突破せるも値なし。黒形大勢千金の形勢にて善し。







【一三〇四五】
白の形厚し

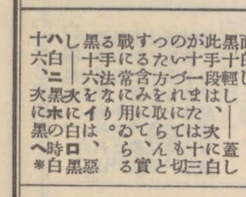
先 加藤 信 當時六段
一目勝 長谷川 章 當時四段

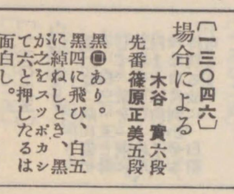
白五に拓く。黒直ちに六と打込むは、無理・三。此場合、白七と強く押し、以下十三まで戈を交ゆる無くして白は厚く、黒は悠々揚三と厚くなり、白ハと下ら時に、黒ホと斜に走故。

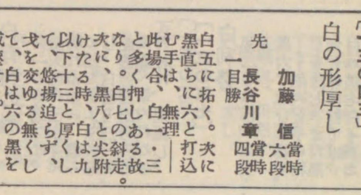
【一三〇四六】
場合による

木谷 實 六段
先番 篠原正美 五段

黒■あり。黒四に飛び、白五に綿ねしとき、黒ニがスッポカシと六と押したるは面白し。黒十段輕し。此手一段の大ゆるみにて、次に白が十三と切つたのを含みとし、白ハと守るの外、黒ホに白ロと時、黒ヘ、白ニと六。







【一三〇四七】
要點約言

（第一一五型イ）

黒ホで白㋑なれば、白㋑で黒ヘにて、これは定石。また、白ニで黒ト、白ニにて㋺は、尚不利の形。白㋺で㋑は一理あるも、黒ホと白ヘと交換して、白ト、黒イと云ひ難く、白ほまた㋺と行びる手は、白五で㋩から㋥と附けて三の白を隔てられて白好まず。

【一三〇四八】
基本圖

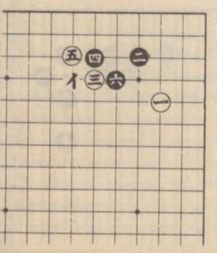
（第一一五型ロの一）

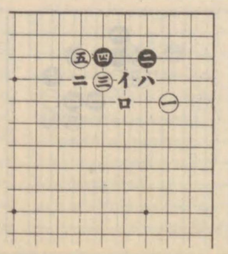
黒の四に對しては、白五型は、圖の白五は常形。前の變化の如く白五を、イに或はニなど打つ手は何れも場合と知るべきなり。

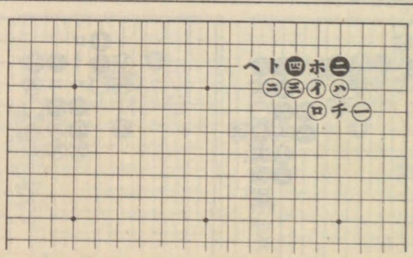
【一三〇四九】
基本圖

（第一一五型ロの一）

白五に對しては、黒は次に六と、六をイに切る手と、六は堅く、應ずるの外、無しと云ふ。







【一三〇五〇】
常形

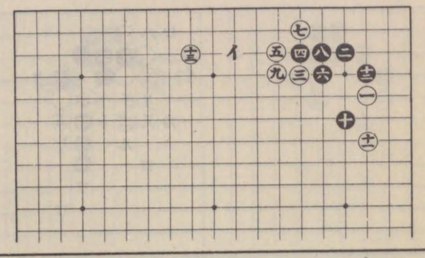
元來、黒六は、九と切り得るの、猶餘策なるも、白七と粘れば、黒八と白十と好形なるも、次に攻むると至つて、辛うじて得利勢なりと云ふ。

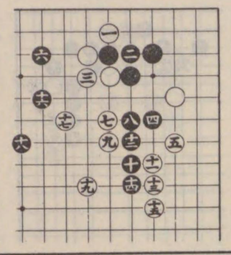
【一三〇五一】
白の勢可なり

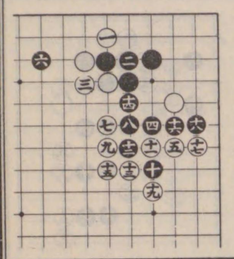
黒六は、此形の急所なれど、單にこのまゝの形にては、無理なり。白七にて出で、黒九と下れば、白十に敵を擊つも、善勢なり。

【一三〇五二】
攻合白勝

黒十に飛ぶ手、惡し。白十一と尋で、黒十二と守るの外、白十三と攻むるの手、惡し。黒十四と守るの外、白十五と攻合白勝なり。





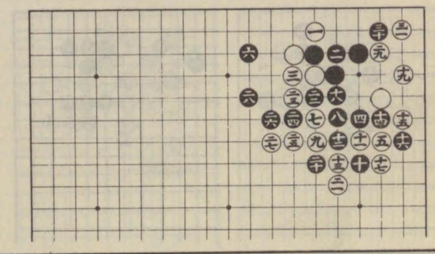


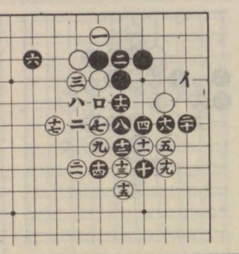
【一三〇五三】
白優れり

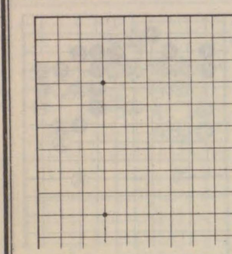
黒いま單に十六の粘ぎ。此時は、白は十七と守るの外、無し。白十七と打つときは、黒ハと下で、前圖の如く運ぶ。

【一三〇五四】
白優れり

また黒十五の切りを打たずして、十四に粘るときは、白十五と固くなり、敵より掃除を一手、白十六と安く十六に外勢を整ふ。







【一三〇五五】
白善し

黒十六・十八と強し。白九と守るの外、白十七と守るの外、白十七と守るの外、白十七

【一三〇五七】
形勢互角

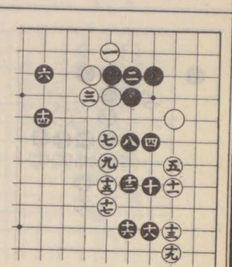
白十一・十三と應ふほどは手にはならざれど、然も九まで、黒十八・白十二果て、黒は、白憂きに世のくといはぬ風ばかりの悠々たる姿。

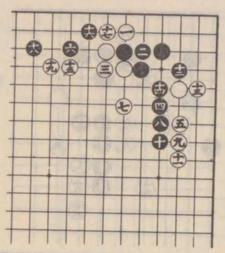
【一三〇五八】
白稍優る

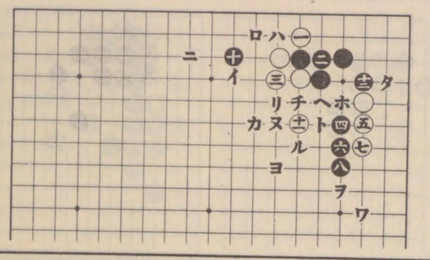
黒は八・十二も、穩かにして良し。白十五と附けば、黒十六と打つ筋なり。十八と變化多く、白十九まで結末を知り難き形勢。

【一三〇五九】
場合による

黒四。此時白五と押す手は次に七と飛ぶをも、此場合次第にて好し。且つ黒厚くして、多くの點を稼ぐに好都合なり。







【一三〇六〇】
可否未定

黒四。白五。此時、黒は未だ穴と夾撃するにはあらざれど、絶好のチャンスとは云ひ難し。然も、右邊には別に無きも、打方も無し。黒乃六に肉薄す。上邊に風漸く腰し。

【一三〇六一】
白稍優る

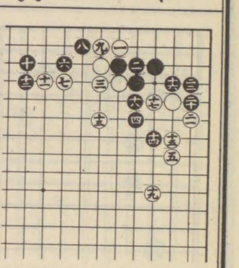
此形、白は三もあり。黒四に白五を攻め、白は右の逃げ出づるや、黒次に攻めへの覗きを孕みつゝ六に好調の替り、白七と出途に白十・九。善し。

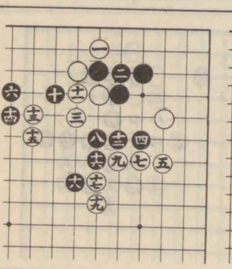
【一三〇六二】
白優れり

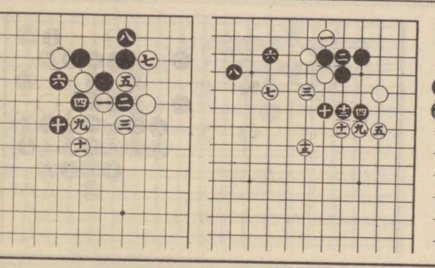
黒い㋑六に低く迫る。黒八に抬す七の先鋒と時、白頭を冠壓し、相呼應し左の九と進むゝ、白遂に敵圍にとゝ落ちんとす。

【一三〇六三】
黒可なり

白一は手筋なれど、普通には無理なり。黒單には二と結込み、佳手。遂に十三、黒は十四まで一と押し、白七と出でゝ、黒は後手で形勢なりとの果てとなり。







【一三〇六四】
白厚壯

黒二・四は、味も鹽氣も無き俗筋。果然、白七・九と攻めへの覗き、白十・十一と連絡、好き氣味。白善爽として十一綽ぬ。白十九まで一に連絡、白善しも、黒右邊に地を得たるも白の外勢厚壯。

【一三〇六五】
要點約言

第一一五型ロの一白五の時、黒六は好んで打つ手にあらず。黒六は、白を左右に隔てゝ擊つ意味あれど、次に白イ黒ロと形なり。

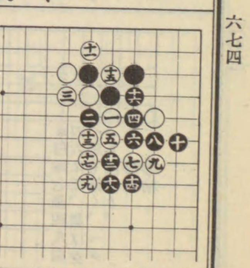
【一三〇六六】
基本圖

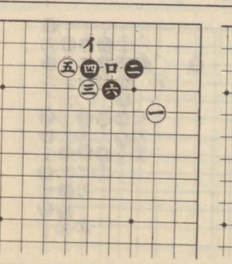
第一一五型ロの二の切は、本手なり。されど斯かる形に常に伴ふものは、征の可否なり。一本圖も、黒征※

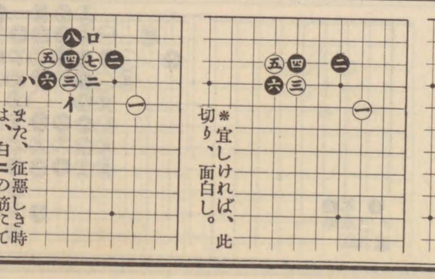
【一三〇六七】
基本圖

第一一五型ロの變化（二）

白七、黒八。此時白征宜しければ、イに次に、白は宜し。一突出と、ハの征とを見る。







※宜しければ、此切り、面白し。

また、征惡しき時は、白ニの筋にて手段すべし。

【一三〇六八】
定石

白九。此時、黒十止むを得ず。白十一と征に取れば、黒十二、白十三、双方共に好形なり。

【一三〇六九】
ホとヘの比較

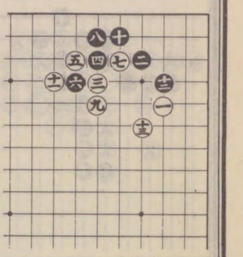
黒四。白は五と行びれるも手あれど、これは前形ホの方、稍働きあり。｜蓋し、此處は、白イ黒ロ白ハ黒ニと利きのある所なればなり。

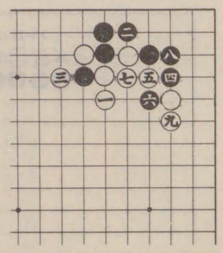
【一三〇七〇】
白、一策なり

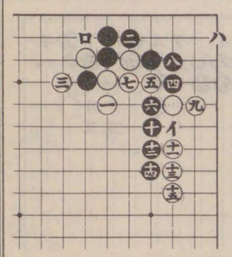
黒の時、白は五と直接に當り行くも手あり。｜五は、敵切れば取れ、取らば取れと云ふ半persons身の戰法。筋にして面白し。

【一三〇七一】
一得一失あり

白は九と下るも、これは、前形イに比しては、六は逃出し易きも白の意味あり。次に白ロ、黒ハ。白ハ。







【一三〇七二】
白稍優る

黒六と取れば、白七。此時、黒八と出れば、次に白九・十と下れば、以下白十一と振替りて、黒は勢稍優れり。

【一三〇七三】
白善し

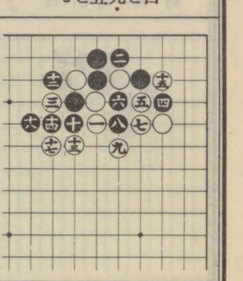
黒八の出を先にせば、白九と善し。黒十なれば、白十一と打拔き。遮て黒十二、白十三、巧妙なり。次に黒イがキビシ。

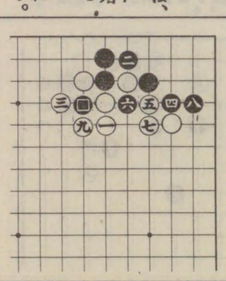
【一三〇七四】
白優れり

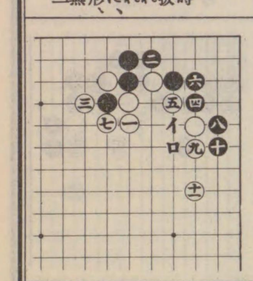
黒は八に下れば、白は九と打拔き。これ不可なり。白は殆ど利なき手なれど、白稍利あり。

【一三〇七五】
白優勢

黒單に六と粘る時は、次には七と打拔き、白九と出でゝ、黒は八に逃れ、白十一と厚し。此形、中腹に白ロ、次に黒イに打ちて、白無二。







【一三〇七六】
白大いに優る

黒二・四と粘げば、白は先づ五の約へに次の㊀に利を計り、次に征に抱ゆ。黒は七と尋でゝ八と蹴破るも、白は下一と出でゝ十以下十九に白優勢なり。

【一三〇七七】
白稍可なり

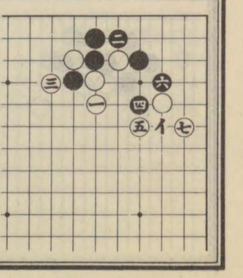
黒苦しまぎれに四と而して白五の時、黒六なれば、白は七に飛ぶをも、白イで六なる快適の委。これは三の六圖と同形。黒四と略ぼ同じ。

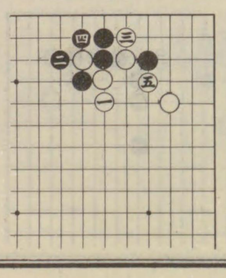
【一三〇七八】
白利勢

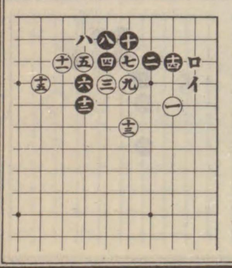
黒二なれば、白は三而して白五と打つ。黒四の時、白五と強く各々の外勢。

【一三〇七九】
常形

白征惡しき時は、一より九と出でゝ十一へ照形。白は遂に十一・十二・十三に六と打ちて、白は惡しからず。次に白イ、黒ロの約へ、白先手利なり。







〔一三〇八〇〕
白勝

黒、考し、六と掛ければ、白七。而して一一と黒八、約へ来れて更に九と十と白一は、黒十一へ白ロ、黒十は、三百と隠行して、ハと進むれば、黒ニと忍びる時は、白イと翠て、百面を豹変して、十五と忍ぶなく、假令黒の棄手よりも急襲すとも、黒の溜ゆ。俄然として、圖の如く黒十三、白十四、黒ホなれば、次にて白勝。｜白ヌ黒ル白チ黒リ、白ヲ黒に手段無し。

〔一三〇八一〕
白優れり

黒四に押せば、以下白七まで、黒八・十は必然。白遂に十一と打ち、黒五は過ぎ。白六にて備へざるを得ず、黒七へ、白ねに圖の如く黒十三と押し、白十四と進むれば、黒ホ・白ヘ・黒ト・白チ・黒リ・白ヌ・黒ル・白ヲにて、無双の快味を喫す。

〔一三〇八二〕
白勝

黒十六、悪し。白十七の切とならば、黒は憶劫すれども及ばず。白二以下三、黒の要石、白二に起ったのが遂に悪し。黒甚だ粘し。

〔一三〇八三〕
白稍優る

黒八と尖ば、白九と尖し、白十一と整形。黒は彼我の要點、白九と六、これを先取して、白三と隠忍して、時機を俟つて、白五と駈目、黒六と詰まりにして、十六までの黒、勢弱し。

〔一三〇八四〕
黒悪しからず

黒八・十、手筋なり。以下、十四まで分れ、黒悪しからず。

〔一三〇八五〕
白稍有利

黒四と取れば、白五と叩き、黒六に屈するとき、白七に取る。｜これは白後手なれど、之が外勢も整ふ。加ふるに黒の地大なり。白稍有利。

〔一三〇八六〕
黒可なり

白一、好まず。一に二と打たれば、白の取れるも、黒の意味の残りの攻めあり。故に白一は、隅かの黒へ利かざるの手下と比較。（一三〇七九圖以下）

〔一三〇八七〕
黒稍可なり

白一と尋で、白三まで、黒二。白一なれば、黒二に引いて、態度。但し、白三と引くも同じく黒残る。白一と引くなれば、白二と引いて、黒優る。（一三〇九圖以下）

〔一三〇八八〕
場合

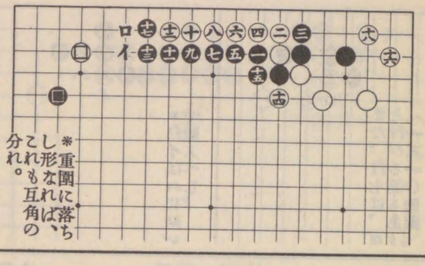
白五と飛べば、黒六。白七・九に先手を取り、転じて中抑へを得だ。但し、黒二に此形を窺ふ。黒イ或は□の筋残るに故、隅は白よりハの綽、利かず。

〔一三〇八九〕
白善し

黒二なれば、白三・五と突き抜くべし。白に利あり。白一子打抜きも大なれど、黒四まで有りの地を整ふ。加ふるに黒の殺さ白しのれ

〔一三〇九九〕互角の分れ

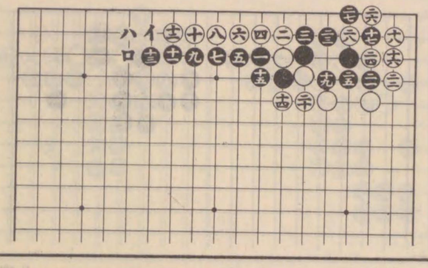
若し㊀と㊁との交換あるは如き配置にては、黒は十三と行びに六に行くほかあり。白十七なれば、黒イと宜し。黒ロと捨てゝ、斯かる形にしても、黒イは白十六と拾れば、黒右上隅を活き、白は隅を十三まで一杯に有つの外なし。白非ずして、白遂に十八。これにて、攻合は黒の共に劫、三まで一杯に有つの外なし。白非ずして、白遂に十八。これにて、攻合は黒の共に劫、てゝ白の有つも、黒の白に打つも利なる故に、白悪しからず。



＊重圍に落ちしも形なれば、これも互角の分れ。

〔一三〇〇〕黒悪し

黒十七以下は、悪しに劫とはなれど、遂に劫と甚しくなし。矢張り黒は、前圖の如く、隅の三子を損し、黒は、前圖の如く、隅の三子を輕く乘つるを可とす。



黒九に、二一は、苦し手なり。倩他に適當の劫立てにては、黒白共に形勢不利なり。

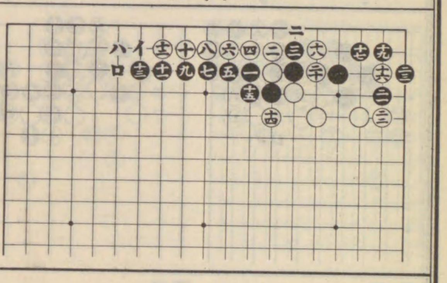
〔一三〇一〕白優れり

白十八と打つも黒十九を二十なれば白イ、黒ロに繋ぎて、白十九、黒ハ白勝。黒十九、白に二十と取られ、次に黒に二一と活きらるゝも、こゝの活たる中心に觸れざる戰の邊陲の些事なり。結果、地及外勢、共に白優れり。

＊重圍に落ちしも形なれば、これも互角の分れ。

〔一三〇二〕黒勝

白二以下十まで、五にて這ひたるまゝにて轉じて十二と四とし、十三にて黒は時機の早尚なり。攻合は白勝ならず。黒十九、白に二十と取られ、次に黒に二一と活きらるゝも、こゝの活たる中心に觸れざる戰の邊陲の些事なり。結果、地及外勢、共に白優れり。



＊黒ニなれば、白ホにて隅の黒は死。また、黒ニをヘなれば、白はニで宜し。（第二巻三三二九圖以下、參照）。

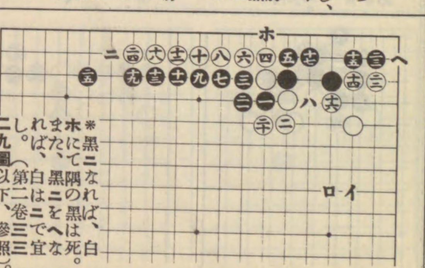
〔一三〇三〕前變化參照

黒一の時、白二の手も有りて、黒十二まで連續して、白十一の時、白十三まで攻むる手順前圖に同じ。これ前圖の後の打ち方は無し。この前後の打ち方の多少異るに肝要なる處あり。黒十七と打てば、白は先づ十八に行ひ、黒九と打てには、白二と打つて、黒は十九と行ひ、白は、黒遂に二五。此時白は、白ハの手、面白し。——以下略

〔一三〇四〕黒、形を成す

先勝　加藤信當時六段　木谷實當時四段

黒一は、場合によるも、黒四にては七、白六と打ちて、黒は七、白は、黒形を得たり。



＊黒ニなれば、白ホにて隅の黒は死。また、黒ニをヘなれば、白はニで宜し。（第二巻三三二九圖以下、參照）。

〔一三〇六〕白悪しからず

白二・黒三の時、白四と打つ手もあり。黒九にて十二と下れば、白イ黒ロ白ハ黒ニ白ホの時、白トに切つて宜し。圖の十二＊

〔一三〇七〕要點約言

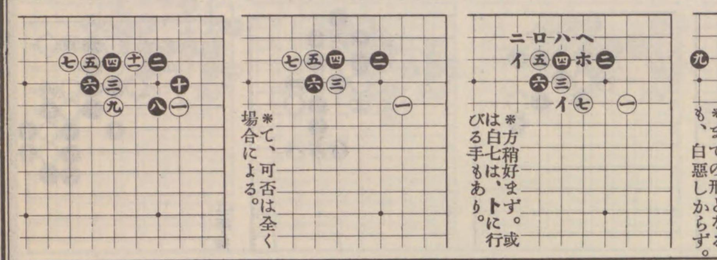
第一一五型ロの變化（第二變）

白七なれば、黒必ずイ。此時、白ロは、變化多し。また、白ロをホ黒ニ白ヘは、變化簡單なれど、白の＊

〔一三〇八〕基本圖

第一一五型ロの變化（第三變）

黒六の時、白七と行ひ、黒は手あり。これは、白一を捨てゝ上邊を取らんとする手段にし＊



＊て、可否は全く場合による。

＊方稍好まず。或は白七は、トに行びる手もあり。

＊までの形となるも、白悪しからず。

〔一三〇九〕定石

黒いまで八。以下白十一までは、必然。倩此替るも、普通白不利なるも、中邊の勢を主とする此手段と白の時は白し。

〔一三一〇〕場合による

黒三に下れば、白一・黒四・白五づゝ四。尋て五・七なれば、白は六、而して八。黒は取る手、確かなり。白遂に十一に後手なるも、白も包圍成れり。

〔一三一一〕可否征による

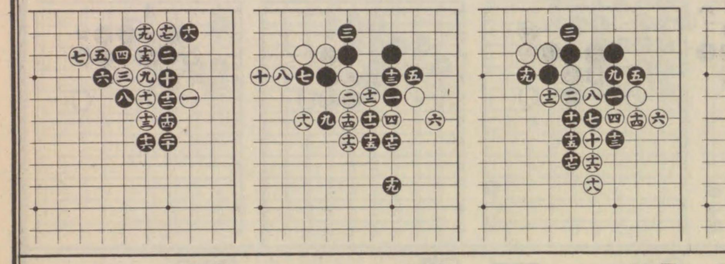
白六の可否は、黒十九に如何に出る征關係にて、白六に如何に決すも、尋で、黒七以下に擊つて出で、十七に到る。白は下くて、十八、白か十九に一目を逃せり。

〔一三一二〕白稍可なり

黒七・九、而して惡し。後十一の綿出は、此形、黒十九。右邊・隅の六に廣きも、まで白三子を味方未だ遺ず。加之、中邊の白の形厚し。

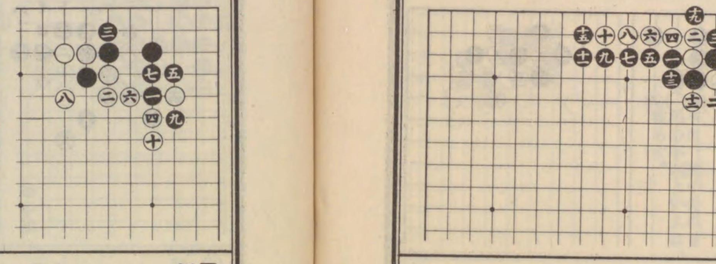
〔一三一三〕定石

白七の時、黒直ちに八・十・十二とも有り。突き出す手も有り。十一・十二・十四・十六と綿れば、白十七・十九・十綿、黒二の十、綿堅守善し。兵騎ら着なるの概、蓋し要



〔一三一四〕黒不利なり

黒十三の掛粘、惡し。白一・黒四の切り。十、仰天して、乃ち、爲す所を知らず。十五に應ぐ。白十六、黒はイの外無く、白乃ち



〔一三一五〕常形

黒は十六・十八と、行びも手あり。此時は、白はこの如く、手拔すべし。——黒ロ白十九で、黒十イ、白ハまで堅き故に、隅への聯薄し。

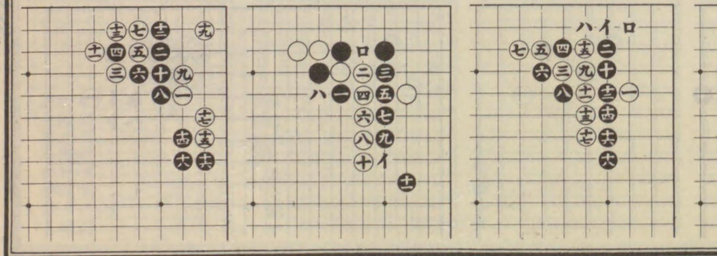
〔一三一六〕場合による

白十もあり。黒乃ち、形、白は十一・但し、此に一着置くも若しくべきに處を怠れば、黒白とれて、白ハとなつて、白不利の形。

〔一三一七〕黒の厚き形

先番勝　林有太郎六段　長谷川章五段

白五の綿込みは、手筋として面白く、次に黒六・八とは、普通（次圖）白好まず。



【一三一一八】
イの守り善し
黒一は堅き手なれど、面白からず。五後に三に遣ると二と利を伸ばし、黒一で過ぎず。即ち、同じく此処を堅くするには、イに外勢を整ふべし。

【一三一一九】
黒少しく善し
黒七（前々図参照）。白八に飛べば、黒は九に一子を打抜くべし。二・十一共に、黒遂に十三と、勢に乗じて、白を左右に隔て進む。

【一三一二〇】
黒可なり
自若し四・六と打ち、黒は七に先手を利かせ尋で九。此時、白分れも悪ければ、黒は八・一共に、敵の一子を打抜いて黒一子を擒にし、殺したる根據地は、得たりも稍優れり。

【一三一二一】
白優る
黒一と下から應答せしは、勇気に乏しく、加之、低きこと三目。敵の四に対し、黒は動静宜しく、含蓄ありて、白六・黒五・八。

【一三一二五】
白善し
黒三、無理なり。白四・六・八手強し。此形、白遂に十八に優るのみならず、外勢にも利かれる故、白に隅を取らるゝも、黒悪しからず。

【一三一二四】
黒悪しからず
白二なれば、黒三かくなりて、白一と黒三との交換、白不利なり。故に、白は尚ほ死残る隅の三に対し、白ホ黒ヘ白ト黒ニにて曲り四目。

【一三一二三】
参考図
黒四無理筋なり。白七は直ちに五、次に此形一三八六図に良し。以下参照。要之黒の勢、中原に燻んなる場合に、白の手段あり。

【一三一二二】
外勢白良し
黒いま兵を引いて五を切るれば、白八、常用の手筋にて九。黒は無論九にて九なれば、白七に黒イ白ロ。

【一三一二六】
要點約言（第一一五型ロの二変化）
黒六の時白七は中邊に勢を得んとする手段なり。此時白ロなれば、黒イなれば、黒イを黒ロなれば、白ハ黒ニ白イとなつて、これは、黒の無理形なり。

【一三一二七】
基本図（第一一六型）
白三の時、次に四手抜、白四を手抜するは、黒イと尖附けられることゝなりて、普通黒の好まざる形なり。

【一三一二八】
定石
黒四を手抜、尋で白五。既に上手に取られたり。此時、黒は普通に手抜さるゝ次に黒若し五のとすれば、白は下五に打つて、黒二以下尋で肝要なり。

【一三一三七】
黒善し
白三、五、緩し。黒十まで一三〇八図の結果に似て、しかも同図よりは黒善し。

【一三一三八】
白可なり
白五。此時、黒更に六を手抜せば、白は或る時機には七と取るべし。白三手を費したれど、黒の死命を制せられ、如何にも発剌として生彩に富む。白宜し。

【一三一三九】
要點約言（第一一六型）
黒四を手抜なれば、白五に打て良し。此時、黒イ白ロ黒ハ白ニ黒ホ白ヘ黒ト白チと打つて活なれど、白＊

【一三一四一】
大斜千變總評（二）
（第一一六型）自一至一一
黒四なれば、白五まで、以下十なれば、大斜定石双方の共に常形にして、勢ひ斯くの如く打たざるべからず＊

【一三一二九】
白先手の得
黒十二を、更に十以下九まで、白十三を下収めで、この利を利して、十一目以上相当す。盤中には先づ所なし。

【一三一三〇】
劫
已に此時白十四。此時白若し他方面に劫立て多ければ、如何に黒十五と挑劫の手段を以て、一挙に隅へ打つて、白ロまで比較のこと。前図と比較のこと。

【一三一三一】
黒拙し
黒十四、悪し。白十五、面白からず。黒十七や、あゝ、はかなし。消えて跡無き陽炎の如し。俄然、黒の活路、消滅す。

【一三一三二】
白不可なり
白十三、面白からず。黒十四まで好防なり。二十まで、此形にて、次に白イ黒ロにて持へ（セキ）なり。

【一三一三四】
黒死
黒十二を打つて、果然黒手抜は悪し。白十遂に二筋。白イなれば、黒死。

【一三一三五】
黒善し
白九、かくは俗筋なり。白十三の時、黒は次に手抜して立派に活なり。

【一三一三六】
白優れり
黒八・十、好手下ず。白は一に快味を満喫す。黒十二の時、白手抜。これは一三一二八図に比し白優れり。

昭和十年十一月十日印刷
昭和十年十一月十五日發行

著作權所有

明解圖式・圍碁大辭典・五先篇下卷

定價金四圓五十錢

著者　鈴木爲次郎

發行者　東京市神田區錦町一丁目五番地　小川菊松

印刷者　東京市芝區金杉新濱町十二番地　和田助一

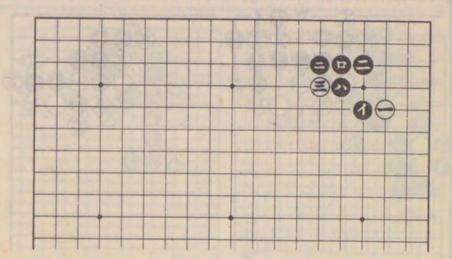
發賣所　東京市神田區錦町一丁目五番地　振替東京四五三四〇　電話神田二三六・二三七・二三八・二三九　株式會社　誠文堂新光社

日本棋院藏版

【一三一四〇】大斜千變總評（一）

（自第一一二型至第一一六型）

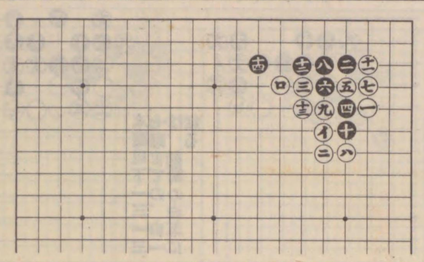
大斜掛けは、いはゆる定石の精粋、凡ゆる定石のもつとも美しいひ得べきものにして、その變化には從つて無盡の妙あり。これ、若し、了解せば、自然、他の定石の變化にも應用し得らるゝなり。倘、白三に對するには、イの黒の應けにはロ、ハ、ニの四點あり。



【一三一四一】大斜千變總評（二）

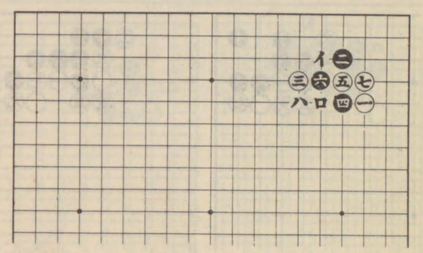
（自第一一二型至第一一六型）

白十一なれば、黒十二。此時、白の打ち方には、十三、イ、ロ、ハ及びニの五法あり。十三は常形。その他のイ、ロ、ハ及びニの四法は、何れも、場合を得れば面白し。



【一三一四二】大斜千變總評（三）

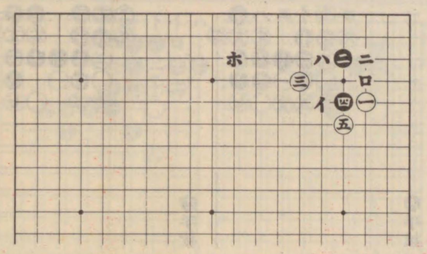
（自第一一二型至第一一六型）



【一三一四三】大斜千變總評（四）

（自第一一二型至第一一六型）

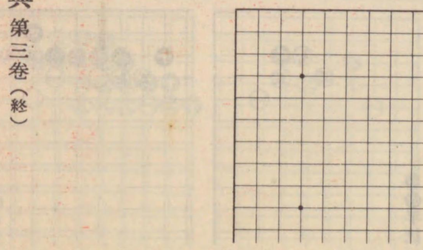
白七此形に於て、黒が紛れを避けんとするには、八でイに粘ぎ、次に白ロと切つて振替る手なり。また、黒先手を得、且つ中の勢を保たんとするには、八をロに粘るに如かず。白三の大斜掛けに粘るでは、二戰の八一子を捨つる作に出づべし。



【一三一四四】大斜千變總評（五）

（自第一一二型至第一一六型）

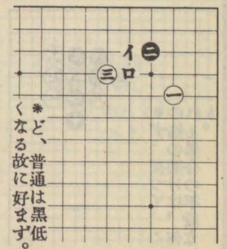
白五と綿ねれば、黒イ、次に白ロ、黒ホとなる。白ニと黒ハとなるも、かく打つことも、白は場合によりては止むを得ず。但し、黒ホまでとなし、黒ホまでは、白は大斜掛けに粘りて孕みし妙味索然たり。



【一三一四五】大斜千變總評（六）

（自第一一二型至第一一六型）

黒四でロまたはイは、以下の變化の紛れを避けて、極く堅く打たんとする手なり。されど、普通は黒低くなる故に好まず。



【一三一四六】大斜千變總評（七）

（自第一一二型至第一一六型）

最後に黒四は、一策なり。此手は、次に白イなれば黒ロまた、白ハ黒ニ。また、白イをハなれば、黒ホ。白イをヘなれば、黒はイを堅くイと應けるか、或は、強くハと切つて戰ふ手なり。また黒四でトは、黒惡しく、白イで、尙ほまた、黒四をチで、手抜も、白次にチで、黒好まず。

國立臺灣大學圖書館藏書

648
44